

千葉県八千代市

# 島田込の内遺跡

—d・e地点発掘調査報告書—

2022年12月

合資会社 SHT 八千代  
有限会社 原史文化研究所

千葉県八千代市

しまだこめ      うちいせき  
島田込の内遺跡

—d・e地点発掘調査報告書—









2022年12月

合資会社 SHT 八千代  
有限会社 原史文化研究所

# 例 言

1. 本書は千葉県八千代市島田台字込の内1005-3ほかに所在する島田込の内遺跡 d・e 地点の発掘調査報告書である。
2. 本調査は物流センター建設に伴う埋蔵文化財発掘調査である。
3. 本調査は合資会社SHT八千代の委託を受け、有限会社原史文化研究所（調査担当：西野和廣）が実施した。
4. 発掘調査は令和3年6月22日～令和3年9月21日まで行った。
5. 調査面積は5,700㎡である。
6. 本書の執筆は第1章宮澤久史、第2・3章は西野和廣、第4章1川端弘士、2～7西野和廣・柿沼修平、8田中英世、第5章は西野和廣・柿沼修平・田中英世が行った。
7. 遺物の実測は川端弘士、川端結花、柿沼修平、トレースは川端弘士、川端結花、千田利明が行った。表の作成は柿沼修平、川端弘士、田中英世が行った。なお、第4章2のSI14、SI25における三河型甕の実測はみやこ鋼管株式会社調査部研究員 藤巻悦子氏による。航空写真撮影は及川昭文氏に依頼した。
8. 本遺跡の出土遺物および記録資料は八千代市教育委員会が保管している。
9. 本書の作成にあたっては下記の方々のご指導、ご助言を戴いた。記して感謝の意を表します。  
千葉県教育庁文化財課、八千代市教育委員会文化・スポーツ課、天野 努、川崎みどり、菊池健一、長谷川秀久
10. 本書の第1図は国土地理院1/50,000「佐倉」NI-54-19-14（千葉14号）を加工して使用した。第2図は八千代市都市図1/2,500 5-3・5-6・6-1・6-4を加工して使用した。
11. 遺物の注記は48 d・e-遺構番号-遺物番号のように行った。

# 凡 例

 カマド 粘土	 火床部 炉・焼土	 柱アタリ	 炭化物
 須恵器	 黒色処理	 赤彩	 攪乱

# 目 次

例言 凡例

第1章	調査に至る経緯	1
第2章	遺跡概観	2
第3章	調査経過	3
第4章	検出された遺構と遺物	7
	1. 旧石器時代の遺構と遺物	7
	2. 竪穴建物跡	24
	3. 掘立柱建物跡	65
	4. 土坑	71
	5. ピット	80
	6. 溝	80
	7. 炉穴	83
	8. 焼土跡	83
	9. 調査区内出土の遺物	85
第5章	まとめ	96

# 表 目 次

第1表	A区旧石器組成表	12
第2表	B区旧石器組成表	20
第3表	A区旧石器属性表(1)(2)(3)	21～23
第4表	B区旧石器属性表	23
第5表	出土遺物観察表	100
第6表	掘立柱建物跡一覧表	103
第7表	土坑一覧表	104
第8表	ピット一覧表	104
第9表	墨書・刻書一覧表	105
第10表	調査区内出土の縄文土器・弥生土器観察表	105

# 挿 図 目 次

第1図	遺跡の位置	1	第8図	B区旧石器時代器種別遺物分布(2)	14
第2図	調査区の位置	4	第9図	A区旧石器時代遺物(1)	15
第3図	竪穴建物跡及び 掘立柱建物跡の時期区分	5・6	第10図	A区旧石器時代遺物(2)	16
第4図	基本土層	7	第11図	A区旧石器時代遺物(3)	17
第5図	A区旧石器時代器種別遺物分布	11	第12図	A区旧石器時代遺物(4)	18
第6図	A区旧石器時代石材別遺物分布	12	第13図	A区旧石器時代遺物(5)	19
第7図	B区旧石器時代器種別遺物分布(1)	13	第14図	B区旧石器時代遺物(1)	19
			第15図	B区旧石器時代遺物(2)	20

第16図	SI01実測図	25	第57図	SI21出土遺物	47
第17図	SI01出土遺物	25	第58図	SI22実測図	48
第18図	SI02実測図	26	第59図	SI22出土遺物	48
第19図	SI02出土遺物	26	第60図	SI23実測図	49
第20図	SI03実測図	27	第61図	SI23出土遺物	49
第21図	SI03出土遺物	27	第62図	SI24実測図	50
第22図	SI04実測図	28	第63図	SI24出土遺物	50
第23図	SI04出土遺物	28	第64図	SI25実測図	51
第24図	SI05実測図	29	第65図	SI25出土遺物	51
第25図	SI05出土遺物	30	第66図	SI26実測図	52
第26図	SI06・SI08実測図	32	第67図	SI26出土遺物	52
第27図	SI06出土遺物	32	第68図	SI27実測図	52
第28図	SI08出土遺物	32	第69図	SI27出土遺物	52
第29図	SI07実測図	33	第70図	SI28実測図	53
第30図	SI07出土遺物	33	第71図	SI28出土遺物	53
第31図	SI09実測図	34	第72図	SI29実測図	54
第32図	SI09出土遺物	34	第73図	SI29出土遺物	55
第33図	SI10実測図	35	第74図	SI30実測図	56
第34図	SI10出土遺物	35	第75図	SI30出土遺物	56
第35図	SI11実測図	36	第76図	SI31実測図	57
第36図	SI11出土遺物	36	第77図	SI31出土遺物	57
第37図	SI12実測図	37	第78図	SI32実測図	58
第38図	SI12出土遺物	37	第79図	SI32出土遺物	58
第39図	SI13A・B実測図	38	第80図	SI33実測図	59
第40図	SI13A出土遺物	39	第81図	SI33出土遺物	59
第41図	SI13B出土遺物	39	第82図	SI34実測図	60
第42図	SI14実測図	40	第83図	SI34出土遺物	61
第43図	SI14出土遺物	40	第84図	SI35実測図	63
第44図	SI15実測図	41	第85図	SI35出土遺物	63
第45図	SI15出土遺物	41	第86図	SI36実測図	64
第46図	SI16実測図	42	第87図	SI36出土遺物	65
第47図	SI16出土遺物	42	第88図	SB01実測図	66
第48図	SI17実測図	43	第89図	SB02実測図	66
第49図	SI17出土遺物	43	第90図	SB03実測図	67
第50図	SI18実測図	44	第91図	SB04実測図	67
第51図	SI18出土遺物	44	第92図	SB05実測図	69
第52図	SI19実測図	45	第93図	SB06実測図	69
第53図	SI19出土遺物	45	第94図	SB07実測図	70
第54図	SI20実測図	46	第95図	SB08実測図	70
第55図	SI20出土遺物	46	第96図	SB09実測図	72
第56図	SI21実測図	47	第97図	SB10実測図	72

第98図	SB11実測図	73	第111図	ピット実測図(2)	85
第99図	SB12実測図	73	第112図	P3出土遺物実測図	85
第100図	SB13実測図	74	第113図	土塁・溝セクション図 及びSD01出土遺物	86
第101図	SB14実測図	74	第114図	FP01・02実測図	87
第102図	SB15実測図	75	第115図	FP01出土土器	87
第103図	SB16実測図	75	第116図	FP02出土土器	87
第104図	SB17実測図	75	第117図	焼土跡実測図	88
第105図	土坑実測図(1)	77	第118図	A区出土縄文時代土器	90
第106図	土坑実測図(2)	79	第119図	A区出土弥生時代土器	90
第107図	土坑実測図(3)	81	第120図	B区出土縄文時代土器(1)	92
第108図	土坑実測図(4)	82	第121図	B区出土縄文時代土器(2)	93
第109図	土坑出土遺物実測図	82	第122図	B区出土弥生時代土器	94
第110図	ピット実測図(1)	84			

## 図版目次

図版1	1. 遺構全景(北東から)	6. SI03出土遺物
	2. 調査区全景	図版9
図版2	1. A区遺構全景	1. SI04完掘(南西から)
	2. B区遺構全景	2. SI04カマド
図版3	1. A区旧石器時代遺物出土状況 (南から)	3. SI04出土遺物
	2. B区旧石器時代遺物出土状況 B3ブロック(南から)	図版10
	3. A区ローム層堆積状況	1. SI05遺物出土状況(南西から)
	4. B区ローム層堆積状況 (7Hグリット)	2. SI05(南西から)
図版4	1. A区旧石器時代遺物(1~16)	3. SI05カマド 遺物出土状況
図版5	1. A区旧石器時代遺物(17~36)	4. SI05出土遺物(1)
図版6	1. A区旧石器時代遺物(37~41)	図版11
	2. B区旧石器時代遺物(1~13)	1. SI05出土遺物(2)
図版7	1. SI01(西から)	2. SI06・8(南から)
	2. SI01遺物出土状況(西から)	3. SI06出土遺物
	3. SI01カマド(南から)	4. SI08出土遺物
	4. SI01出土遺物	図版12
図版8	1. SI02(南西から)	1. SI07(西から)
	2. SI02カマド	2. SI07出土遺物
	3. SI02出土遺物	3. SI09(南西から)
	4. SI03(南西から)	4. SI09出土遺物
	5. SI03遺物出土状況(西から)	図版13
		1. SI10遺物出土状況(東から)
		2. SI10出土遺物
		図版14
		1. SI11(南から)
		2. SI11出土遺物
		3. SI12(南から)
		4. SI12出土遺物
		図版15
		1. SI13A・13B遺物出土状況(東から)
		2. SI13A出土遺物

- |      |                      |      |                      |
|------|----------------------|------|----------------------|
|      | 3. SI13B出土遺物         |      | 3. SI29カマド           |
| 図版16 | 1. SI14 (南西から)       |      | 4. SI29出土遺物          |
|      | 2. SI14出土遺物          | 図版24 | 1. SI30 (南東から)       |
|      | 3. SI15 (南東から)       |      | 2. SI30貯蔵穴 (北東から)    |
|      | 4. SI15カマド           |      | 3. SI30出土遺物          |
|      | 5. SI15出土遺物          |      | 4. SI31遺物出土状況 (南東から) |
|      | 6. SI16 (南西から)       |      | 5. SI31出土遺物          |
|      | 7. SI16出土遺物          | 図版25 | 1. SI32 (北から)        |
| 図版17 | 1. SI17 (南から)        |      | 2. SI32出土遺物          |
|      | 2. SI17出土遺物          |      | 3. SI33 (北から)        |
|      | 3. SI18 (南東から)       |      | 4. SI33出土遺物          |
|      | 4. SI18貯蔵穴セクション      |      | 5. SI34 (南東から)       |
|      | 5. SI18出土遺物          | 図版26 | 1. SI34出土遺物          |
|      | 6. SI19 (南東から)       | 図版27 | 1. SI35遺物出土状況 (南西から) |
|      | 7. SI19出土遺物          |      | 2. SI35出土遺物          |
| 図版18 | 1. SI20 (南から)        |      | 3. SI36遺物出土状況 (東から)  |
|      | 2. SI20カマド           |      | 4. SI36出土遺物          |
|      | 3. SI20出土遺物          | 図版28 | 1. SB01 (東から)        |
| 図版19 | 1. SI21遺物出土状況 (南西から) |      | 2. SB02 (南東から)       |
|      | 2. SI21カマド           |      | 3. SB03 (東から)        |
|      | 3. SI21出土遺物          |      | 4. SB04 (南西から)       |
| 図版20 | 1. SI22 (北東から)       |      | 5. SB05 (北東から)       |
|      | 2. SI22旧周溝           |      | 6. SB06・17 (南西から)    |
|      | 3. SI22出土遺物          |      | 7. SB07 (西から)        |
|      | 4. SI23 (南東から)       |      | 8. SB08 (東から)        |
|      | 5. SI23出土遺物          | 図版29 | 1. SB09 (南から)        |
|      | 6. SI24 (南東から)       |      | 2. SB10 (南西から)       |
|      | 7. SI24出土遺物          |      | 3. SB11・12 (北西から)    |
| 図版21 | 1. SI25 (南東から)       |      | 4. SB13 (北から)        |
|      | 2. SI25出土遺物          |      | 5. SB14 (北から)        |
| 図版22 | 1. SI26 (南西から)       |      | 6. SB15 (北から)        |
|      | 2. SI26出土遺物          |      | 7. SB16 (北東から)       |
|      | 3. SI27 (西から)        |      | 8. B区掘立柱建物跡群         |
|      | 4. SI27出土遺物          | 図版30 | 1. SK01 (北西から)       |
|      | 5. SI28 (北東から)       |      | 2. SK02 (南西から)       |
|      | 6. SI28カマド           |      | 3. SK03 (北から)        |
|      | 7. SI28出土遺物          |      | 4. SK04 (東から)        |
| 図版23 | 1. SI29 (南東から)       |      | 5. SK05 (南東から)       |
|      | 2. SI29遺物出土状況        |      | 6. SK06 (北西から)       |

7. SK07 (南西から)  
8. SK08 (西から)
- 図版31 1. SK09 (北から)  
2. SK10セクション (南から)  
3. SK11 (北西から)  
4. SK12 (南東から)  
5. SK13 (北東から)  
6. SK14 (北東から)  
7. SK15 (南東から)  
8. SK16 (北東から)
- 図版32 1. SK17 (北東から)  
2. SK18 (南から)  
3. SK19 (南から)  
4. SK20 (北東から)  
5. SK21 (北から)  
6. SK22 (北西から)  
7. SK23 (南から)  
8. SK24 (南東から)
- 図版33 1. SK25 (東から)  
2. SK27 (北から)  
3. SK29 (東から)  
4. SK30セクション (北東から)  
5. SK31 (南東から)  
6. SK32 (南東から)  
7. 土坑出土遺物SK02 (1・2)  
SK03 (3～7) SK06 (8)

- 図版34 1. SD01 (北から)  
2. 土塁 (北東から)  
3. SD01・土塁セクション  
4. SD01出土遺物  
5. SD02 (西から)  
6. SD03 (部分・北東から)  
7. SD04 (南から)

- 図版35 1. FP01 (東から)  
2. FP01出土遺物  
3. FP02 (東から)  
4. FP02セクション  
5. FP02遺物出土状況  
6. FP02出土遺物  
7. 1号焼土跡  
8. 3号焼土跡

- 図版36 1. A区出土縄文時代土器  
2. A区出土弥生時代土器  
3. B区出土縄文時代土器 (1～57)

- 図版37 1. B区出土縄文時代土器 (58～113)  
2. B区出土弥生時代土器



# 第1章 調査に至る経緯

平成27年7月16日、染谷不動産株式会社 代表取締役 染谷敏夫 氏から「埋蔵文化財の取扱いについて（確認）」の文書が八千代市教育委員会（以下、市教委）に提出された。目的は物流センター建設であった。

市教委は現地踏査を行い、確認地30,000㎡の内、16,370㎡が周知の埋蔵文化財包蔵地（島田込の内遺跡）に含まれると判断し、8月3日、その旨を回答した。回答後、株式会社染谷不動産と協議を行い、文化財保護法93条の届出が提出され、確認調査（d地点）を実施するに至った。

d地点確認調査後、事業者が株式会社シャロンテック 代表取締役 福山博之 氏（以下、事業者）に変更された為、平成30年4月5日、株式会社シャロンテックから改めて、93条の届出が提出され、未調査区域の確認調査（e地点）を実施した。d地点・e地点合計で3回の確認調査が実施された。

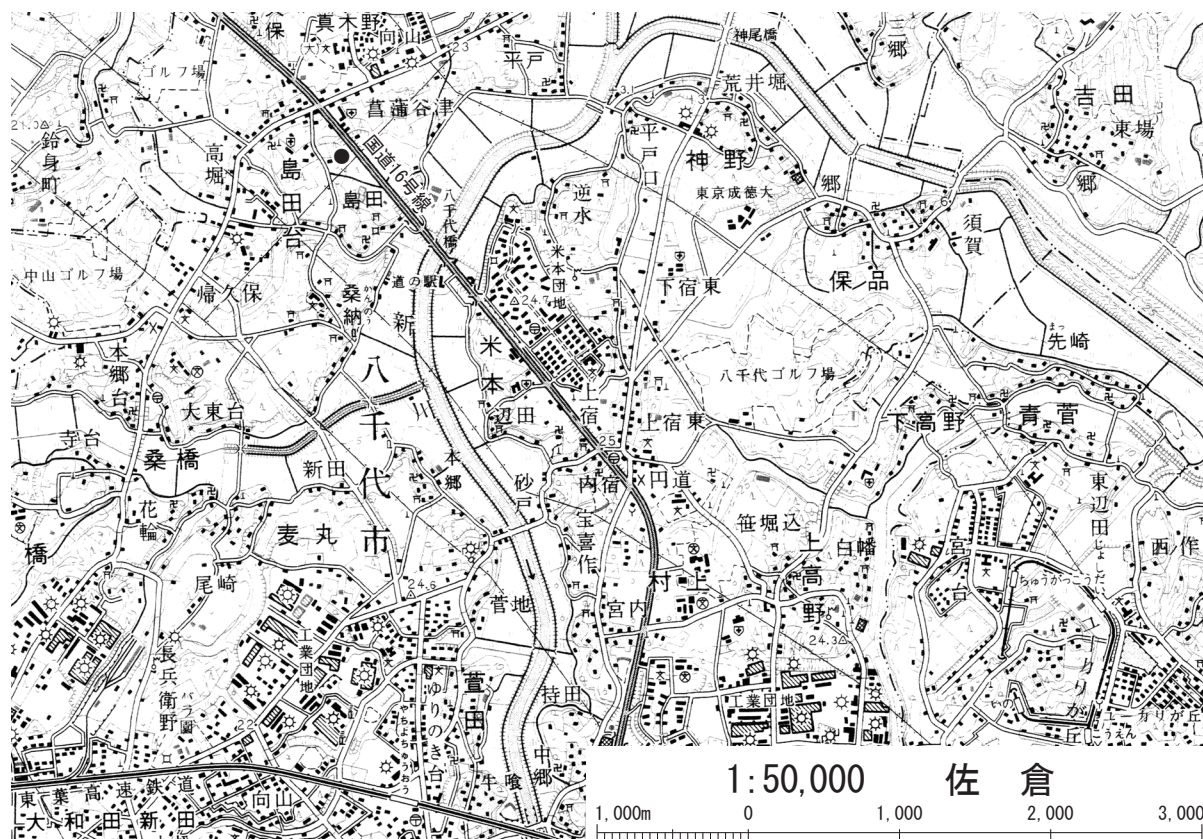
3回の確認調査の結果、奈良・平安時代堅穴建物跡等が検出され、全体協議範囲は9,700㎡となった。

この結果を受け、市教委と事業者で協議が行われ、残地森林部分と簡易な整地のみの駐車場の部分とを除く5,700㎡を記録保存（発掘調査）の措置をとることとなった。

調査の実施については、民間調査機関による実施で合意した。市教委は、民間調査機関から調査計画書等を徴収し、事業者の意向も踏まえ有限会社原史文化研究所を選定した。

令和3年6月1日、事業者、有限会社原史文化研究所、市教委との間で発掘調査の実施に関する協定書を締結し、有限会社原史文化研究所から市教委に文化財保護法92条の届出が提出され、本調査実施に至った。

なお、調査に関わる委託契約については、有限会社原史文化研究所と実質費用負担者である合資会社SHT八千代（事業者関連会社）との間で締結された。



第1図 遺跡の位置 (●印)

## 第2章 遺跡概観

本遺跡は北総台地のほぼ中央部に位置する印旛沼の西端側、佐山・平戸台地上に所在する。佐山・平戸台地は神崎川谷、新川谷（旧平戸川）に挟まれ、印旛沼に向かって圭頭状に突き出している。標高は20m、現水田面との比高差は15mほどであり、所々で小支谷が刻まれている。旧知のとおり、台地上には旧石器時代から奈良・平安時代に至る多くの遺跡が知られている。神崎川谷側には縄文時代後期の佐山貝塚、弥生時代中期後半の環濠集落跡である田原窪遺跡、そして、新川谷側には旧石器時代の遺跡で知られる風見穴遺跡、弥生時代から古墳時代の集落遺跡である道地遺跡などがある。島田込の内遺跡はこの新川谷に向かって開析する菖蒲谷津、腰巻谷津により三方を谷津に囲まれている。遺跡のほぼ中央部には北西―南東に国道16号線が走行しており、今次の調査対象区であるd・e地点はこの路線の西側にあり、遺跡範囲の北西側部分にあたっている。本遺跡の対岸には上谷、向境、栗谷遺跡などが知られ、さらに、新川谷の上流には権現後、殿内、浅間内、白幡前遺跡など多くの遺跡が知られるところである。なお、本地域における遺跡の詳細は既に天野 努、石戸啓夫によって述べられており、参照されたい。

島田込の内遺跡の調査は1993（平成5）年、千葉県文化財センターにより16号線の東側で第1次調査が行われ、2003（平成15）年には第2次調査が行われた。調査対象区は島田込の内遺跡の北側、国道16号線の東側にあたり、奈良・平安時代の堅穴建物跡、掘立柱建物跡などが検出された。同年、市教委により千葉県文化財センター第1次調査区の脇にあたるa地点の調査が行われ、2006（平成18）年にb地点、続いて2015（平成27）年、遺構の確認は無かったが、16号線東側のc地点で調査が行われた。a・b地点からも奈良・平安時代の堅穴建物跡、掘立柱建物跡などが検出されている。この様にc地点を除いて、各地点からは主に奈良・平安時代の遺構が検出され、旧石器時代から奈良・平安、中世までの遺物が確認されている。さらに、2015（平成27）年には国道16号線を挟んだ西側にあたるd地点、2018（平成30）年に行われたe地点の調査でも同様な遺構・遺物が確認されている。今回の調査はこのd・e地点の調査に基づいて行われ、調査の工程上、第1次、第2次調査区間にある旧農道を挟んだ東側をe地点調査区の一部を含めてA区とし、西側のd地点の第1次調査区を便宜上B区と呼称することとした。

d・e地点はほぼ東西に開析する菖蒲谷津の谷頭沿いの南側に面しており、標高はB区の西側で22.5mほどを測っている。調査区内はほぼ平坦であるが、支谷に面する北側に向かって傾斜をみせ、東側の菖蒲谷に向かって緩やかに傾斜している。また、A区南西側の調査区部には野馬土手状の土塁が走行しており、d地点調査の際、南北に走行する土塁であることが確認されている。

### 参考文献

1. (財)千葉県文化財センター編 『船橋印西線埋蔵文化財調査報告書1』 1998
2. (財)千葉県文化財センター編 『船橋印西線埋蔵文化財発掘調査報告書5』 2006
3. 八千代市教育委員会編 『千葉県八千代市 市内遺跡発掘調査報告書 平成27年度』 2016
4. 八千代市教育委員会編 『千葉県八千代市 市内遺跡発掘調査報告書 平成28年度』 2017
5. 八千代市教育委員会編 『千葉県八千代市 市内遺跡発掘調査報告書 令和元年度』 2020
6. 天野 努「下総国印旛郡村神郷とその故地」『研究紀要10』千葉県文化財センター 1986
7. 石戸啓夫「考古学からの古代郡郷把握」『地域史の再検討』村田一男先生喜寿記念論集 2017
8. 国立歴史民俗博物館「古代の郡と郷をさぐる」古代史サマーセミナー 2019

### 第3章 調査経過

令和3年6月19日、A区に重機を搬入、調査区の確認、整備を行う。午後は雨のため作業は中止する。6月21日、ユニットハウス、倉庫、トイレ、器材の搬入を行う。6月22日、A区から本格的に表土剥ぎを進め、遺構の確認、精査を行う。調査区の北東側に落ち込みが確認され、一部、発掘に取りかかる。翌22日、北東側から確認を進めた区域から遺構の発掘を開始する。殆どの遺構にはカマドが伴っており、竪穴建物と理解し、基本的には十字のセクションベルトを設けて発掘する。発掘の進行にあたっては四等分した遺構のカマド側左半分を1区、右側を2区、そして、時計回りに右下側を3区、左下側を4区とした。以後、梅雨の最中ながら順調に発掘作業は進められ、記録作業が追われる状況であった。SI07は唯一縄文時代の遺構であったが、出土遺物が僅少であり、床面上で黒曜石片が出土していた。また、調査区の西側でほぼ南北に走行する溝が検出され、竪穴建物、掘立柱建物のピットも重複、切っていることがSI10、SB02の発掘で確認された。また、A区内に接して、溝には土塁が並走しており、調査区外南側に続いていることが、改めて確認された。7月16日、梅雨明けと共にA区の発掘もほぼ終了に近づき、B区の表土剥ぎを進めた。17日、猛暑の中、A区のドローンによる空撮を行う。7月19日、B区の北西側の遺構発掘に取りかかる。7月21日、旧石器の確認を除いてA区の調査は終了する。7月23日、B区の遺構発掘も順調に進む。A区ではSI07付近から旧石器が続々と検出され、東側に広がっていることが確認された。台風の影響もあったが、作業は順調に進み、B区では竪穴建物以外の遺構についても発掘を進めた。掘立柱建物、陥穴も確認されている。また、北西側、東側でも旧石器らしい石片が検出され、確認のトレンチを3ヶ所ほど設けて調査したが、石器の拡がりは確認できなかった。北西側は遺構が比較的疎らであるが、東側のA区寄りには遺構が密になっている。8月11日、A区の旧石器の調査も終了した。B区の遺構、記録作業は暑さの中進められ、SI29に切られるSI30は本調査区で初めて確認される古墳時代中期の竪穴建物であった。9月6日には竪穴建物SI36の発掘にはいる。

9月13日には竪穴建物、掘立柱建物の発掘はほぼ終了し、調査区の東側を走るSD03、北側を走るSD04の発掘を進める。SD03は土坑状の掘り込みが列をなし、柵列状となっている。このSD03は一端調査区外に延び、左折してSD04に連続するとみられる。同時に、掘立柱建物の丸掘り作業、カマドの丸掘り作業も行う。カマドは袖切もあり、なかなか作業が進まない。

B区の調査も終了に近づき、遺構の全体測量も開始する。1/100とは言え、平板3回の移動が必要であった。9月15日、空撮のため、清掃作業も始める。翌16日午後、ドローンによる空撮を行う。

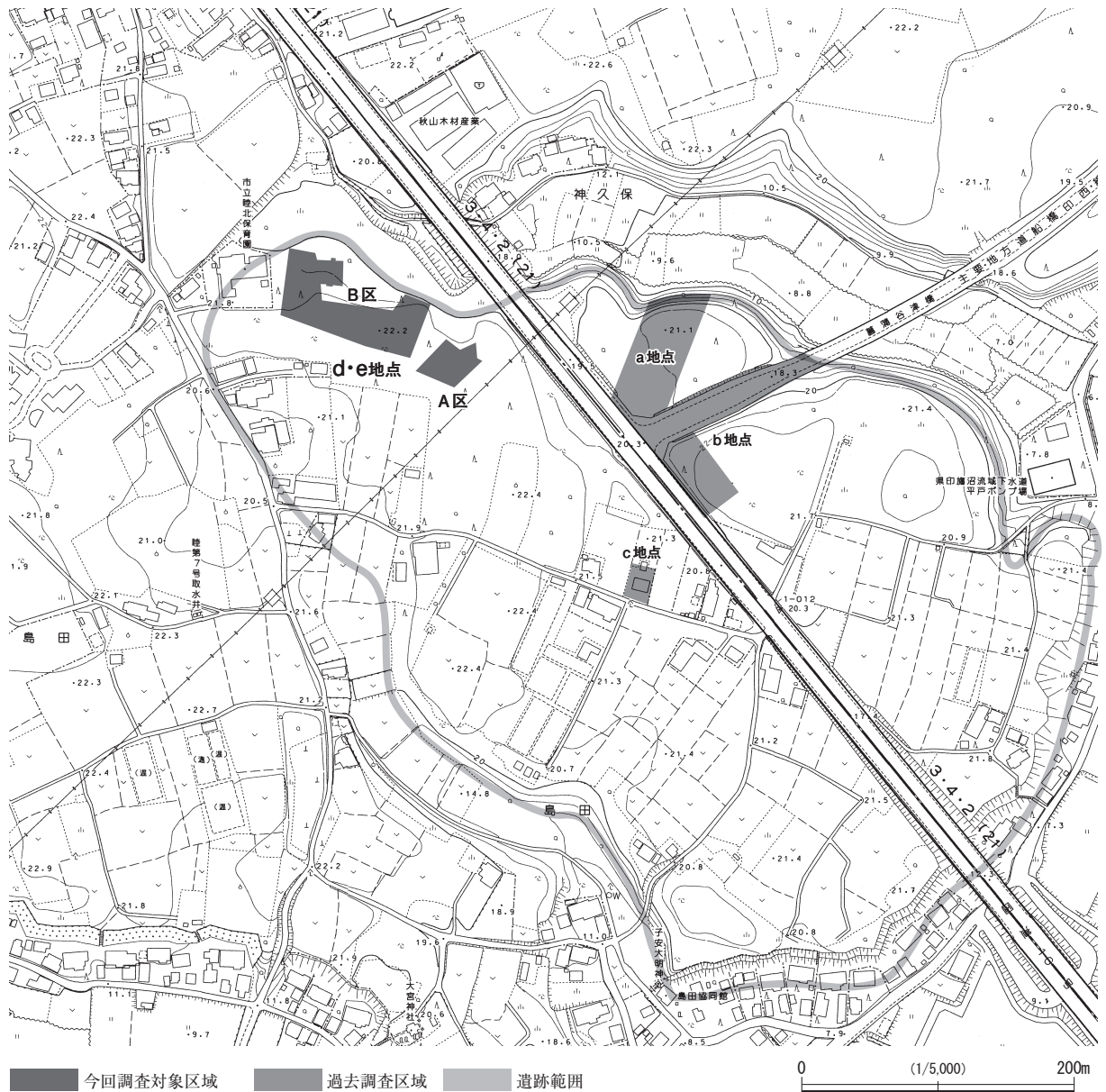
9月17日、どうにか記録作業も完了し、後は確認作業を残すのみとなる。

9月22日、市教委、委託事業者立ち合いの下、本調査の終了が確認された。梅雨、台風、猛暑と目まぐるしい天候の下、無事に調査が終わり、器材等の撤去も行われた。A区においては思いがけず旧石器が確認され、奈良平安時代の集落跡が確認されたことは、大きな成果であったと言える。

# 島田の内遺跡の調査

地点	調査面積 (㎡)	調査種別	遺構	遺物	調査機関	調査年月	報告書
文七 調査地区 (1)	上層 400/4000 下層 160/4000 本調査 3200	確認本調査	古墳時代：竪穴建物 12 奈良・平安時代：竪穴建物 9、掘立柱 建物 4 中世：土坑 57、溝 13	旧石器時代：石器・縄文土器 奈良・平安時代：土師器・須恵器・灰釉陶器・ 鉄製品・銅製品	(財)千葉県 文化財 センター	H5.10～H6.1	※1
	199.5/240	1次確認	弥生時代～古墳時代前期：竪穴建物 1 奈良・平安時代：竪穴建物 9、土坑 4	縄文土器、弥生土器 古墳時代：土師器 奈良・平安時代：土師器・須恵器	市教委	H15.6	市内 H16
	170/170	2次確認	縄文時代：土坑 2 奈良・平安時代：竪穴建物 6、土坑 4 近世以降：炭焼窯 1	縄文土器、弥生土器 古墳時代：土師器 奈良・平安時代：土師器・須恵器	市教委	H15.7	市内 H16
a	184	未調査	奈良・平安時代：竪穴建物 4、土坑 1	縄文土器、弥生土器 古墳時代：土師器 奈良・平安時代：土師器・須恵器	市教委	H15.7～H15.8	市内 H16
文七 調査地区 (2)	上層 200/200 下層 10/200 本調査 200	確認本調査	石器時代：出土地点 1 奈良・平安時代：竪穴建物 1	石器時代：石器 奈良・平安時代：土師器・須恵器	(財)千葉県 文化財 センター	H15.10～H15.11	※1
	b	255/2168.71	確認	弥生時代～平安時代：竪穴建物 13、 土坑 48	縄文土器、弥生土器 古墳時代：土師器 平安時代：土師器・須恵器	市教委	H18.9

※1「船橋印西線埋蔵文化財調査報告書 1 第328集」 ※2「船橋印西線埋蔵文化財調査報告書 第559集」



第2図 調査区の位置



X=-25900

X=-25910

X=-25920

X=-25930

X=-25940

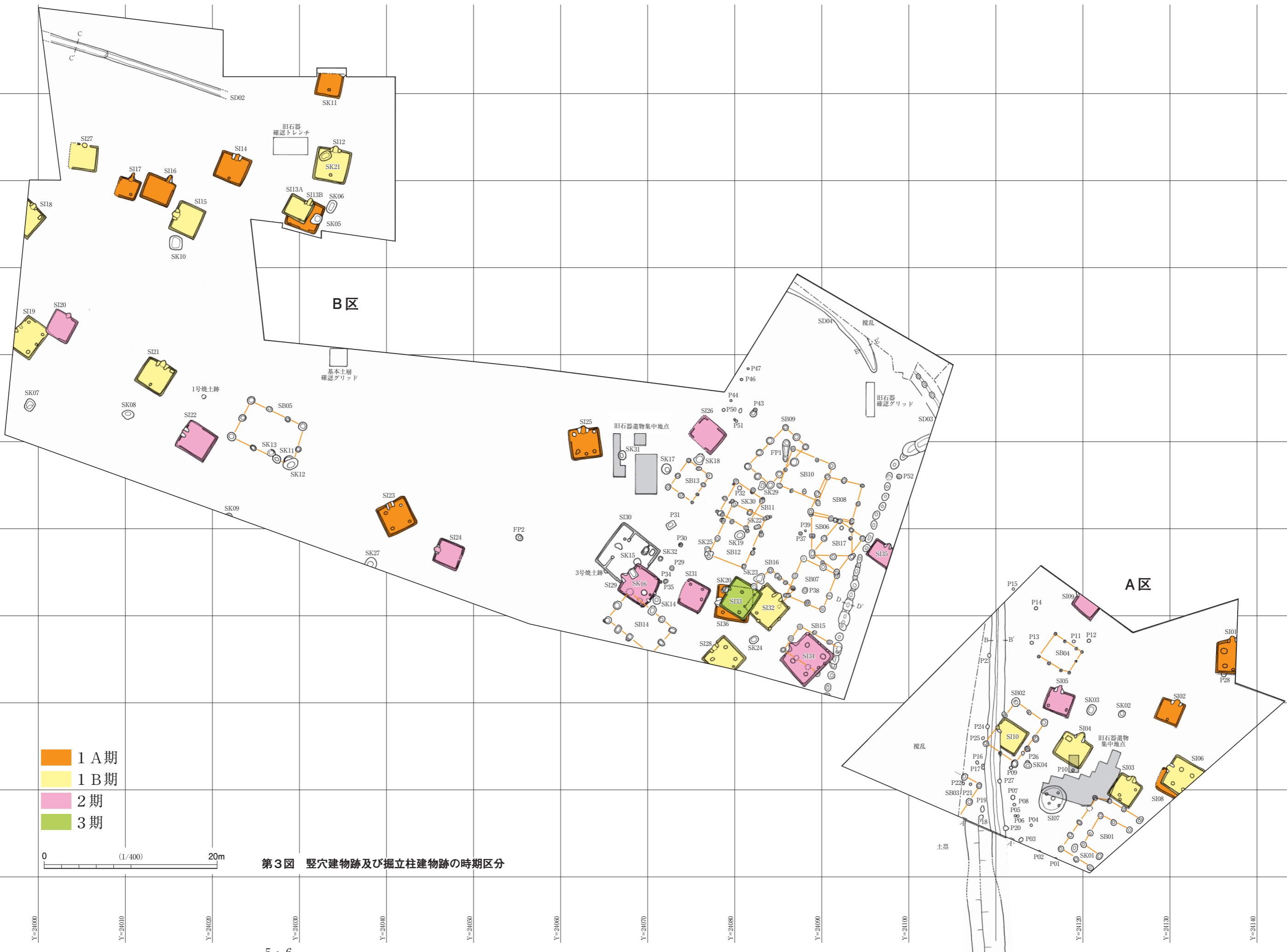
X=-25950

X=-25960

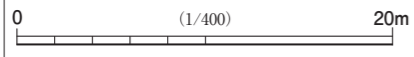
X=-25970

X=-25980

X=-25990



- 1 A期
- 1 B期
- 2期
- 3期



第3図 竪穴建物跡及び掘立柱建物跡の時期区分

Y=23990

Y=24000

Y=24010

Y=24020

Y=24030

Y=24040

Y=24050

Y=24060

Y=24070

Y=24080

Y=24090

Y=24100

Y=24120

Y=24130

Y=24140

Y=24150

# 第4章 検出された遺構と遺物

調査の工程上A区、B区とした内d・e地点は調査の結果、旧石器時代の遺物集中地点、そして、竪穴建物跡37軒、掘立柱建物跡17棟、土坑30基（うち陥穴2基）、ピット46基、溝4条、炉穴2基、焼土跡2基が検出され、同時に多くの遺物が検出された。

## 1. 旧石器時代の遺構と遺物

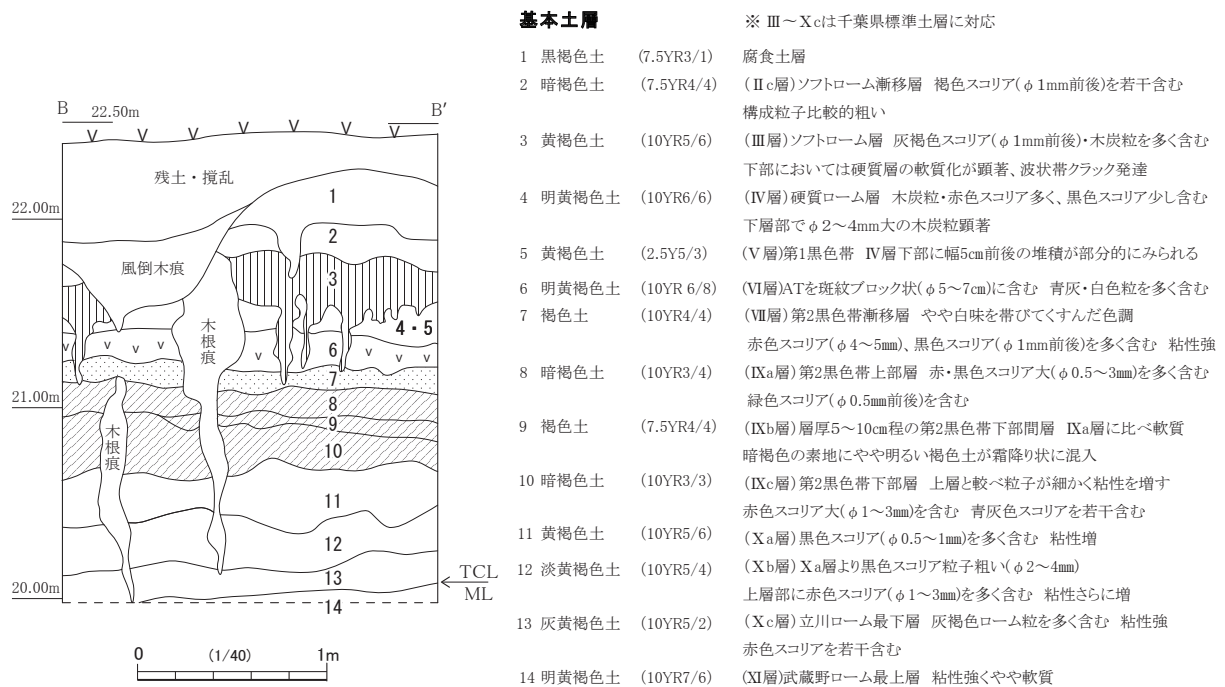
**概要** 総数279点（A区から227点、B区から52点）の旧石器時代遺物が検出された。A区では黒曜石主体の石器群が集中地点を形成し、B区では散漫な分布ながらもナイフ形石器などのツールが含まれている。

### 基本土層（第4図）

第4図はB区中央部付近北側の調査区境界に沿って掘られた試抗断面図である。土層凡例に沿って補足説明することとする。なお、以下に記したローマ数字は下総台地におけるローム層の標準土層に相当する。

本調査区は古くから育まれてきた林地帯の一部を形成していたが、経年の整地工事等によって大方の地表面が削平や変質をうけている。表土においては残土や山砂、伐採・伐根の痕跡等があり、厚さ30 cm、所によって90cmほどの深さまで侵攻した攪乱層が不連続に形成されており、その下に本来の堆積層が残されている。

1層は腐植土層、全体に土壤粒子は粗く、細かい植物痕が密生し柔らかい感触である。本来は林地の植被に覆われた表層土壌として現地表面まで厚く堆積していた層である。2層は下総台地標準土層のⅡc層と考えられ、試抗において縄文時代早期後葉の条痕文土器が検出されており、該期を中心とした一連の遺物を包含する層である。3層（Ⅲ）はソフトローム層で、下部においては4層（Ⅳ）の軟質化が顕著なため厚みを増している。そのため、4・5層（Ⅳ・Ⅴ）の上部はボソボソなロームブロックが目立つようになり、軟質化の傾向がうかがわれる。Ⅳ・Ⅴ層の分層は困難であるが、A区では、部分的に5cm程の厚さでやや暗い5層（Ⅴ）が観察されている。6層（Ⅵ）は、AT火山灰が斑紋ブロック状に含まれている。7層（Ⅶ）は第2黒色帯漸移層に相当する。ATの拡散沈下によりやや白みを帯びてくすんだ色調である。8～10層（Ⅸa～c）は第2黒色帯である。全体にスコリアの混入が多く、8層（Ⅸa）から下部10層（Ⅸc）にかけて徐々にスコリアの粒径が大きくなっている（0.5 ≤ 3mm）。11～13層（Ⅹa～c）は立川ローム最下層で黒色スコリアがⅨ層に比べて顕著である。



第4図 基本土層

## 黒曜石の分類について

今回の調査で検出された279点の石器の内、黒曜石が261点を占める。特にA区では97.8%という高比率であったため、B区出土石器も含め肉眼的な観察による分類を実施し、第1・2表及び第6図などに反映させている。分類基準は以下のとおりである。

1. 石基は漆黒。部分的に筋が入る。良質。灰色の球果がかたまり、 $\phi 3\text{mm}$ 程度になったものが多くみられる。
2. 石基はやや褐色を帯びる。光沢があり良質。球果のかたまりもあるが、 $\phi 1\text{mm}$ 程度の小さなものが多くみられる。
3. 石基は全体に霜降り状で、基本は黒だが部分的には乳白色を呈す。梨肌。良質。球果は1に似るが、より少ない。
4. 石基は黒くて半透明。薄く剥いだものは透ける。良質。球果の状態は1に似る。
5. 石基は4よりもさらに透明度が高い。灰色。良質。球果の状態は1に似る。
6. 石基は5と同じくらいの透明度だが全体に霜降り状。若干梨肌。良質。球果は1に似るが、より少ない。
7. 石基は樹脂状。不透明。若干梨肌。良質。球果は少ない。ごく細かい砂状の夾雑物を多く含む。
8. 石基は透明度がととも高い。良質。球果はごく少ない。

以上、あくまでも肉眼的な分類であるが、1～6は高原山産の黒曜石である可能性が高い。

## A区

### 出土状況（第5・6図 図版3）

南北4.2m×東西7.3m（SI07覆土出土のもの2点を除外すると東西5.5m）の範囲に総数279点の石器がひとつの集中地点を形成し、検出されている（第3表）。接合資料や石材の分布状況から同時期に残されたものと判断されたためここではひとつの集中地点として報告するが、分布の様子から、西と東に2つのブロックとして認識することも可能かもしれない。密に分布しているのは西側で、東側はまばらな分布である。最も多く出土した石材は黒曜石2の65点だが、ほとんどが西側に分布している。65点中55点が剥片と破片で、接合資料もほとんどが黒曜石2であることから、西側では黒曜石2を用いた剥片剥離作業が行われていたものと考えられる。一方、東側では外周にツールが並んで出土していることが注目される。意図的に置かれたものか、作業に関する場所であったかもしれない。

集中地点は北側に谷があるのでわずかに下がっているが、出土層位はおおよそIV層下部からV層であると思われる。

### 出土石器（第9～13図 第1・3表）

器種組成は、ナイフ形石器3点、搔器17点、削器2点、石錐3点、石核5点、二次加工のある剥片8点、微細剥離痕のある剥片26点、剥片102点、破片59点、小礫2点である。石材組成は、剥片石器類では黒曜石222点、玉髓2点、チャート1点で、小礫は砂岩1点、チャート1点である。接合資料は5個体確認でき、うち2個体には搔器が含まれ製作についての情報がわずかに得られる。

1～3は黒曜石のナイフ形石器である。1は、斜軸の剥片をほぼそのまま利用し、左側縁先端と右側縁基部に調整加工が施されている。2は基部が欠損している資料で、横長剥片を素材としている。先端に無加工の部分が残されているためナイフ形石器と分類したが、素材の厚さや調整の粗さから角錐状石器とみることもできる。3は剥片の末端折れ面に調整が施された横刃のナイフ形石器である。

4～18は黒曜石の搔器である。縦横比で円形に近いもの（1類）が4～9、縦長のもの（2類）が10～12、横長のもの（3類）が13～16の順に掲載した。1類は分厚い剥片素材で、5点中4点で黒曜石3が使われている。

6の黒曜石1使用のものが横位に素材を用い打面なし、他は縦で4以外は打面が残されている。刃部角は75～88°。側面の調整は、8と9は片側縁のみ、他は両側縁で7は左側縁の加工を裏面に施している。丁寧な側面調整は削器様であるが、円形に最も近い4でも上端に調整は回っていない。2類は打面の残った縦長剥片が用いら

れており、11・12の素材はやや薄い。11は打点直下折れの剥片を表裏逆に使っている。刃部角は78～86°。側面調整はないか浅い剥離である。3類は薄い剥片素材で小型の搔器である。13は縦折れした剥片を横位に、15は残された打面を上を設定し、14・16は折られた剥片の末端部が用いられている。刃部角は62～77°。側面調整は丁寧で削器様だが、14の右側面には調整がない。17・18は残核の末端部に刃部が設けられた資料で、ここでは搔器として分類した。

19は円形はやや厚い剥片を素材とし、右側縁に剥片の中央にまで達する深い調整剥離が施された削器である。刃部角が63°とやや浅いので削器と分類したが、横位に設定した搔器の可能性もある。

20～22は石錐である。22は玉髓が使われている。すべて折れた剥片を素材とし、鋭角的な部分にごく簡単な調整が施されている。

23～27は二次加工のある剥片、28～32は微細剥離痕のある剥片である。23は打点直下折れのやや大きな剥片で、細かい調整が側縁に施されており2類の搔器の素材かもしれない。24は小型の剥片を剥離する石核の打面再生剥片、28は打点直下折れの大型の剥片で、全周に微細剥離痕が残される。33～36は石核。33は横長剥片、それ以外は縦長～不定形剥片が剥離されている。17・18のような残核利用の搔器の素材となりうる。

37～41は接合資料である。37(a～c)は、37aと37(b+c)の2枚の剥片が接合している。打面調整も頭部調整もない。37aは末端部で、内包された節理面により剥離時に折れている。同様に37(b+c)も夾雑物の影響で、剥片剥離時に折れている。37bは打面が残された側で左側縁に調整を施した削器で、37cは末端部で、横位に用いられ搔器に作られている。刃部角は61°とやや浅い。縦長で薄い剥片、側面調整がないことから2類に分類される。

38(a+b)は、38aを剥いでから38bが剥かれ、搔器に加工されている。38aの折れ面と38bの打面、主要剥離面、調整加工面以外は、風化か被熱の影響か、白変している。打面調整も頭部調整もない。38bは、末端部と左側面に簡単な調整が施された搔器で、2類に属する。

39～41は、小型の縦長剥片が2点ずつ接合している。どれも打面調整はないが、細かい頭部調整はある。特に39は稜上剥離も確認できる。石器製作時に剥がされたものか。

## B区

### 出土状況(第7・8図 図版3)

総数52点の石器が検出されている(第4表)。石器は調査区内の遺構確認面或は遺構発掘中に出土したものがほとんどである。出土地点は任意のグループごとに番号化されたものを使用し、分布を示した。

各石器の出土状況を見ると、遺構覆土からの出土はB2-1～5(SI26・SB10-P6)、B4-1～3(SI25・G404grid)、B5-1～3(SI34・K903 grid)、B6-1～9(SI29・31・32・33・36・SK23)、B13(SI36)、B14(SI24)の22点、遺構確認時に検出したB1-1～4(J601grid・P47・37)、B8-1～6(K601・K602・J602 grid)、B10(B601 grid)、B11(D501 grid)は10点、試掘において出土したB3-1～20(第8図)の20点である。

遺構確認面の精査は、基本的に3層(Ⅲ)上面から中ほどで行われたが、調査区域一帯は土地利用に係わる経年の攪乱や荒地が多く、一様な確認面を確保することが難しい状況であった。

石器の出土はA区に近接する東寄りの範囲(B1～6・8・13)と西側の谷頭部近く(B7・B11)に集中した分布域を示している。西側の集中地点は3点の出土であり、ここに確認トレンチを設けるも倒木や伐根による土壌侵食が顕著で十分な成果は得られなかった。東側では堅穴建物群の覆土から石核と剥片類(B5・B6)が散漫な状態で出土している。住居跡の掘り込みは標高にして21.30～.50mの所に床面があり、基本土層の4～6層(Ⅳ～Ⅵ)にあたる。石器の出土は遺構埋没時の混入であるが、あるいはⅣ～Ⅴ層の包含であった可能性もある。また、北側へ向かう緩斜面部では黒曜石の剥片を主体とした一群(B1・B2)、と被熱礫(B8)を主体とした一群が認められる。この2カ所の出土地点の石器も西側の地点と同様に土壌侵食され散在した状況で出土しているが、出土レベルからプライマリーな土層と比較して3層(Ⅲ)の範囲内であったと考えられる。



試掘での出土はB3の一群（第8図）である。この区域も若干の土壤侵食がみられるが、黒曜石の削器とホルンフェルスの磨石片がⅣ・Ⅴ相当層で出土している。

#### 出土石器（第14・15図 第2・4表）

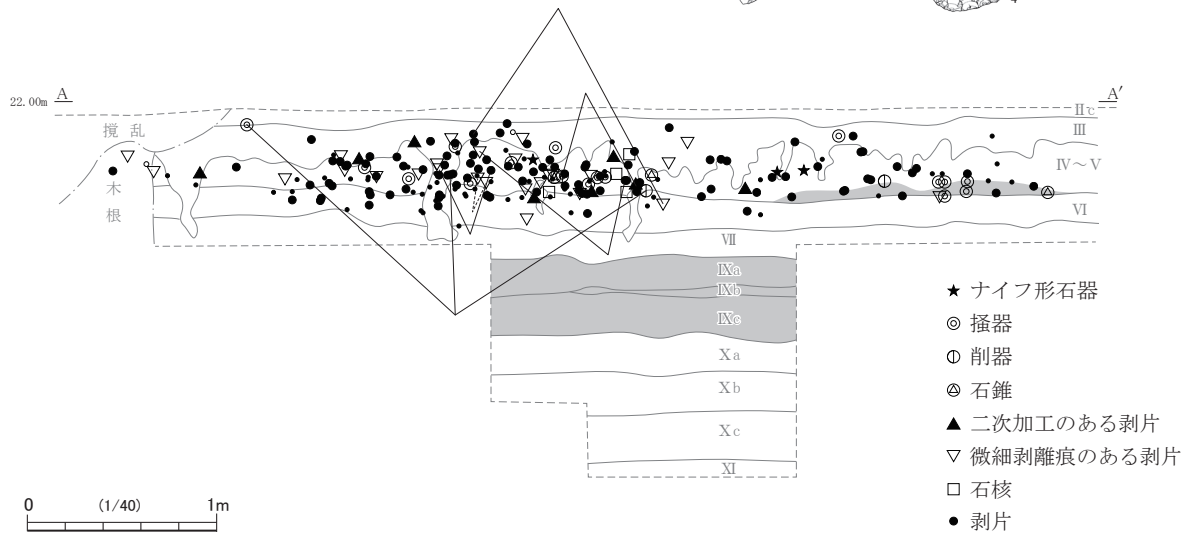
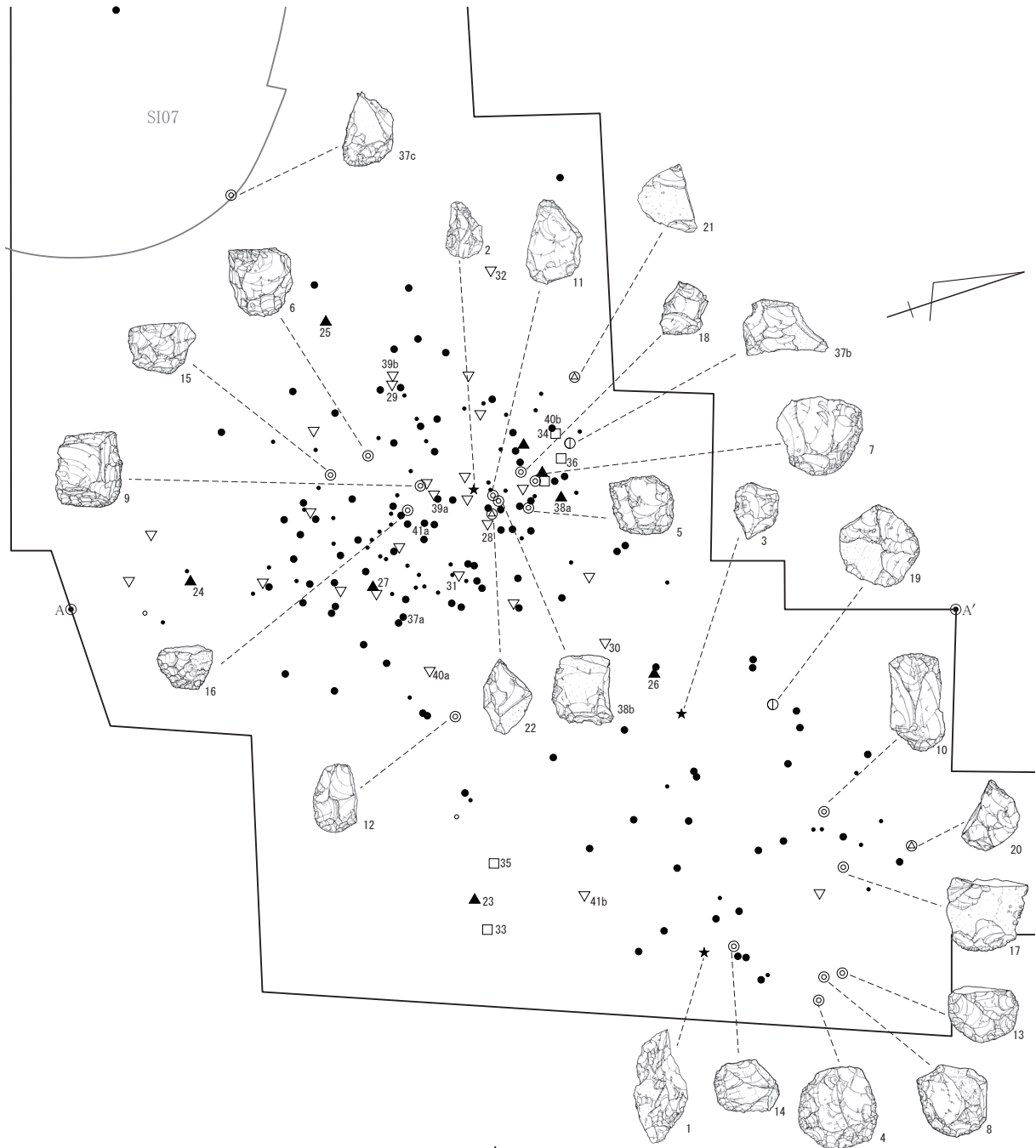
器種組成は、ナイフ形石器2点、削器1点、石核5点、二次加工のある剥片2点、微細剥離痕のある剥片4点、剥片27点、碎片6点、磨石2点、被熱礫4点、小礫2点である。石材組成は、剥片石器類では黒曜石39点、玉髓1点、ホルンフェルス1点、珪質頁岩1点、ガラス質黒色安山岩1点、チャート1点で、礫石器類はホルンフェルス1点、チャート1点、安山岩3点、花崗斑岩1点、砂岩2点である。接合資料は確認できなかった。

1・2はナイフ形石器である。1は玉髓の二側縁加工のナイフ形石器。小さく折られた剥片素材で、左側縁は先端部に対向剥離、右側縁は表面からのブランディングが施されている。2は黒曜石の縦長剥片素材のナイフ形石器。顕著な頭部調整が施された剥片の左側縁の基部に調整加工がみられる。3は黒曜石の円形剥片素材で、裏面の左右縁辺に連続的に調整が施された削器。

4・5は二次加工のある剥片、6～9は微細剥離痕のある剥片である。4は大型のホルンフェルスの剥片の左側縁に、連続的な加工が観察できる。1～9のすべての剥片に打面調整はなく、2以外に頭部調整も確認できない。10・11は黒曜石の石核である。10は2や6のような先端の尖った縦長剥片を剥いだ石核で、打面調整はない。11は横長剥片を剥いだ残核である。12・13は、表面に擦痕の残る磨石で、どちらも欠損している。

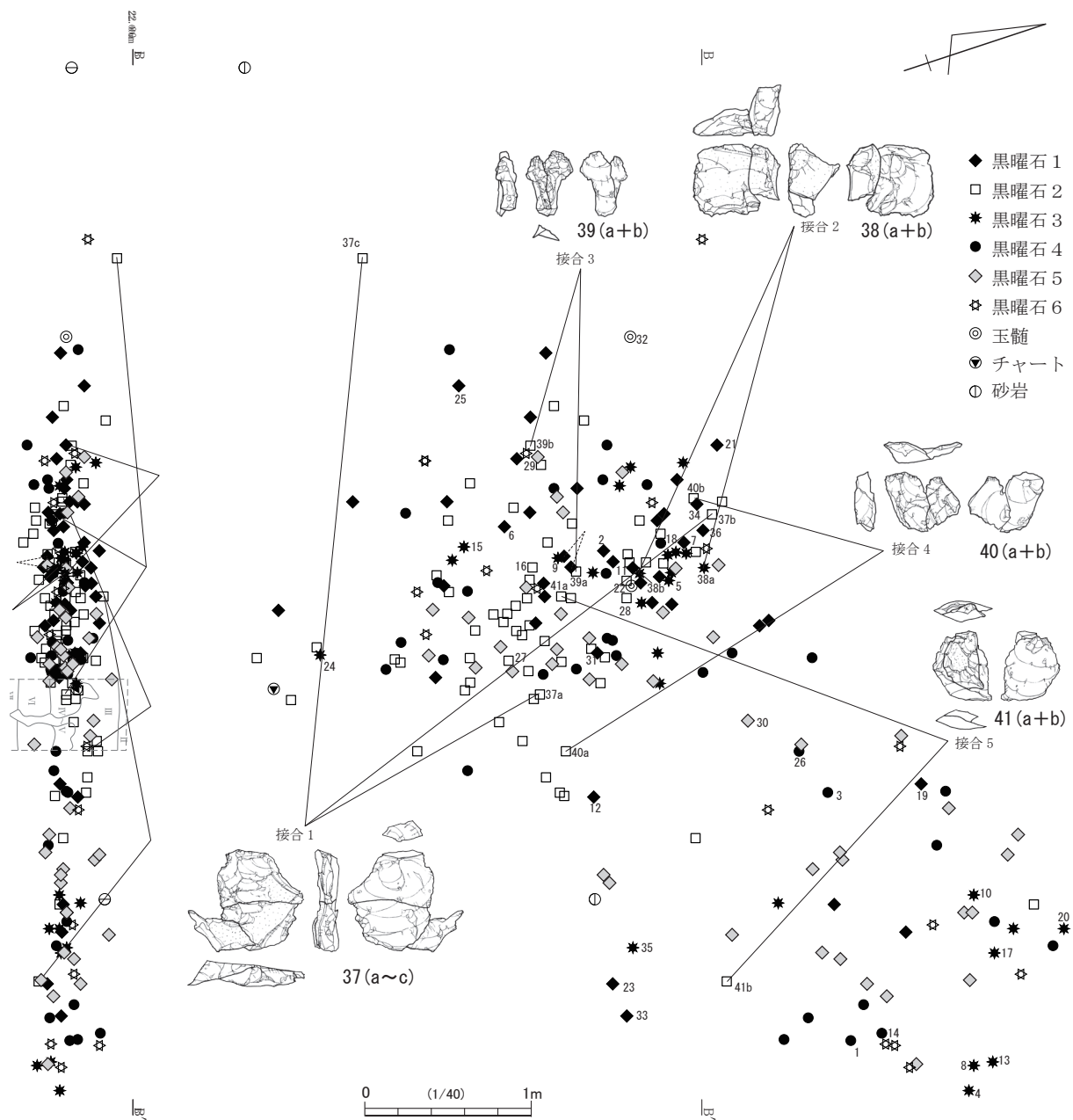
#### 参考文献

- 橋本勝雄 1983 「立川ローム層の層序区分-その現状と課題-下総台地の場合」『研究連絡誌』第5号 千葉県文化財センター
- 伊藤健 1992 「円形搔器の素描と展開」『旧石器考古学』45号 旧石器文化談話会
- 島立桂・新田浩三・渡辺修一 1992 「下総台地における立川ローム層の層序区分」『研究連絡誌』第35号 千葉県文化財センター
- 堤隆 2003 「後期旧石器時代の石器群と寒冷環境への適応戦略」『第四紀研究』42巻3号 日本第四紀学会



- ★ ナイフ形石器
- ◎ 搔器
- ⊙ 削器
- ⊗ 石錐
- ▲ 二次加工のある剥片
- ▽ 微細剥離痕のある剥片
- 石核
- 剥片
- 碎片
- 小礫

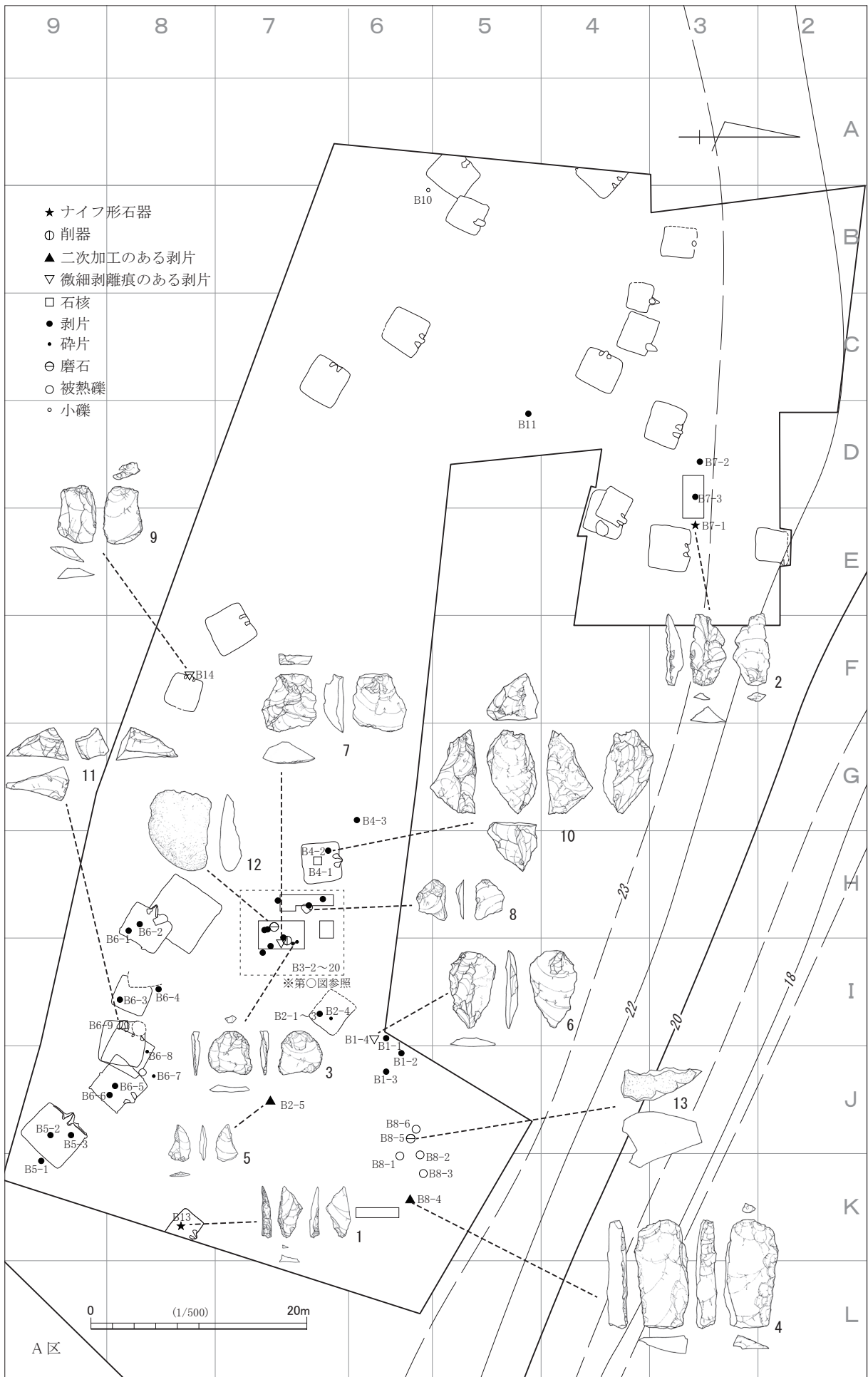
第5図 A区旧石器時代器種別遺物分布



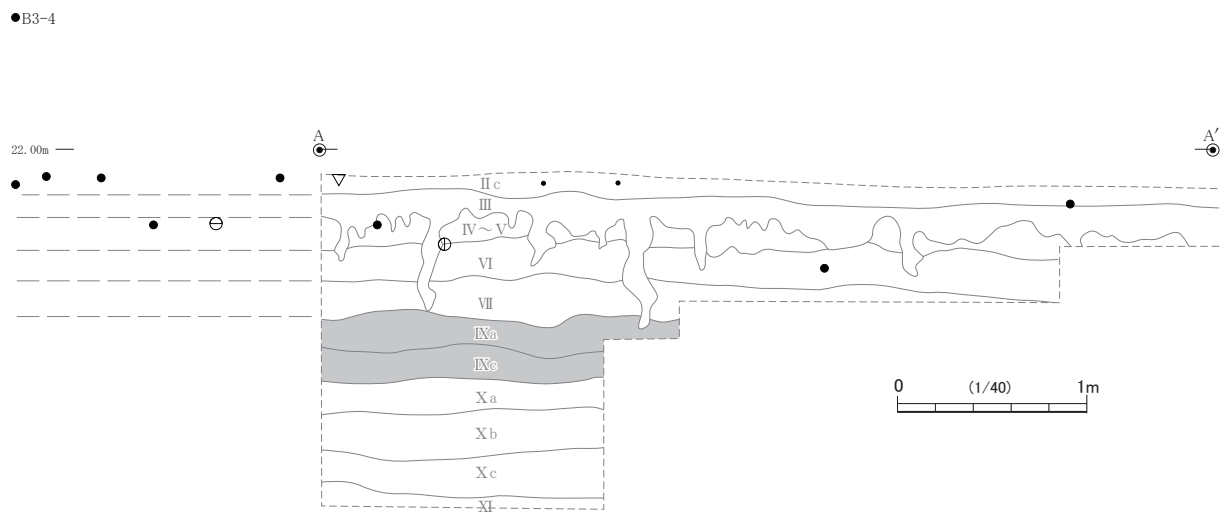
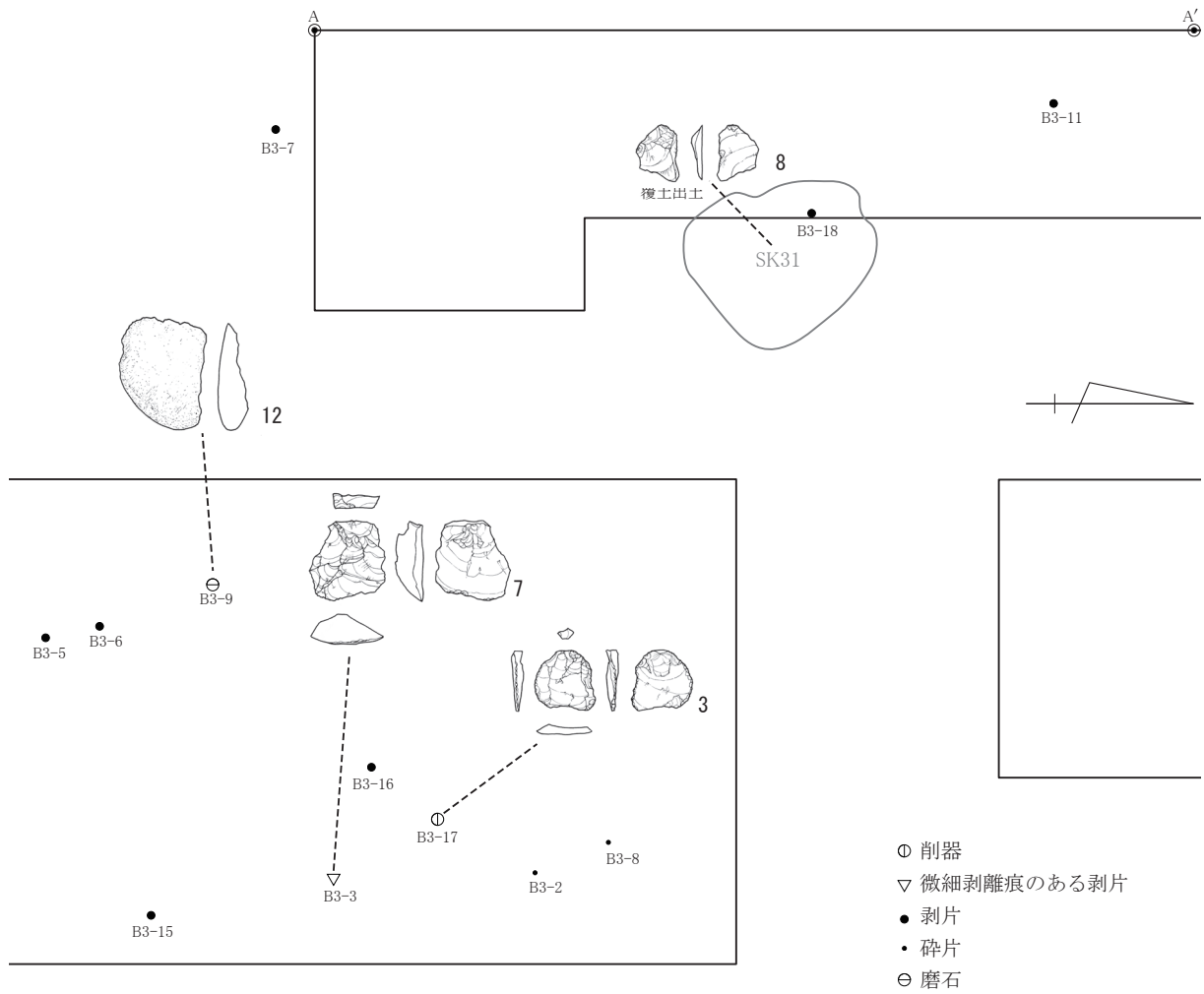
第6図 A区旧石器時代石材別遺物分布

第1表 A区旧石器組成表

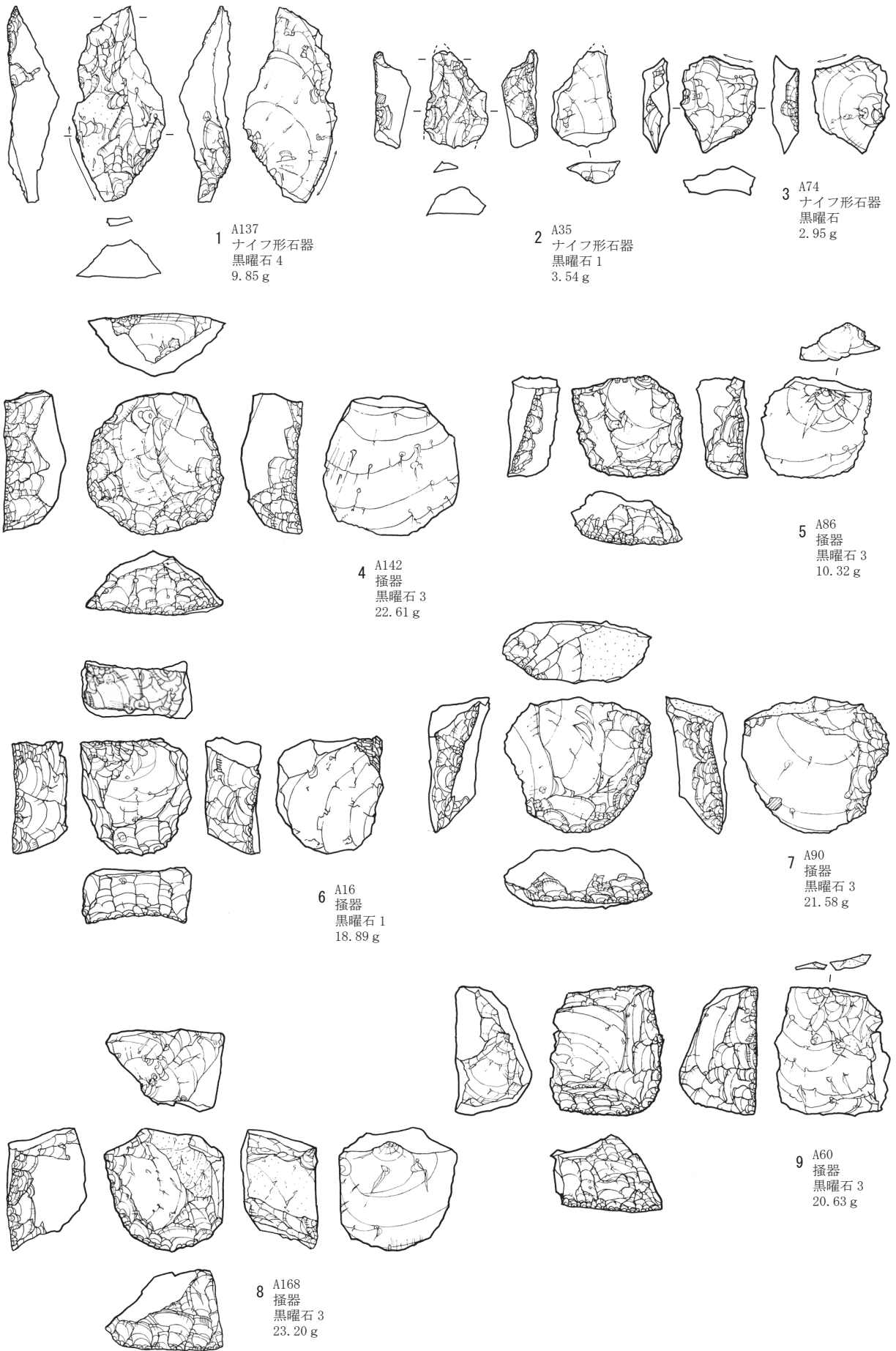
器種 石材	ナイフ形石器		搔器		削器		石錐		の二次加工 のある剥片		の微細剥離痕 のある剥片		石核		剥片		碎片		小礫		総計		
	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	
黒曜石	3	16.34	17	225.45	2	25.62	2	16.82	8	46.89	25	78.37	5	73.6	101	74.68	59	1.33			222	559.10	
1	1	3.54	4	43.32	1	18.44	1	7.98	4	30.71	8	12.98	3	48.35	17	15.75	1	0.01			40	181.08	
2			1	6.43	1	7.18			1	2.08	7	46.05			30	22.48	25	0.62			65	84.84	
3			10	161.33			1	8.84	2	9.62	1	3.72	2	25.25	7	14.33	3	0.02			26	223.11	
4	2	12.8	2	14.37					1	4.48	3	4.36			15	11.03	10	0.16			33	47.20	
5											5	3.85			18	5.77	19	0.48			42	10.10	
6											1	7.41			14	5.32	1	0.04			16	12.77	
玉髓							1	3.87			1	4.94									2	8.81	
チャート																			1	1.33	1	1.33	
砂岩															1	0.47				1	2.78	2	3.25
総計	3	16.34	17	225.45	2	25.62	3	20.69	8	46.89	26	83.31	5	73.6	102	75.15	59	1.33	2	4.11	227	572.49	



第7図 B区旧石器時代器種別遺物分布(1)

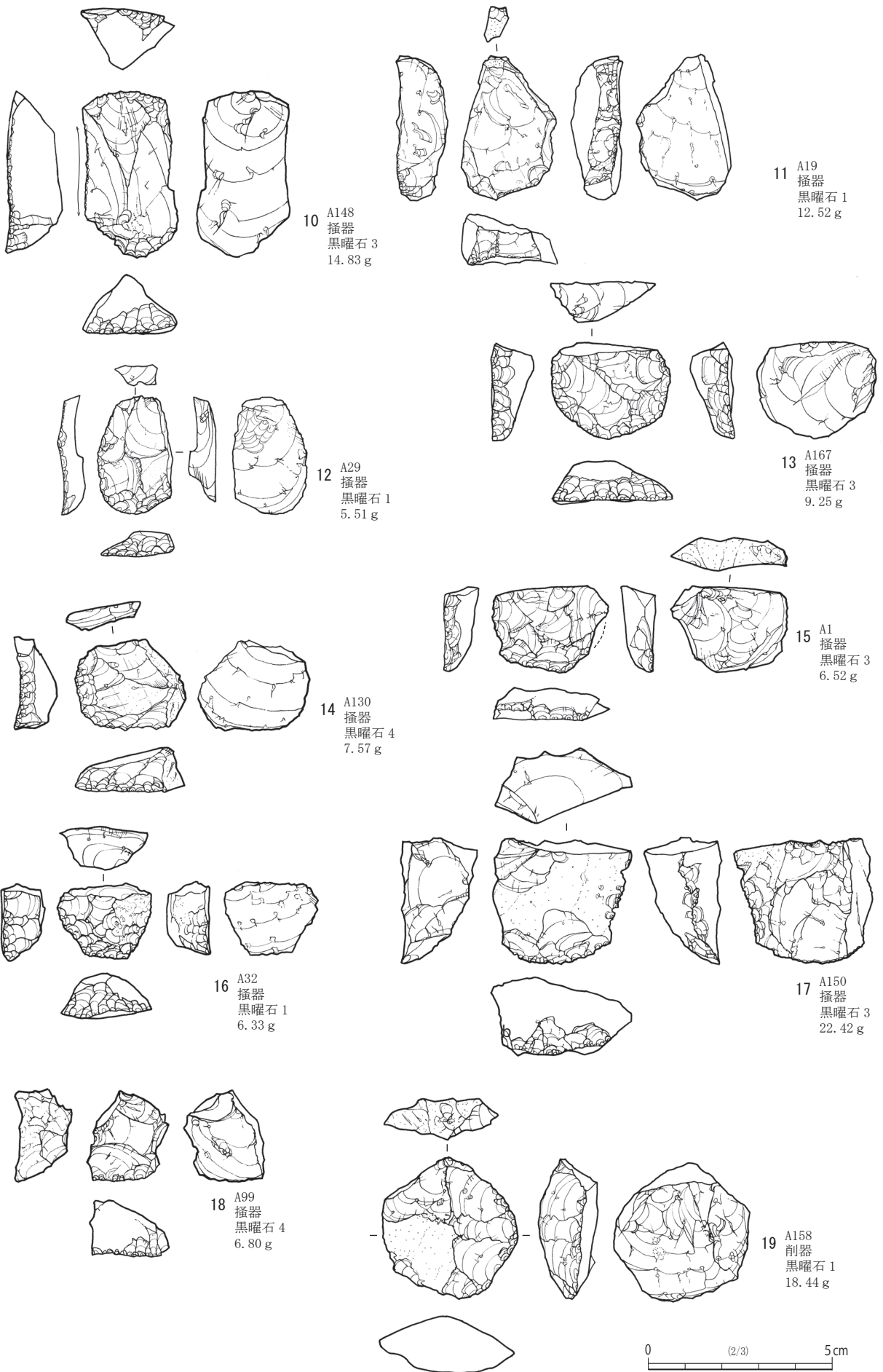


第8図 B区旧石器時代器種別遺物分布(2)

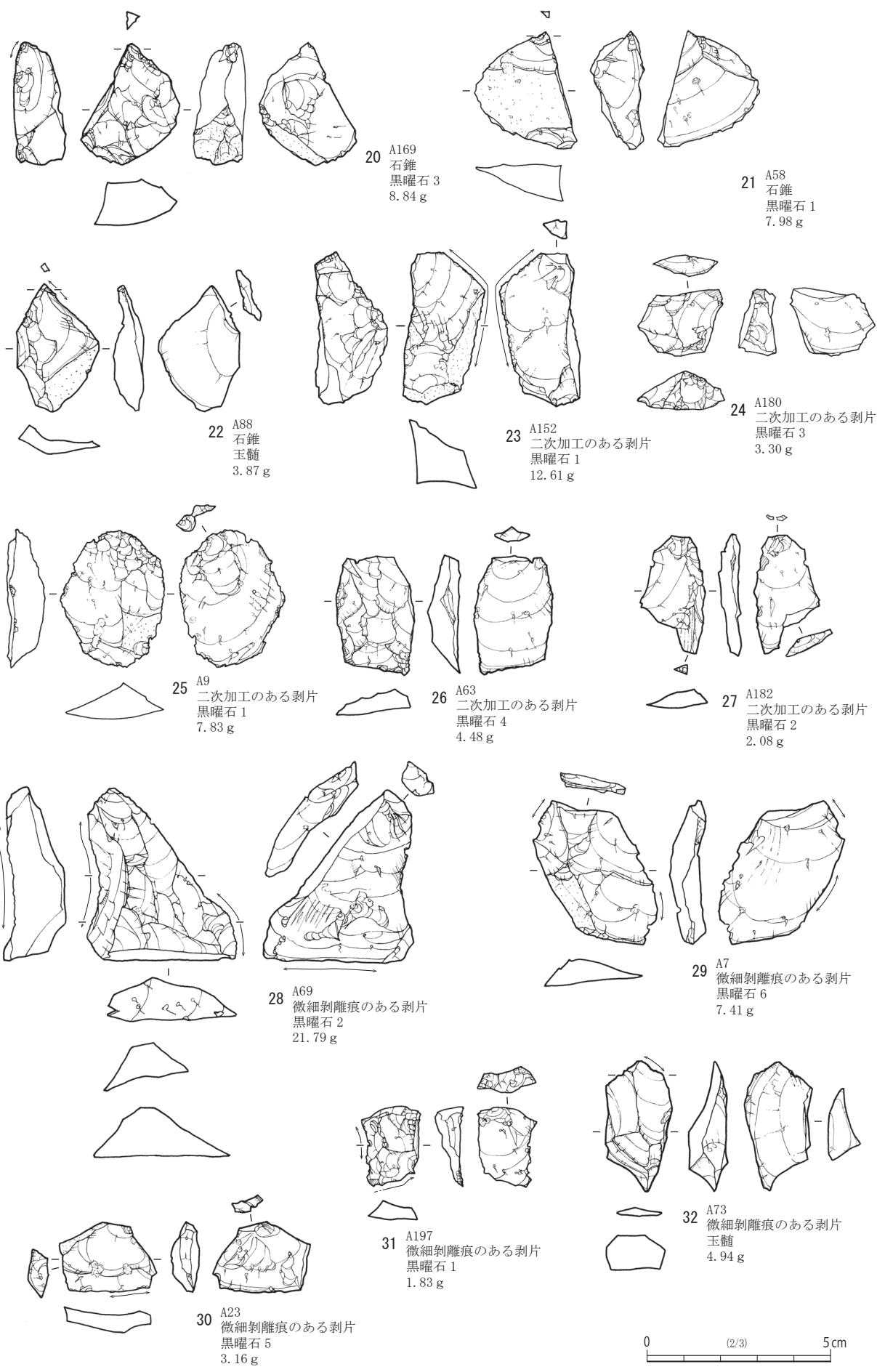


0 (2/3) 5cm

第9図 A区旧石器時代遺物(1)

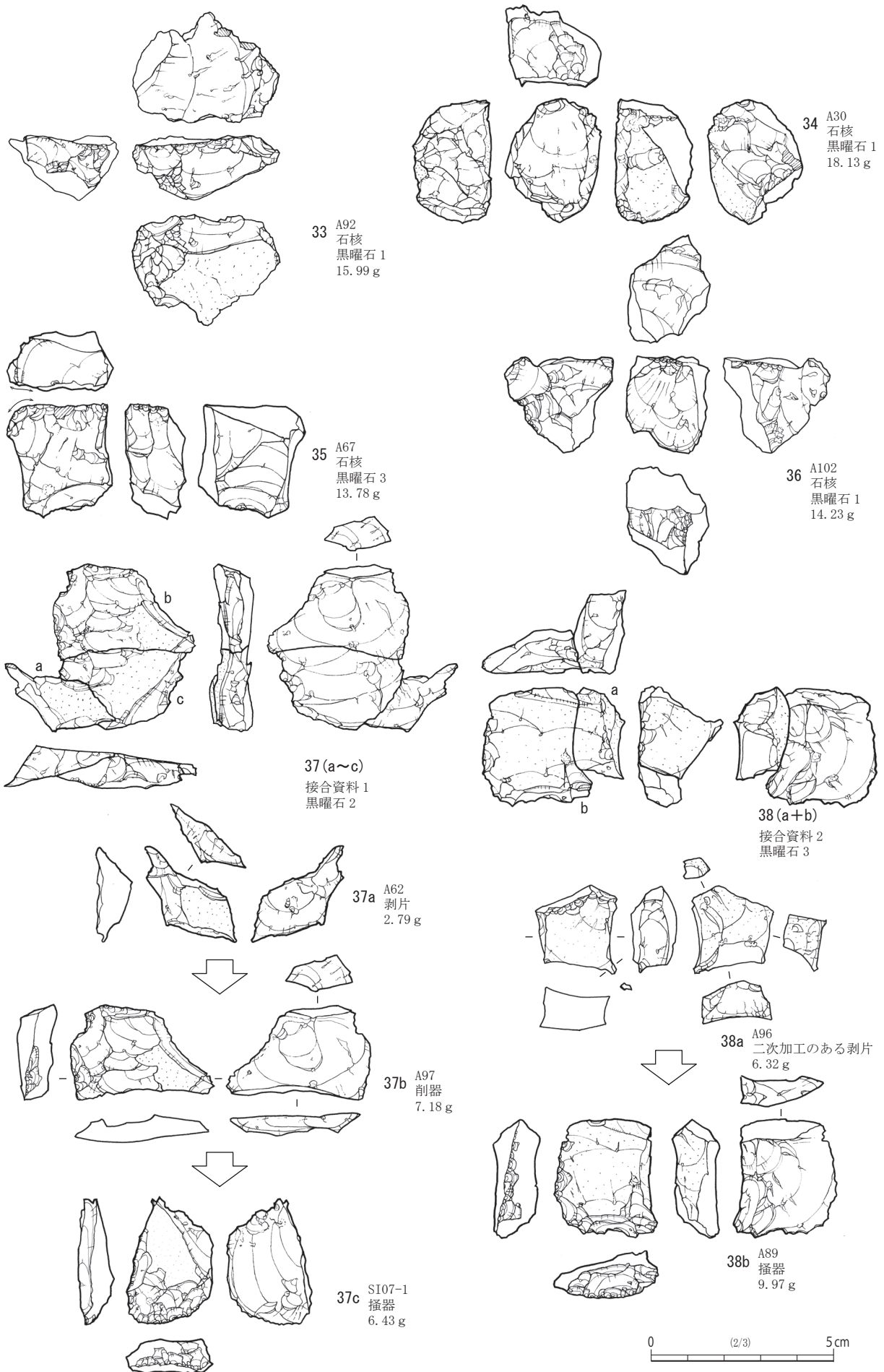


第10图 A区旧石器时代遗物(2)

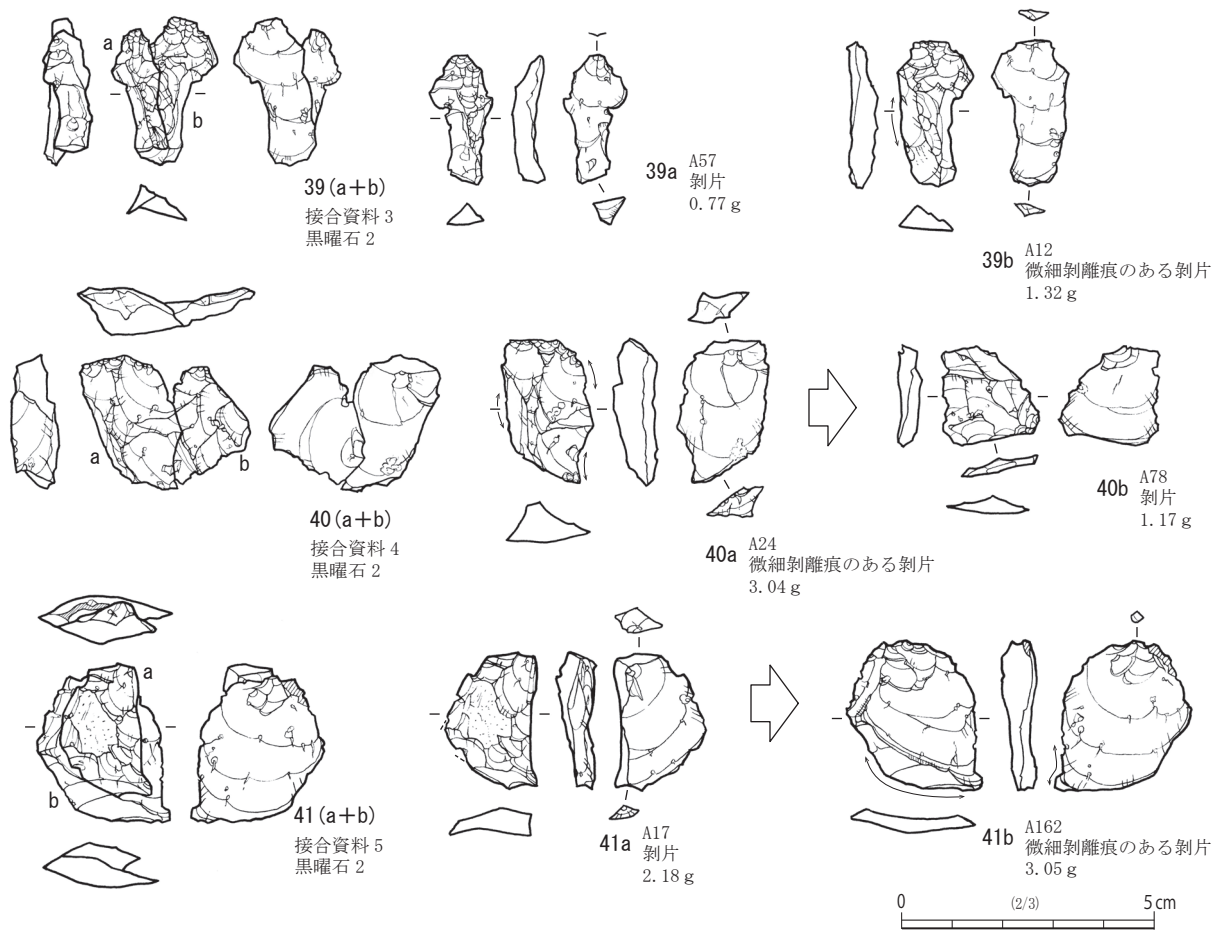


第11図 A区旧石器時代遺物(3)

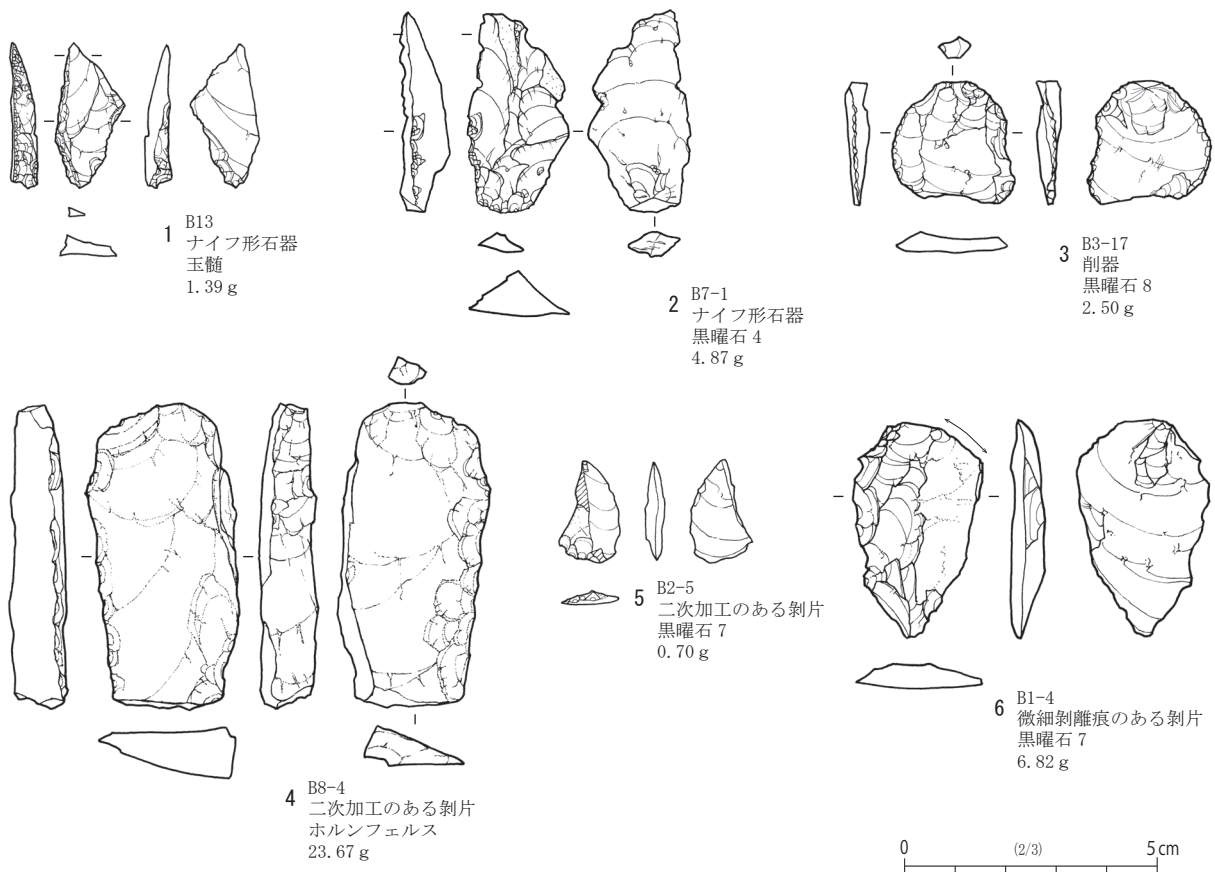




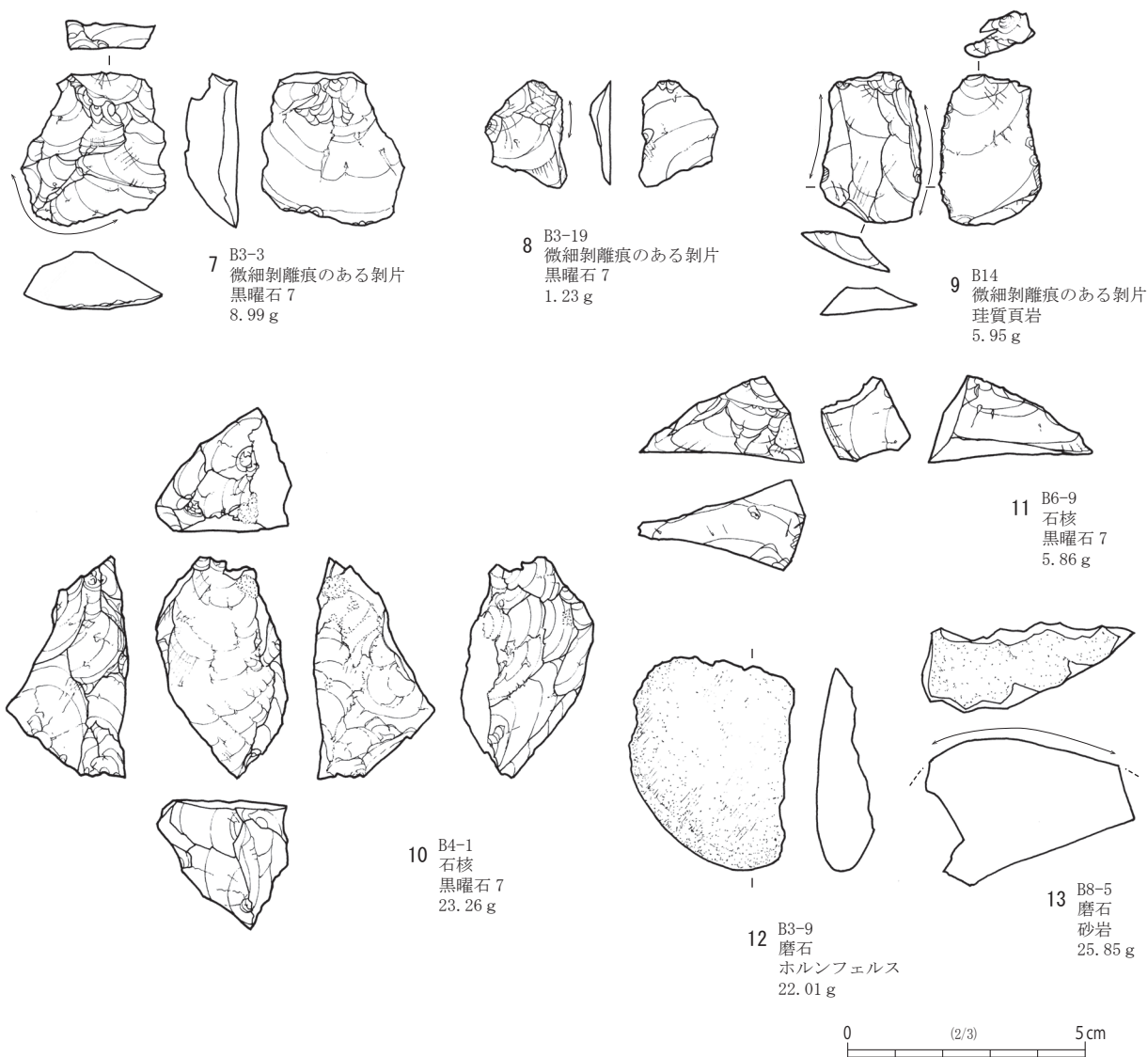
第12図 A区旧石器時代遺物(4)



第13図 A区旧石器時代遺物(5)



第14図 B区旧石器時代遺物(1)



第15図 B区旧石器時代遺物(2)

第2表 B区旧石器組成表

器種 石材	ナイフ形石器		削器		二次加工のある剥片		微細剥離痕のある剥片		石核		剥片		碎片		磨石		被熱礫		小礫		総計		
	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	
黒曜石	1	4.87	1	2.5	1	0.7	3	17.04	2	29.12	25	50.59	6	0.32							39	105.14	
1											1	7.39									1	7.39	
3											2	7.26									2	7.26	
4	1	4.87									6	11.30	2	0.08							9	16.25	
6											2	8.44									2	8.44	
7					1	0.7	3	17.04	2	29.12	11	15.22									17	62.08	
8			1	2.5							3	0.98	4	0.24							8	3.72	
玉髄	1	1.39																			1	1.39	
ホルンフェルス					1	23.67									1	22.01					2	45.68	
珪質頁岩							1	5.95													1	5.95	
ガラス質黒色安山岩											1	6.10									1	6.10	
チャート											1	0.37								1	0.73	2	1.10
安山岩																3	314.61				3	314.61	
花崗斑岩																			1	23.62	1	23.62	
砂岩														1	25.85	1	46.92				2	72.77	
総計	2	6.26	1	2.5	2	24.37	4	22.99	2	29.12	27	57.06	6	0.32	2	47.86	4	361.53	2	24.35	52	576.36	







## 2. 竪穴建物跡

A区で10軒、B区で27軒の計37軒の竪穴建物跡が検出されている。

### A区

#### SI01 (第16・17図 図版7 第5表)

調査区の北東側に位置し、東側半分は調査区外に至っている。大きさは南北辺で4.0mを測り、北辺にカマドが設けられている。本カマドが中央部に位置していると考えると東西辺で3.8mの大きさが想定できる。平面形は南北に多少長い長方形を呈しているが、北辺がやや台形状の辺をとるためか、五角形状となる。主軸方位はN-8°Eである。床面までの掘り込みは35cmほどで、貼床となり、10cm前後の掘り込みがみられた。柱痕が観察された2本の主柱穴と梯子穴が検出されている。この柱穴間内の床面はとくに硬化していた。周溝は検出部では全周している。カマドは天井部が崩落していたが燃焼室側壁は赤化面が遺存していた。火床はよく焼けていた。煙出し部の壁外への掘り込みは浅く、20cmほどである。覆土は1、2層からすると人為的な堆積が考えられる。

遺物はカマドのある北辺側の堆積土中に多く、須恵器甕片を含む土師器の甕・坏が比較的多く出土している。1は土師器の小形甕、2～5は土師器の坏、6は土師器坏の内面に「y」状の線刻がみられる。7は須恵器の坏で、底面に「y」状の線刻がある。9は須恵器の甕片である。鉄器としては10、11の両関の刀子が1点みられる。

本遺構の廃棄時期は8世紀中～後半と考えられる。

#### SI02 (第18・19図 図版8 第5表)

調査区の北東側に位置する。平面形はやや隅丸の方形を呈し、東西3.05m、南北2.85mの長方形を呈する。主軸方位はN-7°Eである。掘り込みの深さは35cmほどであり、床面は所々貼床状の部分もみられるが、比較的堅緻な直床となる。主柱穴はなく、南辺に梯子穴がみられる。周溝は北辺のカマド部を除いて全周している。カマドは北辺の中央やや東側に位置している。天井部、燃焼室側壁も崩落、流失している。火床は赤化していた。煙出し部は20cmほど壁外に掘り込まれている。覆土はカマド側から流れ込みが観察されるが、上層の1層は自然堆積と考えられる。

遺物は土師器の甕・坏片、須恵器の甕の小片が少量みられただけである。1は土師器の常陸型甕、2は土師器坏、そして、3は須恵器甕の再利用紡錘車である。

本遺構の廃棄時期は8世紀中～後半と考えられる。

#### SI03 (第20・21図 図版8 第5表)

調査区の南側に位置し、SB01一部が南辺を重複している。平面形はやや隅丸の方形を呈し、大きさは一辺3.3mを測る。主軸方位はN-30°Wである。掘り込みの深さは40cmほどを測る。床面はカマド焚口部から中央部にかけて直床で堅緻となるが、四隅は一部貼床となっている。柱穴は南辺側に梯子穴P1、北東隅側に小柱穴P3がみられ、そして床面中央部付近に浅い掘り込みとなるP2が検出されている。P2には掘り込み面に赤化面がみられる。周溝は北辺のカマド部を除いて全周している。カマドは天井部が崩落しており、また、燃焼室側壁は比較的よく遺存していたが被焼痕は少なかった。しかしながら火床面はよく焼けていた。煙出し部は壁外に40cmほど掘り込まれている。

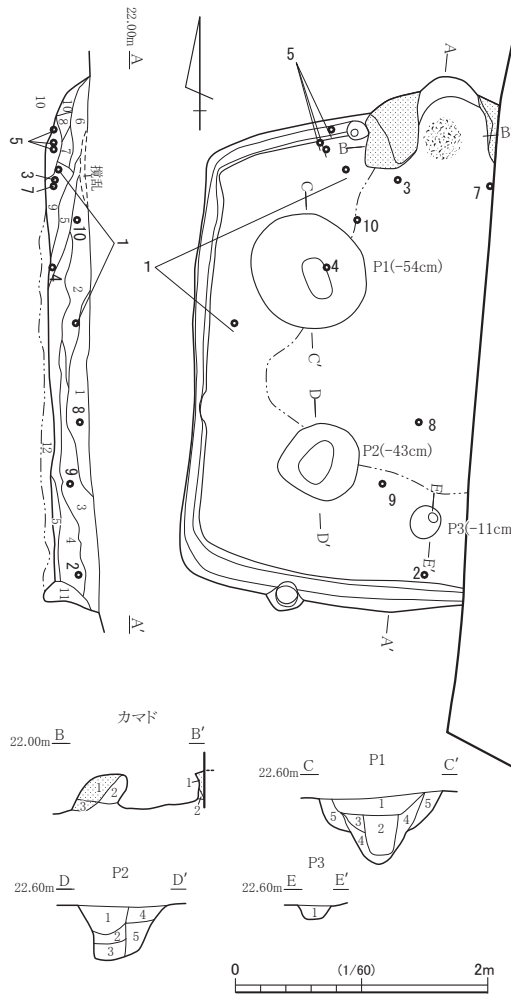
覆土は下層の3、6層と人為的な埋土、堆積がみられるが、上層は流れ込みの堆積が考えられる。

遺物は覆土の流れ込みと共に廃棄され、出土しているが、少ない。1はカマド内出土の常陸型甕である。2は須恵器の甕、3は土師器の坏、4は土師器の蓋、5は須恵器の坏、6は須恵器の甕片であるが、内面がよく擦れている。

本遺構の廃棄時期は8世紀後半と考えられる。

#### SI04 (第22・23図 図版9 第5表)

調査区のほぼ中央に位置する。平面形は北西-南東に長いやや隅丸の長方形を呈し、大きさは3.85×3.2mを測る。主軸方位はN-32°Wである。掘り込みの深さは30cmほどである。床面は四隅の一部を除いて直床となり、



**SI01 土層説明**

- 1 暗褐色 (10YR3/4) ローム粒多量、焼土ブロック少量含む。ややしまりあり。
- 2 暗褐色 (10YR3/4) ローム粒極多量、焼土ブロック中量含む。ややしまりあり。
- 3 黒褐色 (10YR2/3) ローム粒多量、ロームブロック中量、焼土粒微量含む。ややしまりあり。
- 4 黒褐色 (10YR2/3) ローム粒・ロームブロック中量、焼土粒微量含む。ややしまりあり。
- 5 暗褐色 (10YR3/4) ローム粒中量、焼土粒少量含む。ややしまりあり。
- 6 暗褐色 (10YR3/4) ローム粒、焼土粒中量含む。ややしまりあり。
- 7 暗褐色 (10YR3/4) ローム粒少量、焼土ブロック中量、褐灰色土ブロック極多量含む。ややしまりあり。  
カマド天井崩落土か。
- 8 黒褐色 (10YR2/3) ローム粒中量、焼土ブロック少量、褐灰色土粒少量含む。しまりなし。カマド内覆土か。
- 9 暗褐色 (10YR3/4) ローム粒中量、焼土粒・焼土ブロック少量含む。ややしまりあり。
- 10 黒褐色 (10YR2/3) ローム粒少量、焼土ブロック・炭化物微量含む。しまりなし。カマド内覆土か。
- 11 暗褐色 (10YR3/4) ローム粒極多量、ロームブロック中量含む。ややしまりあり。
- 12 暗褐色 (10YR3/4) ローム粒・ロームブロック多量含む。しまり強。貼り床掘方覆土。

**カマド土層説明**

- 1 にい黄褐色 (10YR6/4) ローム粒・ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物少量含む。しまり強。
- 2 暗褐色 (10YR3/4) ローム・焼土ブロック多量含む。しまり強。
- 3 褐色 (10YR4/4) ロームブロック多量、焼土粒極微量含む。しまり強。

**P1 土層説明**

- 1 暗褐色 (10YR3/3) 多くのローム粒、やや多くの焼土粒含む。しまり粘性やや強い。
- 2 黒褐色 (10YR3/2) やや多くのローム粒、少量の焼土粒、まれにロームブロック(φ1.5cm)含む。しまり粘性やや弱い。
- 3 黒褐色 (10YR3/2) 多くのローム粒、少量の焼土粒含む。しまり粘性やや弱い。
- 4 褐色 (10YR4/4) やや多くのローム粒、少量のロームブロック(φ0.5~2cm)含む。しまり粘性やや弱い。
- 5 暗褐色 (10YR3/3) 多くのローム粒、少量のロームブロック(φ≤1cm)、まれに焼土粒含む。しまり粘性やや強い。

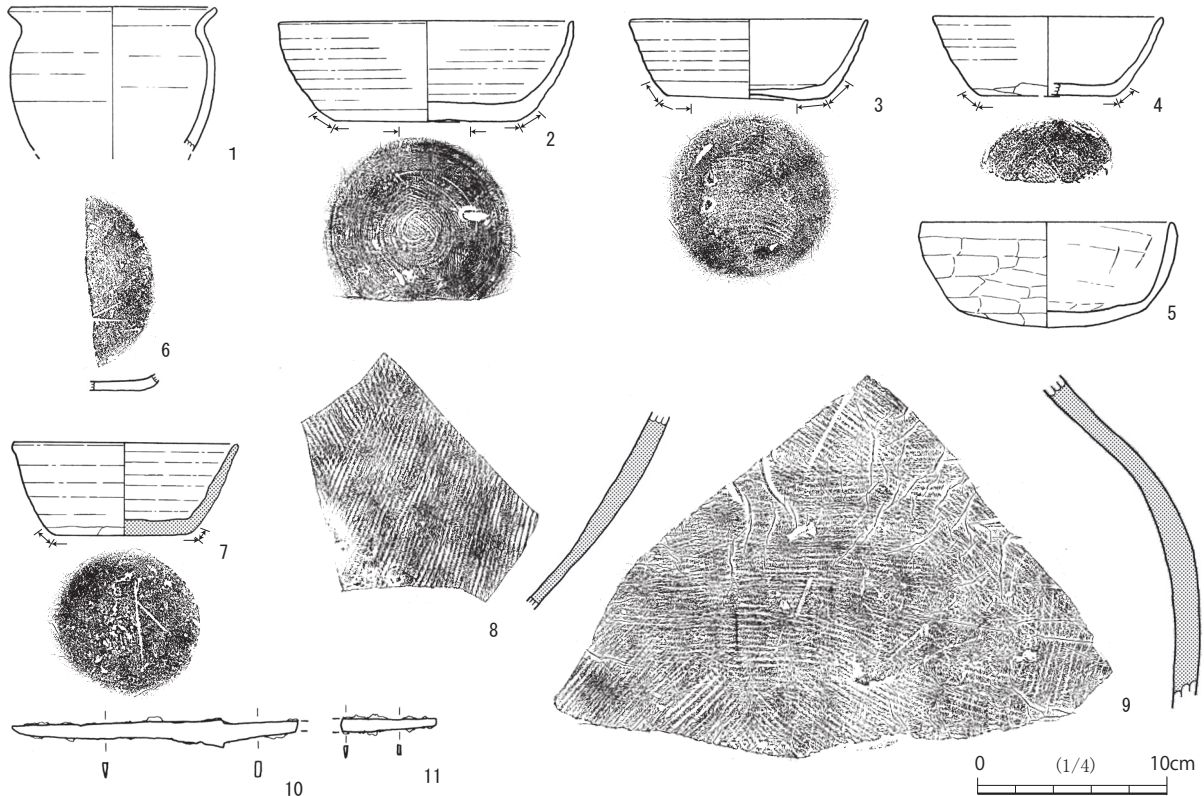
**P2 土層説明**

- 1 褐色 (10YR4/4) 極多量のロームブロック(φ0.5~2cm)、ローム粒を含む。しまり強く粘性やや強い。
- 2 黒褐色 (10YR3/2) 少量のローム粒含む。しまり粘性やや弱い。
- 3 暗褐色 (10YR3/3) 少量のローム粒、ごくわずかな炭化物粒含む。しまり強く粘性やや強い。
- 4 褐色 (10YR4/4) 多量のローム粒、ロームブロック(φ0.5~2cm)含む。しまり強く粘性やや強い。
- 5 暗褐色 (10YR3/3) ローム粒・ロームブロック(φ≤1cm)を少量含む。しまり粘性やや強い。

**P3 土層説明**

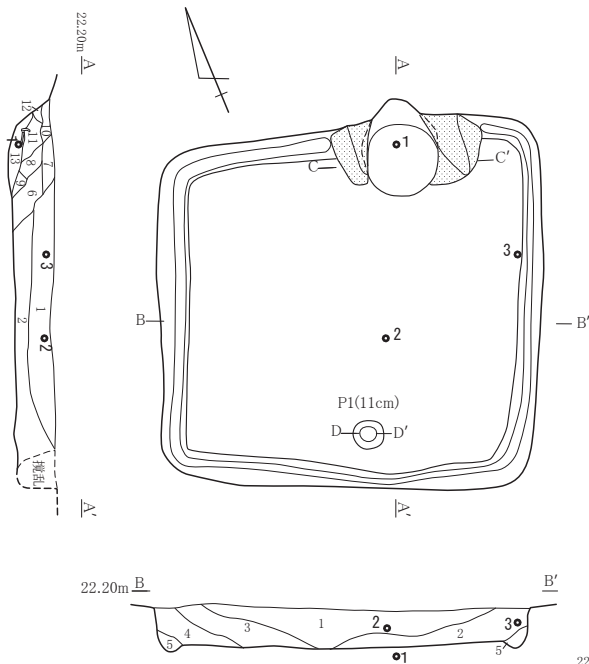
- 1 暗褐色 (10YR3/3) 多くのローム粒、少量のロームブロック(φ≤1cm)、まれに焼土粒含む。しまり粘性やや強い。

第16図 SI01 実測図



第17図 SI01 出土遺物



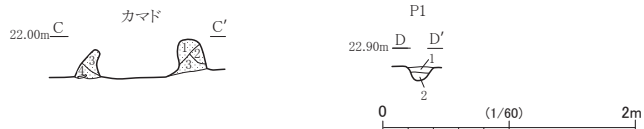


### SI02土層説明

- 1 黒褐色 (10YR3/2) ローム粒やや多く、ごくまれに炭化物粒含む。しまりやや強く粘性あり。
- 2 暗褐色 (10YR3/4) ローム粒多量、まれにロームブロック(φ≤1cm)含む。しまり粘性やや弱い。
- 3 暗褐色 (10YR3/3) ローム粒多量、ロームブロック(φ0.5~1cm)微量含む。しまり強く粘性やや弱い。
- 4 褐色 (10YR4/4) 極多量のローム粒、まれにロームブロック(φ≤1cm)含む。しまり強く粘性弱い。
- 5 暗褐色 (10YR3/4) やや多くのローム粒、ロームブロック(φ≤1cm)少量含む。しまり粘性やや弱い。
- 6 褐色 (10YR4/4) 多くの褐色土粒、やや多くのローム粒、わずかなロームブロック(φ≤1.5cm)含む。しまり非常に強く粘性弱い。
- 7 黒褐色 (10YR3/2) 多くのローム粒、わずかな褐色土粒含む。しまり強く粘性やや弱い。
- 8 ガーベ褐色 (2.5Y4/3) 多量のロームブロック(φ≤2cm)、わずかな焼土粒含む。しまり粘性やや強い。
- 9 暗褐色 (10YR3/3) 多くのローム粒・ロームブロック(φ0.5cm)、少量の褐色土粒、わずかな焼土粒含む。しまり強く粘性やや強い。
- 10 暗褐色 (10YR3/4) 多量の褐色土粒、ごくわずかな炭化物粒含む。しまり強く粘性やや強い。
- 11 暗褐色 (10YR3/4) 多くの褐色土粒、わずかな焼土粒・炭化物粒・ロームブロック(φ0.5~1cm)含む。しまり粘性強い。
- 12 褐色 (10YR4/4) ローム主体、少量の褐色土粒、ごく微量の炭化物粒・焼土粒含む。しまり粘性強い。
- 13 褐色 (7.5YR4/4) 多量の焼土、やや多くの褐色土粒・ローム粒含む。しまり粘性やや強い。

### カマド土層説明

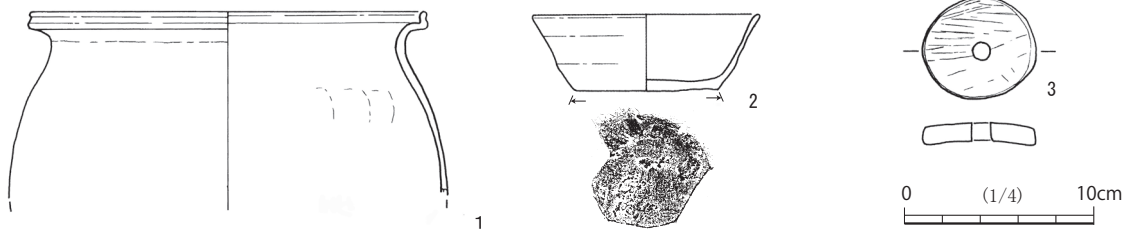
- 1 暗褐色 (10YR3/4) ローム粒・灰褐色粘土粒多量、焼土ブロック中量含む。しまり強。
- 2 褐色 (10YR4/6) ローム粒・灰褐色粘土粒極多量含む。しまり強。
- 3 黄褐色 (10YR5/6) ローム粒・焼土ブロック少量含む。しまり強粘性あり。
- 4 暗褐色 (10YR3/4) ロームブロック・焼土ブロック微量含む。しまり強。



### P1土層説明

- 1 黒褐色 (10YR3/2) 少量のローム粒、微量のロームブロック(φ1.0cm)含む。しまり弱く粘性やや弱い。
- 2 褐色 (10YR4/4) ローム主体。しまり粘性やや弱い。

第 18 図 SI02 実測図



第 19 図 SI02 出土遺物

堅緻である。とくに中央部は堅緻となる。全面を覆ってはいないが、床面上には炭化材、少量の焼土が検出されている。とくに、被烧面は観察できなかった。柱穴は検出されなかった。北西隅には一辺70×60cm、深さ8cmを測る貯蔵穴状の掘り込みが検出されている。周溝はこの北西隅、北辺のカマド部を除いて全周している。カマドは天井部が崩落し、袖部も流失している。遺存する燃焼室側壁は多少被烧痕がみられた。火床はよく焼けていた。煙出し部は75cmほど壁外に達している。

覆土は建物廃棄の際、建築材の処分に伴って埋土したことが窺え、人為的な埋土、堆積が考えられる。

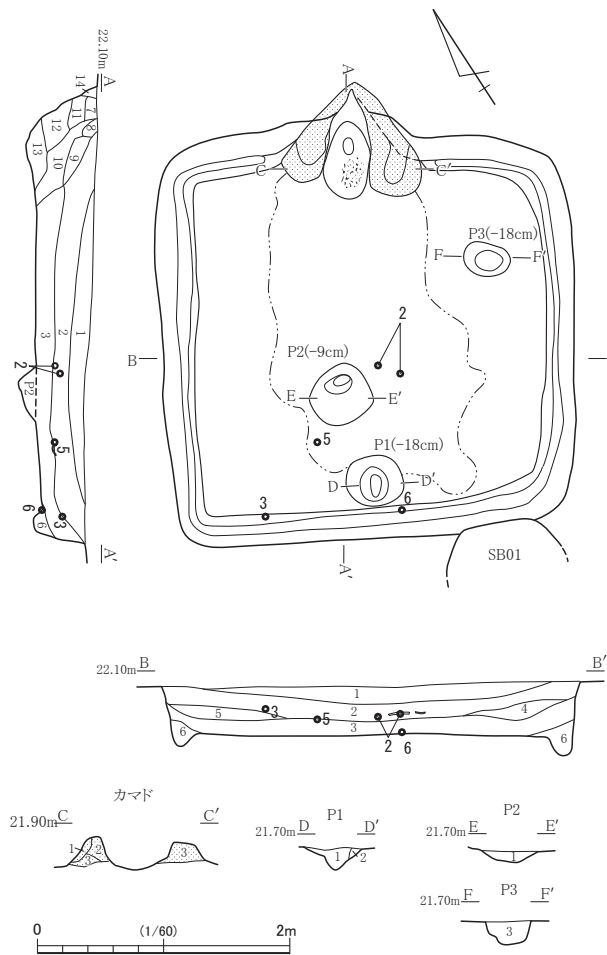
遺物は覆土の堆積と共に廃棄されたことが考えられ、床面上、覆土中の廃棄にさほど時間差はなかったとみられよう。須恵器の甕・坏片が少量みられるものの出土の遺物は土師器が主体となっている。

1は土師器の常陸型甕、2は須恵器の甕、3～8は土師器の坏である。7、8には内面底には線刻がみられる。

本遺構の廃棄時期は8世紀後半から9世紀前半と考えられる。

### SI05 (第24・25図 図版10・11 第5表)

調査区のほぼ中央に位置する。平面形は東西に長い長方形を呈し、3.2×2.75mの大きさを測る。主軸方位はN-17°Eである。掘り込みの深さは30cmほどで、床面は北辺側の一部を除いて直床となる。カマド焚口部から中央



**S103土層説明**

- 1 黒褐色 (10YR3/2) ローム粒少量含む。しまり粘性やや強い。
- 2 黒褐色 (10YR3/2) やや多くのローム粒、ソフトロームブロック(φ≤2cm、斑紋状)少量のハードロームブロック(φ≤1cm)、ごくまれに炭化材片(φ1cm)含む。しまり強く粘性やや強い。
- 3 暗褐色 (10YR3/3) ローム粒多量、ソフトロームブロック(φ≤2cm、斑紋状)、わずかな焼土粒・炭化物粒含む。しまり粘性強い。
- 4 黒褐色 (10YR3/2) やや多くのローム粒、わずかな焼土粒、まれに焼土ブロック(φ≤2cm)含む。しまり粘性やや強い。
- 5 暗褐色 (10YR3/3) 少量のローム粒、ごくわずかなハードロームブロック(φ≤1.5cm)少量含む。しまり粘性やや強い。
- 6 暗褐色 (10YR3/3) 周溝。多量のローム粒、わずかなハードロームブロック(φ≤1cm)含む。しまり粘性やや強い。
- 7 暗灰黄色 (2.5Y4/2) 多量の暗灰黄色土ブロックを含む。しまり粘性やや強い。
- 8 暗灰黄色 (2.5Y4/2) 多くの暗灰黄色土ブロック、少量の暗褐色土を含む。しまり粘性やや強い。
- 9 にじみ黄 (2.5Y6/3) 褐色土主体、所々に暗褐色土ブロック含む。しまり粘性やや弱い。
- 10 暗褐色 (10YR3/3) 多量の暗灰黄色土、わずかな焼土粒・焼土ブロック含む。しまり粘性やや弱い。
- 11 オリーブ褐色 (2.5Y4/3) やや多くの暗灰黄色土ブロック(φ≤2cm)含む。しまり粘性やや強い。
- 12 オリーブ褐色 (2.5Y4/3) やや多くの灰黄色土粒、少量の炭化物粒・焼土粒含む。しまり粘性やや強い。
- 13 にじみ黄褐色 (10YR4/3) 多くの暗灰黄色土粒・暗灰黄色土ブロック、やや多くの焼土粒含む。しまりやや弱く粘性やや強い。
- 14 暗褐色 (10YR3/3) 暗灰黄色土主体。炭化物粒少量含む。しまり粘性強い。

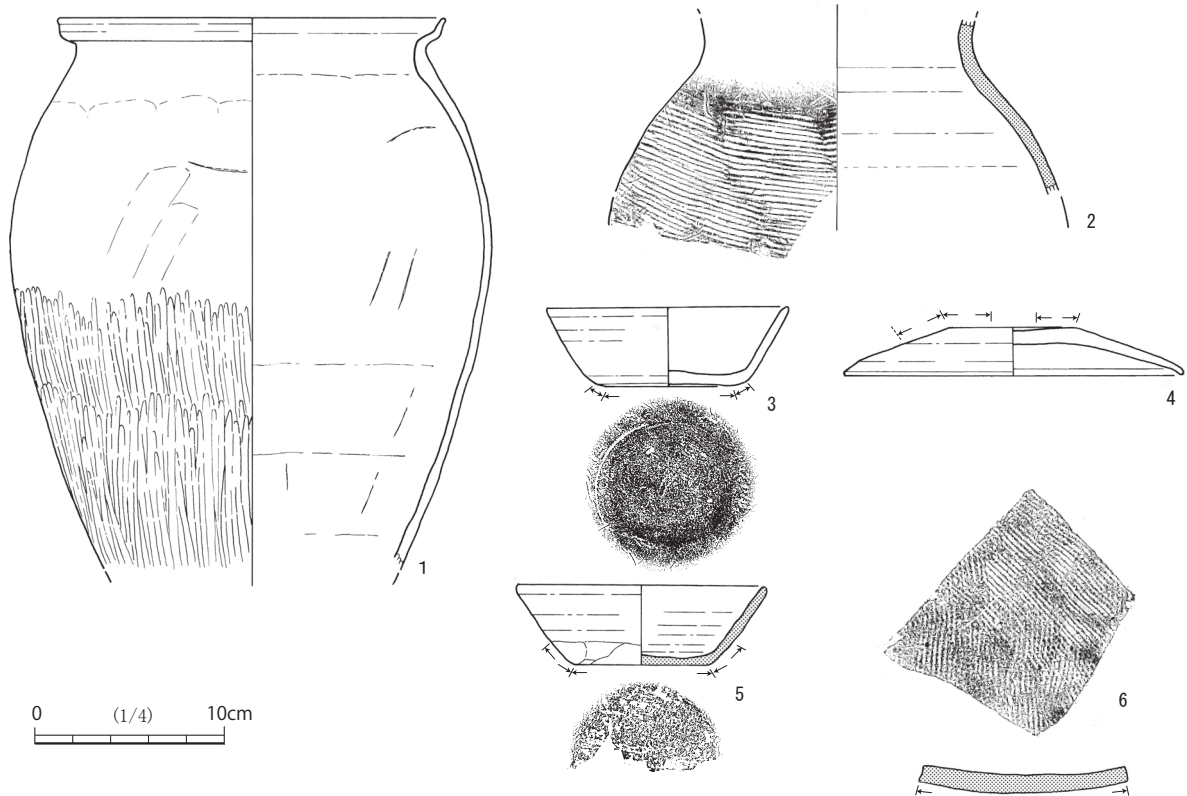
**カマド土層説明**

- 1 暗褐色 (10YR3/4) ローム粒・暗灰黄色土ブロック多量、焼土粒・炭化物ごく微量含む。しまり強。
- 2 暗褐色 (10YR3/4) ローム粒少量・暗灰黄色土ブロックごく多量含む。しまり強。
- 3 暗褐色 (10YR3/4) ロームブロック・暗灰黄色土ブロック多量含む。しまり強。

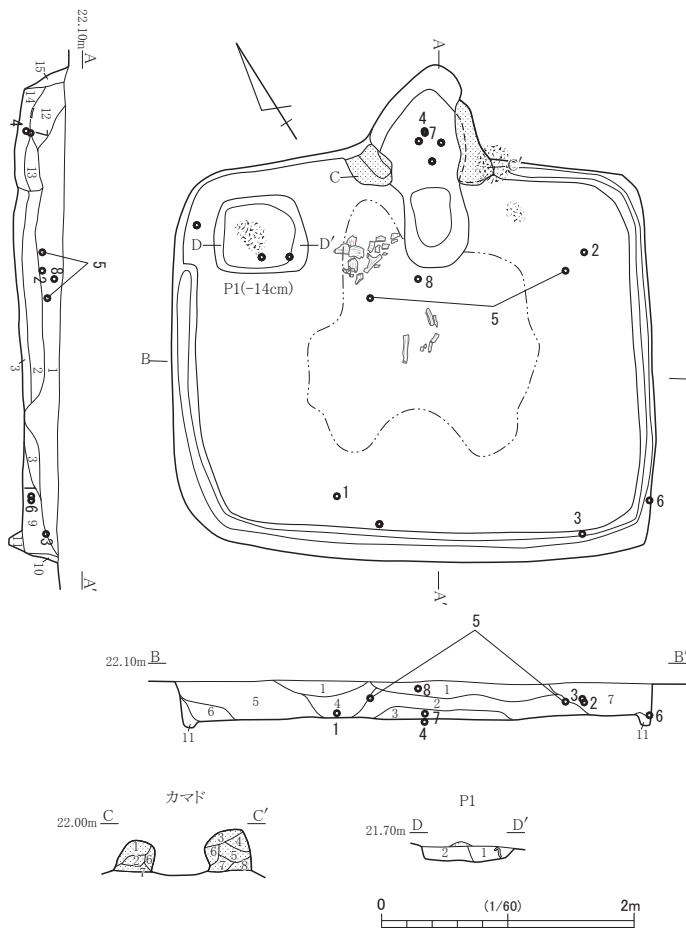
**P1～P3土層説明**

- 1 暗褐色 (10YR3/3) 多くのローム粒、少量のロームブロック(φ1cm)含む。しまり粘性やや強い。
- 2 暗褐色 (10YR3/3) 少量のローム粒含む。しまり粘性やや強い。
- 3 暗褐色 (10YR3/3) 多くのローム粒、少量のロームブロック(φ1～4cm)含む。しまり粘性あり。

第 20 図 S103 実測図



第 21 図 S103 出土遺物



**S104土層説明**

- 1 暗褐色 (10YR3/3) ローム粒少量、ごくわずかな炭化物粒含む。しまり粘性やや強い。
- 2 褐色 (10YR4/4) 多量のソフトロームブロック、わずかに褐色土粒、焼土粒、炭化物粒含む。しまり強く粘性やや強い。
- 3 黒褐色 (10YR3/2) 多くの炭化材片、少量のローム粒含む。
- 4 暗褐色 (10YR3/4) 多くのローム粒含む。しまりやや強く粘性やや弱い。
- 5 暗褐色 (10YR3/4) 多くのローム粒、少量のロームブロック(φ2cm)わずかな炭化物粒、焼土粒含む。しまり粘性やや強い。
- 6 暗褐色 (10YR3/3) 少量のローム粒、わずかな炭化物粒、焼土粒含む。しまり粘性やや強い。
- 7 暗褐色 (10YR3/3) 多量のソフトロームブロック(φ2~3cm)を斑紋状に含む。しまり粘性やや強い。
- 8 黒褐色 (10YR3/2) やや多くのローム粒、まれに長さ5cmの炭化材を含む。しまり粘性やや強い。
- 9 黒褐色 (10YR3/2) ソフトロームブロック(φ2~3cm)を斑紋状に、まれに焼土粒含む。しまり粘性やや強い。
- 10 にぶい黄褐色(10YR4/3) ロームブロック主体、しまり粘性やや強い。
- 11 にぶい黄褐色(10YR4/3) 周溝埋土。ロームブロック(φ≦1cm)多量に含む。しまりやや弱く粘性やや強い。
- 12 暗灰黄色 (2.5Y4/2) 多量の暗灰黄色土を含む。しまり粘性やや強い。
- 13 にぶい褐色(7.5YR5/3) 多く灰黄色土粒、わずかな焼土を含む。しまり強く粘性やや強い。
- 14 暗褐色 (10YR3/3) 多くの暗灰黄色土、わずかな焼土を含む。しまり粘性やや強い。
- 15 にぶい黄褐色(10YR5/4) 多量の暗灰黄色土、わずかな炭化物粒含む。しまり粘性やや強い。

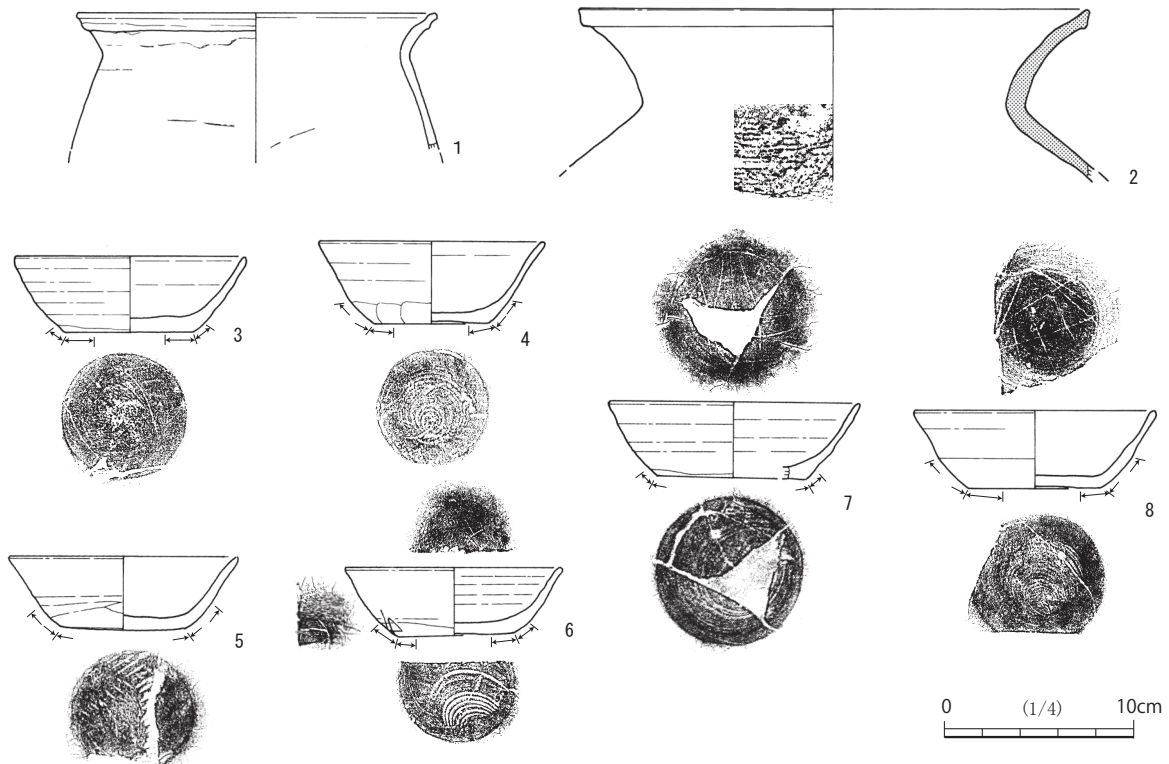
**カマド土層説明**

- 1 にぶい黄褐色(10YR6/4) ローム粒、焼土ブロック少量含む。しまり強。
- 2 褐色 (10YR4/4) ローム粒中量・黄褐色土ブロックごく多量含む。しまり強。
- 3 にぶい黄褐色(10YR6/4) ローム粒極多量含む。しまり強。
- 4 褐色 (10YR4/4) ローム粒、黄褐色土ブロック中量含む。しまり強。
- 5 にぶい黄褐色(10YR6/4) ロームブロック中量、焼土粒少量含む。しまり強。
- 6 にぶい黄褐色(10YR6/4) ローム粒、焼土粒多量、炭化物をごく微量含む。しまり強。
- 7 褐色 (10YR4/4) 灰白色土粒ごく多量、焼土粒多量、炭化物ごく微量含む。しまり強。
- 8 褐色 (10YR4/4) ロームブロック多量、焼土ブロック・炭化物ごく微量含む。しまり強。

**P1土層説明**

- 1 暗褐色 (10YR3/3) 多くの砂質粘土、少量の焼土・ローム粒、含む。しまり粘性やや強い。
- 2 褐色 (10YR4/4) ロームブロック(φ1~3cm)やや多く、少量の焼土含む。しまり粘性やや強い。

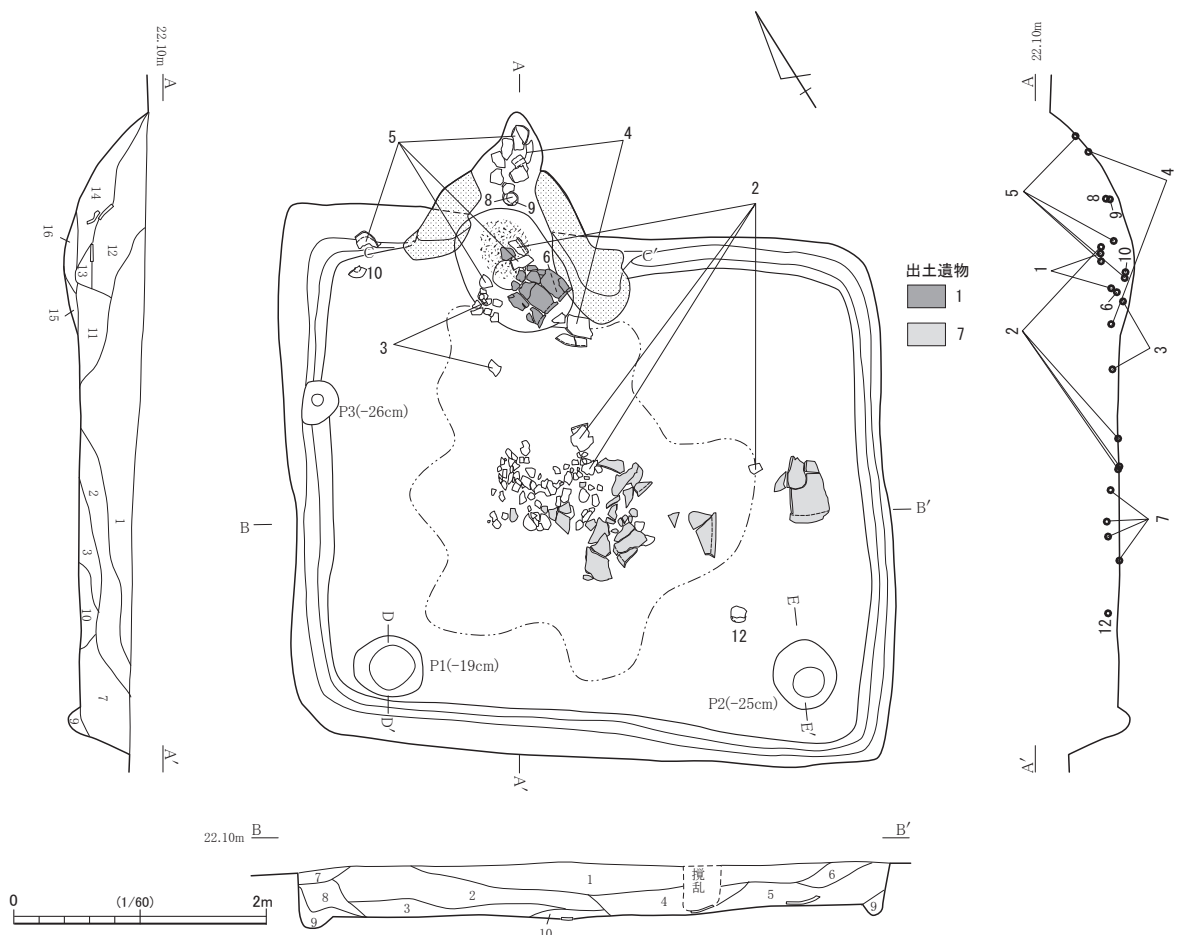
第 22 図 S104 実測図



第 23 図 S104 出土遺物

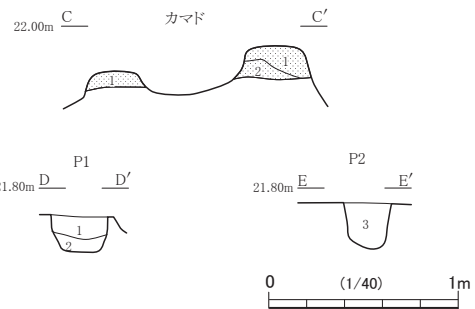
部は非常に堅緻である。柱穴は南辺両隅、西辺中央部に検出した3基がある。いずれも深さ30cmに満たない浅い掘り込みである。周溝は北辺のカマド部を除いて全周している。カマドは北辺中央からやや西寄りに位置し、天井部は崩落している。燃烧室側壁はさほど焼けていないが、火床はよく焼け赤化している。煙出し部は50cmほど山形状に壁外に達している。

覆土は北辺のカマド側、南西辺側から流れ込みが窺え、遺物も2~4の埋土と共に廃棄されたことが観察され



### S105土層説明

- 1 黒褐色 (10YR3/2) やや多くのローム粒、少量のソフトロームブロック、ごくわずかな炭化物粒含む。しまり粘性やや強い。
- 2 暗褐色 (10YR3/4) 多量のローム粒、やや多くのロームブロック(φ1~3cm)含む。しまり粘性やや強い。
- 3 暗褐色 (10YR3/3) 少量のローム粒含む。しまり強く粘性やや強い。
- 4 黒褐色 (10YR3/2) 少量のローム粒、床面近くに部分的にロームブロック(φ≤3cm)含む。しまり強く粘性やや強い。
- 5 暗褐色 (10YR3/4) 多くのローム粒、少量のロームブロック(φ1~2cm)含む。しまり強く粘性やや強い。
- 6 黒褐色 (10YR3/2) 少量のローム粒含む。しまり強く粘性やや強い。
- 7 黒褐色 (10YR3/1) 黒色味強い、少量のローム粒含む。しまりやや強く粘性強い。
- 8 黒褐色 (10YR3/2) 少量のローム粒含む。しまりやや強く粘性強い。
- 9 褐色 (10YR4/4) 多くのローム粒、少量のロームブロック(φ1~2cm)含む。しまり粘性強い。
- 10 黒褐色 (2.5Y3/2) 褐色土主体で暗褐色土を少量含む。しまり粘性強い。
- 11 黒褐色 (10YR3/2) 少量のローム粒、粘土粒含む。しまり粘性強い。
- 12 黒褐色 (2.5Y3/2) ごく多量の灰黄色土ブロック(φ≤5cm)、少量のロームブロック(φ≤2cm)を含む。しまり粘性やや強い。
- 13 暗灰黄色 (2.5Y5/2) 灰黄色土ブロック。
- 14 黒褐色 (2.5Y3/2) 多量の灰黄色土、少量の焼土含む。しまり粘性やや強い。
- 15 暗赤褐色 (5YR3/3) 多量の焼土・灰黄色土を主とし、焼けて硬化したロームブロックを少量含む。しまり粘性やや弱い。
- 16 黒褐色 (10YR3/2) 多量の灰黄色土、焼土含む。しまり粘性やや弱い。



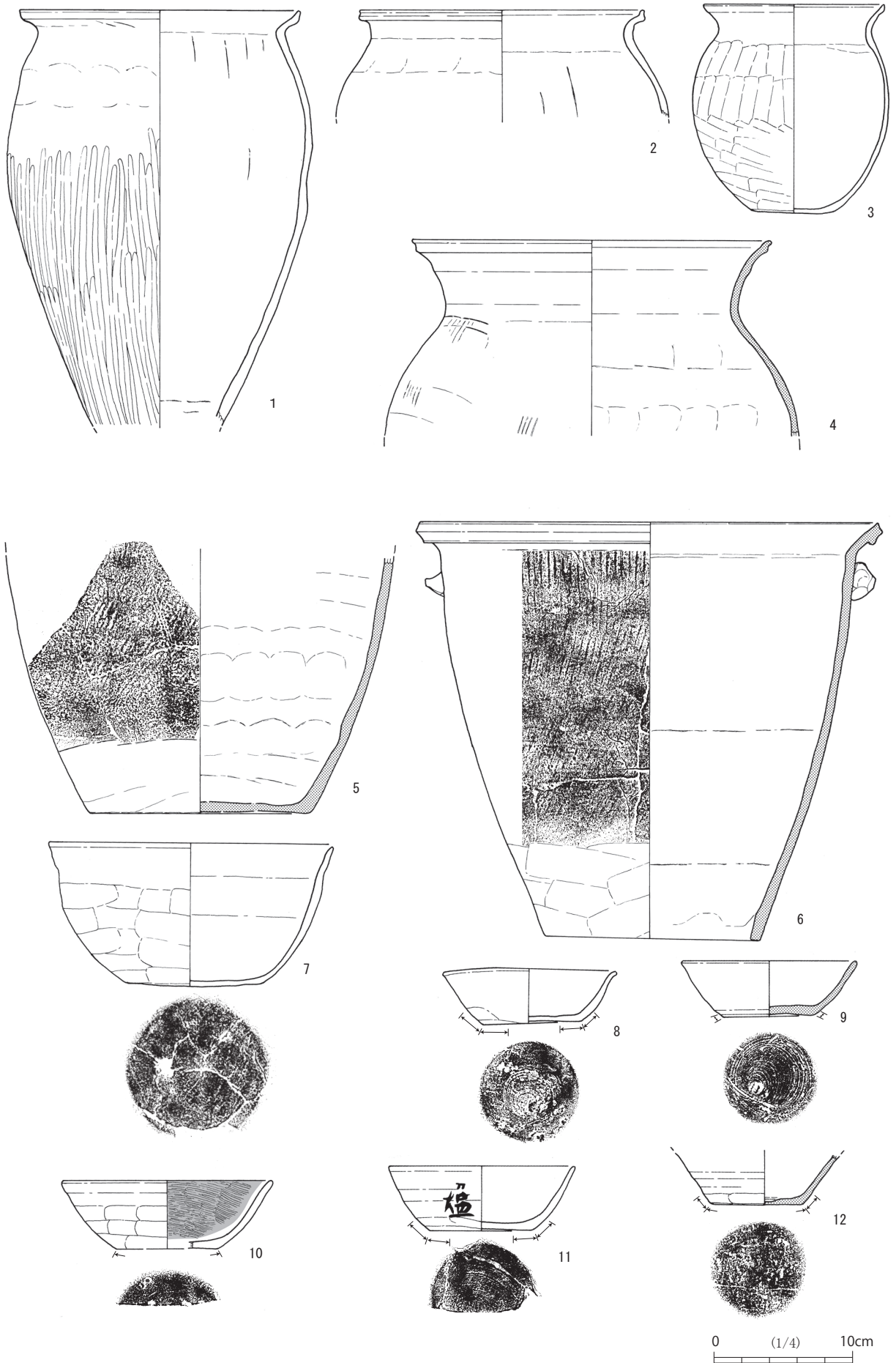
### カマド土層説明

- 1 濃い黄褐色(10YR5/6) ローム粒中量含む。しまり強。
- 2 濃い黄褐色(10YR5/6) ローム粒中量、暗褐色土ブロック多量含む。しまり強。

### P1~2土層説明

- 1 黒褐色 (10YR3/2) 多くローム粒、少量のロームブロック(φ1~2.5cm)、ごくまれに粘土粒・焼土粒含む。しまり粘性やや強い。
- 2 褐色 (10YR4/6) ローム主体で黒褐色土を少量含む。しまり粘性やや強い。
- 3 黒褐色 (10YR3/2) 基本的に1と同じで、ロームブロック多く含む。しまりより強い。

第24図 S105実測図



第 25 図 S105 出土遺物

る。人為的な埋土、堆積が考えられる。

遺物はとくに多いとは言えないが、カマド、床面中央部から出土している。1、2は土師器の常陸型甕、3は小型甕、4、5は須恵器の甕、7は甌である。6は土師器の鉢、8～11は坏である。11には墨書がある。12は須恵器の坏である。

本遺構の廃棄時期は8世紀末から9世紀前半と考えられる。

#### SI06 (第26・27図 図版11 第5表)

調査区の東側に位置し、SI08が上面を重複している。また、中央部には攪乱坑が東西に入り込み、床面上にまで達している。東辺部は大半が調査区外となるが、平面形はやや隅丸の方形を呈し、4.1×3.95mの大きさを測る。主軸方位はN-42°Wである。掘り込みの深さは45cmほどで、床面はロームで3～5cmほどの貼床がなされている。

非常に堅緻であり、とくに、中央部付近では堅緻な硬化面が窺える。深さが浅いが支柱穴が4基検出されている。周溝は西辺のカマド部を除いて全周している。カマドは西辺中央やや北寄りに位置し、左袖の大半は攪乱坑によって削り取られている天井部は崩落している。燃烧室側壁、火床は共に多少被熱、赤化していた程度である。煙出し部は半円状に10cmほど掘り込まれている程度である。

覆土はロームブロックを比較的多く含み、人為的に埋土、堆積したことが考えられる。出土遺物は攪乱があったことを考慮しても少ない。1は墨書が認められる土師器坏である。

本遺構の廃棄時期は8世紀後半から9世紀前半と考えられる。

#### SI07 (第29・30図 図版12 第5表)

調査区の南側に位置する。平面形は円形を呈し、東西径3.1m、南北径3.0mを測る。掘り込みは25cmほどで、床面は中央部付近が多少堅緻な直床となる。壁の立ち上がりは比較的緩やかである。柱穴が4基検出されている。炉は中央に設けられ、20cmほどU字状に掘り込まれている。覆土の下層に幾らかの焼土粒が混じっていた程度で、とくに焼土の堆積はみられなかった。

覆土は流れ込みによる堆積である。出土遺物は少なく、加曾利EⅡの土器片が2点出土している。

本遺構の廃棄時期は縄文時代中期後半とみられる。

#### SI08 (第26・28図 図版11 第5表)

調査区の東側に位置する。SI06上に重複するが攪乱坑によって大半が失われている。平面形は遺存する北西、南西隅部からすると方形を呈すると考えられる。大きさは一辺2.9mを測る。主軸方位はカマドの検出がないため不詳と言わざるを得ないが、北辺部とすればN-38°E、また、北西辺とするとN-52°Wとみることができる。掘り込みの深さは30cmほどであり、直床となるが、重複部の床面は多少沈んでいる。床面は比較的堅緻であり、検出部では周溝が廻っている。柱穴は南東側に1基検出されているだけである。覆土は流れ込みによる堆積とみられる。出土の遺物は少なく、須恵器の甕片、逆D字・T字形差金型の鉸具が出土している。

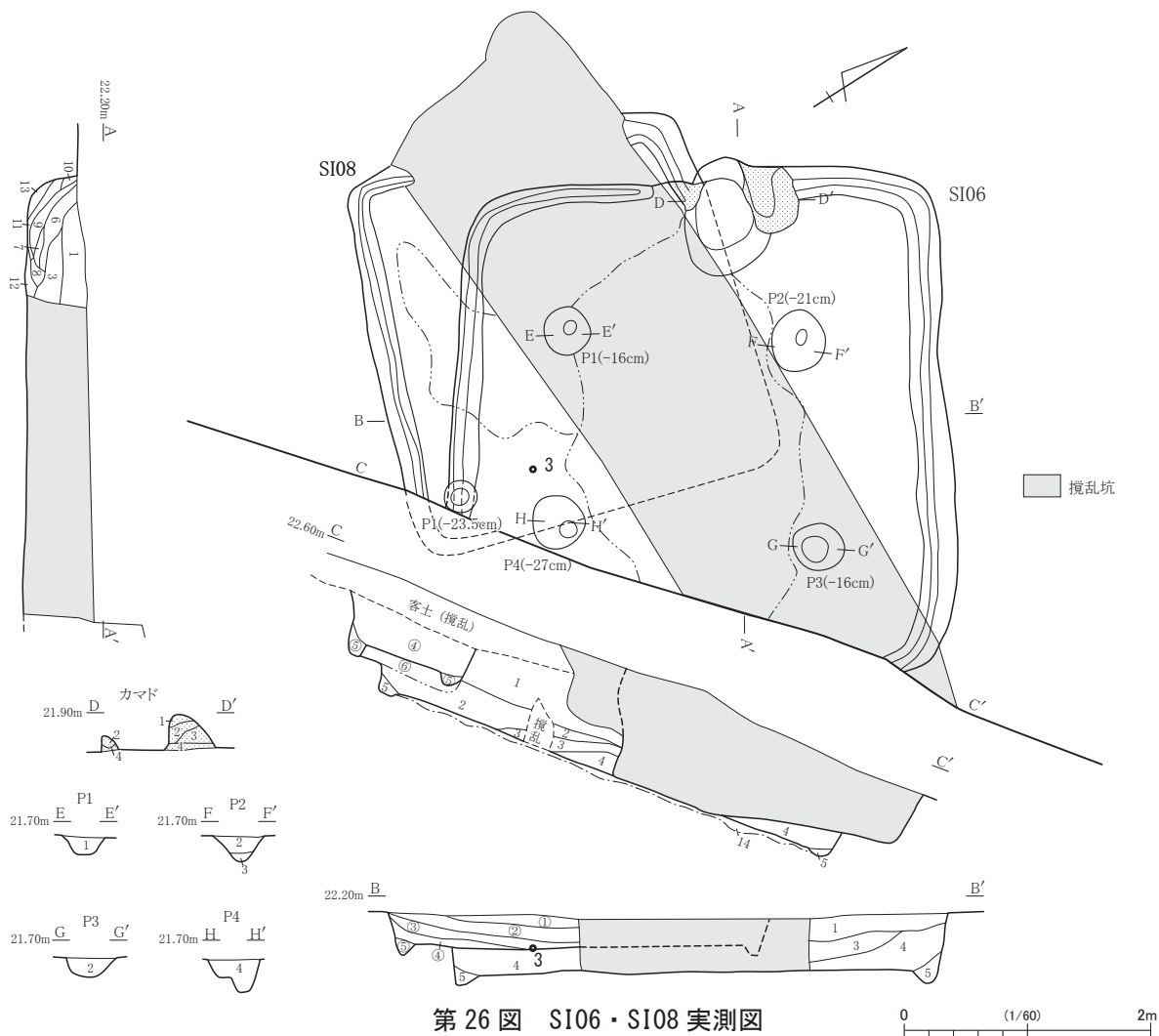
本遺構の廃棄時期は8世紀後半と考えられる。

#### SI09 (第31・32図 図版12 第5表)

調査区の北側に位置し、半分が調査区外となり、上半は削平されている。平面形は方形を呈し、北西-南東軸で3.2mを測る。主軸方位はほぼ真北とみられる。掘り込みの深さは30cmほどで、床面は直床となる。カマド部から中央部付近は非常に堅緻である。柱穴は検出されておらず、また、周溝は検出部では全周している。カマドは左袖の一部が残っているのみで、大半が削られている。遺存する煙出し部位からすると半円状に30cmほど壁外に達している。

覆土は攪乱のため明瞭ではないが、流れ込みによる堆積と考えられる。遺物は少なく、土師器の坏がカマド内から3点、床面上から1点の計4点が出土している。1. 墨書、4. 刻書がみられる。

本遺構の廃棄時期は9世紀前半とみられる。



第26図 SI06・SI08 実測図

**SI06土層説明**

- 1 黒褐色 (10YR2/3) ローム粒・ハードロームブロックを中量、黒褐色土ブロックを多量含む。ややしまりあり。
- 2 黒褐色 (10YR3/2) やや多くのローム粒、ロームブロック(φ0.5~2cm)含む。しまりやや強い。
- 3 黒褐色 (10YR2/3) 多量のローム粒、微量の焼土粒含む。しまりややあり。
- 4 暗褐色 (10YR3/4) ロームブロックを中量、焼土ブロックを微量含む。ややしまりあり。
- 5 暗褐色 (10YR3/4) 周溝覆土。ごく多量のローム粒、中量のロームブロック含む。しまりややあり。
- 6 黒褐色 (10YR2/3) 中量のローム粒、焼土粒微量含む。やや細砂粒に富む。しまりややあり。
- 7 黒褐色 (10YR2/3) 少量のローム粒、焼土粒・焼土ブロック中量含む。細砂粒に富む。しまりややあり。
- 8 暗褐色 (10YR3/4) 褐灰色粘土ブロックをごく多量、焼土ブロック・炭化物を微量含む。しまりややあり。カマド天井部の崩落土か。
- 9 暗褐色 (7.5YR3/4) 微量のローム粒、多量の焼土粒・焼土ブロック含む。細砂粒に富む。しまりややあり。
- 10 暗褐色 (10YR3/4) ロームブロックをごく多量、焼土ブロックをごく微量含む。しまりややあり。カマド掘り方覆土か。
- 11 暗褐色 (10YR3/4) ローム粒と暗褐色土ブロックを多量含む。細砂粒に富む。しまりややあり。
- 12 暗褐色 (10YR3/4) ロームブロック多量含む、焼土ブロック少量含む。しまりややあり。
- 13 暗褐色 (10YR3/4) ローム粒を多量、焼土粒を少量、焼土ブロックを微量含む。しまりややあり。
- 14 暗褐色 ロームブロック多量含む。掘り方埋土と考えられる。

**カマド土層説明**

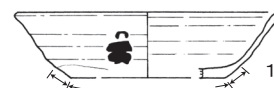
- 1 ぶい黄褐色(10YR5/6) ローム粒と灰白色土粒を多量、焼土ブロックを微量含む。しまり強。
- 2 ぶい黄褐色(10YR4/3) ローム粒と灰白色・黄褐色土ブロックを多量含む。しまり強。
- 3 ぶい黄褐色(10YR4/3) ロームブロックを多量、焼土粒を少量含む。やや砂質である。しまり強。
- 4 暗褐色 (10YR3/4) ロームブロックを多量、焼土粒を少量含む。しまり強。丁張土か。

**P1~4土層説明**

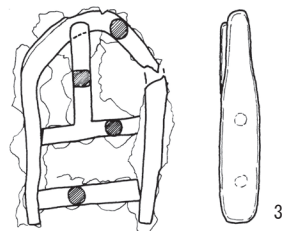
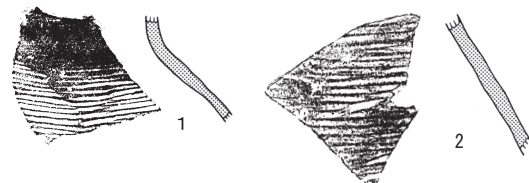
- 1 黒褐色 (10YR3/2) 多くローム粒、少量のロームブロック(φ3~4cm)含む。しまり強い。
- 2 黒褐色 (10YR3/2) 多量のローム粒、ごくわずかな炭化物粒含む。しまりやや弱い。
- 3 褐色 (10YR4/4) 少量のロームブロック含む。しまりやや強い。
- 4 黒褐色 (10YR3/2) 基本的に1と同じで、ロームブロック(φ≤2cm)多く含む。

**SI08土層説明**

- ① 黒褐色 (10YR2/3) ローム粒・ロームブロックを中量、ごくわずかな焼土粒含む。しまりあり。
- ② 黒褐色 (10YR2/3) 多量のローム粒・ロームブロック、微量の焼土粒・炭化物粒含む。しまりあり。
- ③ 黒褐色 (10YR2/3) ごく多量のローム粒・ロームブロック、中量の焼土ブロック含む。しまりあり。
- ④ 黒褐色 (10YR2/3) 多量のロームブロック、微量の焼土ブロック含む。しまりあり。
- ⑤ 暗褐色 (10YR3/4) 周溝覆土。ごく多量のロームブロック、暗褐色土ブロックを中量含む。しまりあり。
- ⑥ 黒褐色 (2.5Y3/2) 多量のローム粒含む。掘り方埋土と考えている。しまり強い。



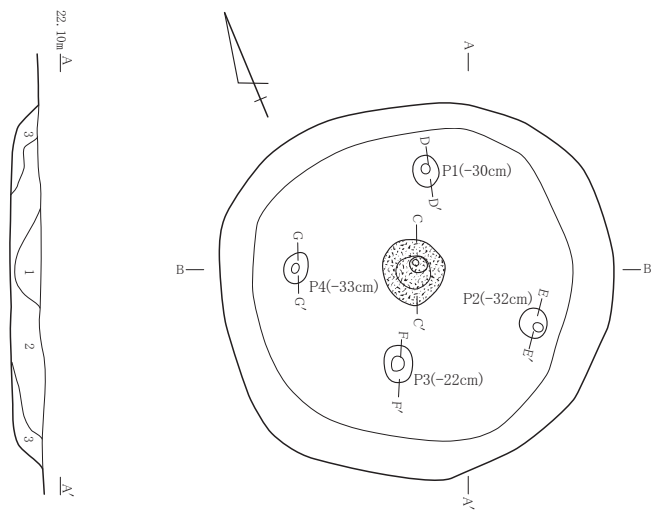
第27図 SI06 出土遺物



(1/4:SI06-1・SI08-1、2) 0 10cm

(1/2:SI08-3) 0 5cm

第28図 SI08 出土遺物



**SI07土層説明**

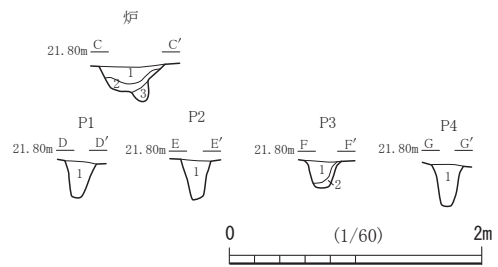
- 1 暗褐色 (10YR3/3) ローム粒少量含む。しまり強く粘性やや強い。
- 2 暗褐色 (10YR3/4) ソフトロームブロック(φ≤3cm, 斑紋状)を多く含む。しまり非常に強く粘性やや強い。
- 3 暗褐色 (10YR4/4) ソフトロームごく多量、ハードロームブロック(φ3cm)・暗褐色土を少量含む。しまり粘性強い。

**炉土層説明**

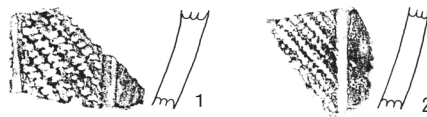
- 1 黒褐色 (10YR3/2) わずかなローム粒、焼土粒含む。しまり粘性やや強い。
- 2 黒褐色 (10YR2/2) ごくわずかな焼土粒含む。しまり粘性やや強い。
- 3 褐色 (10YR4/4) ロームブロック(φ1~2cm)少量含む。しまり粘性やや強い。

**P1~P4土層説明**

- 1 暗褐色 (10YR3/3) 少量のローム粒含む。しまり粘性強い。
- 2 褐色 (10YR4/4) 多くのローム粒含む。しまり粘性強い。



第 29 図 SI07 実測図



第 30 図 SI07 出土遺物

**SI10 (第33・34図 図版13 第5表)**

調査区のはほぼ中央やや西側に位置する。SB02、SD01に北西辺側を切られている。平面形はやや隅丸の長方形を呈し、3.6×3.35mの大きさを測る。主軸方位はN-56°Wである。掘り込みは35cmほどで、床面は堅緻な貼床となっている。とくに中央部付近は堅固であり、ローム主体の貼床が5~7cmほどみられる。中央部を中心に、床面上には焼土、炭化材が検出されている。床面の一部にも被焼面がみられた。柱穴は検出されていない。周溝は北隅で一部途切れているものの、北西辺以外は全周している。カマドはSB02、SD01によって殆どが切られ、右袖と火床の一部が遺存しているのみである。

覆土は一様にロームブロック、焼土粒を含み、人為的に埋土、堆積したと考えられる。

遺物は2の須恵器甕以外は床面上に散在したように出土している。1は常陸型甕、3~9は土師器の坏である。

3の内面には煤が付着し、外面にも墨書(?)様に煤が付着している。4は口唇部から内外面に煤が付着している。燈明皿か。5の内面には線刻がみられる。9も内面に「五」の刻書がみられる。

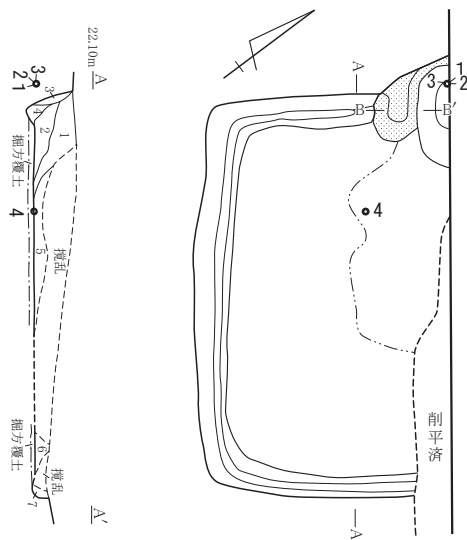
本遺構の廃棄時期は8世紀末から9世紀前半と考えられる。

**B区**

**SI11 (第35・36図 図版14 第5表)**

調査区北西側の緩やかな傾斜面に位置する。北辺は攪乱坑によって削平されており、遺存部からすると平面形は南北に長い長方形を呈するかと考えられる。東西辺で3.1mを測る。主軸方位はN-9°Eである。掘り込みの深さは20cmほどであり、床面は直床で中央部は堅緻である。主柱穴はなく、南辺寄りに梯子穴が検出されているのみである。周溝は北東隅のカマド部、削平された北辺部を除いて全周している。カマドは北東隅に敷設され、右袖部側の半分が遺存している。攪乱が著しく、天井部は崩落している。しかしながら、火床は被焼し、赤化していることが観察された。

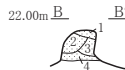




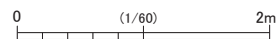
**SI09土層説明**

- 1 暗褐色 (10YR3/3) 斑紋状にソフトロームブロック(φ≤1.5cm)を多く、灰褐色土粒を少量含む。しまり強く粘性やや強い。
- 2 黒褐色 (10YR3/2) 1に加え、少量の灰褐色土ブロック(φ1~1.5cm)、ごくわずかな焼土粒含む。しまり強く粘性やや強い。
- 3 暗褐色 (10YR3/4) ソフトローム粒を多く含む。しまり強く粘性やや強い。
- 4 暗褐色 (10YR3/3) ローム粒を少量含む。しまり強く粘性強い。
- 5 暗褐色 (10YR3/3) 多くの灰褐色土ブロック(φ1~2cm)、ごくわずかな焼土粒含む。しまり強く粘性やや強い。
- 6 にごり黄褐色(10YR4/3) 多量のローム粒、まれに炭化物粒を含む。しまり粘性やや強い。
- 7 褐色 (10YR4/6) 多量のローム粒・ロームブロック(φ≤2cm)含む。しまり粘性やや強い。

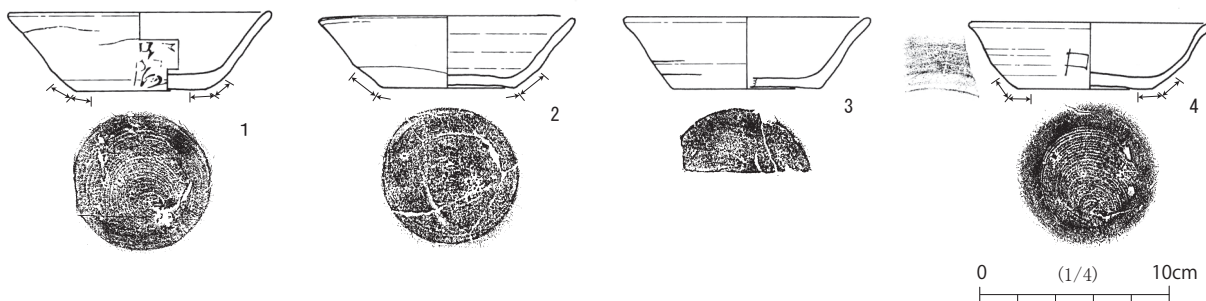
**カマド土層説明**



- 1 にごり黄褐色(10YR4/6) ロームブロックと灰白色土粒を多量、焼土粒を少量含む。しまり強。
- 2 褐色 (10YR4/4) ローム粒・灰白色土粒を多量、黄褐色土ブロックをごく多量含む。しまり強。
- 3 褐色 (10YR4/4) ロームブロックと黄褐色土ブロックを多量、焼土ブロックをごく微量含む。しまり強。
- 4 黒褐色 (10YR3/4) ロームブロックを多量、焼土ブロックを少量含む。しまり強。



第31図 SI09 実測図



第32図 SI09 出土遺物

覆土の大半は多くのローム粒を含んだ土層が一様に堆積していた。遺物は少なく、1は内面に煤が付着した土師器の坏、2、3は須恵器の甕片が図示される。

本遺構の廃棄時期は8世紀中～後半と考えられる。

**SI12 (第37・38図 図版14 第5表)**

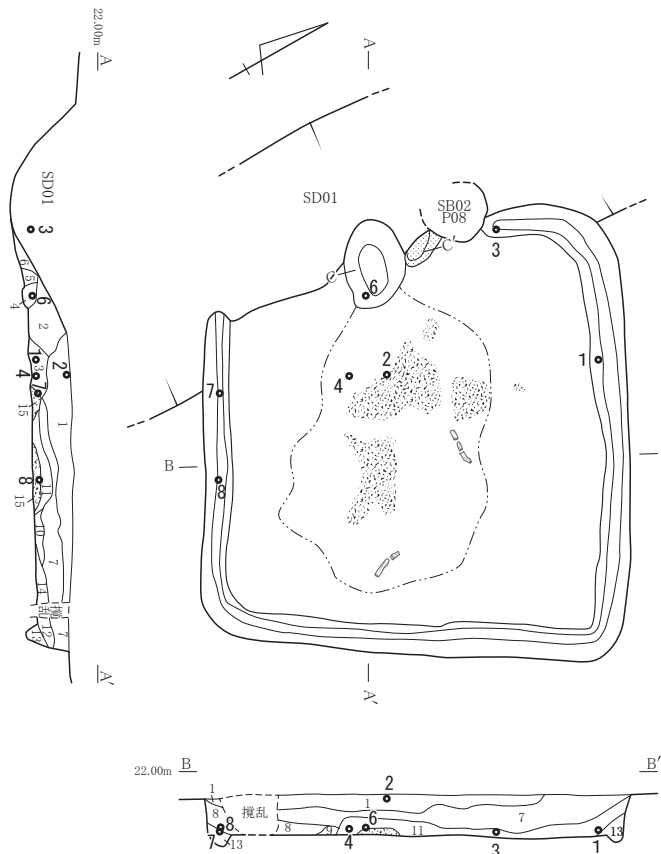
調査区の北西側に位置し、中央部付近は攪乱坑によって、上面が削平されている。平面形は東西にやや長い4.1×4.0mを測る方形を呈する。主軸方位はN-9°Eである。掘り込みの深さは30cmほどである。床面はほぼ直床であり、中央部付近は堅緻である。周溝はカマド部を除いて全周している。カマドは北辺の中央部に敷設されるが、煙道部、煙出し部は削平されている。焚口部の左右の袖部が遺存しており、火床はよく焼けていた。支柱穴の検出はなく、南辺寄りに梯子穴が1基確認されている。壁際の覆土は埋め戻された土層とみられるが、上層の1層は自然堆積かと考えられる。

出土の遺物は1～3土師器の坏、4須恵器の坏があるが、甕は少ない。また、5、6土玉、7、8鎌、9碗状鉄滓、10砥石などが出土している。

本遺構の廃棄時期は8世紀後半から9世紀前半とみられる。

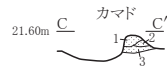
**SI13A (第39・40図 図版15 第5表)**

調査区の北西側に位置し、A、B新旧とする2軒の竪穴建物が重複し、SI13BをSK05が重複、切っている。Bを切るAは東西に長い長方形を呈し、2.95×2.6mを測る。主軸方位はN-26°Eである。掘り込みの深さは40cmほどあり、他と比べてやや深い。床面は直床で全体的に堅緻である。柱穴は南壁下の周溝内に小ピットがみられるだけで検出されていない。カマドは北辺中央やや北東隅寄りに位置している。結果的には、SI13Bのカマドの敷設位置に構築されたことが窺える。天井部は崩落しており、燃烧室側壁の大半は剥落している。火床は多少の被



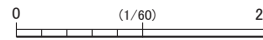
### SI10土層説明

- 1 黒褐色 (10YR2/3) ローム粒・ロームブロックを多量、焼土粒・炭化物粒をごく微量含む。ややしまりあり。
- 2 黒褐色 (10YR2/3) ロームブロック多量、焼土ブロック・炭化物粒を微量含む。ややしまりあり。
- 3 暗褐色 (10YR3/4) ロームブロック・炭化物粒を多量、焼土ブロックを少量含む。ややしまりあり。
- 4 黒褐色 (10YR2/3) ロームブロック中量、焼土ブロック少量、炭化物粒ごく微量含む。ややしまりあり。
- 5 淡黄褐色 (10YR5/4) ロームブロック・焼土ブロック中量含む。しまり強い。カマドソデ材か。
- 6 黒褐色 (10YR2/3) ロームブロック・焼土粒を少量含む。ややしまりあり。
- 7 暗褐色 (10YR3/4) ロームブロック・暗褐色土ブロックを多量含む。しまりやや強い。
- 8 黒褐色 (10YR2/3) ローム粒・ロームブロックを多量、焼土粒微量含む。しまりあり。
- 9 黒褐色 (10YR2/3) ロームブロックを多量含む。しまりあり。
- 10 暗褐色 (10YR3/4) ロームブロック多量、炭化物粒少量、焼土粒微量含む。しまりあり。
- 11 暗褐色 (10YR3/4) ローム粒・ロームブロックごく多量、焼土粒中量含む。ややしまりあり。
- 12 黒褐色 (10YR2/2) ローム粒を中量含む。ややしまりあり。
- 13 暗褐色 (10YR3/4) 周溝。ロームブロックごく多量、焼土粒を微量含む。しまりあり。
- 14 暗褐色 (10YR3/4) ローム粒多量、焼土ブロック・炭化物粒ごく多量含む。しまりあり。
- 15 暗褐色 (10YR3/4) ローム粒多量、焼土ブロックごく多量、炭化物粒少量含む。しまりあり。

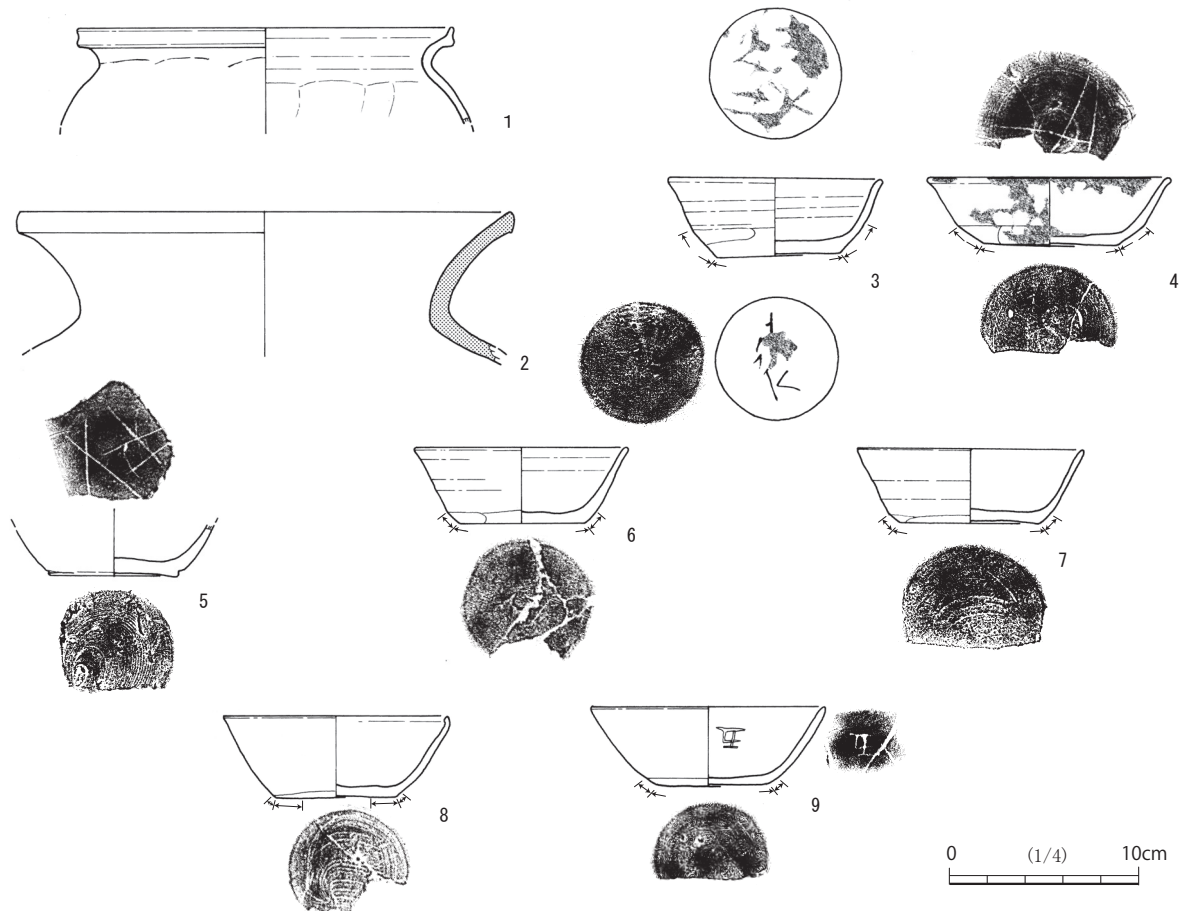


### カマド土層説明

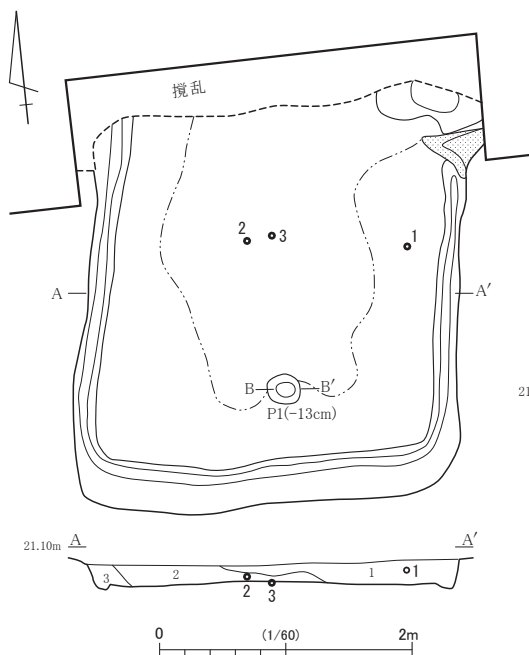
- 1 淡黄褐色 (10YR6/4) ローム粒多量、焼土粒微量含む。しまり強。
- 2 灰黄褐色 (10YR2/4) ロームブロック少量、黒褐色土ブロック多量含む。しまりあり。
- 3 褐色 (10YR4/4) ロームブロック少量含む。しまり強。



第 33 図 SI10 実測図



第 34 図 SI10 出土遺物



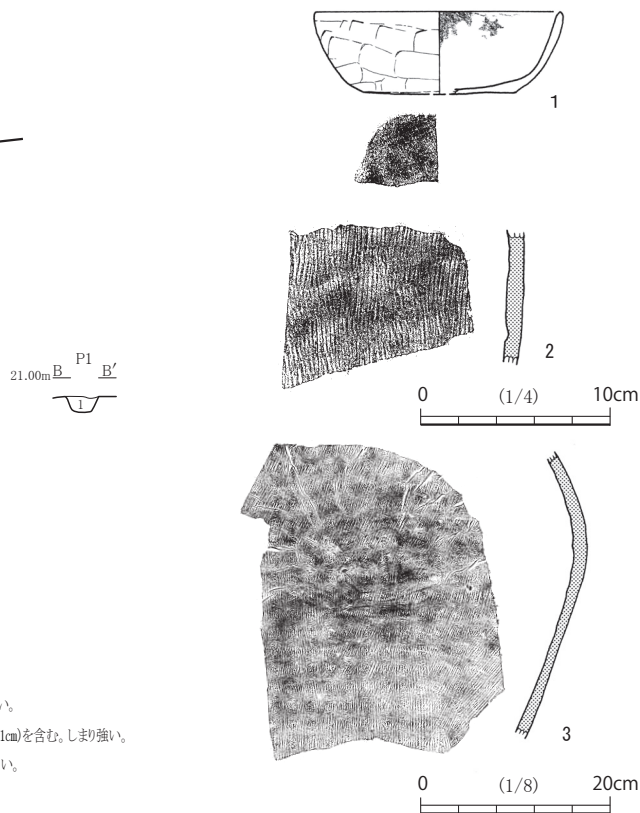
#### SI11土層説明

- 1 暗褐色 (10YR3/4) 細かいローム粒を多く、ごくわずかな焼土粒含む。しまりやや弱い。
- 2 褐色 (10YR4/4) 1より大きいローム粒(φ0.2cm)を多く、まれにロームブロック(φ≤1cm)を含む。しまり強い。
- 3 黒褐色 (10YR3/2) 多くのローム粒・ロームブロック(φ0.5~1.5cm)含む。しまりやや強い。

#### P1土層説明

- 1 暗褐色 (10YR3/4) 暗褐色土、ローム粒を多量含む。しまりややあり。

第35図 SI11 実測図



第36図 SI11 出土遺物

焼痕をみせている。煙道は緩やかに立ち上がり、煙出し部は40cmほど壁外に至っている。覆土は人為的に埋土、堆積したとみられる。

遺物はさほど多くはないが、カマド付近に纏って出土している。1は房総型の甕、2は須恵器の甑、3、4は土師器坏、3には外面に墨書、内面に刻書がみられ、4には煤が付着している。5、6は須恵器の坏である。7は土師器坏片、8は須恵器坏片に墨書がみられる。9は土玉、10は鉄製品である。

本遺構の廃棄時期は8世紀後半から9世紀前半とみられる。

#### SI13B (第39・41図 図版15 第5表)

SI13Aに北西隅側を重複され、切られている。東辺側もSK05によって重複、切られている。平面形は東西に長い4.0×3.6mの長方形を呈している。主軸方位は北辺側と推測されることから、N-19°Eと考えられる。掘り込みの深さは20cmほどで、床面は貼床となっている。遺存する中央部付近は堅緻である。主柱穴が北東隅側に1基検出され、南辺寄りに梯子穴、南西隅に小ピットがみられる。周溝は各壁下を廻るが、P2梯子穴、P3部分では途切れている。覆土はロームブロックを多く含んだ黒褐色土で、一様に堆積していた。

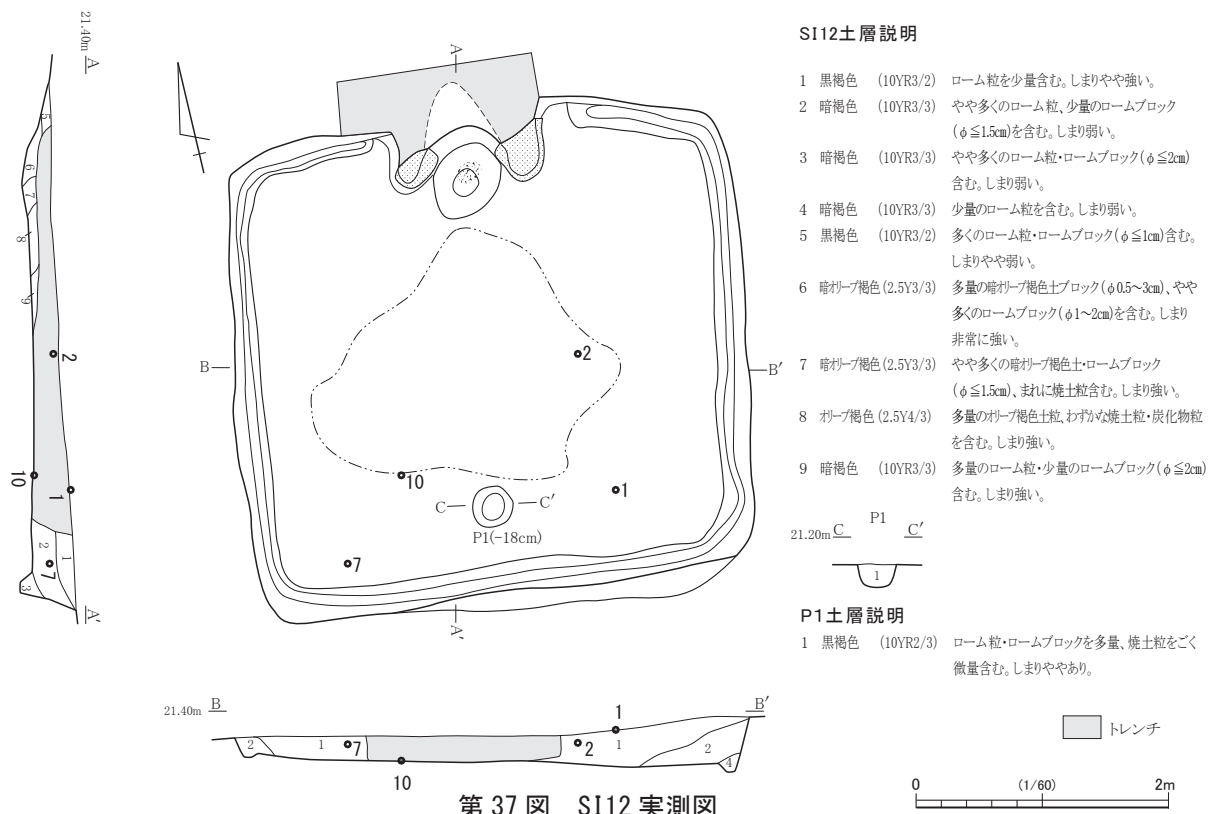
出土遺物は少ない。1は土師器甕、2は須恵器甕片、3、4は土玉である。

本遺構の廃棄時期は8世紀中～後半と考えられる。

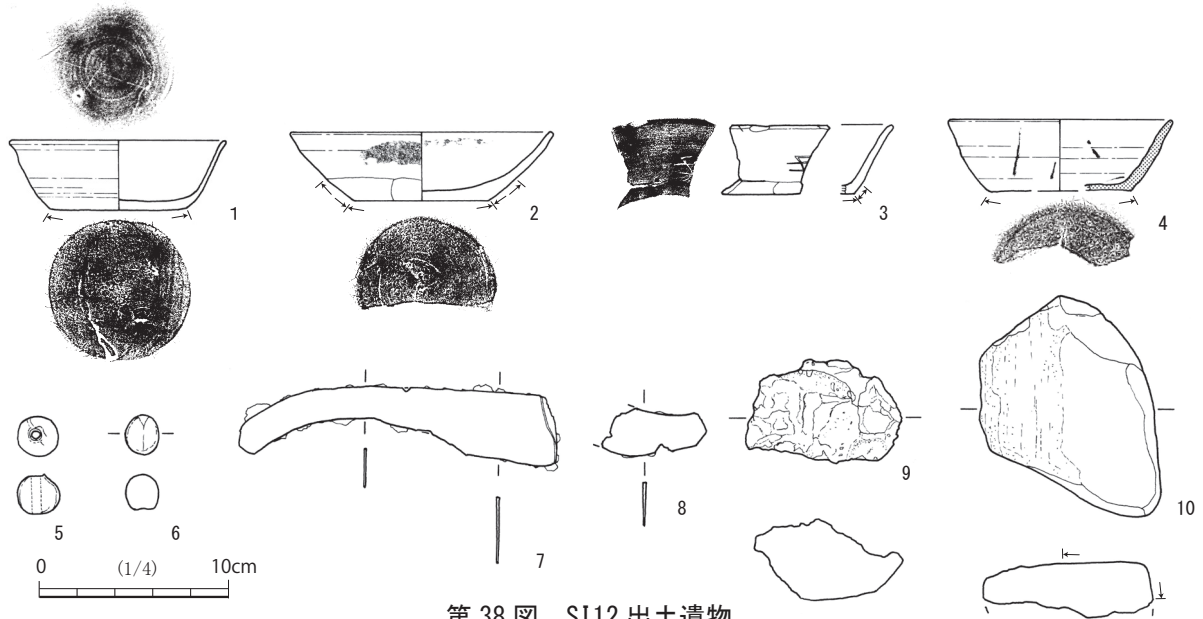
#### SI14 (第42・43図 図版16 第5表)

調査区の北西側に位置するが、攪乱が多い。平面形は東西に長い3.8×3.2mを測る長方形を呈する。主軸方位はN-27°Eである。掘り込みの深さは35cmで、床面は四隅を除いて直床となる。中央部分は硬化面がみられる。主柱穴はなく、南辺寄りにP1梯子穴が検出されているだけである。周溝は北辺のカマド部を除いて全周している。カマドは攪乱が多く、天井部も崩落している。火床はよく焼けていた。煙出し口は15cmほど壁外に突出している。

覆土は暗褐色土がほぼ一様に堆積している。



第 37 図 SI12 実測図



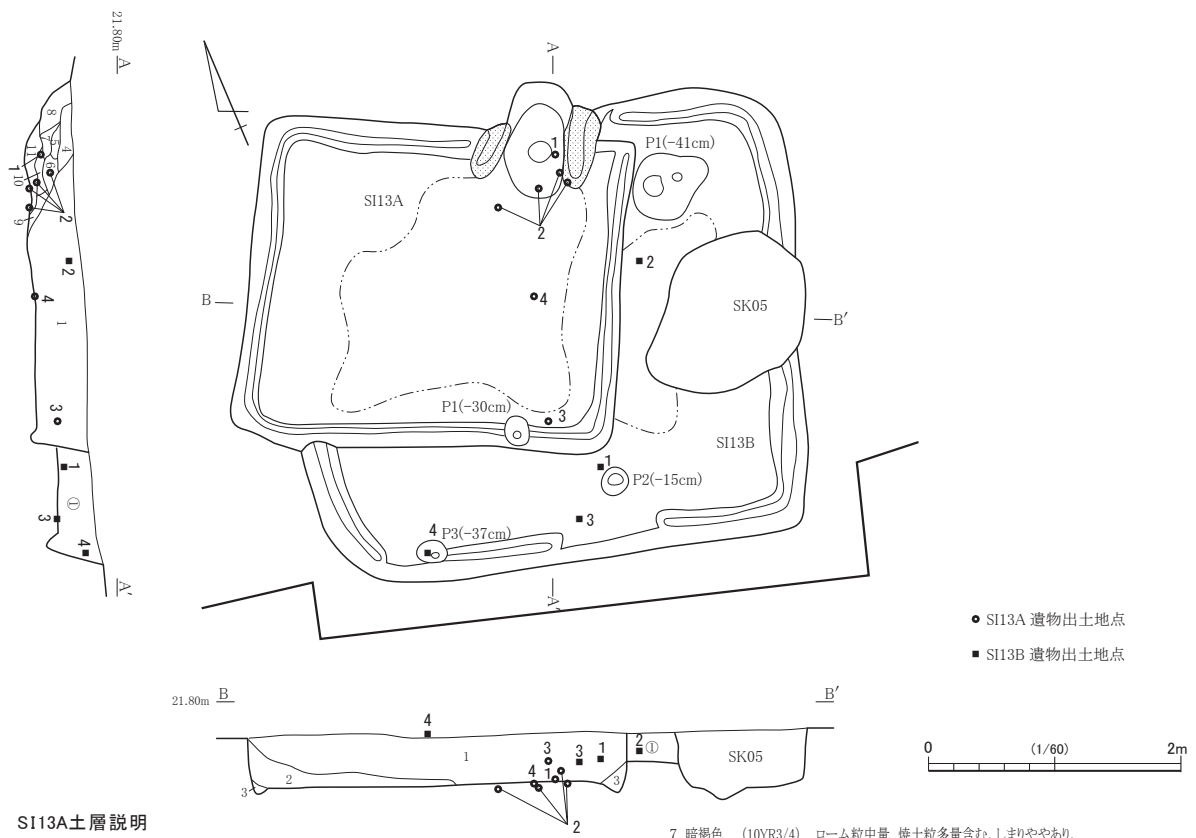
第 38 図 SI12 出土遺物

遺物は 1 土師器の甕、3 須恵器の坏片が出土しているが、特筆すべきは上面で 2 “三河型甕”が出土していることである。本遺構の確認面上で検出している。

本遺構の廃棄時期は 8 世紀中～後半と考えられる。

#### SI15 (第44・45図 図版16 第5表)

調査区の北西側に位置する。平面形は北西-南東に長い3.7×3.35mを測る長方形を呈する。主軸方位はN-64°Wである。掘り込みの深さは25cmで、床面は四隅の一部を除いて直床である。全体的に堅緻であるが、とくに中央部は堅緻である。精査したが、柱穴の検出はない。周溝は北西辺にあるカマド部を除いて全周している。カマドは天井部が崩落し、遺存する燃烧室側壁、火床は多少被焼している程度である。煙道部は比較的緩やかに立ち上がり、煙出し口は20cmほど壁外に至っている。覆土は一様にロームブロックを含む暗褐色土となり、人為的



**SI13A土層説明**

- 1 黒褐色 (10YR2/3) ローム粒多量、焼土粒と炭化物粒を微量含む。しまりややあり。
- 2 黒褐色 (10YR2/3) ローム粒多量、焼土粒・焼土ブロックを微量含む。しまりややあり。
- 3 黒褐色 (10YR2/3) ローム粒ごく多量含む。しまりややあり。
- 4 黒褐色 (10YR2/3) ローム粒中量、にぶい黄褐色土ブロックごく多量、焼土ブロック・炭化物粒を少量含む。しまりあり。
- 5 赤褐色 (5YR4/8) ローム粒少量、黒褐色土ブロック多量含む。しまりややあり。
- 6 黒褐色 (10YR2/3) ローム粒少量、黄褐色土ブロックと焼土粒を中量含む。しまりややあり。

- 7 暗褐色 (10YR3/4) ローム粒中量、焼土粒多量含む。しまりややあり。
- 8 暗褐色 (10YR3/4) ローム粒中量、黄褐色土ブロック・焼土粒を少量含む。しまりややあり。
- 9 黒褐色 (10YR2/3) ローム粒中量含む。しまりややあり。
- 10 暗褐色 (10YR3/4) ローム粒少量、焼土ブロック(カマドソデ材)ごく多量含む。しまりややあり。
- 11 暗褐色 (10YR3/4) ローム粒少量、焼土ブロック・黄褐色土粒中量含む。しまりややあり。

**SI13B土層説明**

- ① 黒褐色 (10YR2/3) ロームブロックごく多量、焼土粒ごく微量含む。しまりややあり。

**第 39 図 SI13A・B 実測図**

に埋土、堆積したことが窺える。

出土遺物は少ない。1は土師器の小形甕、2～4は須恵器の坏であり、4は高台付坏である。また、2、3には刻書がみられる。5は鎌である。

本遺構の廃棄時期は8世紀中～後半と考えられる。

**SI16 (第46・47図 図版16 第5表)**

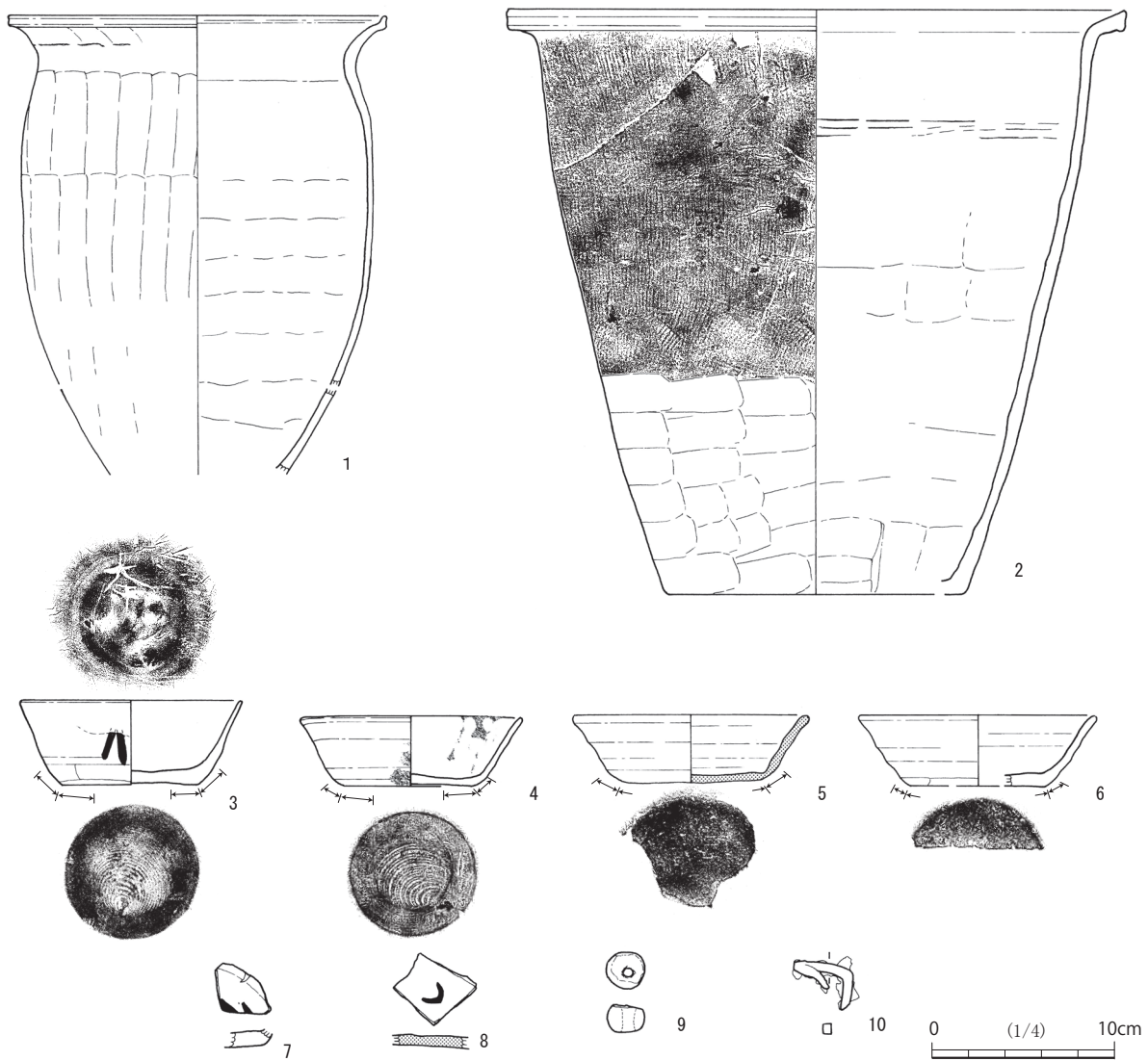
調査区の北西側に位置し、中央部は攪乱坑によって削平されている。平面形は北西-南東に長い3.55×3.0mを測る長方形を呈している。主軸方位はN-29°Eである。掘り込みの深さは10cmほどであり、床面は直床である。硬化面も一部で見られるが、拡がり確認できない。柱穴も検出されていない。周溝はカマド部、北東隅を除いて全周している。カマドは北東辺の中央から東側に設けられている。天井部は崩落し、袖部は室内に延びておらず、焚口は60cmを測る。燃焼室、火床は多少被焼している程度である。煙道は緩やかに立ち上がり、煙出し口は80cmほど壁外に至っている。覆土はローム粒を含む暗褐色土が一様に堆積していた。

出土の遺物は少ない。カマド内から土師器の甕、床面中央で土師器の坏が出土している。

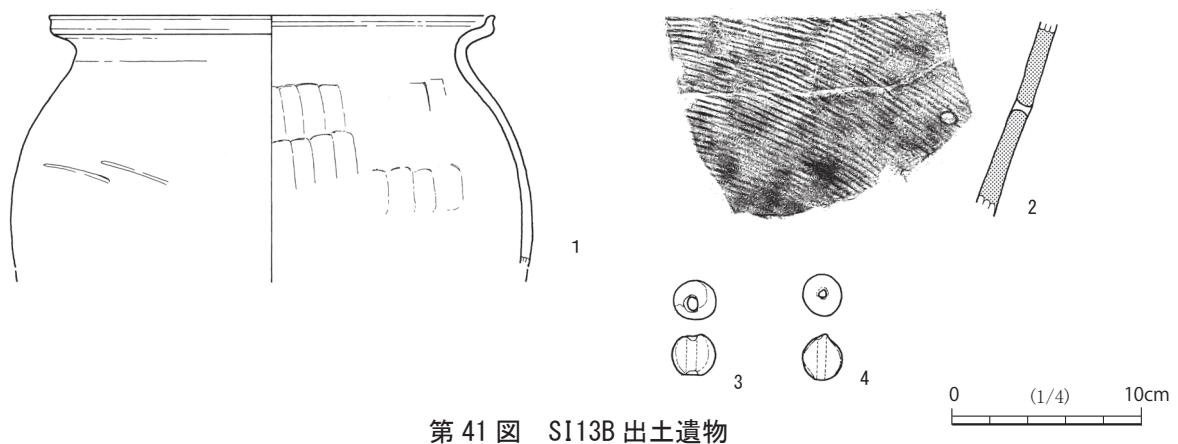
本遺構の廃棄時期は8世紀中～後半と考えられる。

**SI17 (第48・49図 図版17 第5表)**

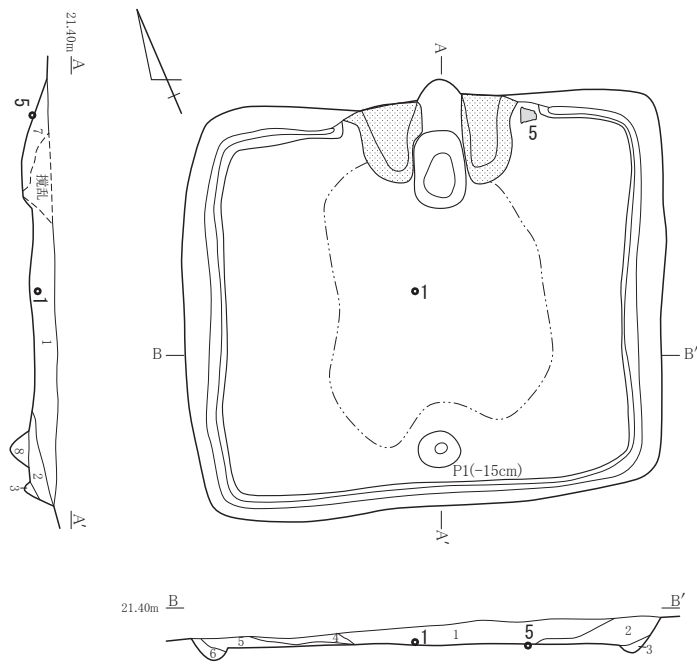
調査区の北西側、SI16の脇に位置する。西辺の一部が攪乱されており、平面形はやや隅丸の長方形を呈し、東西に長い。主軸方位はN-21°Eである。大きさは2.65×6.25mを測り、掘り込みの深さは10cmほどである。床面は



第 40 图 SI13A 出土遺物

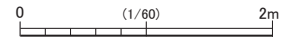


第 41 图 SI13B 出土遺物

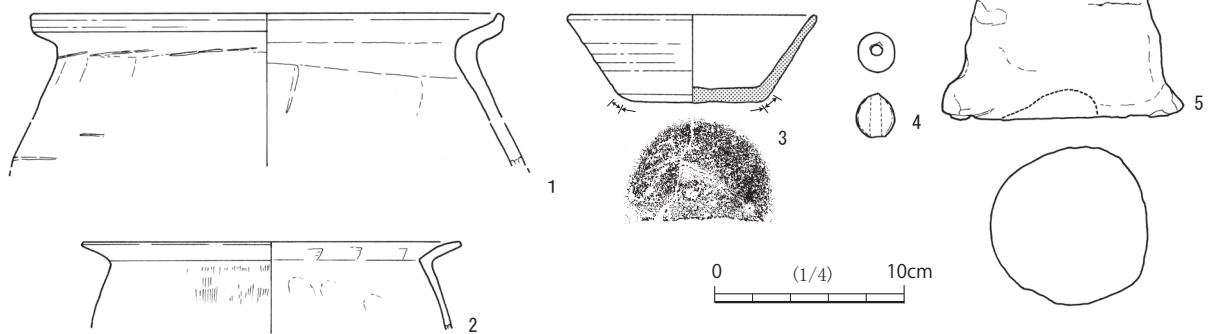


### SI12土層説明

- 1 暗褐色 (10YR3/3) ローム粒を少量含む。しまりやや強い。
- 2 暗褐色 (10YR3/3) 少量のローム粒・ロームブロック(φ≤1cm)含む。しまり弱い。
- 3 黒褐色 (10YR3/2) わずかなローム粒・ロームブロック(φ≤2cm)含む。しまり弱い。
- 4 暗褐色 (10YR3/3) ローム粒をわずかに含む。しまり強い。
- 5 黒褐色 (10YR3/2) ローム粒を少量含む。しまり強い。
- 6 暗褐色 (10YR3/4) 多くのローム粒・ロームブロック(φ≤0.5cm)を含む。しまりやや強い。
- 7 にぶい褐色(7.5YR5/4) にぶい褐色土主体、焼けた褐色土ブロックを少量含む。しまり強い。
- 8 暗褐色 (10YR3/3) P1覆土。ロームブロック(φ1~2cm)多く含む。しまりやや強い。



第 42 図 SI14 実測図



第 43 図 SI14 出土遺物

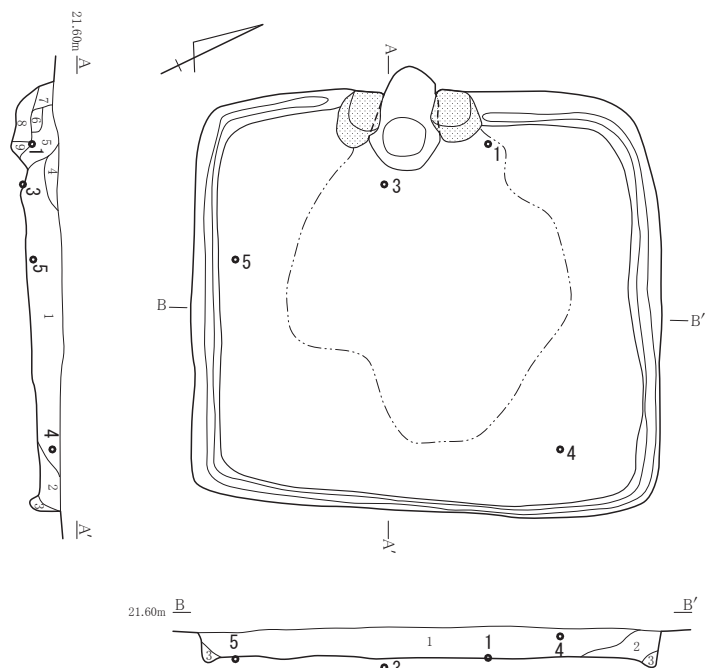
直床で、中央部は堅緻である。柱穴は南東寄りに梯子穴P1が検出されているだけである。周溝は北辺のカマド部、南西隅を除いて全周している。カマドは天井部が崩落し、燃烧室には粘土が貼られ、よく焼けている。火床もよく焼け、袖部は室内に向かって構築されていない。煙道部は壁外に80cmほど延び、煙出し口に至っている。覆土はローム粒を含んだ黒褐色土がほぼ一様に堆積していた。

遺物の出土は少ない。1、2土師器の坏、鎌ないしは釘とみられる3鉄製品が床面上から出土している。

本遺構の廃棄時期は8世紀中～後半とみられる。

### SI18 (第50・51図 図版17 第5表)

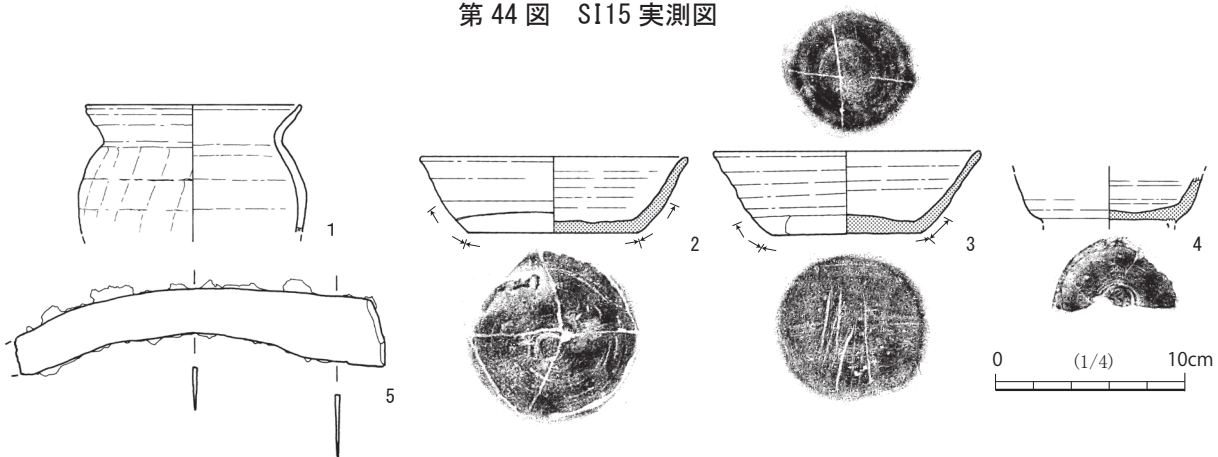
調査区の西端に位置し、堅穴建物跡の半分ほどが調査区外となっている。平面形はやや隅丸の方形を呈するとみられる。北東—南西軸で3.8mの大きさを測り、カマドの位置から主軸方位はN-39°Eとみられる。掘り込みの深さは確認面から65cmを測り、床面は直床となる。カマド焚口前から中央部に掛けて堅緻となっている。検出部には柱穴は確認されていないが、南隅に壁柱穴が1基検出されている。また、北東隅には方形の75×65cm、深さ18cmを測る貯蔵穴が検出されている。とくに、粘土貼りなどの施工はみられない。周溝はカマド部を除いて壁下を廻っている。天井部は崩落し、燃烧室、火床は多少被焼した程度であり、とくに赤化面はみられなかった。覆土は一様にローム粒を含んだ黒褐色土が埋土、堆積していた。



#### SI15土層説明

- 1 暗褐色 (10YR3/4) 多くのローム粒、鹿の子状にやや多くのロームブロック(φ0.5~2cm)を含む。しまりやや強い。
- 2 暗褐色 (10YR3/4) 多くのローム粒・ロームブロック(φ1~2cm)含む。しまり強い。
- 3 暗褐色 (10YR3/4) 多量のローム粒・ロームブロック(φ≤1.5cm)含む。しまりやや強い。
- 4 暗褐色 (10YR3/3) 少量のローム粒を含む。しまりやや強い。
- 5 暗褐色 (10YR3/3) 多くのローム粒・少量の褐色土粒・焼土粒含む。しまりやや強い。
- 6 におい黄褐色 (10YR4/3) 多量の褐色土ブロック(φ1cm)、少量の焼土を含む。しまりやや強い。
- 7 褐色 (10YR4/4) やや多くの褐色土・ロームブロック粒含む。しまりやや強い。
- 8 褐色 (7.5YR4/3) 多量の焼けた褐色土粒、少量の焼けて硬化したロームブロック(φ1cm)を含む。しまり弱い。
- 9 暗褐色 (10YR3/3) 少量の褐色土粒・ローム粒含む。しまり強い。

第44図 SI15実測図



第45図 SI15出土遺物

出土の遺物は多くない。カマド内から覆土内にかけて、1土師器の甕が出土している。また、覆土内からは2土製支脚、3刀子片が出土している。

本遺構の廃棄時期は8世紀後半と考えられる。

#### SI19 (第52・53図 図版17 第5表)

調査区の西端に位置し、竪穴建物跡の北西隅は調査区外となっている。また、南東隅はSI20によって一部切られている。平面形は東西に長い長方形を呈し、4.0×3.4mの大きさを測る。主軸方位はN-45°Wである。掘り込みの深さは確認面より65cmほどで、床面は直床である。ほぼ全面に亘って堅緻である。主柱穴は3基検出され、柱痕がみられるP2は深さ58cmを測る。東南辺寄りには梯子穴がみられる。周溝はカマド部、東隅を除いて全周している。カマドは天井部を含めて流失ないしは壊されており、右袖部はない。覆土は多量のロームブロック含んだ黒褐色土が一様に堆積し、人為的に埋土、堆積したことが窺える。

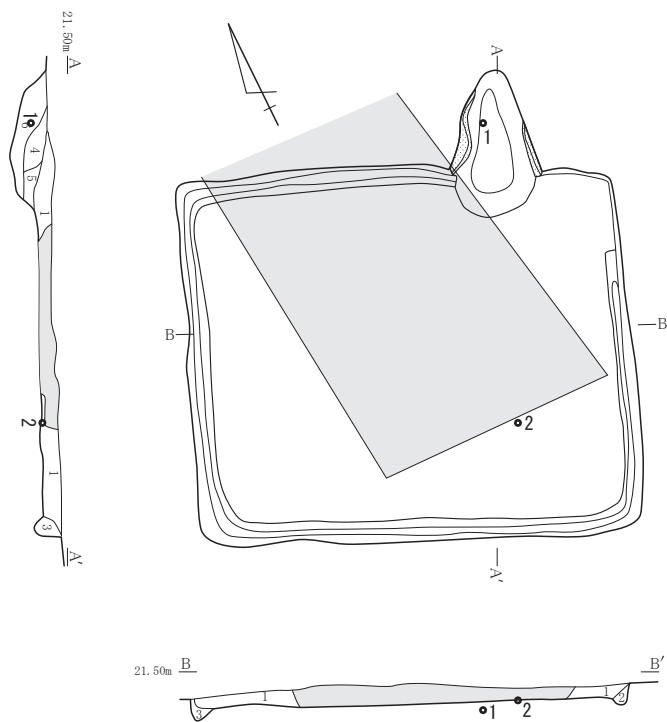
出土遺物は少なく、土師器の常陸型甕片、赤彩の坏の小片がみられた。1は須恵器の甕である。

本遺構の廃棄時期は8世紀後半と考えられる。

#### SI20 (第54・55図 図版18 第5表)

調査区の西端側に位置する。SI19の一部を重複し、切っている。平面形はやや歪みがあるが、大きさは3.0×3.0mを測る方形を呈する。主軸方位はカマドの位置からするとN-25°Eとみることができる。掘り込みの深さは20cm

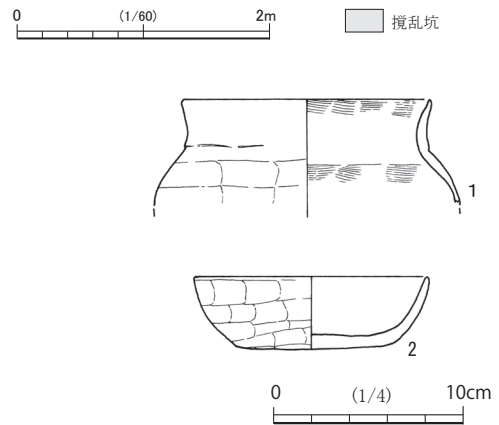




第46図 SI16 実測図

SI16土層説明

- 1 暗褐色 (10YR3/3) ローム粒を多く含む。しまりやや強い。
- 2 褐色 (10YR4/4) やや多くのローム粒・ロームブロック(φ1cm)含む。しまりやや強い。
- 3 褐色 (10YR4/4) 多量のローム粒・ロームブロック(φ1cm)含む。しまりやや強い。
- 4 暗褐色 (10YR3/3) 少量のローム粒・焼土粒を含む。しまりやや強い。
- 5 褐色 (7.5YR4/3) やや多くの焼土粒・焼土ブロック・ロームブロック(φ1cm)含む。しまりやや強い。
- 6 黒褐色 (10YR3/2) ロームブロック(φ≦2cm)を多く含む。しまりやや弱い。



第47図 SI16 出土遺物

ほどで、床面は攪乱が多いが直床となり、遺存部は比較的堅緻である。周溝は南東辺側に検出されているだけである。支柱穴はなく南東辺中央でP1がみられるだけであり、梯子穴とすると、主軸方位はN-65°Wとされよう。カマドは攪乱を受けてはいるが、粘土などの構築材は確認できず、廃棄されていたとみられる。袖部は地山の造り出しがみられ、遺存する火床はよく焼けていた。覆土は一様にローム粒を含む黒褐色土が堆積していた。

遺物はカマド内や南側から流れ込む覆土内に伴出している。1、2は土師器の甕であり、1は「房総型」の甕である。3は須恵器の甕、5～11は土師器の坏であり、9は内面黒色処理された高台付坏である。4の内面に「×」の刻書があり、内面黒色処理された11にも刻書がみられる。10には渦巻状（蛇目様）の墨書がみられる。

本遺構の廃棄時期は9世紀前半から中頃と考えられる。

SI21 (第56・57図 図版19 第5表)

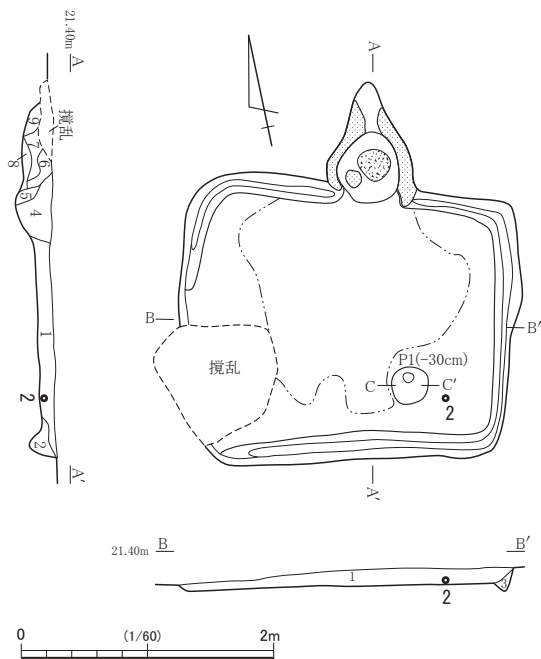
調査区の西側に位置する。平面形は方形を呈し、3.65×3.65mの大きさを測る。主軸方位はN-32°Eである。掘り込みの深さは20cmほどであり、床面はやや起伏がみられる。直床であり、中央部を中心に非常に堅緻となっている。支柱穴はなく、南壁中央下にP1梯子穴、カマド右袖脇にP3がみられるのみである。また、北東隅には深さ10cmほどであるが貯蔵穴が検出されている。周溝は北辺のカマド部を除いて全周している。カマドは天井部が崩落しており、燃焼室側壁、火床はよく焼けていた。また、床面中央部には焼土等はみられなかったが、赤化面がみられた。覆土はローム粒を含む暗褐色土が堆積していた。人為的な流れ込みとみられる。

遺物はカマド部、覆土堆積土中に比較的多く検出されている。1は常陸型甕、2は小型甕、3～5は須恵器の甕、6～8、11は土師器の坏、9、10は須恵器の坏である。8、11には墨書がみられる。12は土製支脚片である。

本遺構の廃棄時期は8世紀後半と考えられる。

SI22 (第58・59図 図版20 第5表)

調査区の西側に位置する。平面形は北西—南東に長い長方形を呈し、3.95×3.6mの大きさを測る。主軸方位はN-64°Wである。掘り込みの深さは10cmほどで床面はほぼ直床であり、中央部中心に堅緻である。支柱穴、梯子穴など柱穴は検出されていない。周溝は北西辺のカマド部を除いて全周している。なお、床面の精査を行ったところ、床面内同レベルにおいて旧周溝とみられる黄褐色土で貼られた溝が検出された。大きさは3.45×3.1m、



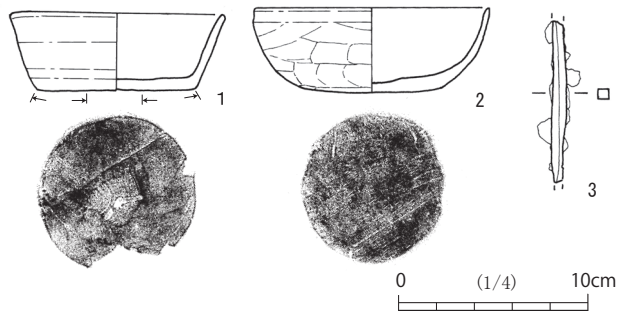
第48図 SI17 実測図

SI17 土層説明

- 1 黒褐色 (10YR3/2) やや多くのローム粒、少量のロームブロック(φ0.5~2cm)含む。しまりやや強い。
- 2 暗褐色 (10YR3/3) 周溝覆土。多くのローム粒、やや多くのロームブロック(φ1cm)含む。しまり弱い。
- 3 暗褐色 (10YR3/3) 周溝覆土。少量のローム粒含む。しまり弱い。
- 4 黒褐色 (10YR3/1) 少量の褐色土ブロック(φ≤1cm)・ロームブロック(φ1cm)含む。しまりやや強い。
- 5 オリーブ褐色 (2.5Y4/3) 多量の褐色土ブロック(φ0.5~1.5cm)少量含む。しまりやや強い。
- 6 オリーブ褐色 (2.5Y4/3) ごく多量の褐色土ブロック(φ≤2cm)、わずかな焼土粒含む。しまり強い。
- 7 褐色 (7.5YR4/3) 多量の褐色土、少量の焼土を含む。しまり強い。
- 8 暗赤褐色 (5YR3/6) 焼土ブロック主体、褐色土ブロックを含む。しまり強い。
- 9 暗灰黄色 (2.5Y4/2) 多くの褐色土、少量のロームブロック(φ≤1cm)含む。しまりやや強い。

21.20m C P1 C' P1土層説明

- 1 黒褐色 (10YR2/3) ローム粒・ロームブロックを多量含む。しまりやや強い。



第49図 SI17 出土遺物

そして、幅20cm前後、深さは4~7cmを測る。拡張前の旧建物であったと考えられる。カマドはほぼ同位置にあったとみられ、火床の重複は確認されていない。袖部は地山の造り出しの上に粘土を貼って構築している。天井部は崩落しているが、燃烧室、火床はよく焼けているのが確認された。覆土は暗褐色土がほぼ一様に堆積し、人為的な流れ込みが考えられる。

出土に遺物は少なく、1、土師器の坏、そして、常陸型甕、土製支脚の小片が出土している。

本遺構の廃棄時期は不詳であるが、9世紀前半とも考えられる。

SI23 (第60・61図 図版20 第5表)

調査区のはほぼ中央に位置する。平面形はやや隅丸な方形を呈し、大きさは3.8×3.8mを測る。主軸方位はN-33°Wである。掘り込みの深さは20cmほどで、床面は直床で中央部を中心に堅緻となっている。柱穴は4基検出され、掘り込みの底面には柱アタリが明瞭に遺っていた。周溝は北西辺にあるカマド部を除いて全周している。カマドは天井部が崩落し、袖部を遺している。火床、燃烧室は被焼しているがあまり赤化面をみせていない。覆土は人為的に流れ込んだローム粒を含む黒褐色土が堆積している。

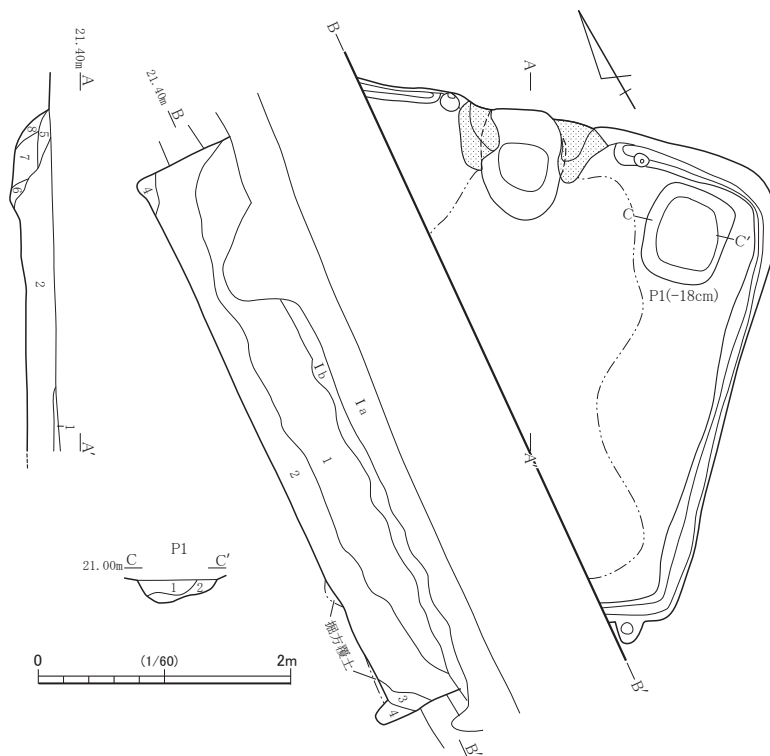
遺物は土師器が比較的多く、1、常陸型甕、そして坏、須恵器の側面球形横瓶が出土している。

本遺構の廃棄時期は8世紀後半とみられる。

SI24 (第62・63図 図版20 第5表)

調査区の中央に位置する。平面形はやや隅丸の方形を呈し、3.1×3.05mの大きさを測る。主軸方位はN-72°Wとなる。掘り込みの深さは5cmほどで、攪乱が所々に認められるが、床面は直床であり、中央部を中心に堅緻となっている。精査したにもかかわらず、柱穴は検出されていない。周溝は北西辺のカマド部を除いて全周している。カマドは天井部が崩落し、袖部の粘土が多少遺存していた。袖部は地山の造り出しがみられ、燃烧室、火床には一部被焼痕がみられた。覆土は床面上を黒褐色土が堆積していた。

遺物は少なく、土師器の皿、坏が出土している。いずれも墨書があり、1には底面に「主」、2にも体部に「主」がみられる。



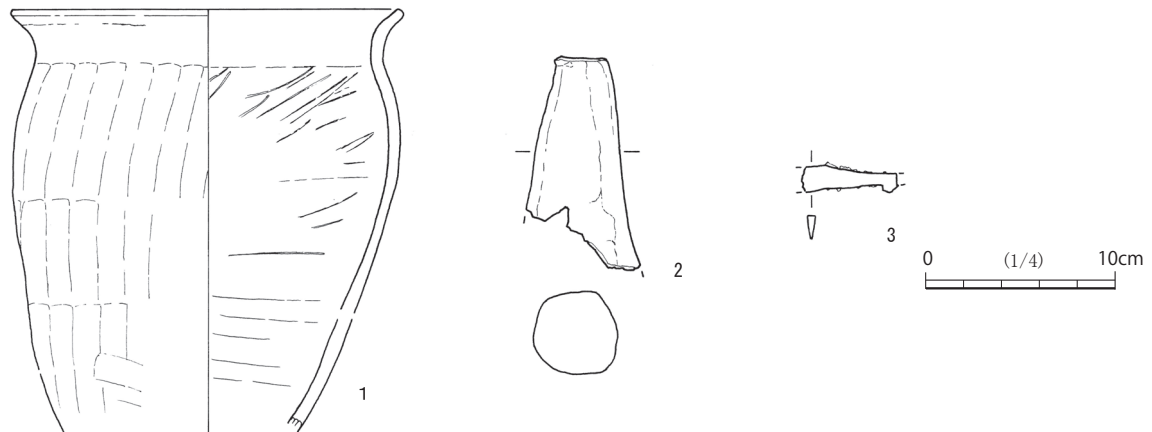
#### SI18土層説明

- 1 黒褐色 (10VR2/2) ローム粒を多量、焼土粒を少量含む。しまりあり。
- 2 黒褐色 (10VR2/2) ローム粒をごく多量、焼土粒・炭化物ブロックを微量含む。しまりあり。
- 3 黒褐色 (10VR2/3) ローム粒を多量含む。ややしまりあり。
- 4 暗褐色 (10VR3/3) ロームブロックを中量含む。ややしまりあり。
- 5 暗褐色 (10VR2/2) ローム粒を少量、焼土ブロック中量、炭化物ブロックを微量含む。しまりあり。
- 6 暗褐色 (10VR3/4) ローム粒を少量、焼土ブロックを多量含む。やや砂質に富み、ややしまりある。
- 7 暗褐色 (10VR3/4) ローム粒を少量、焼土ブロックをごく多量含む。やや砂質に富み、ややしまりある。
- 8 暗褐色 (10VR3/4) ローム粒・焼土ブロックを少量含む。やや砂質に富み、ややしまりある。

#### P1土層説明

- 1 暗褐色 (10VR3/3) 多量のローム粒、少量のロームブロック(φ≤1.5cm)・焼土粒・焼土ブロック(φ≤1cm)含む。しまりやや弱い。
- 2 褐色 (10VR4/4) 多量のローム粒・ロームブロック(φ1~2.5cm)、ごくわずかな褐色土ブロック(φ≤1cm)含む。しまり強い。

第50図 SI18実測図



第51図 SI18出土遺物

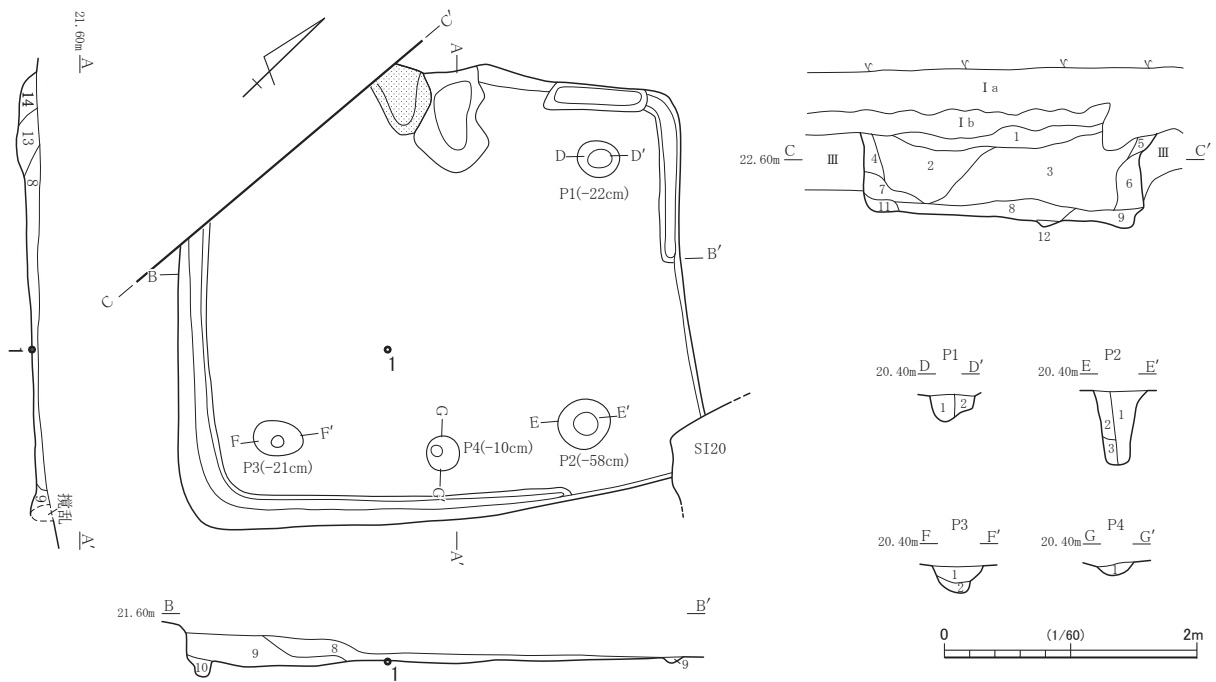
本遺構の廃棄時期は9世紀前半とみられる。

#### SI25 (第64・65図 図版21 第5表)

調査区の中央やや東側に位置する。平面形は東西にやや長い隅丸の方形を呈し、3.65×3.5mの大きさを測る。主軸方位はN-7°Wである。掘り込みの深さは50cmほどを測り、床面は堅緻な直床となっている。とくに、中央部を中心に堅緻となっており、被熱した痕跡と脇に疎らながら粘土がみられた。柱穴は各隅寄りに4基、南辺寄りに梯子穴が1基検出され、底面には柱アタリが観察されている。周溝は北西隅、カマド部を除いて全周している。カマドは幾らかの地山の造り出しの袖部を設け、粘土で構築されている。天井部は崩落しているが、燃焼室側壁はよく焼けていた。火床は幾らか被熱した程度である。煙道部は40°ほどの傾斜で立ち上がり、煙出し口は壁外へ25cm突出している。

覆土は多くのロームブロック、ローム粒を含む暗褐色土が人為的に流れ込んでいる。

多くの遺物は底面近くに出土している。1、2は土師器の甕であり、1は武蔵型、2は房総型である。3は土師器の内外面赤彩坏、4は須恵器の坏、5は須恵器高台付の坏、6は須恵器の甕である。7は碗状鉄滓である。



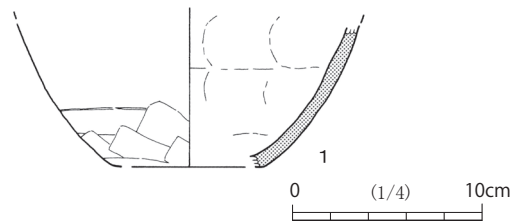
第 52 図 SI19 実測図

SI19土層説明

- 1 黒褐色 (10YR2/2) ローム粒多量、ロームブロック少量、焼土・炭化物ブロックを微量含む。しまりあり。
- 2 黒褐色 (10YR2/3) ロームブロックを多量、焼土粒を微量含む。しまりあり。
- 3 黒褐色 (10YR2/3) ロームブロック多量、焼土ブロックを微量含む。しまりあり。
- 4 暗褐色 (10YR3/4) ローム粒を中量、にぶい黄褐色土ブロックを少量含む。しまりややあり。
- 5 黒褐色 (10YR2/3) ローム粒を多量含む。しまりあり。
- 6 暗褐色 (10YR3/4) ローム粒をごく多量、焼土粒をごく微量含む。しまりあり。
- 7 暗褐色 (10YR3/4) ローム粒を多量、焼土粒と黄褐色土ブロックを中量含む。しまりややあり。
- 8 黒褐色 (10YR2/3) ローム粒を多量、焼土粒・炭化物ブロックを少量含む。
- 9 黒褐色 (10YR2/3) ロームブロックをごく多量含む。しまりあり。
- 10 黒褐色 (10YR2/3) ロームブロックを多量含む。しまりややあり。
- 11 暗褐色 (10YR3/3) ロームブロック・焼土ブロックを多量含む。しまりあり。
- 12 黒褐色 (10YR2/2) ロームブロックを中量含む。しまりあり。
- 13 暗褐色 (10YR3/4) ロームブロックを中量、焼土ブロック少量含む。しまりあり。
- 14 暗褐色 (10YR3/4) 熱を受けたロームブロックをごく多量、焼土ブロックを少量含む。しまりあり。

P1～P4土層説明

- 1 灰黄褐色 (10YR4/2) 焼土粒(φ1cm)、ローム粒をわずかに含む。やわらかくしまりなし。
- 2 にぶ黄褐色 (10YR4/3) ロームブロック主体。固くしまりあり。
- 3 にぶ黄褐色 (10YR5/4) ロームブロック主体とし、暗褐色土をわずかに含む。固くしまりあり。



第 53 図 SI19 出土遺物

8～10は三河型甕である。

本遺構の廃棄時期は8世紀中～後半と考えられる。

SI26 (第66・67図 図版22 第5表)

調査区の東側に位置する。北西側を中心に攪乱が著しく、南東壁側以外の壁、床面は極めて遺存状態が悪い。平面形は北西—南東に長い長方形を呈し、3.55×3.0mの大きさを測る。掘り込みの深さは30cmほどであり、床面は堅緻な部分が南東側に確認されるが、直床とみられる。柱穴は検出されず、周溝は各隅を中心に検出されている。カマド袖とみられる粘土が北東辺側あったことから構築位置が推測されるが攪乱のため確認までに至っていない。(北東の場合主軸方位はN-39°E、北西の場合N-51°W)

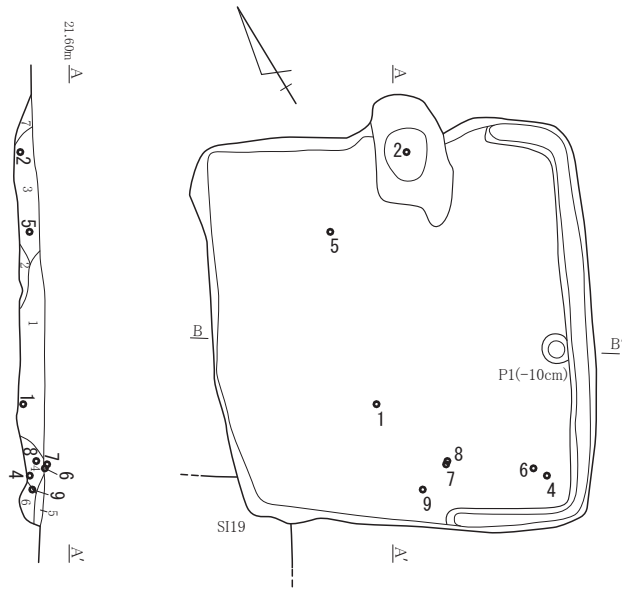
覆土はロームブロックを含んだ黄褐色土が堆積していた。

遺物は土師器の甕、坏、須恵器の甕が少量出土している。1は土師器の坏で、体部に墨書がみられる。2は須恵器の甕片、3は鍛冶滓である。

本遺構の廃棄時期は9世紀前半と考えられる。

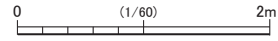
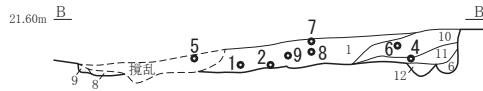
SI27 (第68・69図 図版22 第5表)

調査区の北西端側に位置し、上面はほぼ削平され、床面、周溝を遺すのみである。平面形は南北に長い方形を

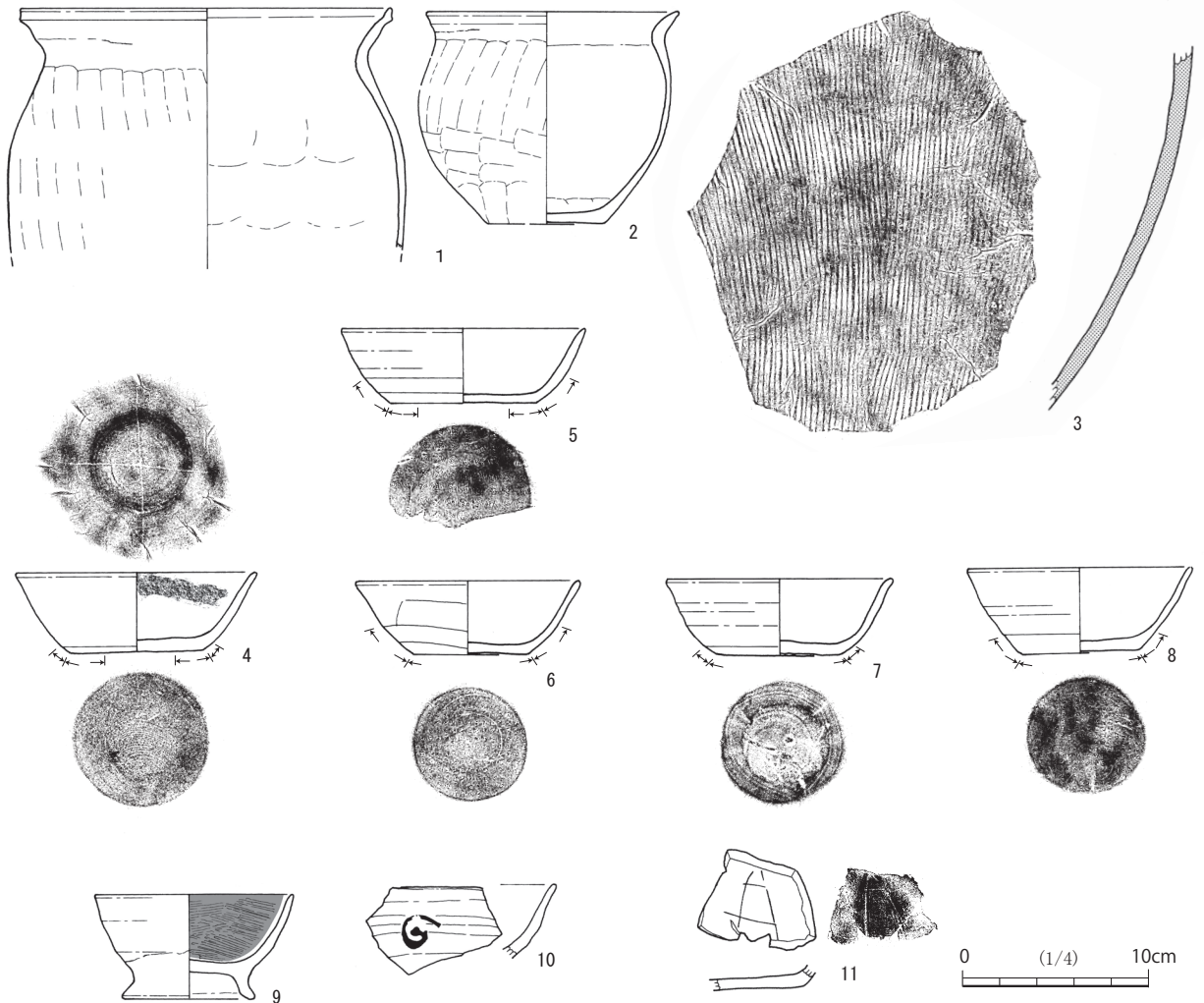


S120土層説明

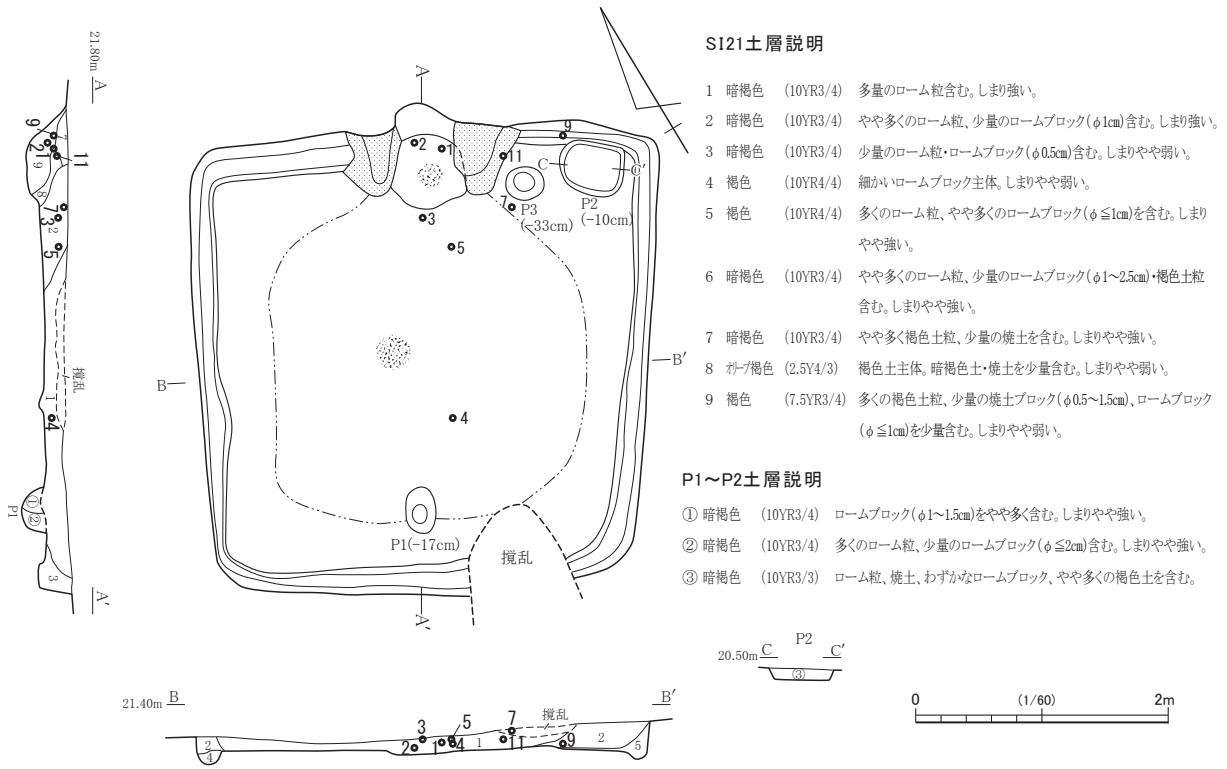
- 1 黒褐色 (10YR3/2) ローム粒少量、わずかな焼土粒・ロームブロック(φ≤2cm)含む。しまりやや強い。
- 2 暗褐色 (7.5YR3/3) 多量の焼土、わずかなローム粒・炭化物粒を含む。しまり強い。
- 3 黒褐色 (10YR3/2) やや多くのローム粒、少量の焼土・炭化物粒を含む。しまりやや強い。
- 4 黒褐色 (2.5Y3/2) 多くのローム粒、少量のロームブロック、わずかな焼土粒含む。しまりやや弱い。
- 5 黒褐色 (10YR3/2) ローム粒を少量含む。しまりやや強い。
- 6 暗灰黄色 (2.5Y4/2) 多量のローム粒、まれにロームブロック(φ2cm)含む。しまりやや強い。
- 7 暗褐色 (7.5YR3/4) 多量の焼土、少量のローム粒含む。しまりやや弱い。
- 8 にぶい黄褐色(10YR4/3) 多量のローム粒、やや多くのロームブロック(φ1~2cm)含む。しまりやや強い。
- 9 暗褐色 (10YR3/4) 少量のローム粒含む。しまりやや強い。
- 10 暗褐色 (10YR3/3) 少量のローム粒、わずかなロームブロック(φ1~2cm)・炭化物粒含む。しまりやや強い。
- 11 暗褐色 (10YR3/3) 少量のローム粒・炭化物片(φ≤1cm)、わずかな焼土粒を含む。しまりやや強い。
- 12 暗褐色 (10YR3/3) P1覆土。多量のローム粒・ロームブロック(φ1~3cm)を含む。しまり強い。



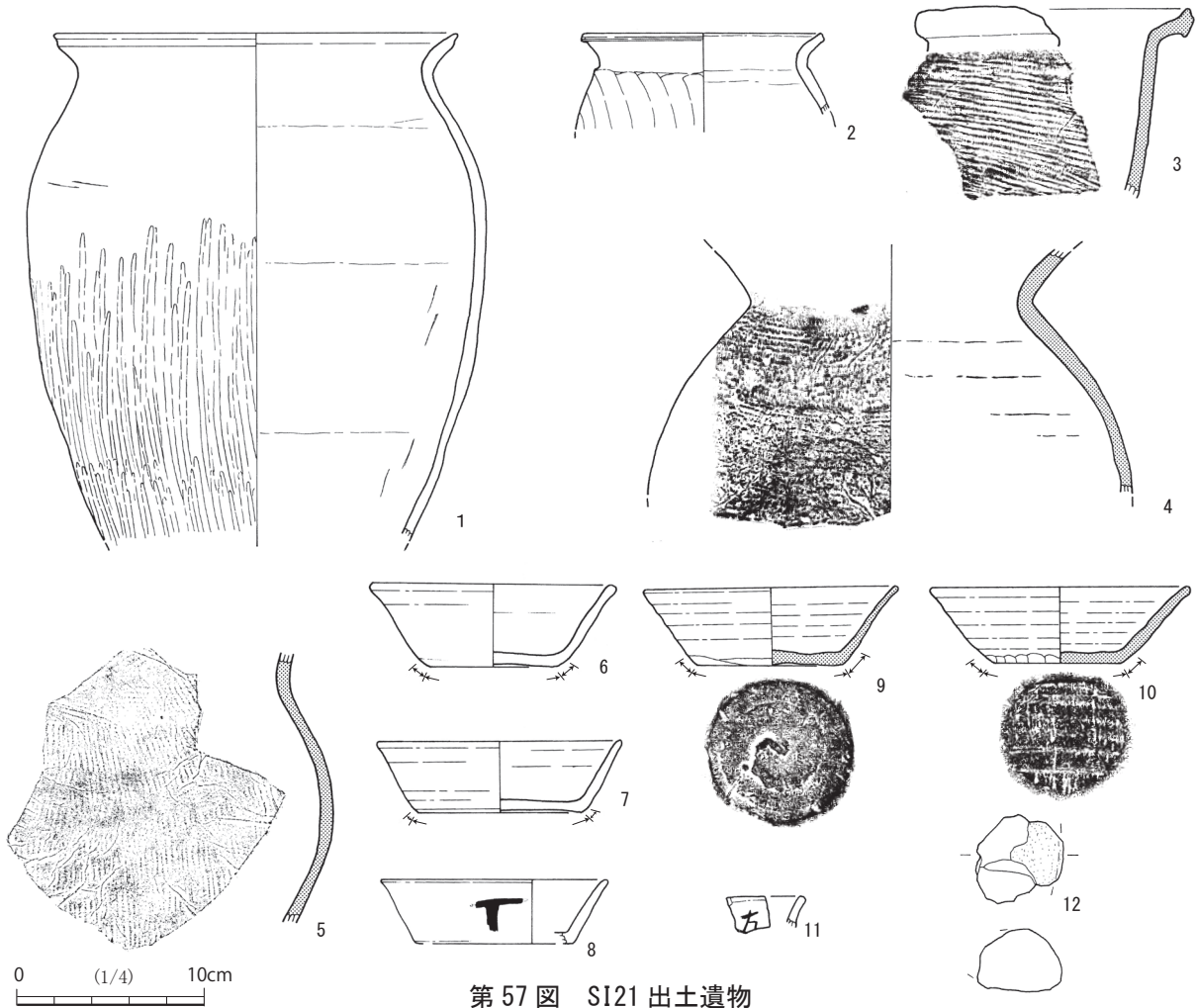
第54図 S120 実測図

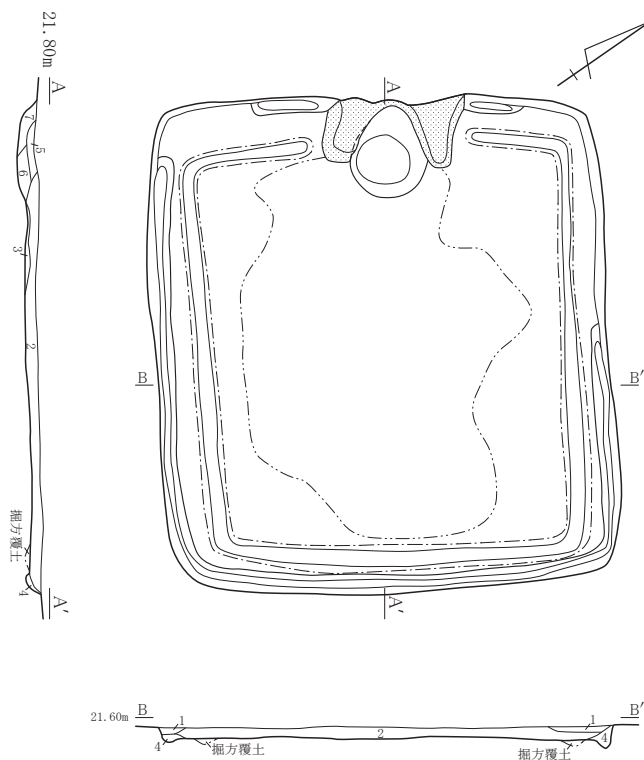


第55図 S120 出土遺物



第56図 S121実測図

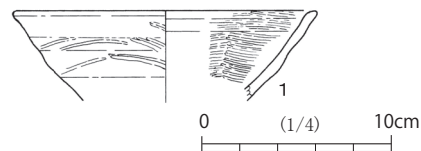
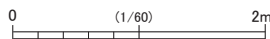




第 58 図 SI22 実測図

SI22土層説明

- 1 黒褐色 (10YR3/2) 黒褐色土を主体とし、ローム粒わずかに含む。やわらかくしまりない。
- 2 暗褐色 (10YR3/3) 黒褐色土を主体とし、炭化物粒・焼土わずかに含む。しまりない。
- 3 にぶい黄褐色 (10YR4/3) 黒褐色土を主体とし、ロームブロックわずかに含む。固くしまりある。
- 4 黒褐色 (10YR2/2) 黒褐色土を主体とし、ローム粒わずかに含む。貼り床の一部。
- 5 にぶい赤褐色 (5YR5/4) 焼土化したロームブロック多く、暗褐色土わずかに含む。やや柔らかい。
- 6 灰褐色 (5YR4/2) 暗褐色土を主体、焼土わずかに含む。固くしまりある。
- 7 にぶい赤褐色 (5YR4/3) 暗褐色土を主体、焼土わずかに含む。固くしまりある。



第 59 図 SI22 出土遺物

呈し3.15×2.8mの大きさを測る。主軸方位はN-13°Eである。床面は直床であり、南壁寄りに幾らかの硬化面がみられた。柱穴の検出はなく、周溝は北辺のカマド部を除いて全周している。カマドは北辺中央に設けられ、火床を遺すのみとなっている。火床はよく焼けていた。覆土は殆どみられず、遺物も土師器、須恵器の小片が検出されただけである。1は土師器の坏、2は須恵器の甕である。

本遺構の廃棄時期は8世紀後半から9世紀前半と考えられる。

SI28 (第70・71図 図版22 第5表)

調査区の南東端に位置し、一部南西隅が調査区外となっている。平面形はやや胴張りの方形を呈し、南北軸で3.9mの大きさを測る。主軸方位はN-46°Wである。掘り込みの深さは10cmほどで、床面は直床である。中央部を中心に堅緻となっている。南西隅を除いて主柱穴は3基、南辺側に梯子穴1基が検出されている。主柱穴の掘り込みは45cmほどの深さを測り、底面には柱アタリが観察された。周溝は北辺のカマド部、南側の未調査部位を除いて全周している。カマドは天井部が崩落し、袖部が遺存しているのみである。燃烧室側壁、火床共に被熱がみられた。

覆土はローム粒を含んだ暗褐色土が一様に堆積していた。

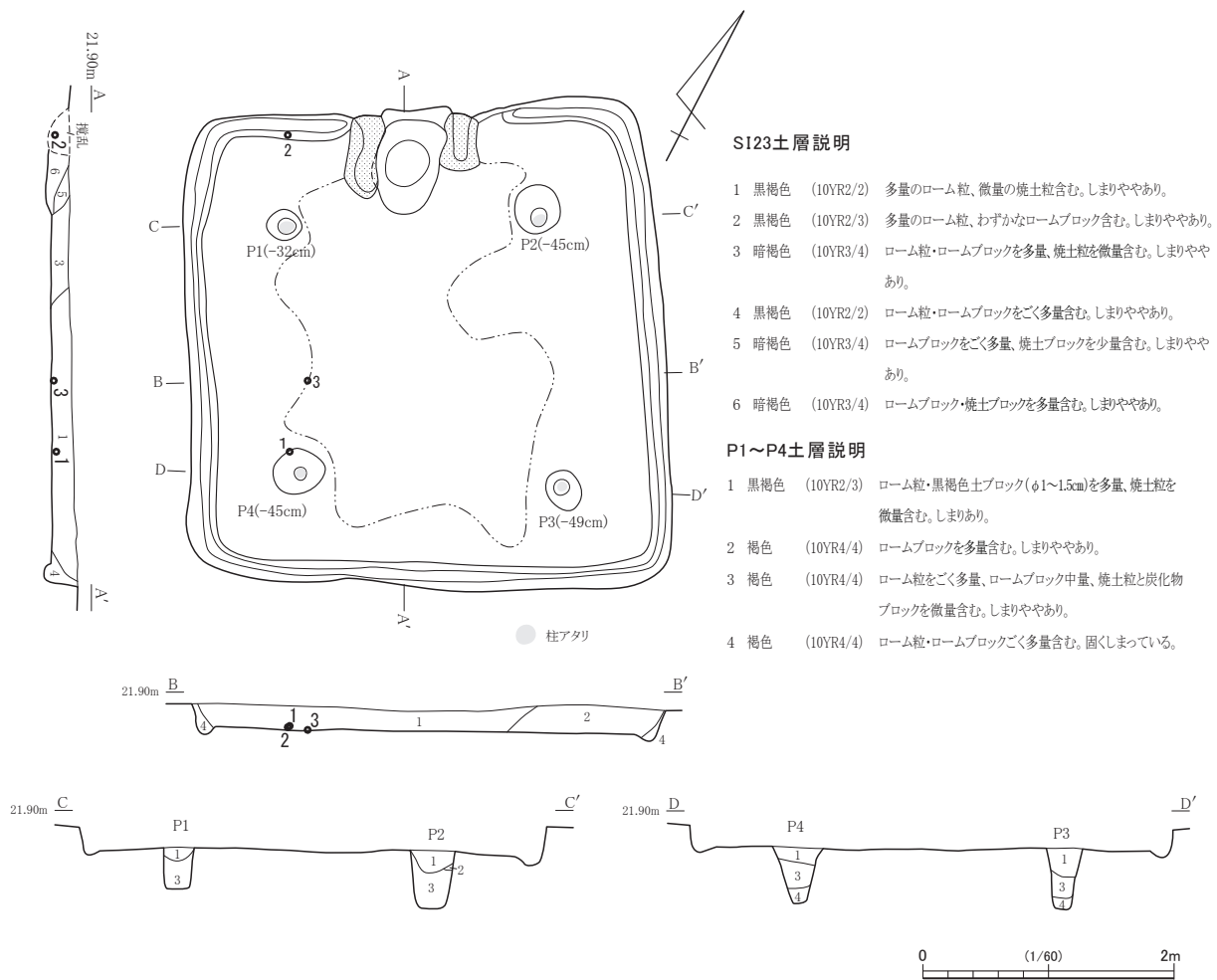
遺物は少なく、ほぼ床面上で出土している。1は武蔵型土師器の甕、2は底面に木葉痕を遺す鉢、3も底面に木葉痕を遺す坏、4は底面に木葉痕を遺す手捏である。

本遺構の廃棄時期は8世紀後半から9世紀前半と考えられる。

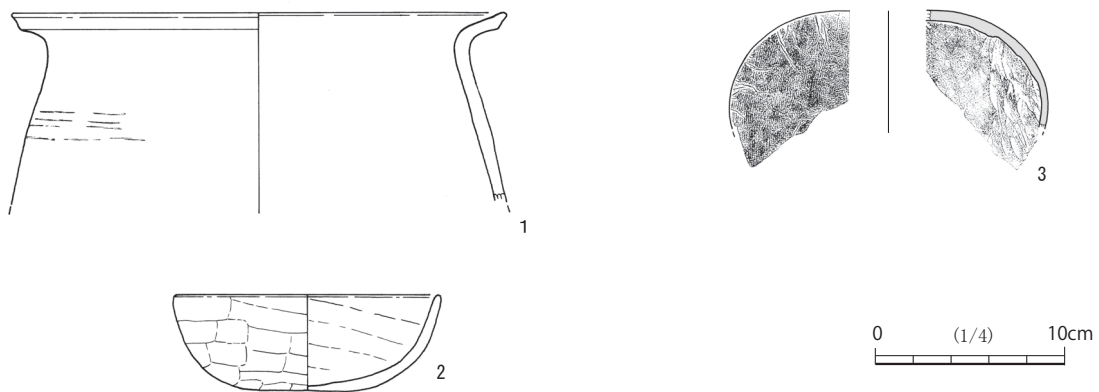
SI29 (第72・73図 図版23 第5表)

調査区の東側に位置し、SI30、SK16を切り、SB14に切られている。平面形は北東-南西に長い隅丸の長方形を呈する。主軸方位はN-50°Wである。大きさは4.1×3.4m、掘り込みの深さ50cmを測る。

床面は直床であり、中央部を中心に堅緻となっている。主柱穴は検出されず、南東辺寄りにP2梯子穴、そして、壁下にP3～P8の6基が検出されている。また、中央部付近にはP1が検出されているが、用途は不詳である。周溝は北西辺に位置するカマド部を除いて全周している。カマドは比較的大きく、天井部が崩落しているが、袖部



第 60 図 SI23 実測図

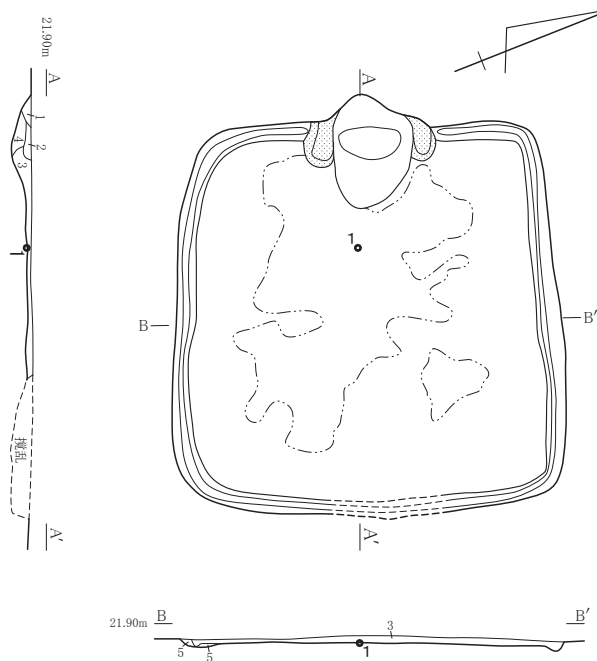


第 61 図 SI23 出土遺物

は比較的良好に遺っている。燃焼室側壁、火床共によく焼けており、煙道部はやや急な立ち上がりをみせている。煙出し部は60cmほど壁外に至っている。覆土は床面上には暗褐色土が一樣に堆積し、その上層にはローム粒を多く含んだ黒褐色土が厚く堆積していた。

遺物は土師器、須恵器など大半が床面上の8層中に検出されている。1は土師器の小型甕、2、3は須恵器の甕、4～19は土師器の坏であり、10、15には墨書がみられ、12、13、そして、16～19にはいずれも「五」の刻書がみられる。22～24は土師器の皿、20は土師器坏の底部を再利用した土製円盤、21は高台部を持つ台、25、26は摩耗痕のある礫であり、27は砥石片である。

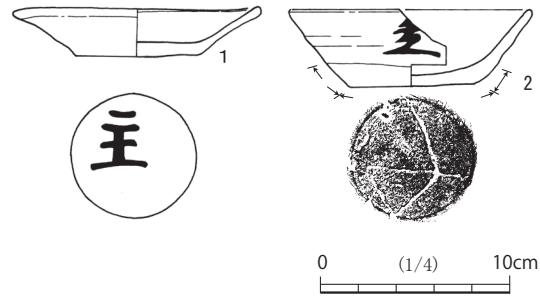
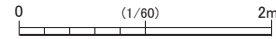




第 62 図 SI24 実測図

SI24土層説明

- 1 暗褐色 (10YR3/4) ロームブロックごく多量、焼土ブロック中量含む。しまりあり。
- 2 黒褐色 (10YR2/3) ローム粒・焼土ブロックを多量含む。やや砂質に富む。しまりあり。
- 3 黒褐色 (10YR2/3) ロームブロック・黒褐色土ブロック多量、焼土粒を微量含む。ややしまりあり。
- 4 暗褐色 (10YR3/4) ロームブロックごく多量、焼土粒を微量含む。しまりあり。
- 5 黒褐色 (10YR2/3) ローム粒を多量含む。ややしまりあり。



第 63 図 SI24 出土遺物

本遺構の廃棄時期は9世紀前半と考えられる。

SI30 (第74・75図 図版24 第5表)

調査区の東側に位置し、3号焼土跡を切り、SI29、SK15に切られている。平面形は5.6×5.5mを測る方形を呈している。主軸方位はN-53°Wである。掘り込みの深さは30cmほどで床面は直床となり、ほぼ平坦である。全体的に堅緻であり、主柱穴は南側の重複部を除いてP1、2、4の3基、そして、補助柱か建て替え柱のP3、5が検出されている。この主柱穴から壁に掛けて間仕切り溝が検出されている。また、東隅にはP6貯蔵穴が検出されている。周溝は検出部全周しているが、南辺中央部付近で収束している。炉跡がP1、P2間に設けられている。掘り込みの深さは10cmに満たないが、底面はよく焼け赤化していた。なお、床面全域に亘って、疎らではあるが、焼土、炭化材が散在しており、所々で赤化面もみられる。覆土はロームブロックを多く含んだ暗褐色土が南側から流れ込んでおり、その上層に黒褐色土が堆積している。

遺物は少なく、1. 土師器の甕と、2、3 赤彩の坏が2点出土している。

本遺構の廃棄時期は5世紀後半である。

SI31 (第76・77図 図版24 第5表)

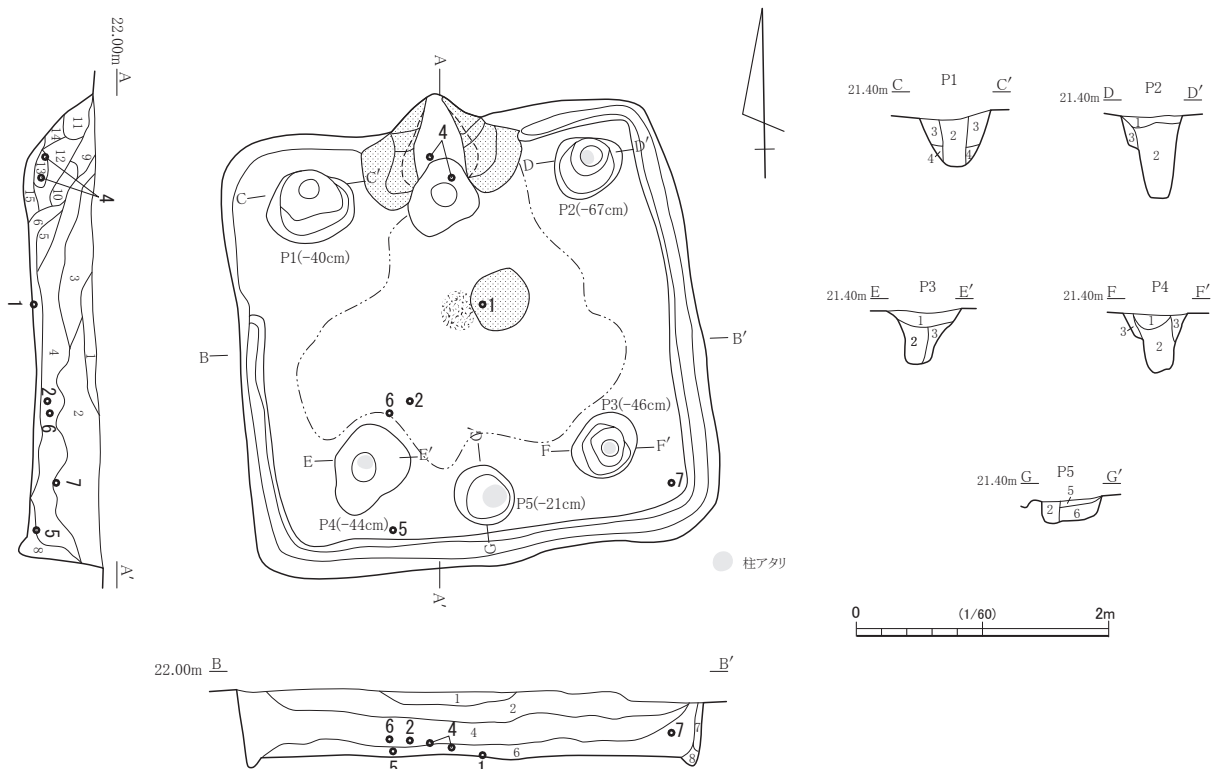
調査区の東側に位置し、西辺は攪乱坑によって削平されている。平面形はやや隅丸の方形を呈し、3.25×3.1mの大きさを測る。確認面からの掘り込みの深さは浅く15cmほどである。床面は直床となるが、とくに堅緻な部位はない。柱穴はP1、P2の2基が検出され、P3は梯子穴と考えられる。周溝は西辺の攪乱部を除いて全周している。カマドはこの攪乱部に位置したと考えられ、主軸方位はN-67°Wとみられる。覆土は暗褐色土の2層流入後に1層黒褐色土が一気に堆積したと考えられる。

遺物はこの1層と共に廃棄されている。1は須恵器の甕、2は須恵器の甕片、3は土師器の円筒状鉢、4~7は土師器の坏、8は土師器皿である。5は外面黒色処理がされている。7には内面に刻書がみられ、8には「長」の墨書がみられる。

本遺構の廃棄時期は9世紀前半と考えられる。

SI32 (第78・79図 図版25 第5表)

調査区の東側に位置し、SI33、SB16に重複され、北側、南西辺を切られている。SI36とも重複し、これを切っ



**S125土層説明**

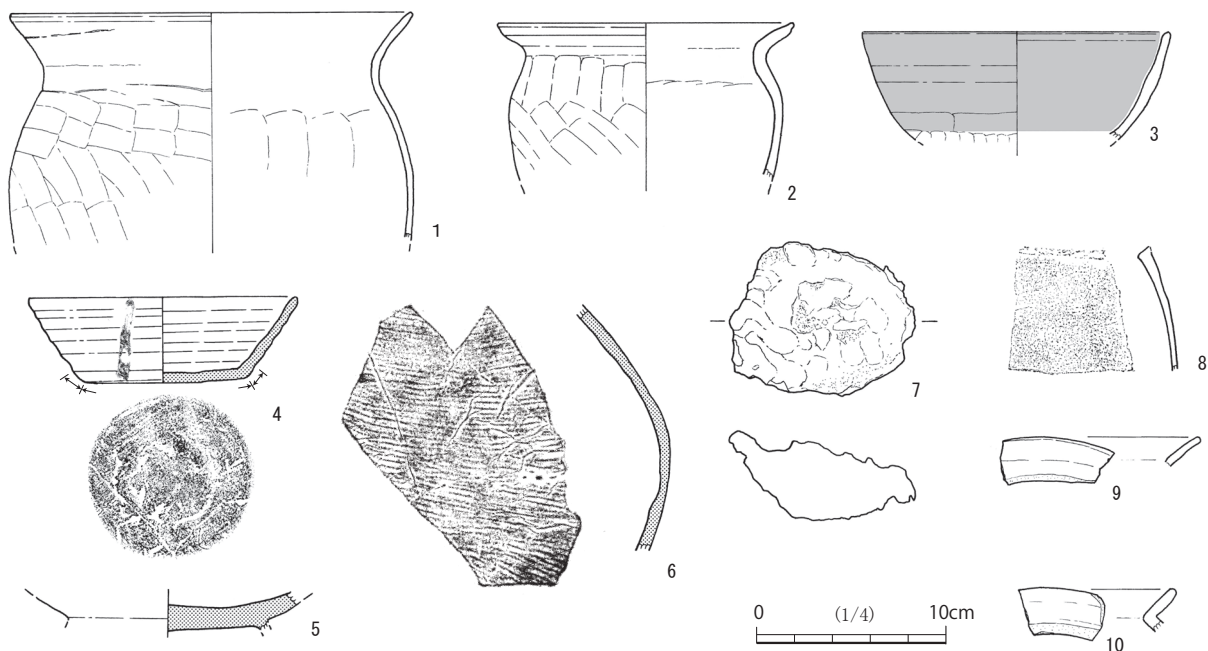
- 1 黒褐色 (10YR2/2) ローム粒中量、黒褐色土ブロックを多量含む。しまりあり。
- 2 黒褐色 (10YR2/3) ローム粒多量、ロームブロックを中量、焼土粒を微量含む。しまりあり。
- 3 暗褐色 (10YR3/4) ローム粒ごく多量、焼土粒少量含む。しまりあり。
- 4 暗褐色 (10YR3/4) ローム粒を多量、ロームブロックと焼土粒を微量含む。しまりあり。
- 5 暗褐色 (10YR3/4) ロームブロックを中量、焼土粒微量、褐灰色土ブロックを多量含む。しまりあり。
- 6 暗褐色 (10YR3/4) ロームブロック多量、焼土粒を微量含む。しまりあり。
- 7 暗褐色 (10YR3/4) ロームブロックをごく多量含む。しまりややあり。
- 8 黒褐色 (10YR2/3) ロームブロックを多量含む。しまりややあり。
- 9 暗褐色 (10YR3/4) ロームブロックを中量、焼土粒を微量、褐灰色土ブロックをごく多量含む。しまり強。
- 10 にぶい黄褐色 (10YR5/4) ロームブロック・焼土粒を微量、暗褐色土ブロック中量含む。しまり強。カマドソデ崩落土か。
- 11 褐色 (10YR4/4) ローム粒・焼土粒を微量、褐灰色土ブロックをごく多量含む。しまり強。

- 12 黒褐色 (10YR2/3) ロームブロック・焼土ブロックを中量含む。やや砂質に富む。しまりあり。
- 13 黒褐色 (10YR2/3) 焼土ブロックを多量、褐灰色土ブロックを中量含む。しまりややあり。
- 14 黒褐色 (10YR2/3) 焼土ブロック・褐灰色土ブロックを中量含む。しまりややあり。
- 15 黒褐色 (10YR2/3) ロームブロック・焼土ブロックを少量含む。しまり強。灰層か。

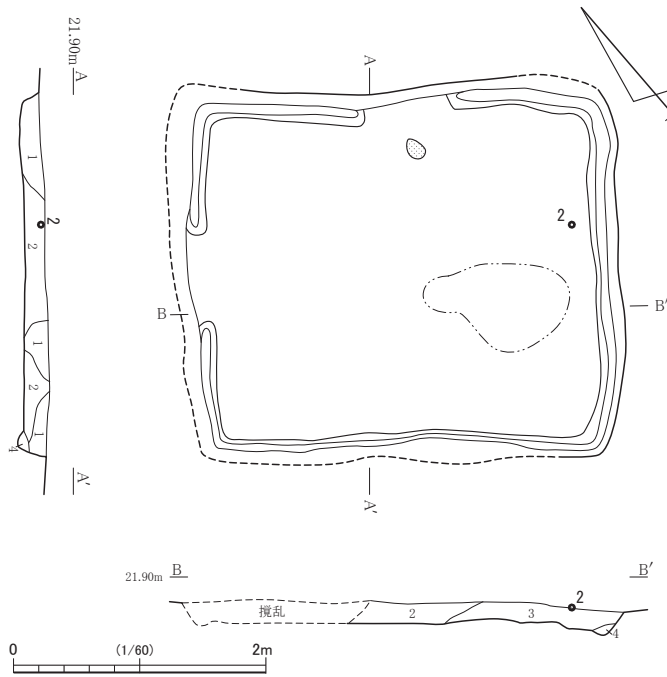
**P1～P5土層説明**

- 1 黒褐色 (10YR3/2) 暗褐色土主体。炭化物粒・焼土粒わずかに含む。やわらかくしまりなし。
- 2 灰黄褐色 (10YR4/2) 暗褐色土主体。ロームブロック多く、やわらかい。P1には砂が含まれる。
- 3 にぶい黄褐色 (10YR4/3) 暗褐色土主体。ロームブロック多く含む。根固めの土か。
- 4 褐色 (10YR4/4) 暗褐色土主体。ロームブロックやや多く含む。固くしまりある。
- 5 暗褐色 (10YR3/3) 暗褐色土主体。ロームブロックわずかに含む。
- 6 灰黄褐色 (10YR4/2) 暗褐色土主体。ロームブロック多く含む。固くしまりあり。

第 64 図 S125 実測図



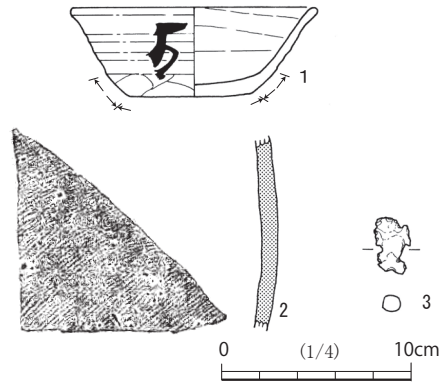
第 65 図 S125 出土遺物



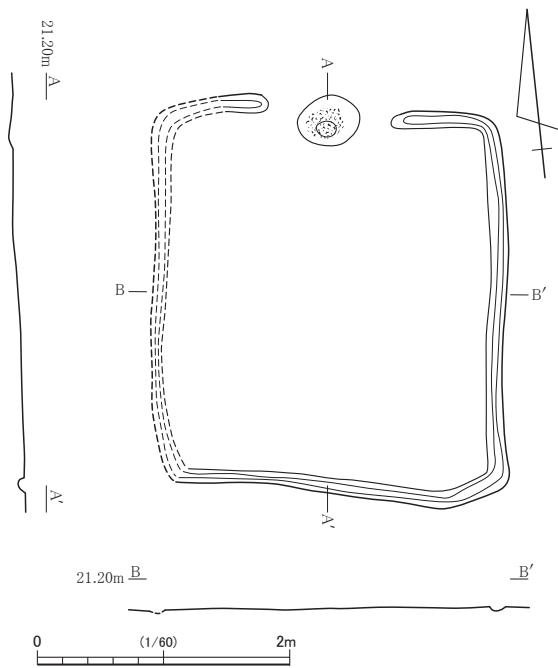
第 66 図 S126 実測図

S126土層説明

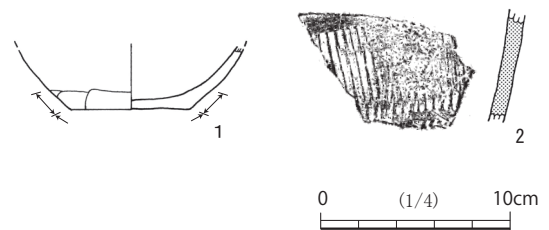
- 1 灰黄褐色 (10YR4/2) ロームブロックわずかに含む。やや固くしまりある。
- 2 黄褐色(10YR4/3) 暗褐色土を主体とし、ロームブロックわずかに含む。固くしまりある。
- 3 灰黄褐色 (10YR4/2) ロームブロック多く含む。やわらかくしまりない。
- 4 暗褐色 (10YR3/3) 暗褐色土を主体とし、ロームブロックわずかに含む。やわらかくしまりない。周溝埋設の土。



第 67 図 S126 出土遺物

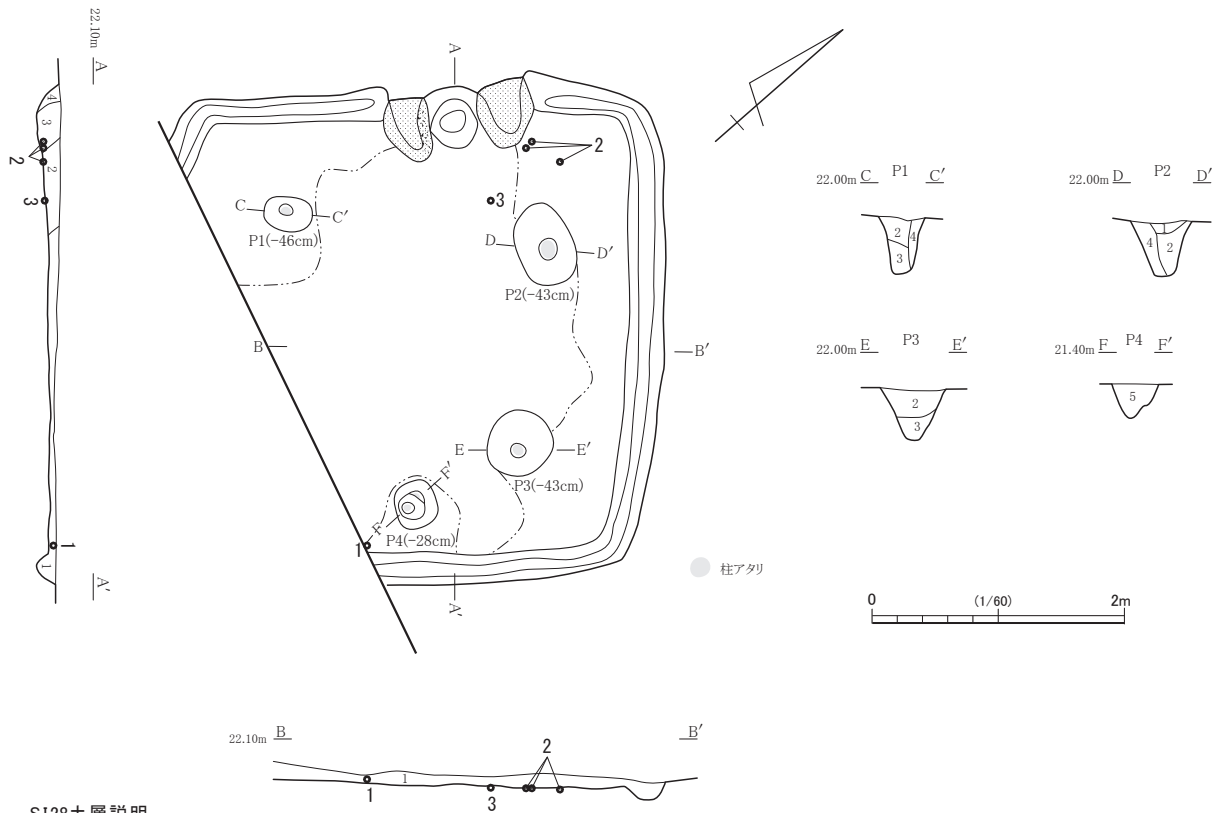


第 68 図 S127 実測図



第 69 図 S127 出土遺物

ている。平面形はやや歪みがみられるが、4.0×4.1mを測る方形を呈している。主軸方位はN-44°Eである。掘り込みの深さは25cmほどを測る。床面は貼床で平坦であり、比較的堅緻となっている。支柱穴はなく、南西辺寄りにP1の梯子穴がみられる。また、壁柱穴が6基検出され、周溝がカマド部を除いて全周している。カマドは北東辺中央に設けられ、袖部は遺存するが天井部は崩落している。火床はよく焼けており、煙道は緩やかに立ち上がりつつ、煙出し口は壁外に15cmほど半円状に掘り込まれている。覆土は黒褐色土を主体に堆積がみられ、遺物は北東、南東側からの流れ込みが目立っている。



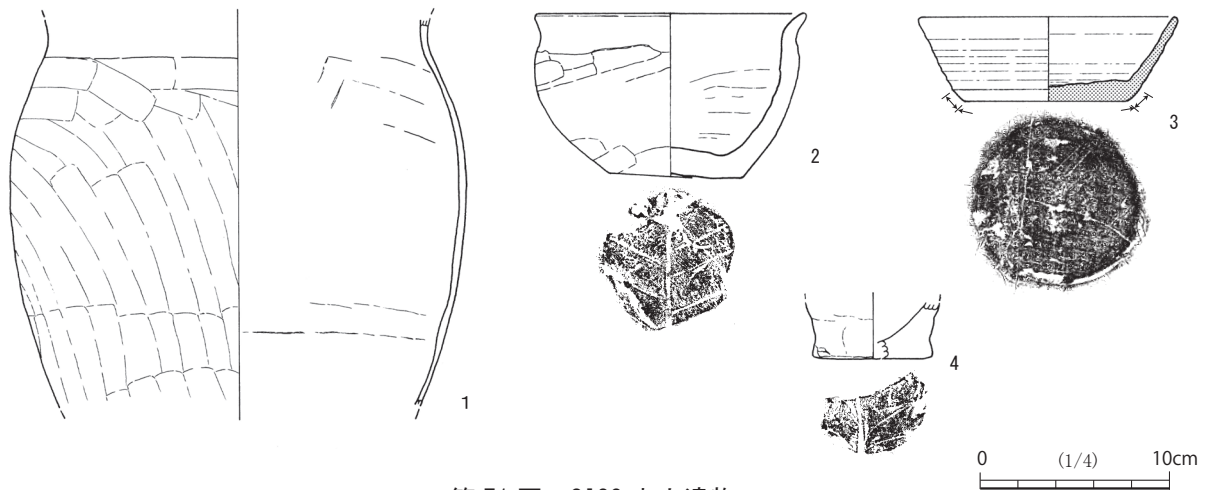
**SI28土層説明**

- 1 褐色 (10YR4/4) ローム粒・黒褐色土粒を多く含む。やや固くしまりある。
- 2 暗褐色 (10YR3/4) ローム粒・焼土粒をわずかに含む。やや柔らかくしまりない。
- 3 明赤褐色 (2.5YR5/6) 焼土ブロックやや多く含む。固くしまりある。
- 4 赤褐色 (5YR5/4) 砂を多く、焼土粒をわずかに含む。柔らかくしまりない。

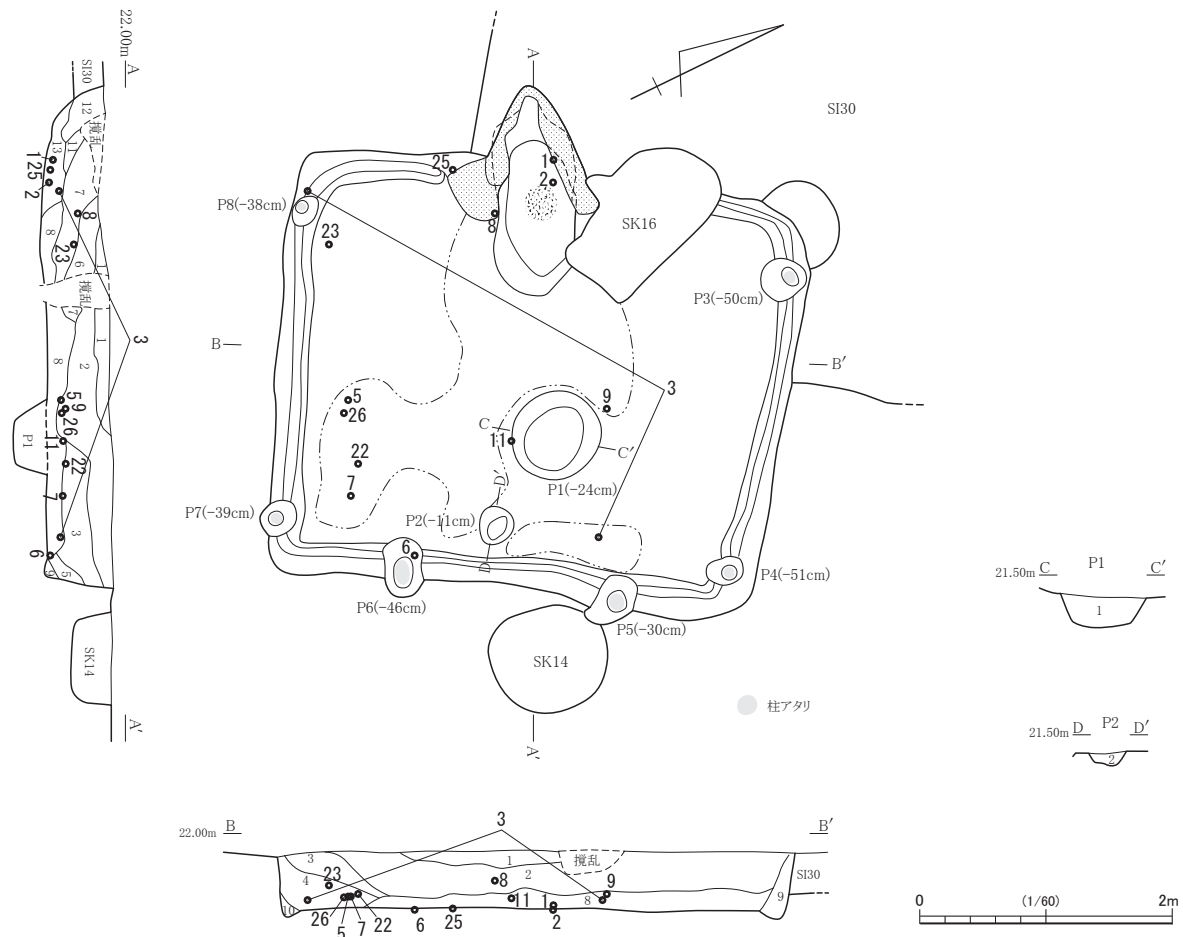
**P1～P4土層説明**

- 1 暗褐色 (10YR3/4) ローム粒多量、ロームブロック中量含む。ややしまりあり。
- 2 暗褐色 (10YR3/4) ロームブロック(φ3~6cm)多量含む。ややしまりあり。
- 3 黒褐色 (10YR2/3) ロームブロック多量、黒褐色土ブロック少量含む。ややしまりあり。
- 4 褐色 (10YR4/3) ロームブロックごく多量含む。しまりがある。ピット掘り方覆土。
- 5 黒褐色 (10YR4/3) ローム粒・ロームブロック(φ≤1cm)多く含む。しまり強い。

**第70図 SI28 実測図**



**第71図 SI28 出土遺物**



SI29土層説明

- |   |  |
|---|--|
| 1 黒褐色 (10YR2/2) ローム粒中量、焼土粒ごく微量含む。ややしまりあり。                 | 11 暗褐色 (10YR3/3) ローム粒ごく多量、焼土粒中量、褐灰色土ブロックを少量含む。ややしまりあり。                     |
| 2 黒褐色 (10YR2/3) ローム粒ごく多量、焼土粒を微量含む。ややしまりあり。                | 12 灰黄褐色 (10YR4/2) ローム粒と暗褐色土ブロックを多量、焼土ブロックを微量含む。しまりあり。カマド構築材。               |
| 3 黒褐色 (10YR2/2) ローム粒多量、ロームブロックと焼土ブロック少量含む。ややしまりあり。        | 13 暗褐色 (10YR3/4) 焼土粒・焼土ブロックを多量、灰黄褐色土粒をごく多量含む。やや砂質に富む。ややしまりあり。              |
| 4 黒褐色 (10YR2/3) ローム粒と暗褐色土ブロックを少量含む。ややしまりあり。               |  |
| 5 暗褐色 (10YR3/4) ロームブロックを多量、焼土粒を微量含む。ややしまりあり。              | <b>P1～P2土層説明</b>   |
| 6 暗褐色 (10YR3/4) ローム粒ごく多量、焼土粒を微量含む。しまりあり。                  | 1 黒褐色 (10YR3/2) 多くのローム粒、やや多くのロームブロック(φ≤1.5cm)、少量の焼土ブロック(φ0.5～1cm)を含む。しまり強い |
| 7 暗褐色 (10YR3/3) ロームブロックを少量、焼土ブロックを微量、褐灰色土ブロックを多量含む。しまりあり。 | 2 暗褐色 (10YR3/3) 多くのローム粒含む。しまり弱い。   |
| 8 暗褐色 (10YR3/4) ローム粒中量、焼土粒少量、暗褐色土ブロックを多量含む。しまりあり。         |  |
| 9 黒褐色 (10YR2/3) ロームブロックを多量含む。しまりあり。                       |  |
| 10 黒褐色 (10YR2/3) ロームブロックをごく多量含む。しまりあり。                    |  |

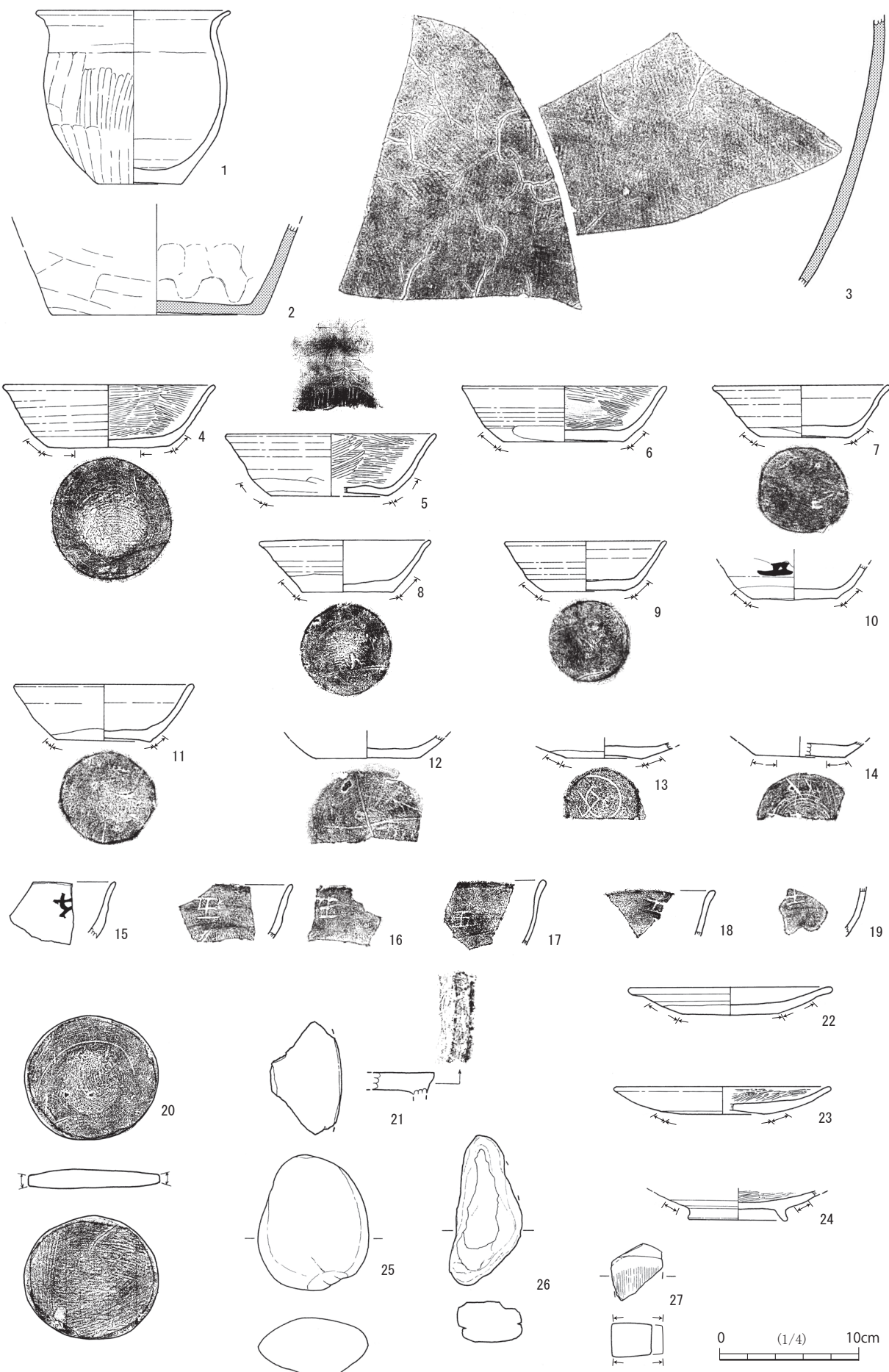
第72図 SI29実測図

出土遺物は少ないが、1は須恵器の甕、2、3、7は土師器の坏、4、8は須恵器の坏、5は土師器の蓋、6は高坏の脚である。2、3、7、8には刻書がみられる。2と7には「井」状の線刻、3には「田」が刻まれる。9は鉄滓である。

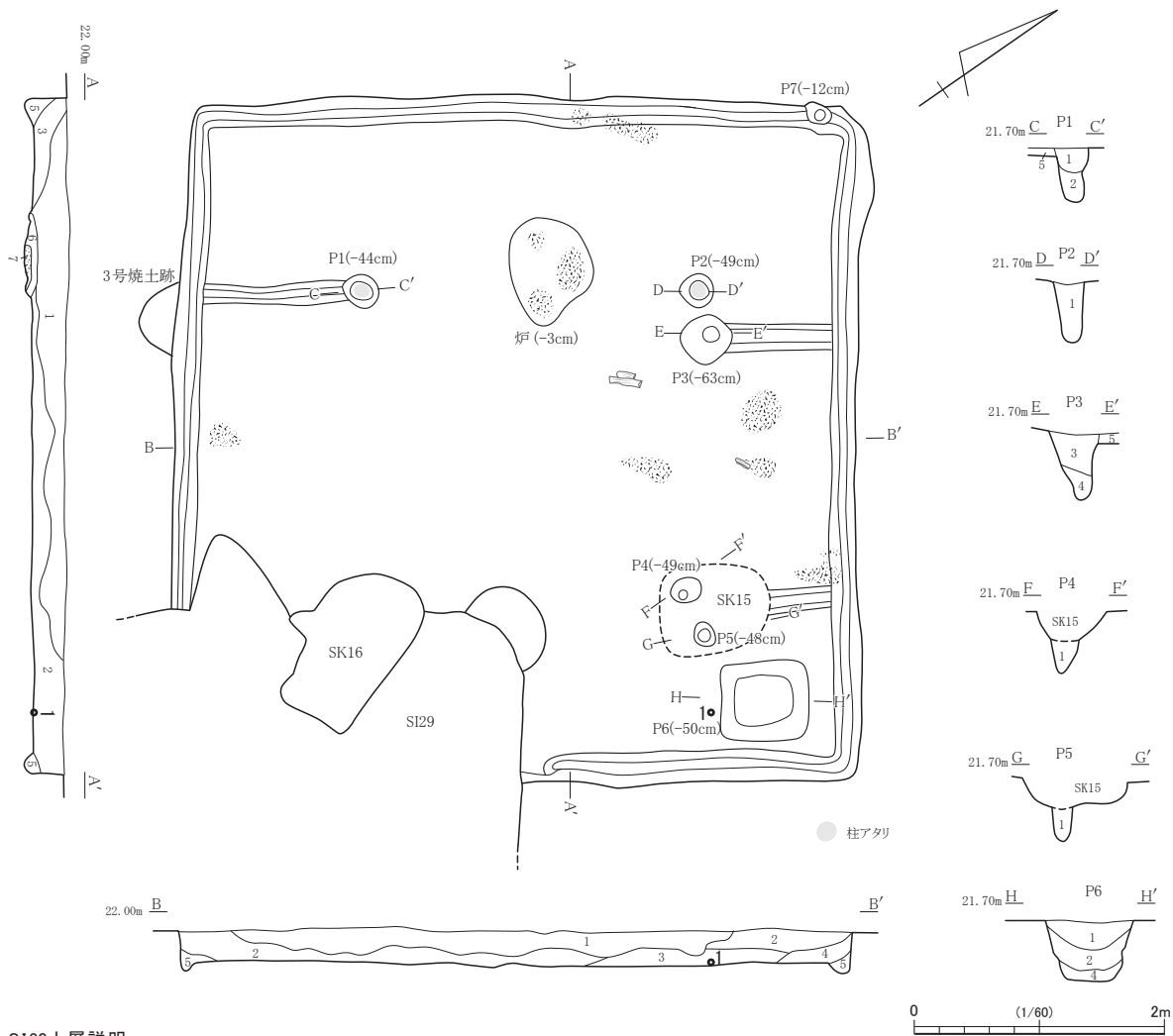
本遺構の廃棄時期は8世紀後半から9世紀前半と考えられる。

SI33 (第80・81図 図版25 第5表)

調査区の東側に位置し、SI32・SI36と重複し、これらを切り、SB16、SK20に北東壁上、北西側を切られている。平面形は北東一南西にやや長い長方形を呈し、4.0×3.5mの大きさを測る。主軸方位はN-60°Wである。掘り込みの深さは15cmほどであり、床面はほぼ直床であるが、とくに堅緻な部分はみられない。重複部分は貼床となっている。柱穴は精査したが、検出されていない。周溝はカマド部を除いて全周している。カマドは上面が削平され、SK20によって煙道部が切られており、袖部、火床の一部を遺すのみである。覆土は黒褐色土が床面上に広がるが、多くのロームブロックと少量の焼土粒を含んでいた。南西壁寄りに被焼面がみられるが、炭化材などは検出されていない。



第 73 图 S129 出土遺物



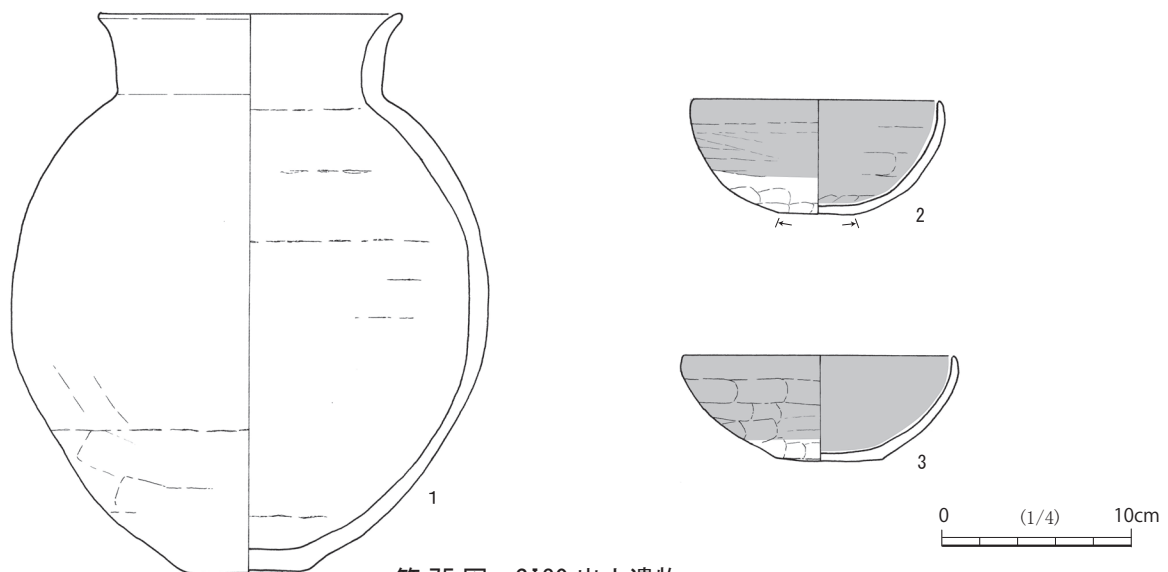
**S130土層説明**

- 1 黒褐色 (10YR2/3) ローム粒多量、焼土粒少量、暗褐色土ブロックを中量含む。しまりある。
- 2 暗褐色 (10YR3/4) ローム粒と暗褐色土ブロックを多量、焼土粒を微量含む。しまりある。
- 3 暗褐色 (10YR3/4) ロームブロックと黒褐色土ブロックを多量、焼土ブロックをまばらに含む。しまりある。
- 4 暗褐色 (10YR3/4) ロームブロックを中量、焼土粒をごく微量含む。しまりある。
- 5 暗褐色 (10YR3/4) ロームブロックをごく多量、焼土粒と炭化物ブロックをごく微量含む。しまりある。
- 6 暗褐色 (10YR3/4) ロームブロックと焼土ブロックを中量、黒褐色土ブロックを多量含む。やや砂質、炉灰層、ややしまりある。
- 7 暗赤褐色 (2.5YR3/6) 焼土化したローム、固くしまりある。

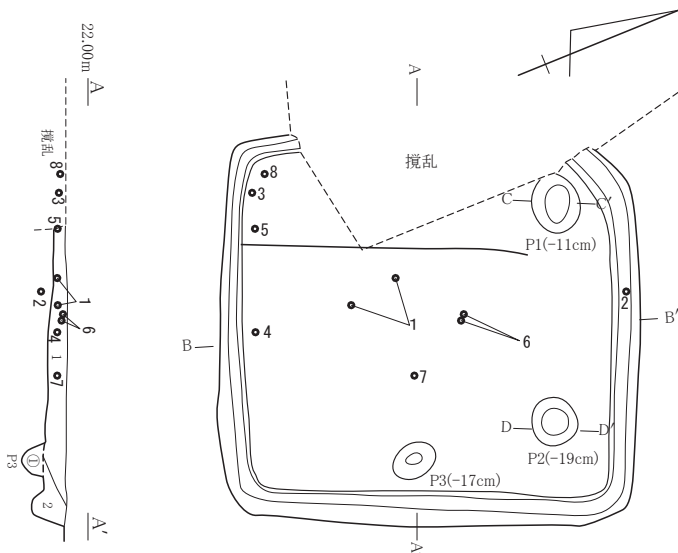
**P1~P6土層説明**

- 1 黒褐色 (10YR3/3) 黒褐色土主体、ローム粒、焼土粒わずかに含む。柔らかくしまりない。
- 2 黄褐色 (10YR5/6) ローム粒を多く含む。柔らかくしまりない。
- 3 褐色 (10YR4/4) ローム粒多く含む。柔らかくしまりない。
- 4 黄褐色 (10YR5/6) 暗褐色土主体、ローム粒多く含む。柔らかくしまりない。
- 5 黄褐色 (10YR6/5) ローム粒・暗褐色土主体。柔らかくしまりない。

**第74図 S130実測図**



**第75図 S130出土遺物**

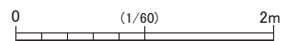
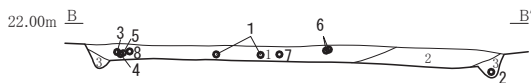
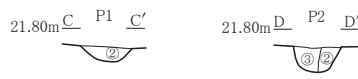


SI31土層説明

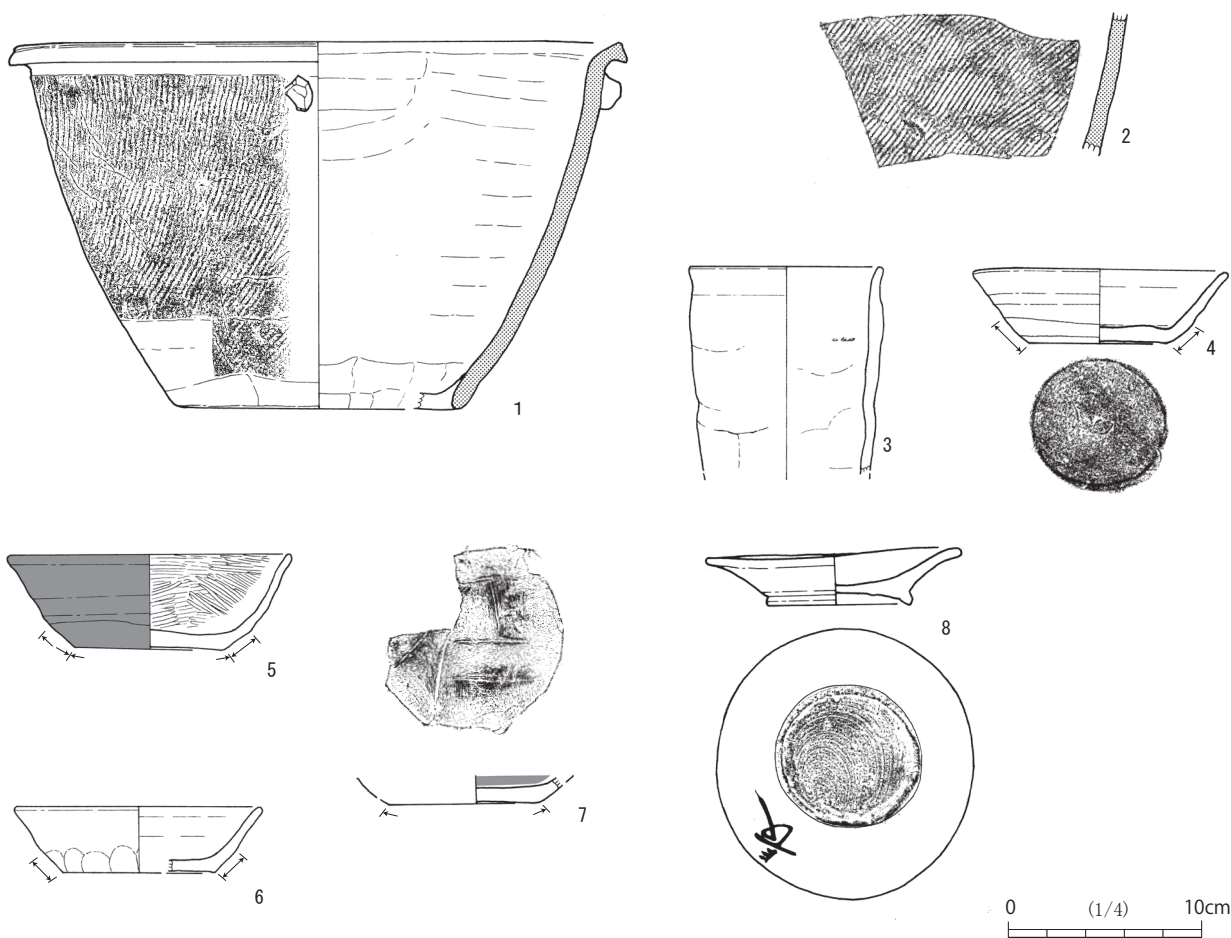
- 1 黒褐色 (10YR2/2) ローム粒と黒褐色土ブロック多量、焼土粒微量含む。しまりややあり。
- 2 暗褐色 (10YR3/3) ローム粒と黒褐色土ブロックを多量含む。しまりややあり。
- 3 暗褐色 (10YR3/3) ロームブロックごく多量含む。しまりややあり。

P1~P3土層説明

- ① 黒褐色 (10YR2/2) ローム粒ごく多量、炭化物ブロックごく微量含む。しまりややあり。
- ② 黒褐色 (10YR2/2) ローム粒ごく多量、ロームブロック中量含む。しまりあり。
- ③ 黒褐色 (10YR2/2) ローム粒・ロームブロックを多量含む。しまりあり。



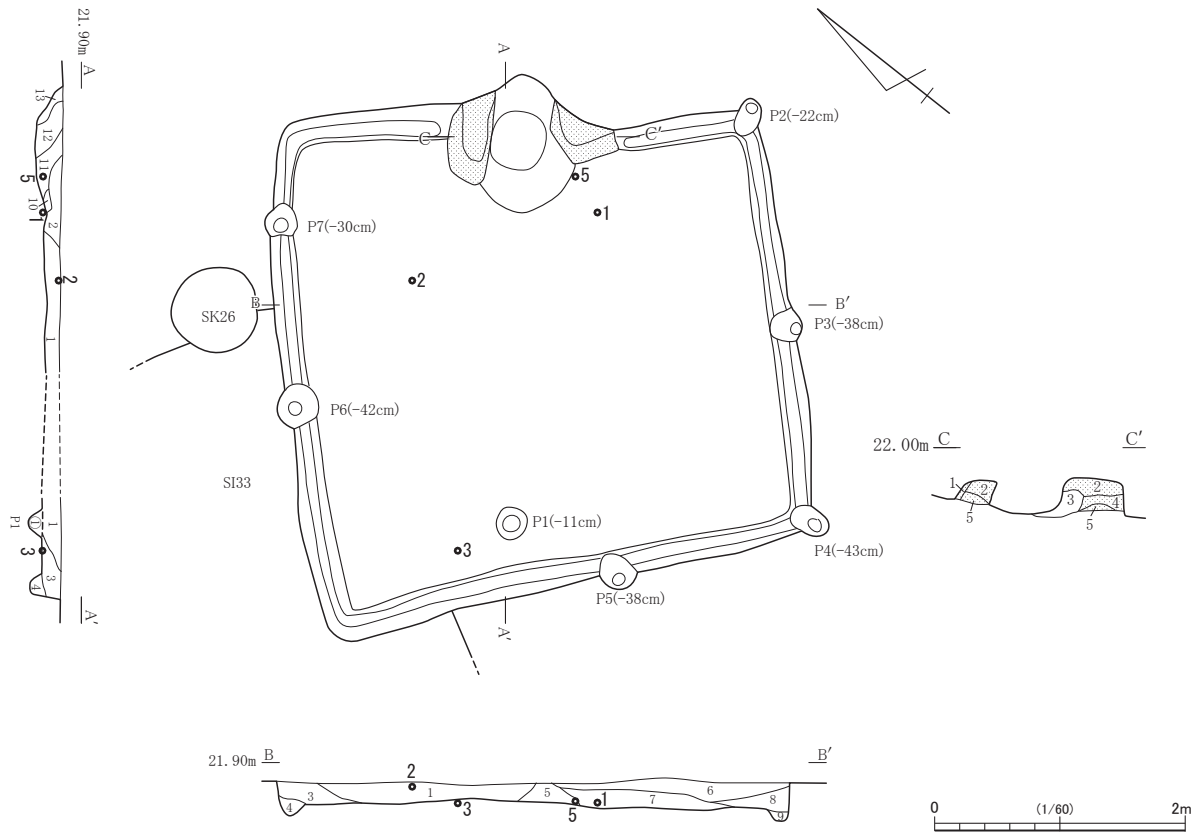
第76図 SI31 実測図



第77図 SI31 出土遺物

出土の遺物は少ない。1は土師器の坏、2は須恵器の甕、3は凝灰岩製の砥石片である。本遺構の廃棄時期は9世紀中頃から後半と考えられる。





**SI32土層説明**

- 1 黒褐色 (10YR2/3) やや多くのローム粒、わずかなロームブロック(φ ≤ 1.5cm)を含む。しまりやや強い。
- 2 黒褐色 (10YR2/3) 少量のローム粒、わずかなロームブロック(φ ≤ 0.5cm)、少量の灰褐色土を含む。しまりやや強い。
- 3 暗褐色 (10YR3/3) 多くのローム粒、少量のロームブロック(φ ≤ 1.5cm)含む。しまりやや強い。
- 4 暗褐色 (10YR3/3) 少量のローム粒含む。しまりやや弱い。
- 5 暗褐色 (10YR3/3) 少量のローム粒、多くの灰褐色土を含む。しまりやや強い。
- 6 黒褐色 (10YR2/3) 少量のローム粒・ロームブロック(φ ≤ 1.5cm)含む。しまり弱い。
- 7 黒褐色 (10YR2/2) ローム粒をごくわずか含む。ところどころ床面上に灰褐色土が堆積する。しまり強い。
- 8 黒褐色 (10YR3/2) 多くの灰褐色土、少量のローム粒、わずかな焼土粒を含む。しまり強い。
- 9 暗褐色 (10YR3/3) 少量のローム粒・ロームブロック(φ ≤ 1.5cm)含む。しまりやや弱い。
- 10 にぶい黄褐色(10YR5/3) 多量の灰褐色土を主とする。しまり強い。
- 11 暗褐色 (7.5YR3/3) 多量の焼土粒・焼土ブロック(φ 1.0cm)、少量の灰褐色土を含む。しまりやや弱い。

- 12 にぶい赤褐色(5YR4/4) 焼けた灰褐色土主体。しまりやや弱い。
- 13 灰褐色 (7.5YR5/2) 灰褐色土ブロック。しまりやや弱い。

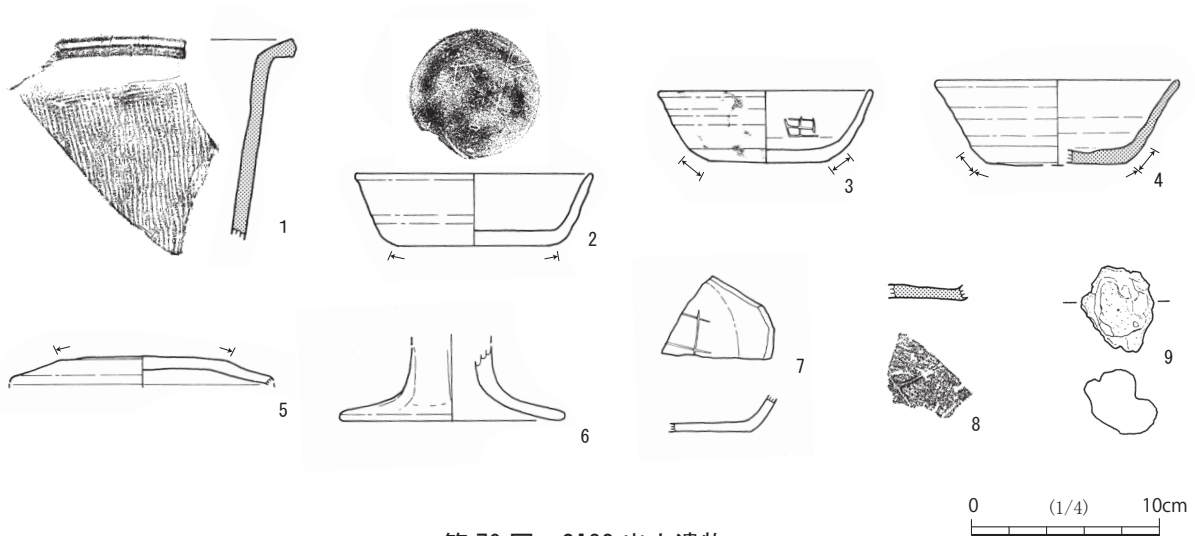
**P1土層説明**

- ① 暗褐色 (10YR3/3) 多くのローム粒、少量のロームブロック(φ 0.5cm)含む。しまり弱い。

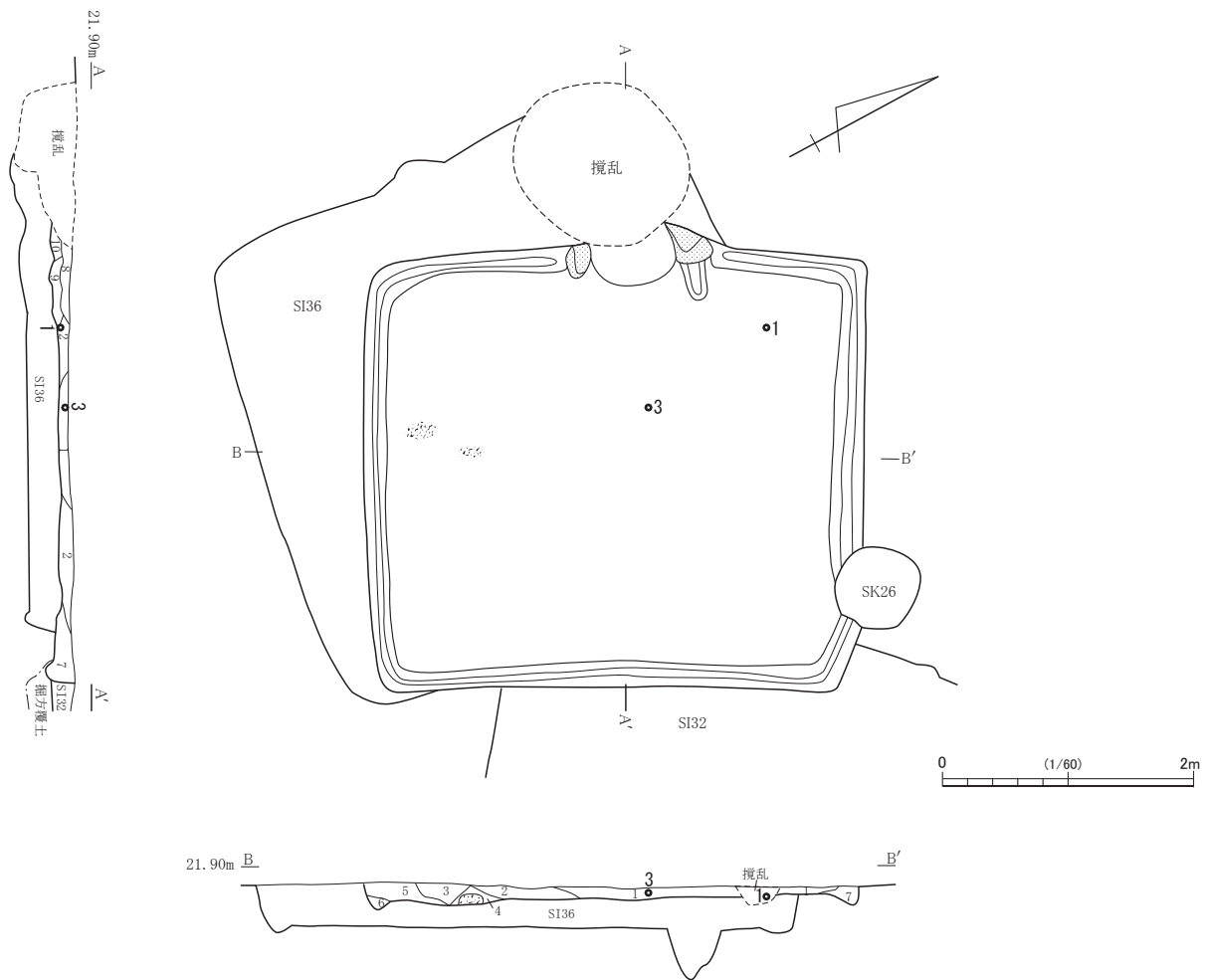
**カマド土層説明**

- 1 暗褐色 (10YR3/4) 灰褐色土ブロックを中量、焼土粒を微量含む。しまり強。
- 2 灰黄褐色 (10YR6/2) 暗褐色土ブロックを多量、焼土ブロックをごく微量含む。しまり強。
- 3 にぶい黄褐色(10YR4/3) 灰黄褐色土ブロック・暗褐色土ブロックをごく多量含む。しまり強。
- 4 にぶい黄褐色(10YR4/3) 灰黄褐色土粒・ローム粒を多量含む。しまり強。
- 5 褐色 (10YR4/6) 灰黄褐色土ブロック少量、暗褐色土ブロック中量含む。しまりあり。

第 78 図 SI32 実測図



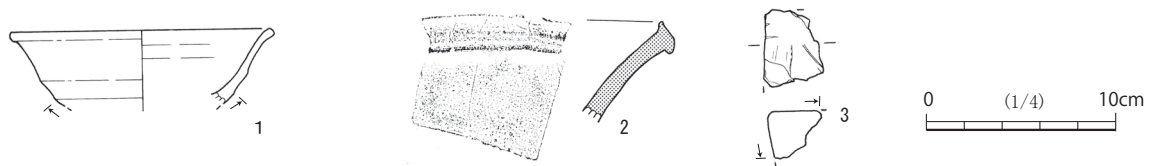
第 79 図 SI32 出土遺物



SI33土層説明

- |  |  |
|--|--|
| 1 黒褐色 (10YR2/3) ローム粒中量、焼土粒ごく微量含む。しまりある。                | 6 黒褐色 (10YR2/2) ローム粒ごく多量、焼土粒ごく微量含む。ややしまりある。            |
| 2 黒褐色 (10YR2/2) ロームブロックを多量、焼土粒を少量含む。しまりある。             | 7 黒褐色 (10YR2/2) ロームブロックと暗褐色土ブロックを多量、焼土粒を中量含む。ややしまりある。  |
| 3 黒褐色 (10YR2/2) ローム粒・焼土粒を中量含む。ややしまりある。                 | 8 黒褐色 (10YR2/3) 焼土粒・焼土ブロックをごく多量、暗褐色土ブロックを多量含む。ややしまりある。 |
| 4 黒褐色 (10YR2/3) ローム粒中量、焼土ブロックを多量含む。しまりある。              | 9 黒褐色 (10YR2/3) ローム粒と焼土粒を多量含む。ややしまりある。                 |
| 5 黒褐色 (10YR2/3) ローム粒少量、暗褐色土ブロック多量、灰褐色土ブロックを微量含む。しまりある。 | 10 黒褐色 (10YR2/3) ローム粒と焼土ブロックをごく多量含む。ややしまりある。           |

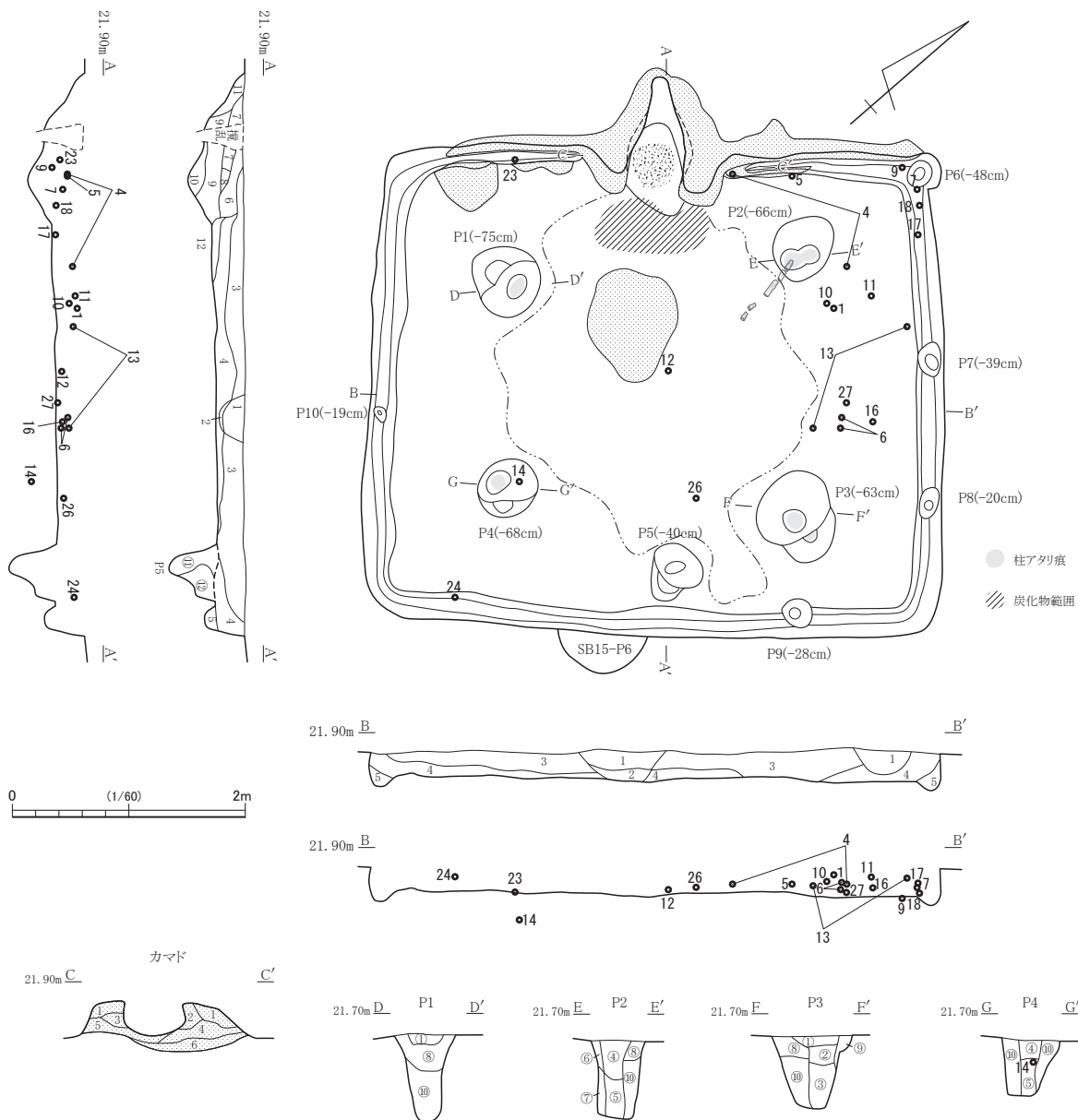
第80図 SI33実測図



第81図 SI33出土遺物

SI34 (第82・83図 図版25・26 第5表)

調査区の南東端に位置する。SD03、SB15に切られている。平面形は北西-南東にやや長い長方形を呈し、4.95×4.25mの大きさを測る。主軸方位はN-50°Wである。掘り込みの深さは25cmほどで、床面は四隅を除いて直床となっている。中央部を中心に堅緻であり、四隅も硬い。主柱穴は4基検出され、柱アタリが各柱穴底面に2ヶ所確認されることから建て替えが行われたことが窺える。周溝はカマド部を除いて全周し、北東側には壁柱穴が検出される。カマドは北西壁中央部に設けられ、天井部は崩落している。左右袖部とも比較的よく遣り、燃烧室側壁、火床ともよく焼けていた。カマドの焚口部前には炭化物、粘土が残置されていた。また、本遺構を特徴付けるのが、北西側の壁面全体にカマドの袖部から続く粘土貼りである。数センチの厚さであるが化粧貼りされて



**SI34 土層説明**

- 1 褐色 (10YR4/4) 暗褐色土をブロック状に、ローム粒わずかに含む。やわらかくしまりない。
- 2 黒褐色 (10YR2/2) 黒褐色土主体。炭化物粒をわずかに含む。固くしまりない。
- 3 に黄褐色 (10YR4/3) ロームブロックと炭化物粒をわずかに含む。固くしまりない。
- 4 褐色 (10YR4/4) ローム粒(小)、暗褐色土をわずかに含む。やわらかくしまりない。
- 5 暗褐色 (10YR3/4) ロームブロック(大)、黒褐色土をわずかに含む。固くしまりない。
- 6 に黄褐色 (10YR5/3) 焼土主体、黄褐色土・砂が焼土化したもの。やや固くしまりある。
- 7 褐色 (7.5YR4/3) 焼土化した山砂。一部に焼土ブロック含む。
- 8 に黄褐色 (10YR6/4) 褐色土混じりの砂。焼土わずかに含む。固くしまりある。
- 9 に赤褐色 (5YR5/4) 焼土化した山砂を主体とし、褐色土・灰をわずかに含む。やわらかくしまりない。
- 10 に赤褐色 (10YR3/4) 焼土・山砂・灰を含む。やわらかくしまりない。
- 11 に黄褐色 (5YR5/4) 焼土化した砂を主体とする。やわらかくしまりない。
- 12 暗赤褐色 (2.5YR3/6) 焼土化したローム。固くしまりある。

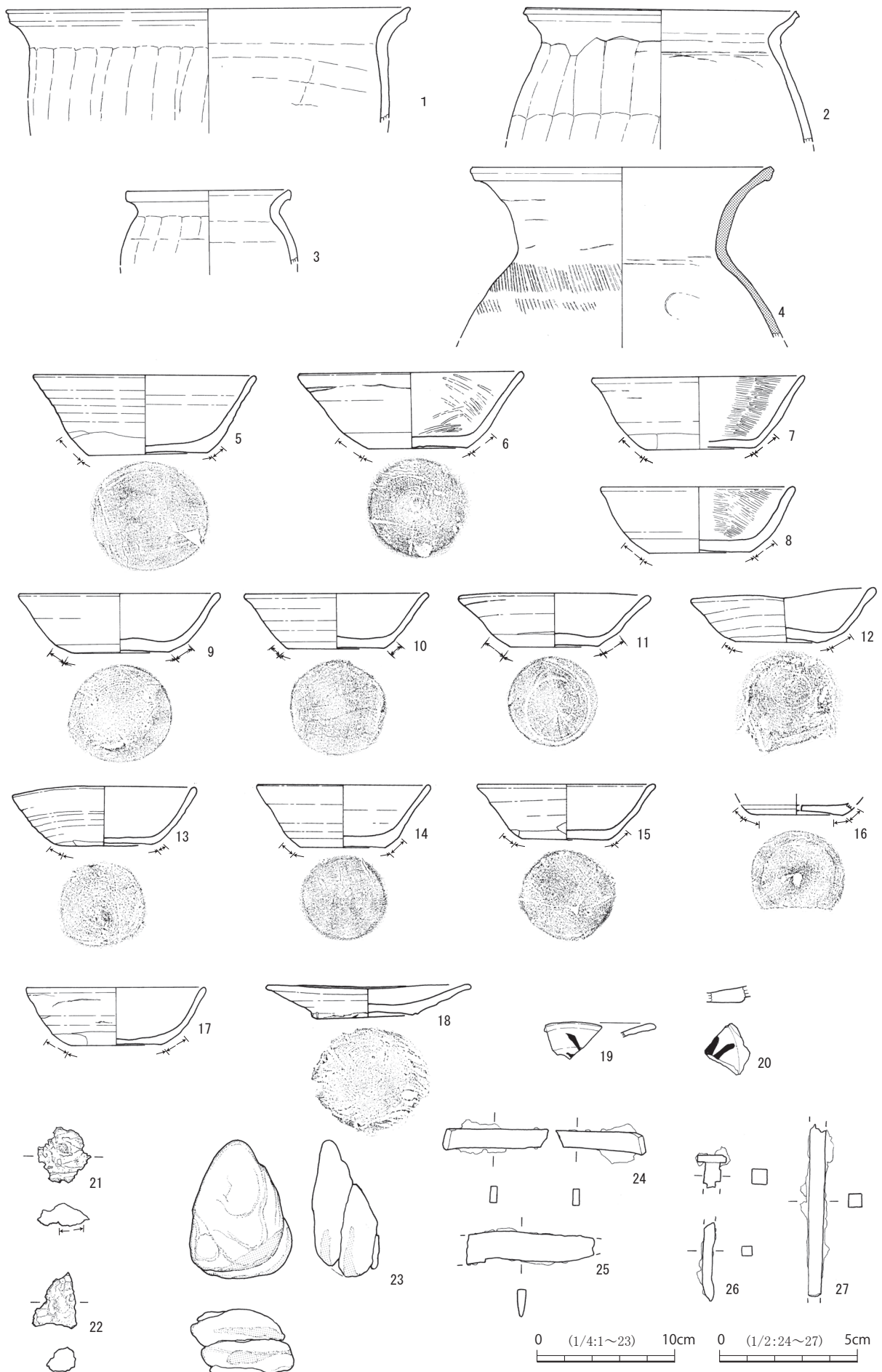
**カマド土層説明**

- 1 に黄褐色 (10YR5/4) 焼土粒と暗褐色土ブロックを中量含む。しまり強。
- 2 暗褐色 (10YR3/4) 焼土ブロックと暗褐色土ブロックを多量含む。しまり強。
- 3 に黄褐色 (10YR4/3) 焼土粒を少量、暗褐色土ブロックを中量含む。しまり強。
- 4 に黄褐色 (10YR5/4) 暗褐色土ブロックを多量含む。しまり強。
- 5 暗褐色 (10YR3/4) 灰褐色土ブロックと黒褐色土ブロックを多量含む。しまり強。
- 6 灰黄褐色 (10YR4/2) 暗褐色土ブロックをごく多量含む。しまり強。

**P1~P5土層説明**

- ① 黒褐色 (10YR2/3) ロームブロックを多量、焼土粒ごく微量含む。しまりある。
- ② 黒褐色 (10YR2/3) ローム粒・ロームブロックを多量含む。ややしまりある。
- ③ 黒褐色 (10YR2/3) ローム粒・ロームブロックをごく多量含む。しまりない。やや粘性がある。
- ④ 黒褐色 (10YR2/3) ロームブロックごく多量、明黄褐色土粒を少量含む。しまりない。やや粘性がある。
- ⑤ 黒褐色 (10YR2/3) ロームブロックごく多量含む。しまりない。
- ⑥ 暗褐色 (10YR3/4) ローム粒をごく多量、焼土粒ごく微量含む。ややしまりある。
- ⑦ 暗褐色 (10YR3/4) ロームブロックを多量含む。しまりある。
- ⑧ 暗褐色 (10YR3/4) ロームブロックごく多量、焼土粒を少量含む。しまりある。
- ⑨ 暗褐色 (10YR3/3) ロームブロック多量含む。しまり強。
- ⑩ 暗褐色 (10YR3/4) ローム粒・ロームブロックをごく多量含む。しまり強。
- ⑪ 褐色 (10YR4/4) 暗褐色土をわずかに、ロームブロック(大~中)やや多く含む。柔らかくしまりない。
- ⑫ 黄褐色 (10YR3/6) ロームブロック(大~中)主体。暗褐色土わずかに含む。固くしまりある。P5の根固め。

**第 82 図 SI34 実測図**



第 83 図 SI34 出土遺物

いる。本遺構の建て替えに関連するのであろうか。覆土は西側から褐色土の流れ込みがみられ、遺物は北東側に集中して出土している。

遺物は1、2が土師器甕、3が土師器小形甕、4が須恵器の甕、5～17が土師器の坏、18が土師器の皿である。6～8には内面ミガキがみられる。16は穿孔のある土師器坏である。19、20は土師器の坏であるが、墨書がみられる。21、22は精錬鍛冶滓、23は叩き痕のある磨石、そして、24不詳鉄器、25刀子、26、27は釘である。

本遺構の廃棄時期は9世紀前半である。

#### SI35 (第84・85図 図版27 第5表)

調査区の東端に位置し、一部調査区外に至っている。南東側には攪乱坑があり、SD03により一部が切られている。平面形は方形を呈すると考えられる。南北辺で2.4mを測る。主軸方位はN-40°Eである。掘り込みの深さは30cmほどで、直床で堅緻である。柱穴は検出されず、周溝は検出部では全周している。カマドは北東辺に設けられ、天井部は崩落している。袖部は木根により攪乱を受け、遺存度は良くない。火床は多少赤化面がみられるが、燃烧室側壁はあまり被焼痕がみられなかった。覆土はローム粒を多く含む暗褐色土が流れ込んでおり、人為的な堆積が考えられる。

遺物の多くはカマド周辺と覆土の流れ込みと共に廃棄されている。1は土師器の小型甕、2は須恵器の甕、3は土師器の鉢、4～7、9は土師器の坏である。8は土師器の高台付坏である。5には墨書、9には刻書「五」がみられる。10、11は焼成粘土塊である。12は砂岩製の砥石である。

本遺構の廃棄時期は9世紀前半と考えられる。

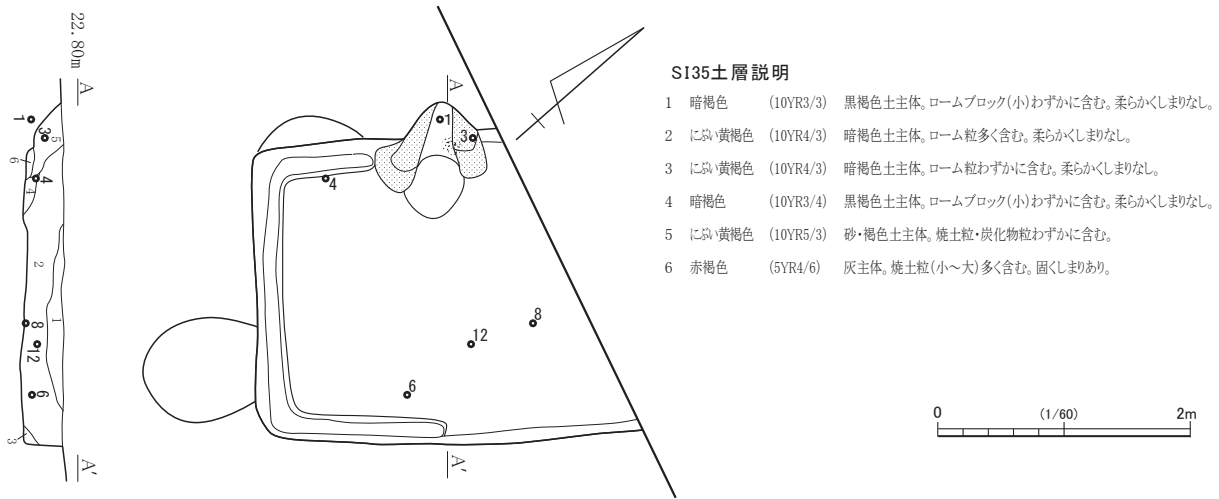
#### SI36 (第86・87図 図版27 第5表)

調査区の東側に位置し、SK20、SI32・SI33に重複され、切られている。平面形はやや南北に長い方形を呈し、4.1×3.9mの大きさを測る。主軸方位はN-80°Wである。掘り込みの深さは25cmほどであり、床面は直床である。中央部付近は非常に堅緻となっている。主柱穴は4基あり、南東辺寄りに梯子穴がみられる。周溝はカマド部を除いて全周している。カマドは天井部が崩落しているが、袖部は遺存が良い。燃烧室側壁から火床はよく焼けていた。煙道部は壁に沿って立ち上がり、煙出し口は20cmほど壁外に至っている。

覆土は北東側から黒褐色土が流れ込んでおり、さらに南西側からやや多くのローム粒を含んだ黒褐色土が流れ込んでいる。

遺物は1が武蔵型の甕、2が土師器の坏、3は土師器の皿であるが、混入とみられる。4は須恵器の坏である。5、6は同一個体で、泥岩製の紡錘車である。

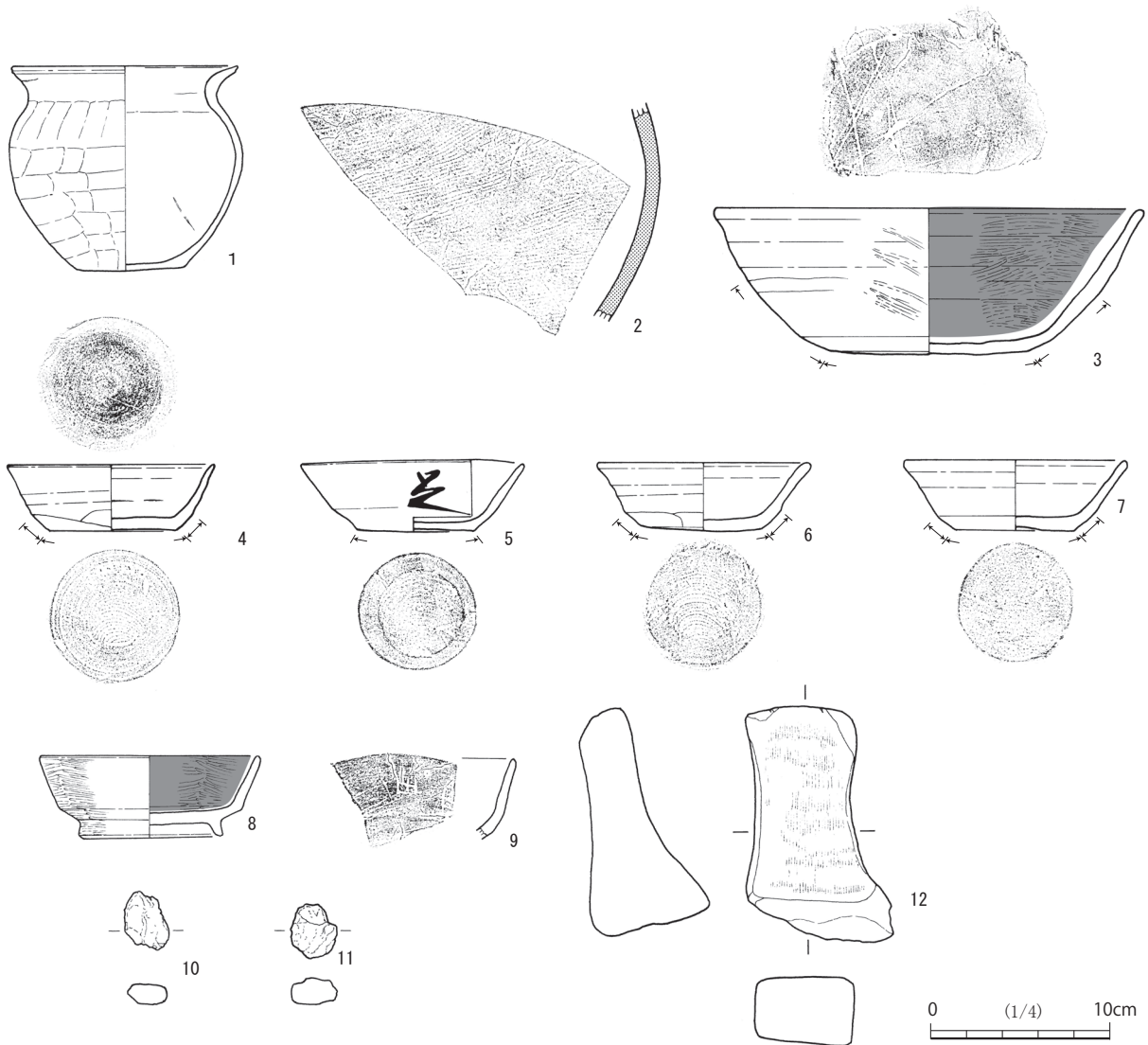
本遺構の廃棄時期は8世紀後半と考えられる。



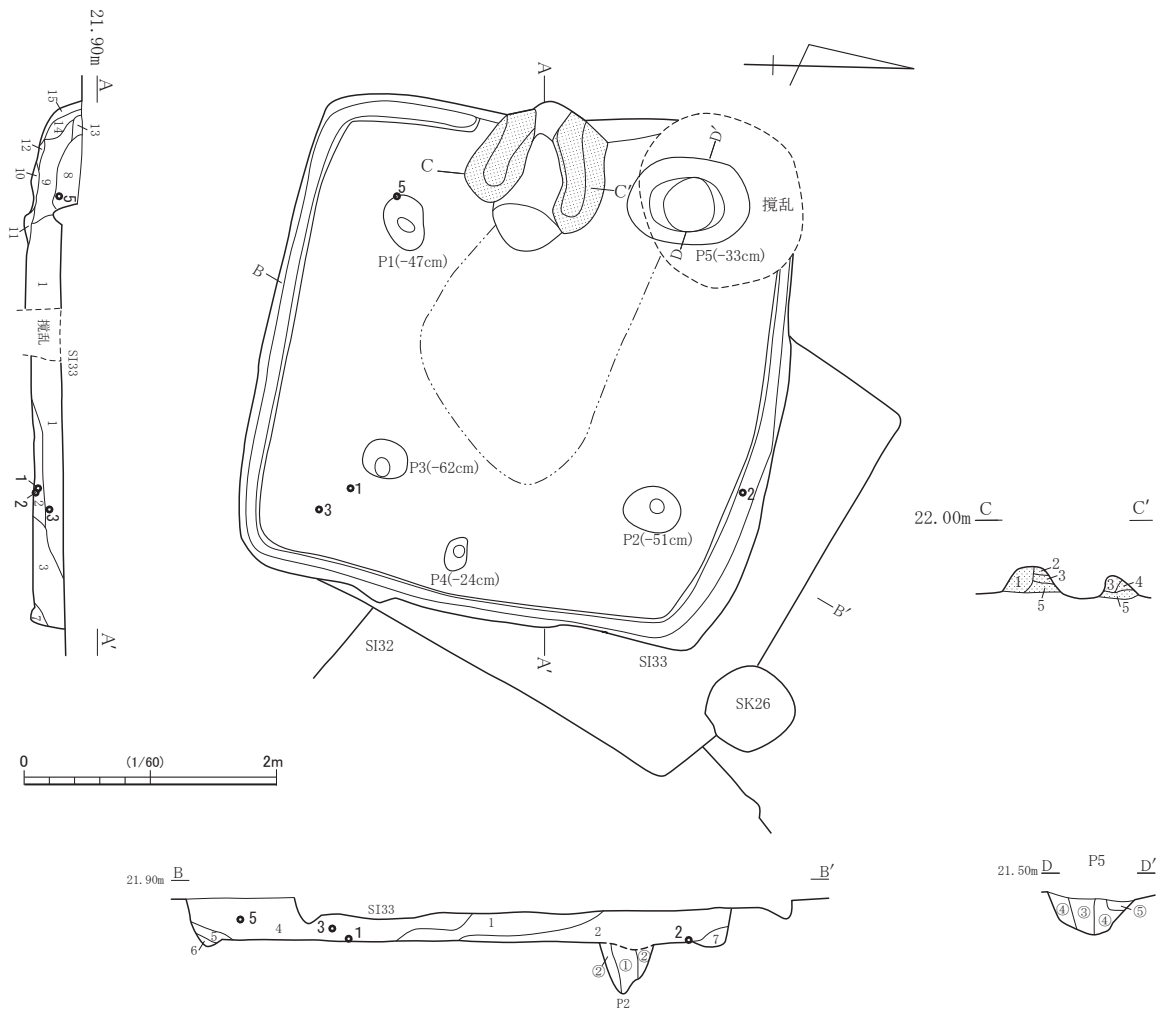
S135土層説明

- 1 暗褐色 (10YR3/3) 黒褐色土主体, ロームブロック(小)わずかに含む。柔らかくしまりなし。
- 2 にい黄褐色 (10YR4/3) 暗褐色土主体, ローム粒多く含む。柔らかくしまりなし。
- 3 にい黄褐色 (10YR4/3) 暗褐色土主体, ローム粒わずかに含む。柔らかくしまりなし。
- 4 暗褐色 (10YR3/4) 黒褐色土主体, ロームブロック(小)わずかに含む。柔らかくしまりなし。
- 5 にい黄褐色 (10YR5/3) 砂・褐色土主体。焼土粒・炭化物粒わずかに含む。
- 6 赤褐色 (5YR4/6) 灰主体。焼土粒(小〜大)多く含む。固くしまりあり。

第 84 図 S135 実測図



第 85 図 S135 出土遺物



第 86 図 SI36 実測図

SI36土層説明

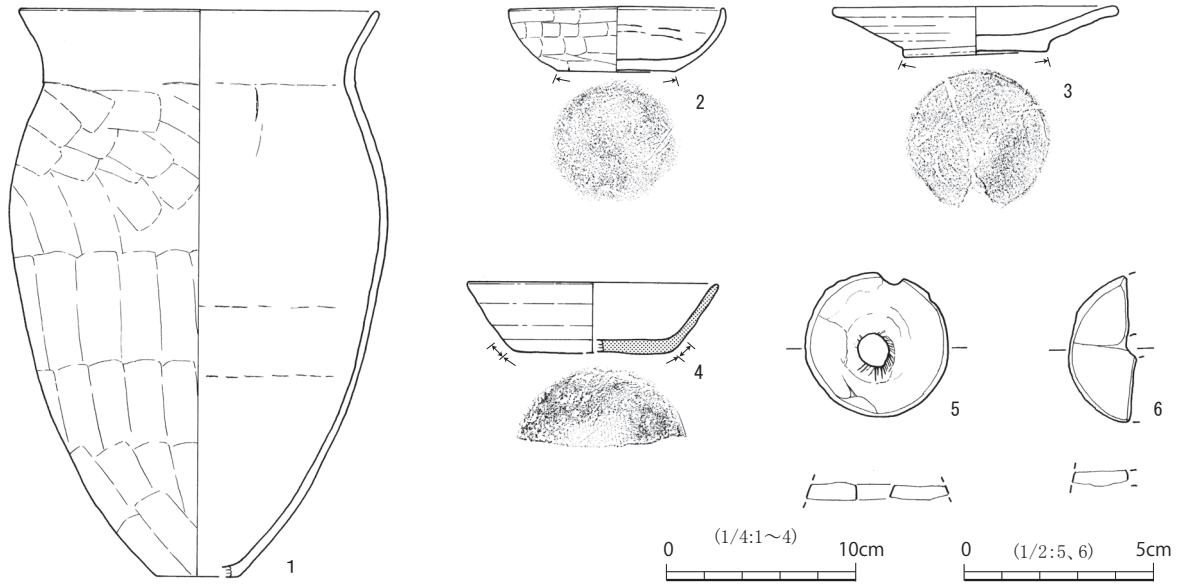
- 1 黒褐色 (10YR3/2) 多くのローム粒、やや多くの褐色土粒、少量のロームブロック(φ1~3cm)、まれに焼土粒含む。しまり強い。
- 2 黒褐色 (10YR3/2) 少量のローム粒含む。しまりやや弱い。
- 3 暗褐色 (10YR3/3) 多量の褐色土粒、少量のローム粒、わずかな焼土粒を含む。しまり強い。
- 4 黒褐色 (10YR3/2) やや多くのローム粒、わずかなロームブロック(φ0.5~2cm)、ごくわずかな褐色土粒含む。しまりやや強い。
- 5 黒褐色 (10YR2/2) 少量のローム粒を含む。黒色味強い。しまりやや弱い。
- 6 暗褐色 (10YR3/4) 多量のローム粒を含む。しまりやや弱い。
- 7 暗褐色 (10YR3/4) 多量のローム粒、少量のロームブロック(φ1cm)を含む。しまりやや弱い。
- 8 黒褐色 (10YR2/2) やや多くの褐色土粒・褐色土ブロック(φ≤2.5cm)、ごくわずかなロームブロック(φ≤2cm)を含む。しまりやや強い。
- 9 褐色 (7.5YR4/3) ごく多量の褐色土粒・褐色土ブロック(φ≤2.5cm)、多くの焼土・焼土ブロック(φ1cm)を含む。しまりやや弱い。
- 10 黒褐色 (10YR2/3) 多くの褐色土粒、やや多くの焼土ブロック(φ0.5~1.5cm)含む。しまりやや弱い。
- 11 黒色 (10YR2/1) 少量の褐色土粒・焼土粒を含む。しまりやや弱い。
- 12 黒色 (10YR2/1) 少量の褐色土粒を含む。しまりやや弱い。
- 13 褐色 (7.5YR4/3) 少量の褐色土粒・焼土粒を含む。しまりやや弱い。
- 14 赤褐色 (5YR4/6) ごく多量の焼土粒・褐色土粒を含む。しまりやや強い。
- 15 褐色 (7.5YR4/4) 少量の褐色土粒、多くのローム粒を含む。しまりやや弱い。

カマド土層説明

- 1 灰黄褐色 (10YR6/2) 暗褐色土ブロック多量、焼土粒微量含む。しまり強。
- 2 暗褐色 (10YR3/4) 灰黄褐色土ブロック多量、焼土粒・炭化物粒少量含む。しまり強。
- 3 暗褐色 (10YR3/4) 焼土ブロックをごく多量、灰黄褐色土ブロック・炭化物ブロックを微量含む。しまり強。
- 4 暗褐色 (10YR3/4) 灰黄褐色土粒ごく多量、焼土粒ごく微量含む。しまり強。
- 5 暗褐色 (10YR3/4) 黒褐色土ブロックごく多量、ローム粒多量、焼土粒微量含む。しまり強。

P2・P5土層説明

- ① 褐色 (10YR4/6) 多くのローム粒を含む。しまり弱い。
- ② 褐色 (10YR4/6) 多くのローム粒・ロームブロック(φ1~1.5cm)を含む。しまり弱い。
- ③ 黒褐色 (10YR3/2) 多くのローム粒、わずかな焼土粒・褐色土粒を含む。しまり弱い。
- ④ 褐色 (10YR4/4) 少量のロームブロック(φ1cm)、わずかな焼土粒・褐色土粒を含む。しまり弱い。
- ⑤ 褐色 (10YR4/4) 多くの焼土粒・褐色土粒を含む。しまり弱い。



第 87 図 SI36 出土遺物

### 3. 掘立柱建物跡

A 区で 4 棟、B 区で 13 棟の計 17 棟の掘立柱建物跡が検出されている。しかしながら、A・B 両区において、他にも柱筋が確定されない柱穴群がみられ、さらに何棟かの掘立柱建物跡が存在していることが推察される。

#### A 区

##### SB01 (第 88 図 図版 28 第 6 表)

調査区の南東端に位置する。北東—南西に桁行 4 間、北西—南東に梁行 3 間とすると規模は 7.3 × 5.2m、面積 37.9㎡を測る。A 区ならびに B 区を含めて今回の調査で最も大きな掘立柱建物跡である。並行する内側の P1、P4、P5、P8～P10 は東柱と考える。北東側で SI03 の南西辺の一部を重複し、切っている。いずれの柱穴もしっかりした掘り込みであり、柱痕、柱アタリが観察されている。遺物としては掘り方覆土内から土師器、須恵器の坏・甕の小片が検出されている。

##### SB02 (第 89 図 図版 28 第 6 表)

調査区の中央やや西側に位置し、SI10 を切り、南北に走行する SD01 によって一部切られている。北東—南西に桁行 3 間、北西—南東に梁行 2 間となり、規模は 6.0 × 4.3m、面積 25.8㎡を測る。四隅の柱穴は径 1m、深さ 60cm 前後のやや大きめの造りとなっている。柱痕下に柱アタリも観察されている。P2、8 を除く、各柱穴の掘り方覆土内から土師器、須恵器の坏・甕の小片が出土している。

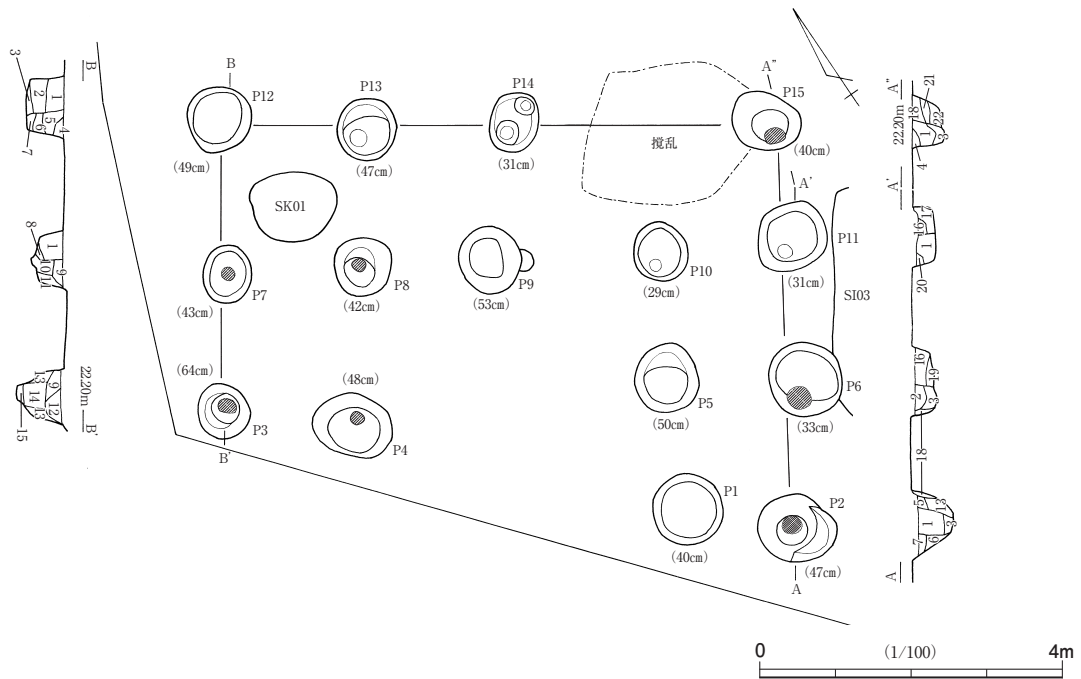
##### SB03 (第 90 図 図版 28 第 6 表)

調査区の南東側に位置する。掘立柱建物の北東隅を検出したのみであり、大半は攪乱坑によって削平されている。柱間は 2.3m ほど、柱穴の径 0.9m 前後の大きさからすると SB02 と同等の掘立柱建物を想定される。P1、P2 は柱痕が観察されたが、P3 はみられなかった。遺物は掘り方覆土内から土師器、須恵器の坏・甕の小片が出土している。

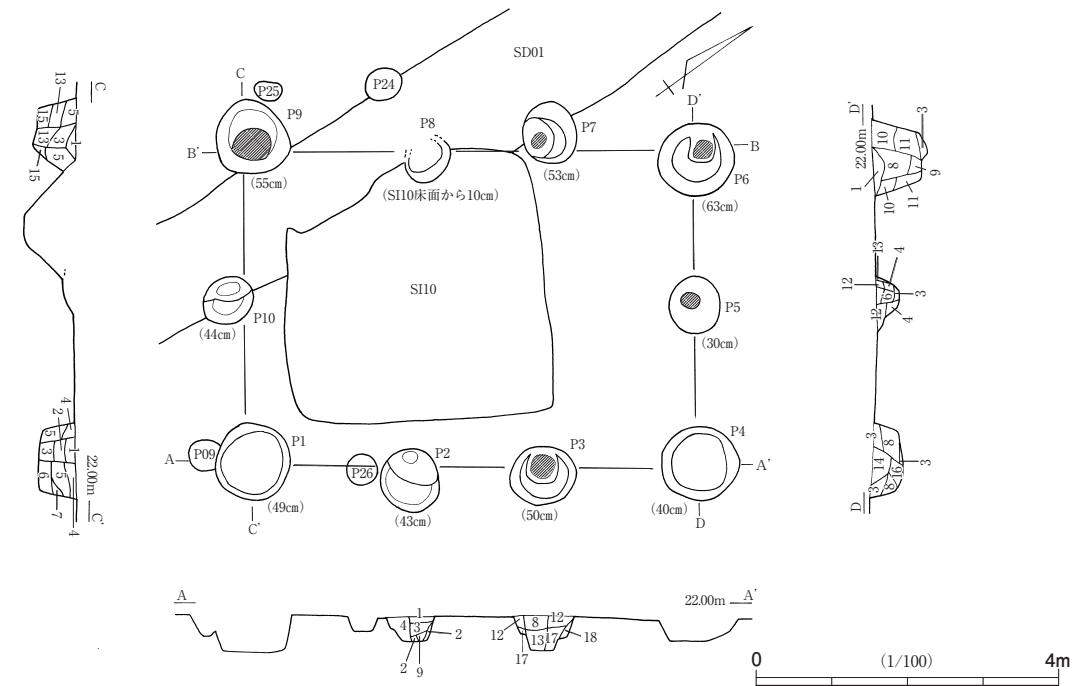
##### SB04 (第 91 図 図版 28 第 6 表)

調査区の北側に位置する。2 間 3.0m、1 間 3.0m の大きさを測り、南西側の軒柱からすると、北西—南東に桁行、北東—南西に梁行とすることが出来る。面積は 9.0㎡となる。他の掘立柱建物とは様相が異なり、柱穴は径 20～30cm ほどの小型であり、とくに、柱痕は観察されなかった。柱穴内覆土から土師器、須恵器の坏・甕の小片が出

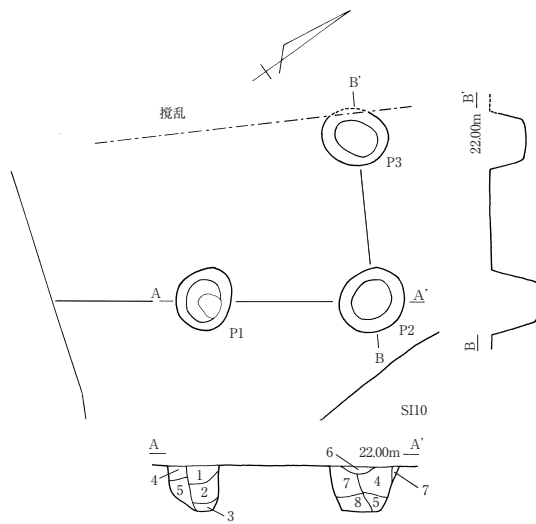




第88図 SB01実測図

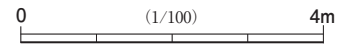


第89図 SB02実測図

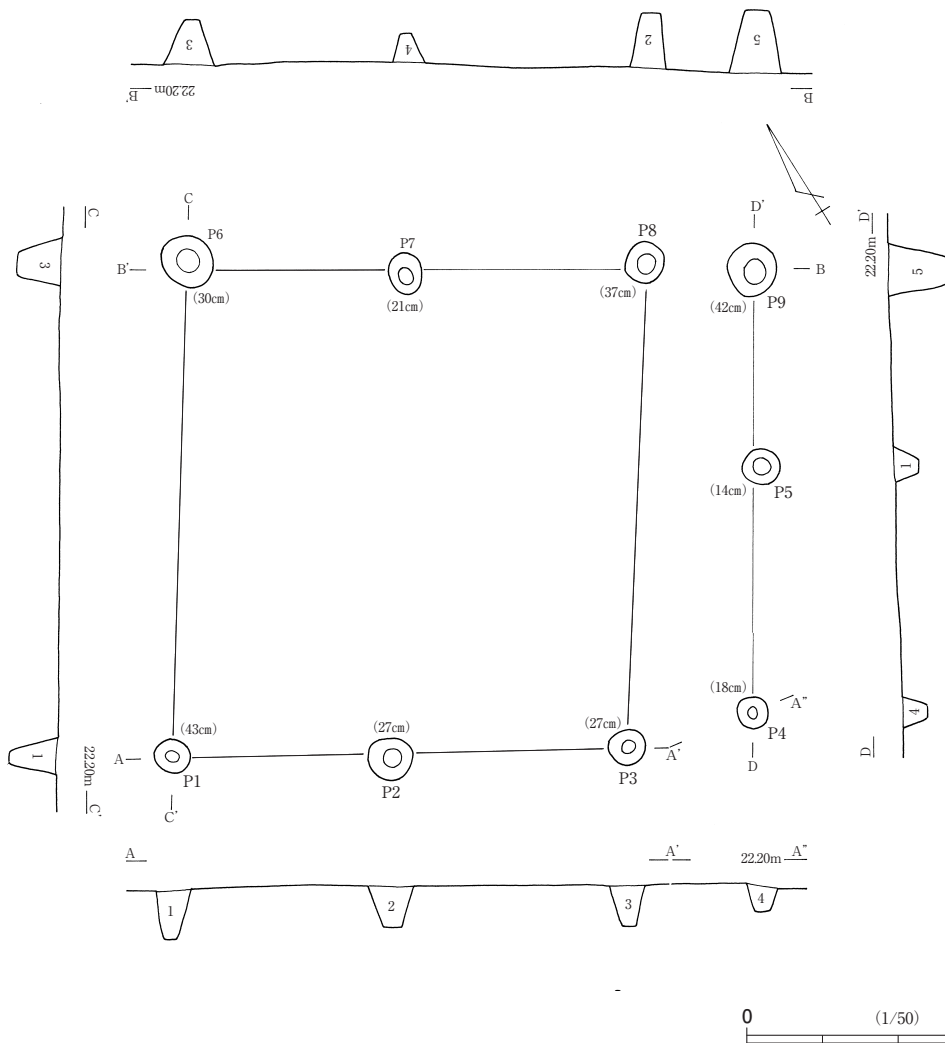


**SB03土層説明**

- 1 暗褐色 10YR3/3 ローム粒・ロームブロック (φ1~2cm) を多く含む。縮まりやや弱い。
- 2 暗褐色 10YR3/3 ローム粒をやや多く、ロームブロック (φ0.5~2cm) を少量含む。縮まり強い。
- 3 黒褐色 10YR3/2 ローム粒を少量含む。縮まりやや弱い。
- 4 褐色 10YR4/4 ローム粒・ロームブロック (φ0.5~2cm) を多く含む。縮まりやや強い。
- 5 褐色 10YR4/4 ローム粒を多く、ロームブロック (φ1cm) を少量含む。縮まりやや強い。
- 6 黒褐色 10YR3/2 ローム粒を僅かに含む。縮まり弱い。
- 7 褐色 10YR4/6 ソフトロームブロック (φ1~3cm) を多く含む。縮まりやや強い。
- 8 黒褐色 10YR3/2 ソフトロームブロック (φ1~3cm) を多く含む。縮まりやや強い。

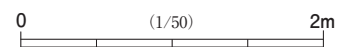


第90図 SB03実測図



**SB04土層説明**

- 1 暗褐色 10YR3/3 ソフトロームブロック (φ1~3cm) を多く含む。縮まり粘性やや弱い。
- 2 黒褐色 10YR3/2 多量のソフトロームブロック (φ0.5~2cm) と、少量のローム粒を含む。縮まり粘性やや強い。
- 3 黒褐色 10YR3/2 多量のソフトロームブロック (φ0.5~2cm) ・ハードロームブロック (φ1~1.5cm) と、少量のローム粒を含む。縮まり粘性やや強い。
- 4 黒褐色 10YR3/2 多量のソフトロームブロックと、極僅かな粘土粒・焼土粒を含む。縮まり粘性は強い。
- 5 黒褐色 10YR3/2 ローム粒を少量含む。縮まり強く、粘性やや強い。



第91図 SB04実測図

土している。

## B区

### SB05 (第92図 図版28 第6表)

調査区の中央やや西寄りに位置する。SK12を切り、SK11に切られている。北西—南東に桁行3間、北東—南西に梁行2間があり、規模は6.8×4.8m、面積32.6㎡を測る。四隅の柱穴は径1m、深さ50cmほどあり、P10を除いて柱痕が観察されている。遺物はP1、P5の掘り方覆土内から土師器坏・甕の小片が少量出土しているだけである。

### SB06 (第93図 図版28 第6表)

調査区の東側に位置し、SB08、SB17によって一部重複し、切られている。規模は2間4.7×2間4.6m、面積21.6㎡を測り、西北西—東南東に桁行、北北東—南南西に梁桁を持つとみられる。柱穴は径70cm前後であり、深さは確認面から25cmほどで浅い。柱痕が観察される例もある。出土遺物はみられなかった。

### SB07 (第94図 図版28 第6表)

調査区の東側に位置し、一部SB16によって重複し、切られている。北東—南西に桁行2間、北西—南東に梁行2間、規模は4.8×4.5m、面積21.6㎡を測る。柱穴は径70～90cm、深さは確認面から45cmほどである。柱痕を明瞭に遺す例もある。遺物はごく少量の土師器坏の小片が掘り方覆土内から出土している。

### SB08 (第95図 図版28 第6表)

調査区の東側に位置し、SB06の一部を重複し、切っている。また、北西面側で一部SB10との重複がみられるが、柱穴の切り合いはない。この北西面側の柱間で歪みがみられるが、桁行は北西—南東2間、梁行が北東—南西2間であり、規模は4.9×4.3m、面積21.0㎡を測る。柱穴は径70～80cm、深さ30cmほどを測り、柱痕が観察される。遺物はP3～P5から少量の土師器、須恵器の坏・甕片が出土している。

### SB09 (第96図 図版29 第6表)

調査区の東側に位置し、SB10との重複がみられるが、柱穴の切り合いはない。桁行は北東—南西3間、梁行は北西—南東2間であり、規模は6.7×3.4m、面積22.8㎡を測る。柱穴は径0.7～1m、深さ30～50cm前後の大きさを測り、柱痕が観察され、明瞭な柱アタリがみられた。遺物は掘り方内覆土から土師器の坏・甕片が少量出土している。

### SB10 (第97図 図版29 第6表)

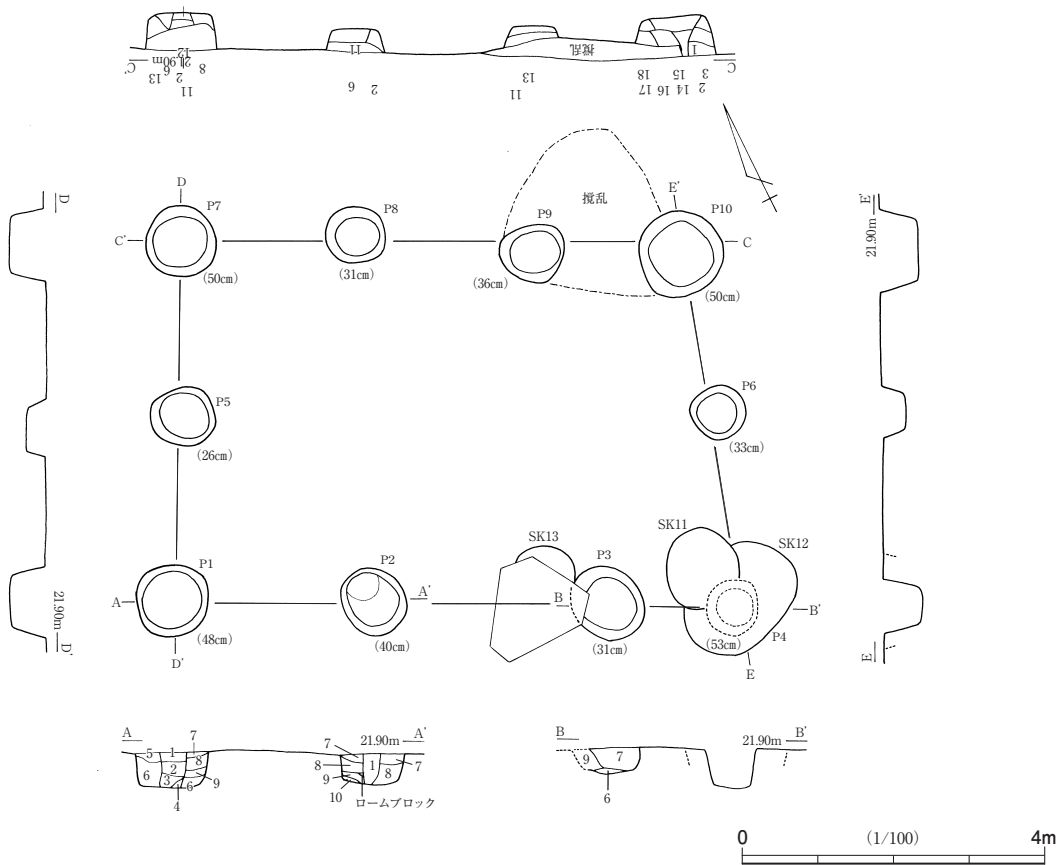
調査区の東側に位置し、SB09との重複がみられる。桁行は北西—南東2間、梁行は北東—南西2間であり、規模は4.8×4.5m、面積21.6㎡を測る。四隅柱穴は径50～80cm、深さ40～50cmを測り、柱痕が観察されるが、中間柱穴は径30cm、深さ10cmと小さい。南東面には検出出来なかった。遺物はP2、P6の掘り方覆土内から少量の土師器の坏・甕片が出土しているのみである。

### SB11 (第98図 図版29 第6表)

調査区の東側に位置し、SB12との重複がみられるが、柱穴の切り合いはみられない。桁行は北東—南西2間、梁行は北西—南東2間であり、規模は4.0×3.8m、面積15.2㎡を測る。南東面に中間柱はなく、柱穴は径40～60cm、深さ10～30cmほどで、柱痕が観察される例もある。また、幾つかの柱穴に重複がみられるが、建て替えが行われたことも考えられる。遺物は少量の土師器坏・甕の小片が掘り方内覆土から出土している。

### SB12 (第99図 図版29 第6表)

調査区の東側に位置し、SB11と重複がみられるが、柱穴の切り合いはない。桁行は北東—南西3間、梁行は北西—南東2間であり、規模は6.2×3.8m、面積23.6㎡を測る。南西面の中間柱はない。柱穴は径0.7～1m、深さ15～35cmほどであり、柱痕が観察される例もある。遺物は掘り方内覆土から土師器、須恵器の坏・甕の小片が出土している。

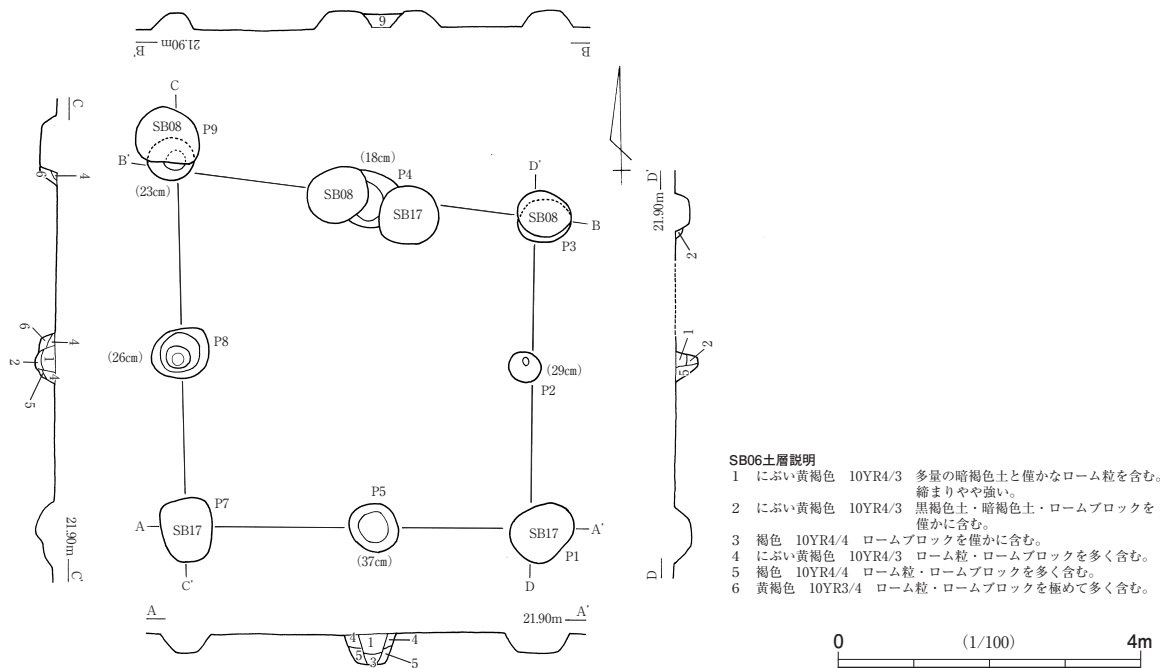


**SB05土層説明**

- 1 黒褐色 10YR3/2 ローム粒を少量含む。締まりやや強い。
- 2 黒褐色 10YR3/2 ローム粒をやや多く含む。締まり弱く、粒子粗い。稀に炭化材 (φ0.5 cm) を含む。
- 3 黒褐色 10YR3/2 ローム粒・ロームブロック (φ1 cm) を少量含む。締まり強い。
- 4 暗褐色 10YR3/4 ロームブロックを多く含む。締まりやや強い。
- 5 にぶい黄褐色 10YR4/3 ロームブロック (φ1 cm) を多く含む。締まりやや強い。
- 6 褐色 10YR4/6 ローム主体。締まり非常に強い。
- 7 暗褐色 10YR3/3 ローム粒・ロームブロック (φ1 cm) を多く含む。締まり強い。
- 8 暗褐色 10YR3/3 ロームと黒褐色土混合層。締まり強い。

- 9 黒褐色 10YR3/1 ローム粒・ロームブロック (φ1 cm) を少量含む。締まり強い。
- 10 暗褐色 10YR3/3 8に類似するが、含有ロームが多い。締まり強い。
- 11 黒褐色 10YR3/2 ローム粒・ロームブロック (~φ2 cm) を多く含む。締まり強い。
- 12 褐色 10YR4/4 多量のローム粒と少量のロームブロック (~φ1 cm) を含む。締まり強い。
- 13 黒褐色 10YR3/2 ローム粒を僅かに含む。締まりやや強い。
- 14 暗褐色 10YR3/3 少量のローム粒と僅かなロームブロックを含む。締まりやや強い。
- 15 褐色 10YR4/4 ロームブロック (~φ2 cm) を多く含む。締まり強い。
- 16 暗褐色 10YR3/3 多量のローム粒と少量のロームブロック (~φ1 cm) を含む。締まり強い。
- 17 暗褐色 10YR3/4 ローム粒を多く含む。締まり強い。
- 18 暗褐色 10YR3/4 多量のローム粒と僅かなロームブロック (~φ1.5 cm) を含む。

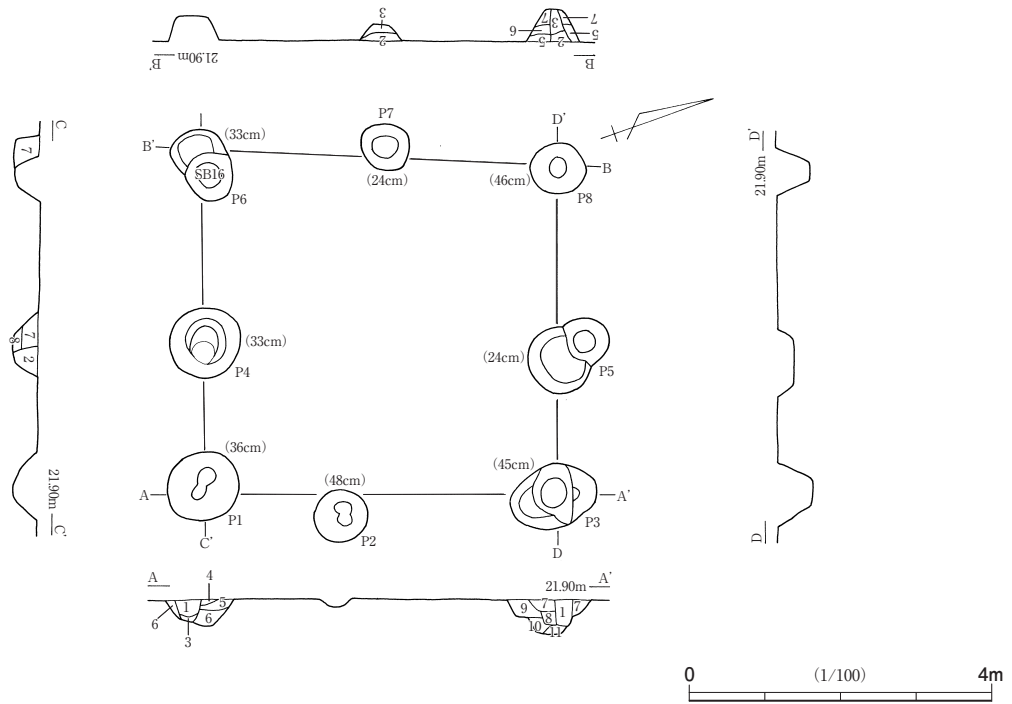
第92図 SB05実測図



**SB06土層説明**

- 1 にぶい黄褐色 10YR4/3 多量の暗褐色土と僅かなローム粒を含む。締まりやや強い。
- 2 にぶい黄褐色 10YR4/3 黒褐色土・暗褐色土・ロームブロックを僅かに含む。
- 3 褐色 10YR4/4 ロームブロックを僅かに含む。
- 4 にぶい黄褐色 10YR4/3 ローム粒・ロームブロックを多く含む。
- 5 褐色 10YR4/4 ローム粒・ロームブロックを多く含む。
- 6 黄褐色 10YR3/4 ローム粒・ロームブロックを極めて多く含む。

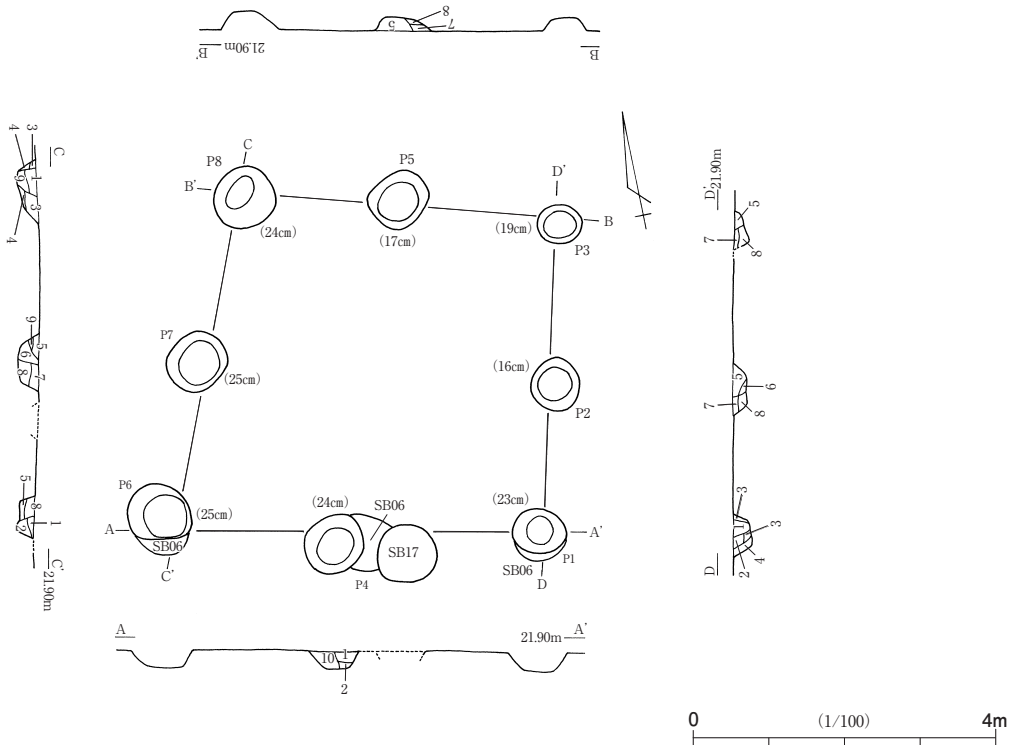
第93図 SB06実測図



**SB07土層説明**

- |   |   |
|---|---|
| 1 におい黄褐色 10YR6/4 ロームブロック (φ0.5~φ3cm) やや多く、暗褐色土を僅かに含む。やや硬く締まりあり。 | 6 におい黄褐色 10YR5/3 暗褐色土主体。ローム小ブロックを僅かに含む。硬く締まりあり。 |
| 2 褐色 10YR4/4 黒褐色土・ローム小ブロックをやや多く含む。柔らかく締まりなし。                    | 7 褐色 10YR4/4 暗褐色土主体。ローム小ブロックを僅かに含む。硬く締まりあり。     |
| 3 褐色 10YR4/4 暗褐色土主体。ローム小ブロックをやや多く含む。硬く締まりあり。                    | 8 におい黄褐色 10YR5/4 ロームブロック・暗褐色土主体。硬く締まりあり。        |
| 4 におい黄褐色 10YR4/3 ローム小ブロックをやや多く含む。硬く締まりあり。                       | 9 黄褐色 10YR5/6 暗褐色土を多く、ロームブロックをやや多く含む。           |
| 5 黄褐色 10YR5/6 ロームブロック主体。暗褐色土を僅かに含む。硬く締まりあり。                     | 10 暗褐色 10YR3/4 ローム小ブロックをやや多く含む。硬く締まりあり。         |
|   | 11 暗褐色 10YR3/3 ローム小ブロックを僅かに含む。硬く締まりあり。          |

**第94図 SB07実測図**



**SB08土層説明**

- |   |                                       |
|---|---------------------------------------|
| 1 におい黄褐色 10YR4/3 黒褐色土・暗褐色土・ロームブロックを僅かに含む。 | 6 におい黄褐色 10YR4/3 ロームブロックと暗褐色土をやや多く含む。 |
| 2 褐色 10YR4/4 ローム粒・ロームブロックを多く含む。           | 7 褐色 10YR4/4 ロームブロックを多く含む。            |
| 3 褐色 10YR4/4 多量のローム粒・ロームブロックと僅かな暗褐色土を含む。  | 8 におい黄褐色 10YR4/3 ロームブロック・暗褐色土を僅かに含む。  |
| 4 褐色 10YR4/4 多量の暗褐色土と僅かなロームブロックを含む。       | 9 黒褐色 10YR3/2 ロームブロックを多く含む。           |
| 5 褐色 10YR4/4 ロームブロックをやや多く含む。              | 10 におい黄褐色 10YR4/3 ロームブロックを多く含む。       |

**第95図 SB08実測図**

#### SB13 (第100図 図版29 第6表)

調査区の東側に位置する。桁行は北東—南西2間、梁行は北西—南東2間であり、規模は3.9×3.1m、面積は12.1㎡を測る。しかしながら、南東面は小柱穴からなる柱間3間となる。他は径0.7～1m、深さ20～50cmほどの柱穴であり、柱痕もみられる。ごく少量の土師器の甕片がP4、P7から出土しているのみである。

#### SB14 (第101図 図版29 第6表)

調査区の東側に位置し、一部調査区外となっている。SI29と重複しているが、北隅の柱穴は捉えることができなかった。桁行は北西—南東3間、梁行は北東—南西2間であり、規模は推定で6.5×4.0m、面積26.0㎡を測る。柱穴は径90cm前後の楕円形に近い掘り込みを呈し、深さは20～40cmほどを測る。柱痕が観察され、柱アタリが認められる。遺物は土師器の坏・甕の小片が掘り方覆土内から出土している。

#### SB15 (第102図 図版29 第6表)

調査区の南東端に位置し、SI34を切り、SD03に切られている。桁行は北西—南東3間、梁行は北東—南西2間であり、規模は5.0×3.4m、面積は17.0㎡を測る。柱穴は55～70cm、深さは15～30cmほどを測る。柱痕が観察され、北東面の柱穴には柱アタリがみられた。南西面の柱穴は明瞭に捉えることが出来なかった。遺物はP6で土師器の甕片が出土しているだけである。

#### SB16 (第103図 図版29 第6表)

調査区の東側に位置し、SI32・SI33と重複し、切っていると判断されるが、攪乱が多く、全容については明瞭に捉えることが出来なかった。また、SB07とも重複しているが柱穴の切り合いはない。検出された北東面が3間とするなら桁軸は北西—南東軸と考えることが出来るが、詳細は不詳と言わざるを得ない。柱穴は径60～70cm前後、深さ20～40cmほどを測る。遺物はP3で土師器の甕片が出土しているだけである。

#### SB17 (第104図 図版28 第6表)

調査区の東側に位置する。SB06・SB07と重複し、切っており、また、南東面柱穴がSD03に切られている。桁行は北東—南西2間、梁行は北西—南東2間であり、規模は5.0×3.5m、面積17.7㎡を測る。柱穴は0.7～1m、深さ20～30cmほどの掘り込みであり、柱痕が観察される。掘り方覆土内から少量の土師器、須恵器の坏片が出土している。

## 4. 土 坑

今次調査によってA区で4基、B区で26基の計30基の土坑が検出された。とくに、群集する傾向にはない。また、時期についても縄文時代から奈良・平安時代に推定される土坑まで多岐に亘っている。

なお、遺構番号は32番まで付してあるが、欠番が2基ある。

### A 区

#### SK01 (第105図 図版30 第7表)

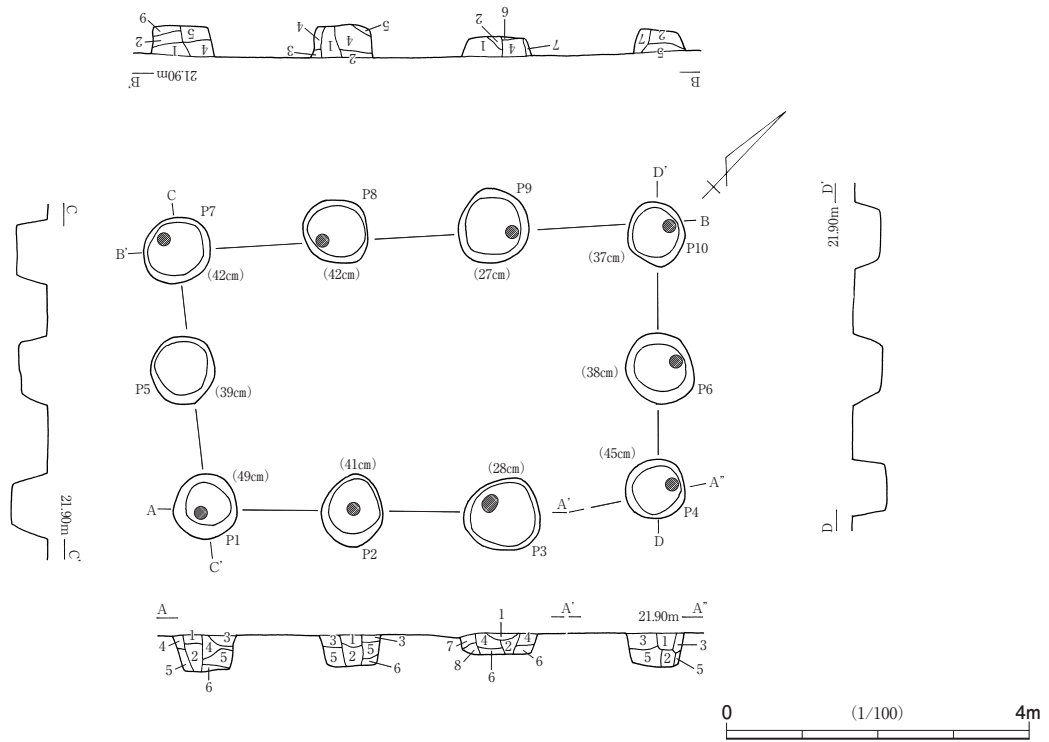
調査区の南端側に位置する。平面形は楕円形を呈し、底面は比較的平坦である。覆土はあまり締まりのない黒褐色土であり、土師器・須恵器の小片が混入していた。SB01と重複しているが、直接的な遺構の切り合いがなく、先後関係は不詳である。

#### SK02 (第105・109図 図版30 第5・7表)

調査区のはほぼ中央に位置する。平面形はほぼ円形を呈し、底面はやや傾斜をみせている。覆土はやや締まりのない褐色土であり、土師器の坏が出土している。

#### SK03 (第105・109図 図版30 第5・7表)

調査区のはほぼ中央に位置する。平面形は楕円形を呈し、底面は平坦となる。覆土は多くのロームブロック、焼土粒、焼土ブロックを含む締まりの良い暗褐色土、褐色土である。覆土内からは土師器の坏・皿、焼成粘土塊片

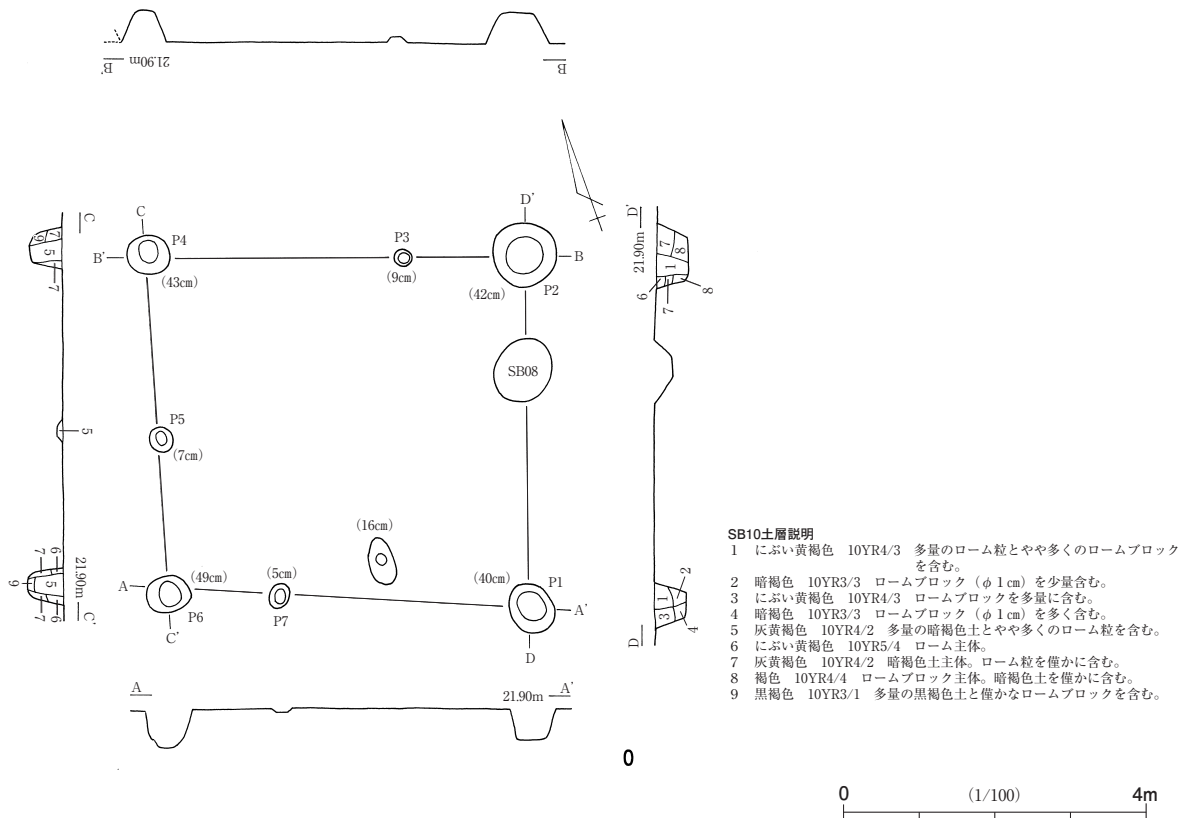


**SB09土層説明**

- 1 におい黄褐色 10YR5/4 ロームブロック (φ 1cm) 主体。炭化物を僅かに含む。
- 2 黒褐色 10YR3/2 黒褐色土主体。ローム粒を僅かに含む。
- 3 暗黄褐色 10YR6/6 ロームブロック主体。
- 4 におい黄褐色 10YR5/4 ローム粒主体。暗褐色土・黒褐色土を僅かに含む

- 5 褐色 10YR4/4 ロームブロックと暗褐色土の混合層。
- 6 暗褐色 10YR3/4 多量のロームブロックと僅かな黒褐色土を含む。
- 7 褐色 10YR4/4 多量の暗褐色土とやや多くロームブロックを含む。
- 8 黄褐色 10YR5/4 大粒のロームブロックを含む。
- 9 褐色 10YR4/4 ロームブロックを僅かに含む。

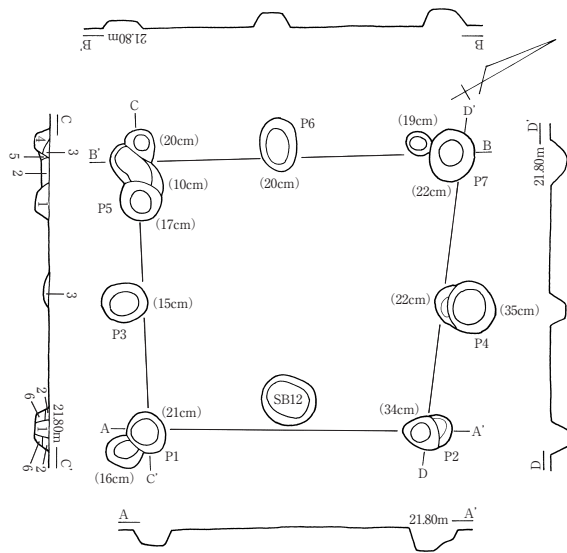
第96図 SB09実測図



**SB10土層説明**

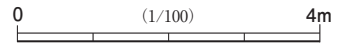
- 1 におい黄褐色 10YR4/3 多量のローム粒とやや多くのロームブロックを含む。
- 2 暗褐色 10YR3/3 ロームブロック (φ 1cm) を少量含む。
- 3 におい黄褐色 10YR4/3 ロームブロックを多量に含む。
- 4 暗褐色 10YR3/3 ロームブロック (φ 1cm) を多く含む。
- 5 灰黄褐色 10YR4/2 多量の暗褐色土とやや多くのローム粒を含む。
- 6 におい黄褐色 10YR5/4 ローム主体。
- 7 灰黄褐色 10YR4/2 暗褐色土主体。ローム粒を僅かに含む。
- 8 褐色 10YR4/4 ロームブロック主体。暗褐色土を僅かに含む。
- 9 黒褐色 10YR3/1 多量の黒褐色土と僅かなロームブロックを含む。

第97図 SB10実測図

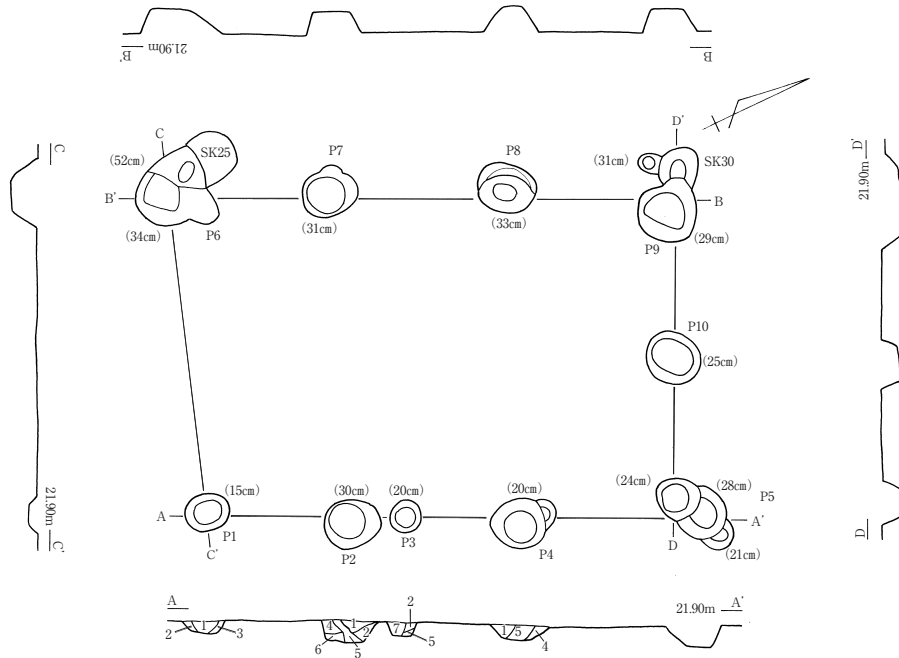


**SB11土層説明**

- 1 黒褐色 10YR3/2 やや多くのローム粒と少量のロームブロックを含む。
- 2 褐色 10YR4/4 ローム粒・ロームブロックを多く含む。
- 3 黒褐色 10YR3/2 少量のローム粒と僅かなロームブロックを含む。
- 4 黒褐色 10YR3/2 3に類似するが、締まりが非常に強い。
- 5 暗褐色 10YR3/4 やや多くのローム粒・ロームブロックを含む。
- 6 黒褐色 10YR5/8 ローム粒主体。

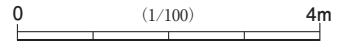


第98図 SB11実測図



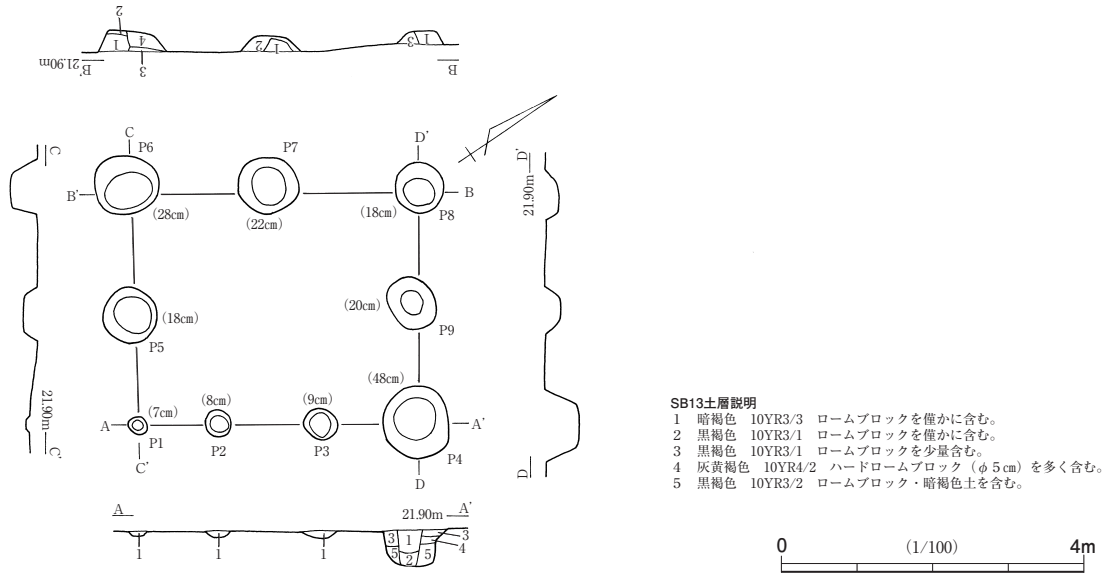
**SB12土層説明**

- 1 黒褐色 10YR3/2 やや多くのローム粒と少量のロームブロック (φ1cm) を含む。
- 2 にぶい黄褐色 10YR4/3 黒褐色土とローム層の混合層。
- 3 褐色 10YR4/6 ソフトローム主体。
- 4 黒褐色 10YR3/2 1に類似するが、ロームブロック (φ1.5cm) が大きい。
- 5 灰黄褐色 10YR4/2 ロームブロックを多く含む。
- 6 褐色 10YR4/6 ロームブロック (φ1cm) を多く含む。
- 7 暗褐色 10YR3/4 やや多くのローム粒とロームブロックを含む。

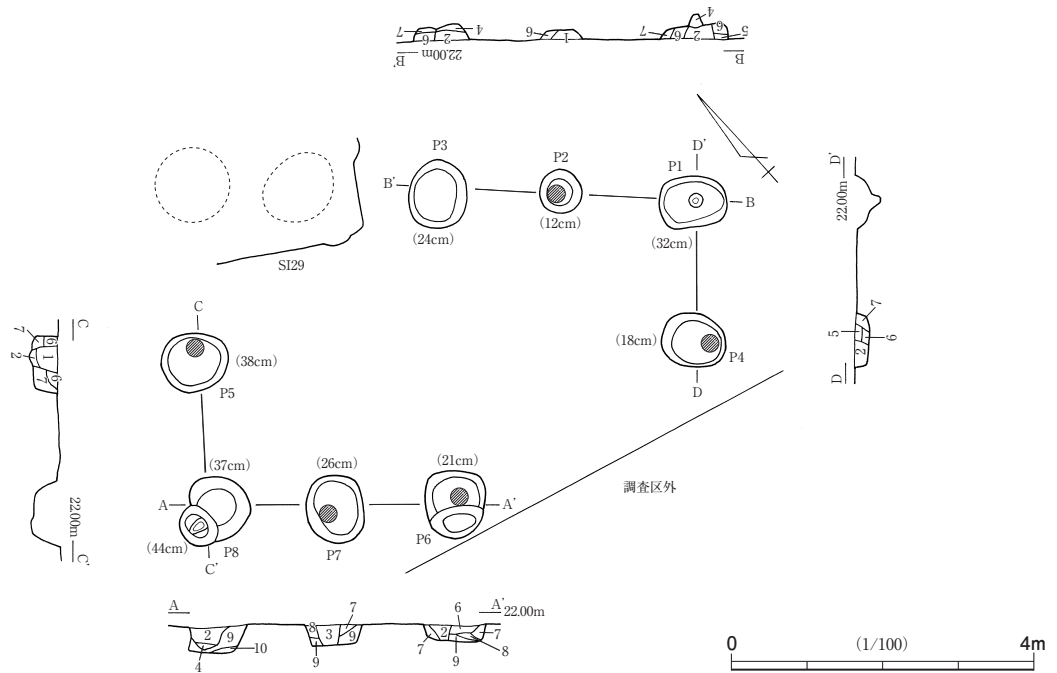


第99図 SB12実測図

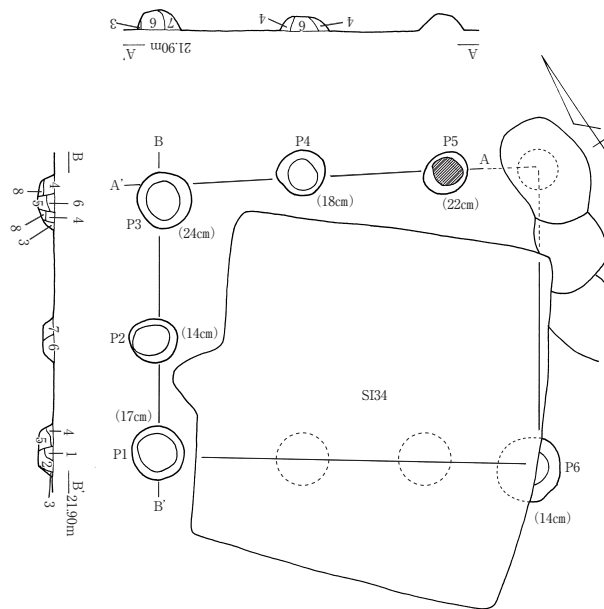




第100図 SB13実測図

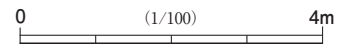


第101図 SB14実測図

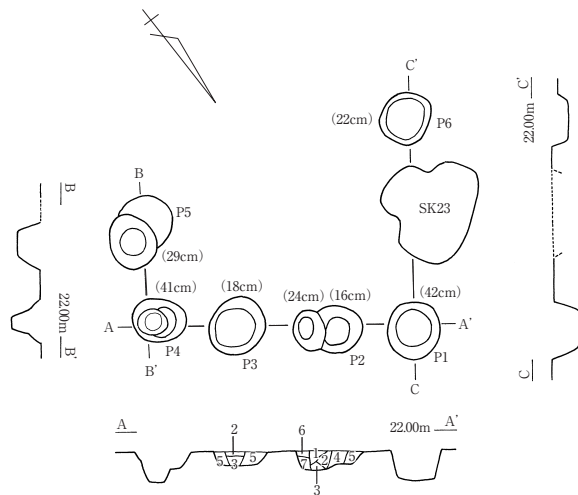


**SB15土層説明**

- 1 にふい黄褐色 10YR5/4 ローム粒・ロームブロックを多く含む。
- 2 黒褐色 10YR2/3 ロームブロック (φ1cm) を斑状に含む。
- 3 褐色 10YR4/4 ロームブロック (φ1cm) を少量含む。
- 4 暗褐色 10YR3/4 やや多くのローム粒と少量のロームブロックを含む。
- 5 にふい黄褐色 10YR5/4 多くのローム粒と少量のロームブロックを含む。
- 6 黒褐色 10YR3/2 少量のローム粒と極微量のロームブロックを含む。
- 7 暗褐色 10YR3/3 ローム粒をやや多く含む。
- 8 黄褐色 10YR5/6 ロームブロックを多く含む。

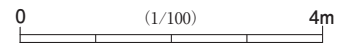


第102図 SB15実測図

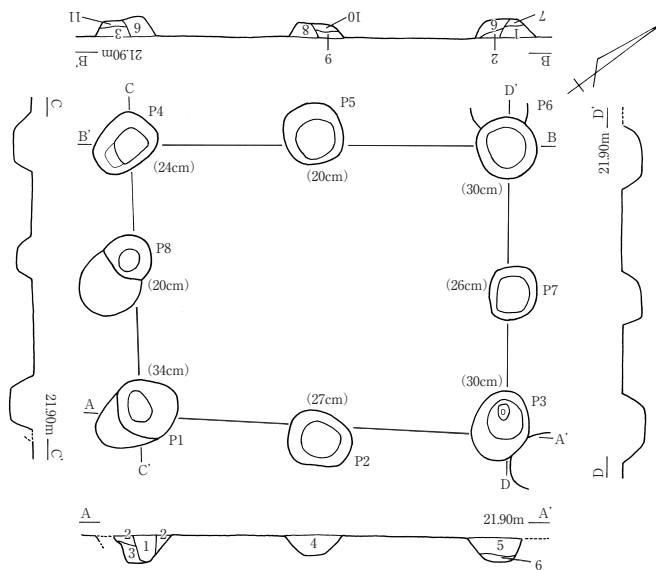


**SB16土層説明**

- 1 黒褐色 10YR3/2 ローム粒・ロームブロックを少量含む。
- 2 褐色 10YR4/4 ローム粒・ロームブロックを多く含む。
- 3 黒褐色 10YR3/1 ローム粒を僅かに含む。
- 4 暗褐色 10YR3/3 ロームブロックをやや多く含む。
- 5 にふい黄褐色 10YR4/3 ロームブロックを多く含む。
- 6 褐色 10YR4/4 2に類似するもローム含有量が少ない。
- 7 暗褐色 10YR3/4 ロームブロックを多く含む。

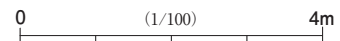


第103図 SB16実測図



**SB17土層説明**

- 1 褐色 10YR4/4 暗褐色土主体。ロームブロックを僅かに含む。
- 2 褐色 10YR4/4 多量の黒褐色土と僅かなロームブロックを含む。
- 3 にふい黄褐色 10YR5/4 ロームブロック・暗褐色土を多く含む。
- 4 褐色 10YR4/4 ローム粒・ロームブロックを多く含む。
- 5 黒褐色 10YR3/2 ローム粒・ロームブロックを少量含む。
- 6 黄褐色 10YR4/2 やや多くのローム粒と少量のロームブロックを含む。
- 7 褐色 10YR4/4 ローム粒を僅かに含む。
- 8 暗褐色 10YR3/3 ローム粒・ロームブロック (φ3~5cm) を多く含む。
- 9 暗褐色 10YR3/3 やや多くのローム粒と少量のロームブロック (φ1cm) を含む。
- 10 暗褐色 10YR3/3 ロームブロック (φ1~3cm) を極めて多く含む。
- 11 褐色 10YR4/4 ローム粒・ロームブロックを極めて多く含む。



第104図 SB17実測図

などが出土している。埋置されたことも考慮される。9世紀前半から中頃とみられる。

**SK04** (第105図 図版30 第7表)

調査区の中央やや南西寄りに位置する。平面形は不整な楕円形を呈する。底面には起伏があり、重複状にみられるが、覆土の堆積からはとくに、切り合いを観察できなかった。遺物は土師器の甕の小片が混入していただけである。

**B区**

**SK05** (第105図 図版30 第7表)

調査区の北西側に位置し、SI13Bを切っている。平面形は不整な楕円形を呈し、深さは確認面から46cmほどある。底面は平坦であり、中央付近にはピット状の窪みがみられる。覆土はロームブロック、ローム粒を含む黒褐色土であり、締まっていた。土師器・須恵器の小片が混入していた。

**SK06** (第105・109図 図版30 第5・7表)

調査区の北西側に位置する。平面形は楕円形を呈し、断面箱形で128cmほど掘り込まれている。とくに、底面には小ピット等は検出されていない。覆土はロームブロックを含んだ黄褐色の土となるが、上層では黒褐色土が堆積している。覆土内から加曾利B式土器が出土している。掘り込みの状況からして陥穴とみられる。

**SK07** (第105図 図版30 第7表)

調査区の南西端に位置する。平面形は不整な方形を呈し、底面は傾斜をみせる。覆土は2、3層が堆積後、切り込まれた様にロームブロックを含んだ1層が堆積している。遺物としては土師器の赤彩された坏の小片がみられた。

**SK08** (第105図 図版30 第7表)

調査区の南西端側に位置し、西側は攪乱されている。平面形は不整な楕円形を呈する。底面はほぼ平坦であり、締まりのある覆土が堆積している。覆土内には土師器甕、須恵器坏の小片が混入していた。

**SK09** (第105図 図版31 第7表)

調査区の西側に位置し、半分ほど調査区外に至っている。平面形は楕円形を呈するとみられ、底面は丸底状となり、深さ43cmを測っている。覆土内からは加曾利B式片が出土している。

**SK10** (第106図 図版31 第7表)

調査区の北西側に位置する。平面形は隅丸方形を呈し、丸底状の底面をなしている。覆土内には炭化材片が多くみられ、炭焼きの際の集積に使用されたことが考えられる。

**SK11** (第106図 図版31 第7表)

調査区の西側に位置し、SB05、SK12を切っている。平面形は円形を呈し、掘り込みの深さは46cmを測る。底面はほぼ平坦となる。覆土はロームブロックを含み、締まっていた。須恵器坏の小片が出土している。

**SK12** (第106図 図版31 第7表)

調査区の西側に位置し、SB05、SK11に切られている。平面形は楕円形を呈し、深さ163cmを測る。断面箱形の掘り込みは中段やや下位から窄まりをみせ、底面は平坦となる。とくに、ピット等はみられなかった。覆土はロームブロックを多く含み、よく締まっている。形状から陥穴とみられる。遺物の出土はない。

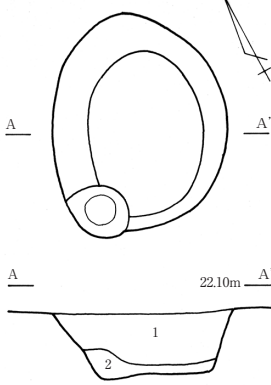
**SK13** (第106図 図版31 第7表)

調査区の西側に位置する。西側半分は攪乱を受けている。平面形は楕円形を呈し、やや丸底状の底面となる。覆土は締まりのある黒褐色土、締まりの弱い黒褐色土が堆積している。覆土から土師器坏の小片が出土した。

**SK14** (第106図 図版31 第7表)

調査区の東側に位置し、北側でピットに重複、切られている。平面形はほぼ円形を呈し、底面は平坦である。覆土は比較的締まっており、少量の焼土粒が含まれていた。遺物としては縄文前期土器片と土師器甕、須恵器坏

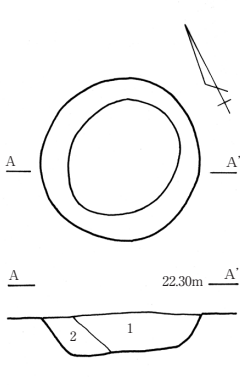
SK01



## SK01土層説明

- 1 黒褐色 10YR3/2 ローム粒を少量含む。締まり、粘性やや弱い。
- 2 褐色 10YR4/4 多量のローム粒、少量のロームブロックを含む。締まり、粘性やや弱い。

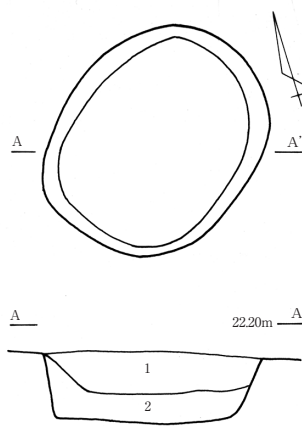
SK02



## SK02土層説明

- 1 褐色 10YR4/6 漸移層ブロック (φ1~3cm) を斑紋状に含む。締まり、粘性やや弱い。
- 2 褐色 10YR4/6 ローム粒をやや多く含む。締まり、粘性やや弱い。

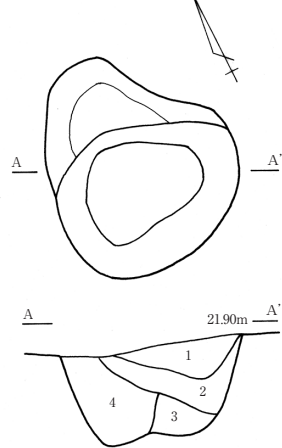
SK03



## SK03土層説明

- 1 暗褐色 7.5YR3/4 ローム粒・焼土・焼土ブロック・粘土粒を少量含む。締まり強く、粘性やや強い。
- 2 褐色 10YR4/4 多量のローム、少量の焼土、僅かな粘土粒を含む。締まり、粘性やや弱い。

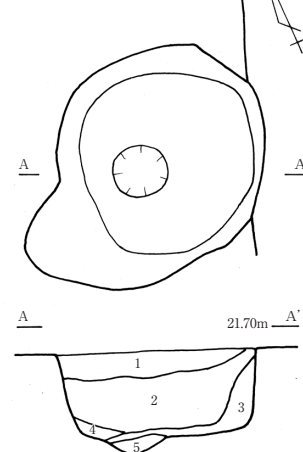
SK04



## SK04土層説明

- 1 にふい黄褐色 10YR4/3 ロームブロック (φ1~2cm) を多く含む。締まりあり。粘性あり。
- 2 明黄褐色 10YR6/6 ロームブロック (φ3cm) を多く含む。黒色土等を含まず。締まりあり、粘性あり。
- 3 黄褐色 10YR5/6 ロームブロック (φ3~5cm) を多く含む。締まりあり、粘性あり。
- 4 黒褐色 10YR3/2 ロームブロック (φ0.5cm) を多く含む。均質。締まりあり、粘性あり。

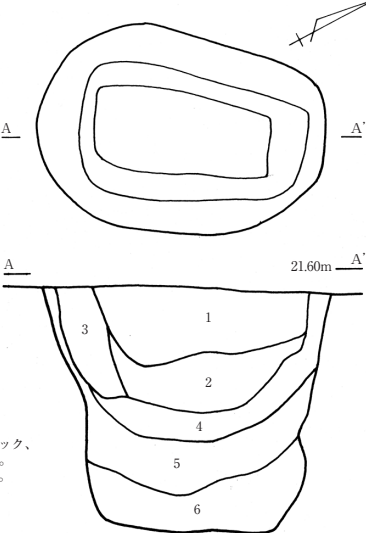
SK05



## SK05土層説明

- 1 黒褐色 10YR2/3 多量のローム粒、焼土粒を含む。やや締まりあり。
- 2 黒褐色 10YR2/3 極多量のローム粒、中量のロームブロック、微量の焼土粒を含む。やや締まりあり。
- 3 黒褐色 10YR2/3 中量のロームブロック、焼土粒を含む。やや締まりあり。
- 4 黒褐色 10YR2/3 ごく多量のローム粒を含む。やや締まりあり。
- 5 黒褐色 10YR2/3 中量のローム粒を含む。やや締まりあり。

SK06



## SK06土層説明

- 1 褐色 7.5YR4/3 暗褐色土主体。ローム小ブロックを多く含む。
- 2 黒褐色 10YR2/2 ローム小ブロックを少量含む。硬く締まりあり。
- 3 にふい黄褐色 10YR4/3 ロームブロックを多く含む。1・2に比べ柔らかい。
- 4 褐色 7.5YR4/3 ローム粒を多く含む。硬く締まりあり。
- 5 灰褐色 7.5YR4/2 ロームブロック (φ1cm) を多く含む。柔らかく締まりなし。
- 6 灰黄褐色 10YR4/2 ロームブロック (φ1cm以下) を少量含む。締まり弱い。

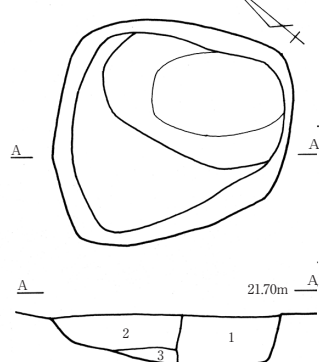
## SK08土層説明

- 1 灰黄褐色 10YR4/2 ロームブロックを少量含む。柔らかく締まりなし。(攪乱)
- 2 にふい黄褐色 10YR4/3 ロームブロックを多く含む。やや硬い。
- 3 褐色 10YR3/2 ローム小ブロックを少量含む。やや硬い。
- 4 暗褐色 10YR3/3 ロームブロックを多く含む。硬く締まりあり。

## SK09土層説明

- 1 暗褐色 10YR3/3 焼土粒を少量含む。柔らかく締まりなし。
- 2 褐色 10YR4/4 ローム粒を少量含む。柔らかく締まりなし。

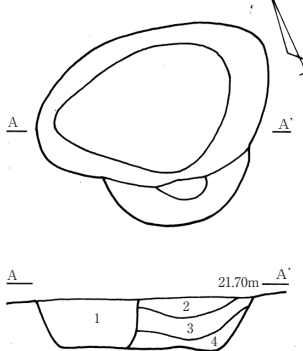
SK07



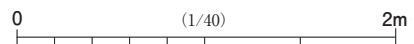
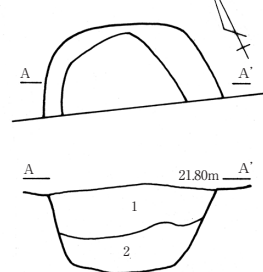
## SK07土層説明

- 1 灰黄褐色 10YR4/2 ロームブロックを多く含む。柔らかく締まりなし。
- 2 暗褐色 10YR3/4 暗褐色土主体。ロームブロックを少量含む。締まりなし。
- 3 灰黄褐色 10YR4/2 暗褐色土主体。ロームブロックを少量含む。やや硬い。

SK08



SK09



第105図 土坑実測図 (1)

の小片が出土している。

**SK15** (第 106 図 図版 31 第 7 表)

調査区の東側、SI30 に切られ、上面が貼られていた。平面形は楕円形を呈し、深さは確認面から 16cm を測る。底面は平坦である。覆土には幾らかの焼土粒を含んでいた。土師器甕の小片が出土している。

**SK16** (第 106 図 図版 31 第 7 表)

調査区の東側に位置し、SI29 に切られ、上面が貼られている。平面形は不整な楕円形を呈し、断面の観察から重複した 2 基の土坑がみられる。すなわち、1～3 層で 1 基、土層 4・5 層の切られた土坑 1 基であるが、底面である 4・5 層上が必ずしも硬化面としては捉えられていない。遺物は土師器甕、須恵器甕の小片がみられただけである。

**SK17** (第 106 図 図版 32 第 7 表)

調査区の東側に位置する。平面形は楕円形を呈し、底面は傾斜をみせている。覆土は比較的締まっており、遺物は粟島台式土器、土師器甕の小片がみられた。

**SK18** (第 107 図 図版 32 第 7 表)

調査区の東側に位置する。平面形は不整な楕円形を呈し、深さは 52cm ほどを測る。底面はやや起伏がみられ、ロームブロックを含む覆土はやや締まりに欠ける。遺物の出土はなかった。

**SK19** (第 107 図 図版 32 第 7 表)

調査区の東側に位置する。平面形は楕円形を呈し、半円状の掘り込みとなる。覆土は黄褐色を主体とした土層となり、黒浜式土器、土師器の甕・坏の小片が出土している。

**SK20** (第 107 図 図版 32 第 7 表)

調査区の東側に位置する。SI33、SI36 を重複し、切っている。楕円形を呈し、掘り込みは有段となっている。土層の観察では 1 層が 2・3 層を切り込んでいる。覆土には焼土ブロック、焼土粒が含まれている。遺物は土師器の甕、甌の小片が出土している。

**SK21** (第 107 図 図版 32 第 7 表)

調査区の北西側に位置し、SI12 に重複され、切られている。不整な楕円形を呈し、確認面から深さ 17cm を測る。上面は貼られ、底面は起伏がみられる。覆土はロームブロックを多く含み、よく締まっていた。遺物の出土はなかった。

**SK22** (第 107 図 図版 32 第 7 表)

調査区の東側に位置する。平面形は楕円形を呈し、底面はやや起伏をみせる。覆土は 1 層がピット状の掘り込みとなるが、2～5 層はよく締まっていた。土師器坏の小片、小礫が混入していた。

**SK23** (第 107 図 図版 32 第 7 表)

調査区の東側に位置する。平面形は隅丸長方形を呈し、深さ 94cm を測る。掘り込みは U 字状をなし、覆土は黄褐色土を主体とした土層が堆積している。遺物は縄文土器、土師器、須恵器甕・坏の小片が出土している。

**SK24** (第 107 図 図版 32 第 7 表)

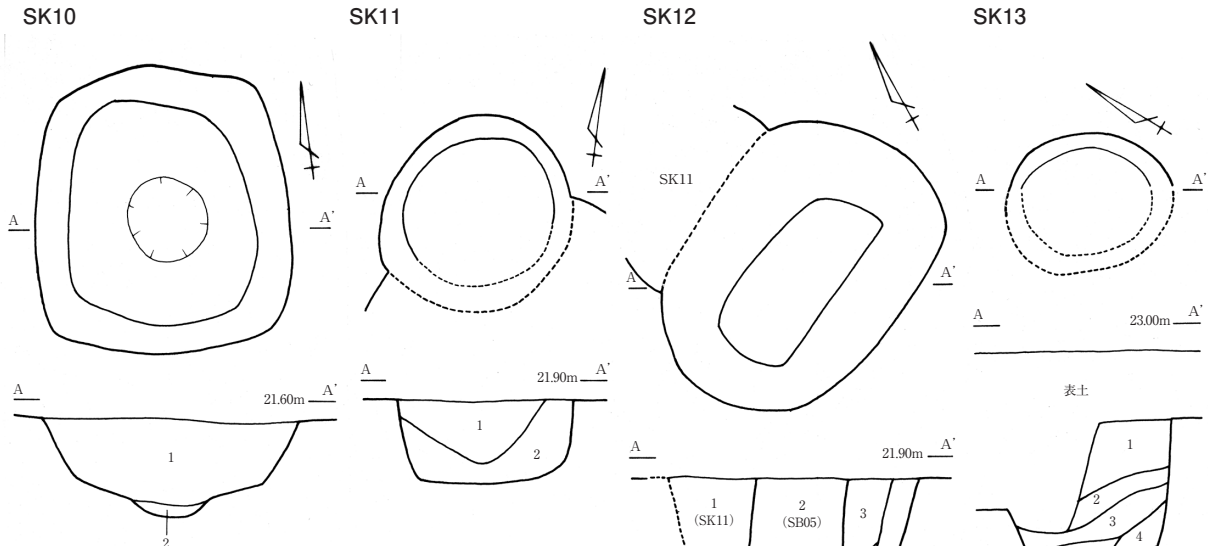
調査区の南東側に位置する。平面形は楕円形を呈し、深さ 22cm を測る。底面は起伏があり、覆土はロームブロックを含む暗褐色土が堆積していた。遺物の出土はなかった。

**SK25** (第 107 図 図版 33 第 7 表)

調査区の東側に位置する。SB12 と重複し、南側を切られている。平面形は楕円形を呈し、掘り込みは逆台形状となる。深さは 25cm を測り、底面は平坦である。土師器甕の小片が出土している。

**SK27** (第 108 図 図版 33 第 7 表)

調査区の中央南壁に位置し、半分は調査区外に至っている。平面形は楕円形をなすかとみられる。掘り込みは丸底状に近く、東側は有段状となっている。覆土は比較的締まりのある暗褐色土、黒褐色土が堆積していた。遺



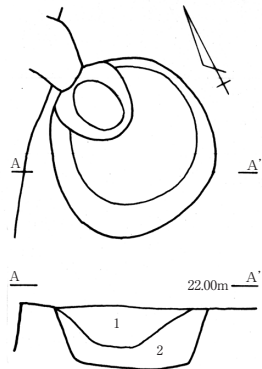
**SK10土層説明**

- 1 暗褐色 10YR3/3 炭化材 (φ5cm) を多く含む。締まりやや弱い。
- 2 黒色 10YR2/1 細かい炭化材片を多く含む。締まり弱い。

**SK11土層説明**

- 1 黒褐色 10YR2/2 ローム粒とロームブロック (φ0.5~1.5cm) を少量含む。締まり強い。
- 2 暗褐色 10YR3/4 ロームブロック (φ0.5~2cm) を多く含む。締まりやや強い。

**SK14**



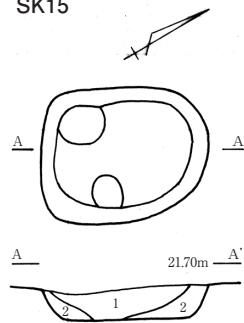
**SK14土層説明**

- 1 黒褐色 10YR2/2 極多量のローム粒と少量の焼土粒を含む。
- 2 暗褐色 10YR3/4 極多量のローム粒と微量の焼土粒を含む。

**SK15土層説明**

- 1 黒褐色 10YR3/2 ローム小ブロック・焼土粒をわずかに含む。締まり弱い。
- 2 黄褐色 10YR5/6 ローム粒を多く含む。締まり弱い。

**SK15**



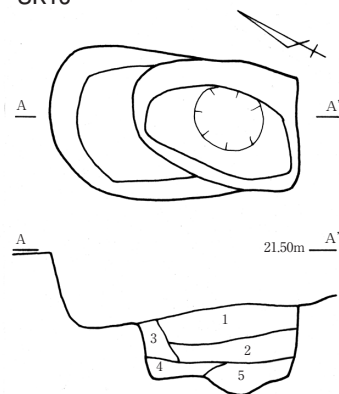
**SK12土層説明**

- 1 SK11
- 2 SK05
- 3 暗褐色 10YR3/4 ロームブロックを極めて多く含む。締まりややあり。
- 4 黒褐色 10YR2/3 ロームブロックを極めて多く含む。締まりややあり。
- 5 にぶい黄褐色 10YR4/3 ロームブロックを極めて多く含む。締まりややあり。
- 6 にぶい黄褐色 10YR4/3 多量のロームブロックと中量の黒色土ブロックを含む。締まりややあり。
- 7 褐色 10YR4/4 ハードロームブロック主体。黒褐色土ブロックを少量含む。締まり弱い。
- 8 褐色 10YR4/4 ロームブロックを多く含む。締まり弱い。

**SK13土層説明**

- 1 暗褐色 10YR3/3 ローム粒とロームブロック (φ2cm) を多く含む。締まりやや弱い。
- 2 黒褐色 10YR3/2 ローム粒とロームブロック (φ1.5cm) を多く含む。締まり強い。
- 3 黒褐色 10YR3/2 ローム粒とロームブロック (φ2.5cm) を多く含む。締まり強い。
- 4 黒褐色 10YR3/2 ロームブロック (φ2cm) を少量含む。締まりやや弱い。
- 5 黒褐色 10YR3/1 ロームブロック (φ1cm) を少量含む。締まり弱い。

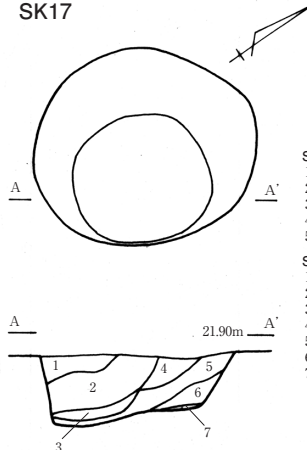
**SK16**



**SK16土層説明**

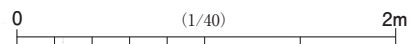
- 1 黒褐色 10YR2/2 ローム粒・焼土粒を微量含む。やや締まりあり。
- 2 黒褐色 10YR2/2 暗褐色土ブロックを多量、ローム粒を中量含む。やや締まりあり。
- 3 暗褐色 10YR3/4 ローム粒・ロームブロックを極多量含む。やや締まりあり。
- 4 褐色土 10YR4/4 ローム粒を多量含む。やや締まりあり。
- 5 暗褐色 10YR3/4 暗褐色土・ロームブロックを極多量含む。やや締まりあり。

**SK17**



**SK17土層説明**

- 1 暗褐色 10YR4/6 暗褐色土主体。ロームを多く含む。硬く締まりあり。
- 2 にぶい黄褐色 10YR3/2 暗褐色土主体。ロームブロックを多く含む。硬く締まりあり。
- 3 暗褐色 10YR3/3 ロームブロックを少量含む。硬く締まりあり。
- 4 褐色 10YR4/4 多くの暗褐色土、少量のローム小ブロックを含む。硬く締まりあり。
- 5 暗褐色 10YR3/4 ロームブロックを少量含む。柔らかく締まりなし。
- 6 暗褐色 10YR3/3 ロームを多く含む。硬く締まりあり。
- 7 黄褐色 10YR5/6 ロームブロック。



第106図 土坑実測図 (2)

物は阿玉台式土器が出土している。

**SK29** (第 108 図 図版 33 第 7 表)

調査区の東側に位置する。平面形は不整な三角状を呈し、深さ 76cm を測る。掘り込みは断面箱形をなし、底面は平坦である。覆土はロームブロックを含む締まりのある暗褐色土が堆積していた。遺物は土師器甕、須恵器蓋の小片が出土している。

**SK30** (第 108 図 図版 33 第 7 表)

調査区の東側に位置し、SB12 に重複され、東側の一部を切られている。平面形は楕円形を呈し、深さは 19cm である。覆土は締まりのある暗褐色土が堆積していた。遺物は土師器甕・坏、須恵器甕の小片が出土している。

**SK31** (第 108 図 図版 33 第 7 表)

調査区の中央東寄りに位置する。平面形は不整な楕円形を呈し、底面は丸底状となる。覆土はロームブロックを含む締まりのある暗褐色土、黒褐色土が堆積していた。遺物は土師・須恵器坏の小片が出土している。

**SK32** (第 108 図 図版 33 第 7 表)

調査区の東側に位置する。平面形は楕円形を呈し、深さ 22cm を測る。掘り込みは浅い鍋底状となり、覆土には多くのロームブロックが含まれている。遺物は土師器甕・坏の小片が出土している。

**5. ピット** (第 110・111 図 第 5・8 表)

ピットは A 区で 28 基、B 区で 18 基の計 46 基が検出されている (付与した遺構番号は No. 52 までとなるが、6 基が欠番となっている)。ピットは柱穴ないしは柱穴状の掘り込みを呼称している。当然、何らかの構造物にともなう掘り込みの一部として想定している訳であるが、柱筋などの整わない掘り込みを一括してピットとしている。これらを裏付けるようにピットの多くは掘立柱建物跡群中に所在しており、明らかに柱痕が観察される例が少なからずある。とくに、調査区外へ延びる遺構については、今後の調査によって新たな掘立柱建物跡として確認されることが考えられる。

A 区検出の 28 基のピットのうち多くは調査区の南側に集中する傾向にあるが、掘立柱建物跡に隣接している位置にある。SD01 に切れ、また、調査区外の南側にピット群が広がっていることが予測される。SI10 に重複する SB02 は明らかに重複し、切り込んでおり、そして、両者とも SD01 によって重複削平されている。こうした状況からも、ピット群も掘立柱建物群と相前後して継起していたことが十分に考えられる。B 区検出の 18 基のピット群についても A 区同様なあり方を示しており、多くは調査区の東側に群在する掘立柱建物群に付随する様に確認されている。中には P45～47、50 の様に柱筋が認められるピット群があるが、最終的には建物跡、または、類似する構造物を検討するも、結論には至らなかった例もある。

P3 からは 8 世紀後半の土師器坏などが出土しているが、出土する遺物はほとんどが混入品とみられ、意識的な埋置を認める例はなかった。

**6. 溝** (第 113 図 図版 34)

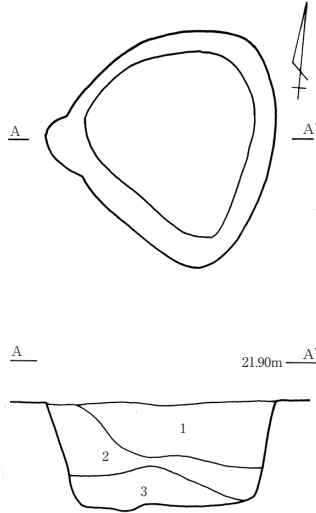
A 区から 1 条、B 区から 3 条、計 4 条の溝が検出されている。

**SD01**

B 区の中央やや西寄りに位置し、南北に走行している。検出部は約 27m であり、幅は 1.6～2.0m ほどである。掘り込みは逆台形に近い断面形をみせ、深さは確認面より 50～70cm を測る。溝の西側には確認調査時にも指摘されていたように、調査区外南に向かって土塁が並行している。土塁はおおよそ 50m ほど目視で確認できる。幅は 4m ほど、高さは現地表面より 90cm で、断面は半円状となっている。盛土はローム粒を含んだ暗褐色土等が積み上げられているが、締まりがなく、版築された様子にはない。

溝の覆土は締まりに欠ける暗褐色土、黒褐色土が互層状態で堆積しており、とくに、偏った土層の流入は観察

SK18



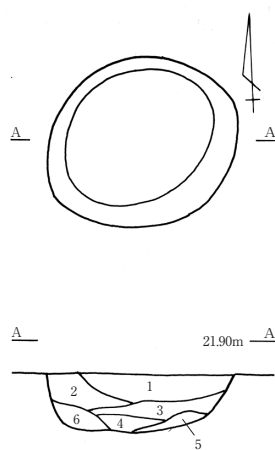
## SK18土層説明

- 1 におい黄褐色 10YR5/4 ローム小ブロックを少量含む。やや硬く締まりあり。
- 2 暗褐色 10YR3/3 暗褐色土主体。ローム小ブロックを少量含む。
- 3 黄褐色 10YR5/6 暗褐色主体。ローム小ブロックを多く含む。柔らかく締まりなし。

## SK19土層説明

- 1 褐色 10YR4/4 ローム小ブロックを多く含む。柔らかく締まりなし。
- 2 におい黄褐色 10YR4/3 黒褐色土主体。ローム小ブロックを少量含む。柔らかく締まりなし。
- 3 におい黄褐色 10YR5/4 ローム主体。暗褐色土を少量含む。
- 4 におい黄褐色 10YR4/3 黒褐色土主体。ローム小ブロックを多く含む。
- 5 明黄褐色 10YR6/6 ローム主体。暗褐色土を少量含む。柔らかく締まりなし。
- 6 におい黄褐色 10YR5/6 ローム主体。暗褐色土を少量含む。硬く締まりあり。

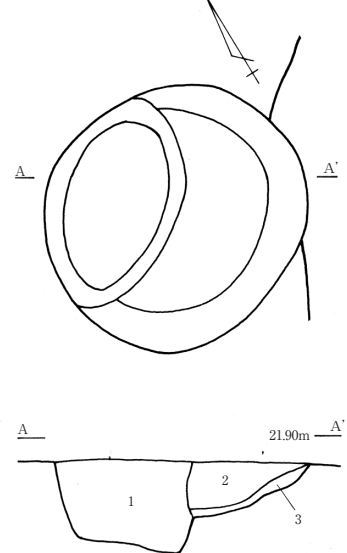
SK19



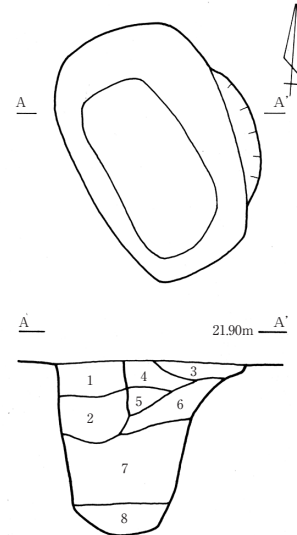
## SK20土層説明

- 1 黒褐色 10YR2/3 ローム粒を極多量に、ロームブロック・焼土ブロックを極少量含む。締まりややあり。
- 2 黒褐色 10YR2/3 ロームブロック・焼土ブロックを中量、黒色土ブロックを微量含む。締まりややあり。
- 3 黒褐色 10YR1/2 焼土粒・炭化物を微量含む。締まりややあり。

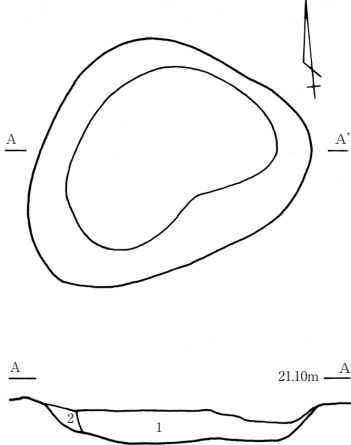
SK20



SK23



SK21



## SK21土層説明

- 1 褐色 10YR4/4 5cm以下のロームブロックを多く含む。締まりあり、粘性あり。
- 2 黄褐色 10YR5/8 ハードロームブロック主体。

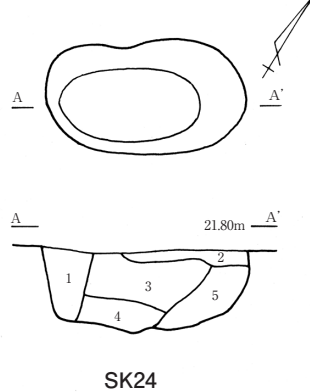
## SK22土層説明

- 1 黒褐色 10YR3/2 ローム小ブロックを少量含む。締まり弱い。
- 2 灰褐色 10YR4/2 暗褐色土主体。ローム粒を少量含む。やや硬い。
- 3 におい黄褐色 10YR4/3 暗褐色土主体。ロームブロックを少量含む。やや硬い。
- 4 黒褐色 10YR3/2 暗褐色土主体。ロームブロックを少量含む。やや硬い。
- 5 黒褐色 10YR3/2 暗褐色土主体。ロームブロックを少量含む。硬い。

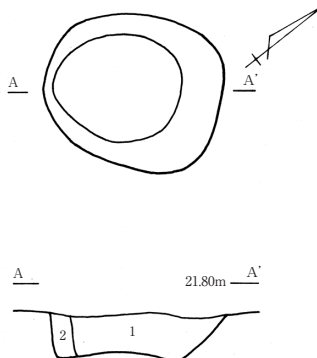
## SK23土層説明

- 1 黄褐色 10YR5/6 ローム主体。暗褐色土を少量含む。
- 2 灰褐色 10YR4/2 ロームブロック (φ2~10cm) を多く含む。硬く締まりあり。
- 3 褐色 10YR4/4 暗褐色土主体。ロームブロックを含む。やや硬い。(攪乱か?)
- 4 暗褐色 10YR3/4 黒褐色土主体。ロームブロックを少量含む。やや硬い。
- 5 黄褐色 2.5Y5/6 ローム小粒主体。暗褐色土を少量含む。締まり弱い。
- 6 黄褐色 10YR5/6 ローム小粒主体。暗褐色土を少量含む。締まり弱い。
- 7 褐色 10YR4/4 ロームブロック主体。
- 8 黄褐色 2.5Y5/6 暗褐色土主体。ローム粒を多く含む。やや硬い。

SK22



SK24



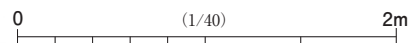
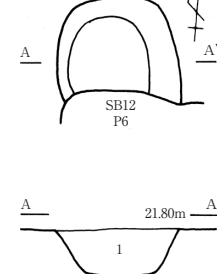
## SK24土層説明

- 1 褐色 10YR4/4 ロームブロック (φ3~10cm) を少量含む。
- 2 暗褐色 10YR3/3 暗褐色土主体。ロームブロック少量を含む。柔らかい。

## SK25土層説明

- 1 褐色 10YR4/4 暗褐色土主体。ロームブロックを少量含む。

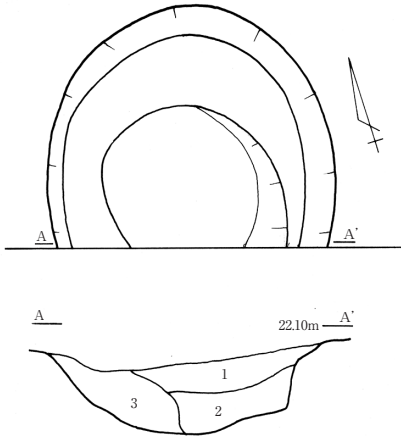
SK25



第107図 土坑実測図 (3)



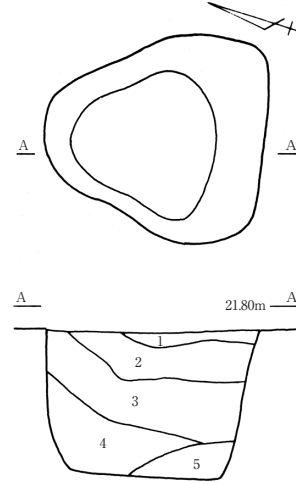
SK27



SK27土層説明

- 1 黒褐色 10YR2/3 ローム粒と暗褐色土ブロックを多く含む。締まりややあり。
- 2 暗褐色 10YR3/4 ロームブロック (φ0.5~1cm) を多く含む。締まりややあり。
- 3 暗褐色 10YR3/4 ロームブロック (φ2~4cm) を多く含む。締まりややあり。

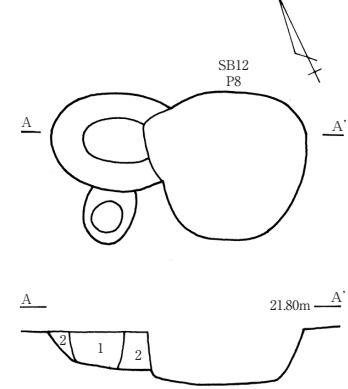
SK29



SK29土層説明

- 1 暗褐色 10YR3/4 多量のローム粒と、中量の黒褐色土ブロックを含む。締まりあり。
- 2 褐色 10YR4/6 中量のロームブロック (φ6~10cm) と黒褐色土を含む。締まりあり。
- 3 暗褐色 10YR3/4 ローム粒とロームブロックを多く含む。締まりあり。
- 4 暗褐色 10YR3/4 ロームブロック (φ2~6cm) と黒褐色土ブロック (φ3~10cm) を多く含む。締まりあり。
- 5 褐色 10YR4/6 多量のロームブロックと、少量の暗褐色土ブロックを含む。締まりあり。

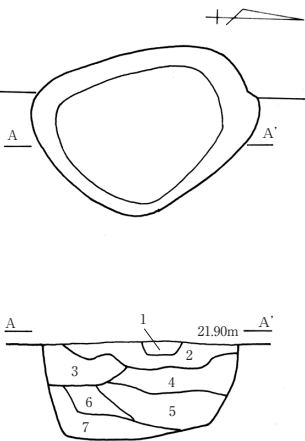
SK30



SK30土層説明

- 1 暗褐色 10YR3/4 ロームブロックを極めて多く含む。締まりややあり。
- 2 暗褐色 10YR3/4 極多量のローム粒と、多量のロームブロックを含む。締まりややあり。

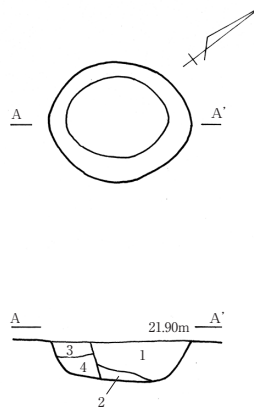
SK31



SK31土層説明

- 1 暗褐色 10YR3/4 ローム粒を極めて多く含む。締まりややあり。
- 2 暗褐色 10YR3/4 ロームブロックと黒褐色土を多く含む。締まりあり。
- 3 黒褐色 10YR2/3 多量のローム粒と、中量の黒褐色土ブロックを含む。締まりあり。
- 4 暗褐色 10YR3/4 多量のローム粒と、少量のロームと黒褐色土ブロックを含む。締まりあり。
- 5 黒褐色 10YR2/3 ローム粒と暗褐色土ブロックを多く含む。締まりあり。
- 6 暗褐色 10YR3/4 ロームブロックと暗褐色土ブロックを多く含む。締まりあり。
- 7 褐色 10YR4/6 極多量のロームブロックと、中量の黒褐色土ブロックを含む。締まりあり。

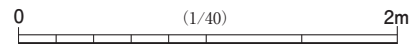
SK32



SK32土層説明

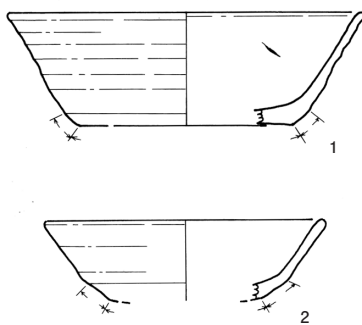
- 1 暗褐色 10YR3/4 多量のロームブロックと暗褐色土ブロックを含む。締まりややあり。
- 2 褐色 10YR4/6 多量のロームブロックと、中量の暗褐色土ブロックを含む。締まりあり。
- 3 暗褐色 10YR3/4 極多量のロームブロックを含む。締まりあり。
- 4 黒褐色 10YR2/3 極多量のローム粒と、中量の黒褐色土ブロックを含む。締まりあり。

(SK26・28は欠番)

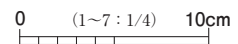
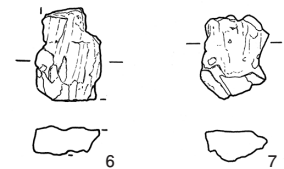
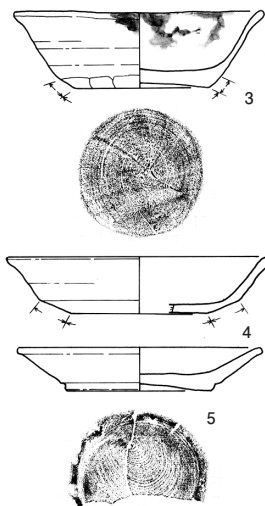


第108図 土坑実測図 (4)

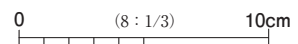
SK02 (1~2)



SK03 (3~7)



SK06 (8)



第109図 土坑出土遺物実測図

されていない。覆土内からは土師器、須恵器片などが出土しているが、混入品であり、「寛永通宝」が1点出土している。重複する竪穴建物跡、掘立柱建物跡等を切っている。

#### SD02

B区の北西端側の傾斜面に沿って、東西に走行している。検出部は29mほどであり、幅は0.8～1.0m、半円状の掘り込みは深さ25cmほどである。覆土はローム粒を含む暗褐色、黒褐色土であり、締まりが強い。遺物は少なく、少量の土師器、須恵器片が出土している。標高は東端で21m、西端で20.7mであり、30cmほどの高低差をみせている。調査区内外に土塁は観察されていない。

#### SD03

B区の東側に位置し、北北東―南南西に走行している。幅は1m前後で、溝中にはピット状の掘り込みが連続している。深さは25～50cmほどであり、とくに、柱穴の痕跡はみせていない。北東端で走行が北東方向に向い、未確認であるが、北西の崖端に向かっているとみられる。攪乱坑のために、不詳である。なお、本溝は重複する竪穴建物跡を切っている。遺物の出土は無かった。

#### SD04

B区の北東端に位置し、崖端に沿って北西―南東に走行している。南東端は収束部となっているが、北西側に向かう溝は攪乱坑に切られ、幅、深さは不詳である。走行方位としてはSD02に向かっている。

### 7. 炉穴

B区において2基の炉穴が確認されている。

#### 1号炉穴（第114・115図 図版35 第5表）

調査区の東側に位置し、SB09によって一部切られている。平面形は南北に長い長楕円形を呈し、1.3×0.33m、深さ38cmの大きさを測る。ほぼ中央部に足場があり、それぞれ緩やかに傾斜しつつ南北端の燃烧部に至っている。燃烧部は南側に比して北側がやや大きく、40×30cmほどの楕円形を呈している。焼土も多く遺存していた。とくに、煙道部を認める様な土層は観察されなかった。南端燃烧部の覆土内から条痕文土器が2点（1、2、3）、そして、阿玉台式土器片1点が出土している。1は推定胴径22cmで、外面は横位の貝殻条痕文を施文後、縦位のヘラ削りを行い、内面には横位の貝殻条痕文が施文されている。2は推定胴径30cm、外面上半に横位の貝殻条痕文を施し、下半は縦位のヘラ削りがなされる。内面は繊維痕間に横位の貝殻条痕文がみられる。また、2と同一個体とみられる外面が赤褐色の貝殻条痕文土器が調査区内から数点出土している（第115図10～13）。4は中期阿玉台式土器である。

#### 2号炉穴（第114・116図 図版35 第5表）

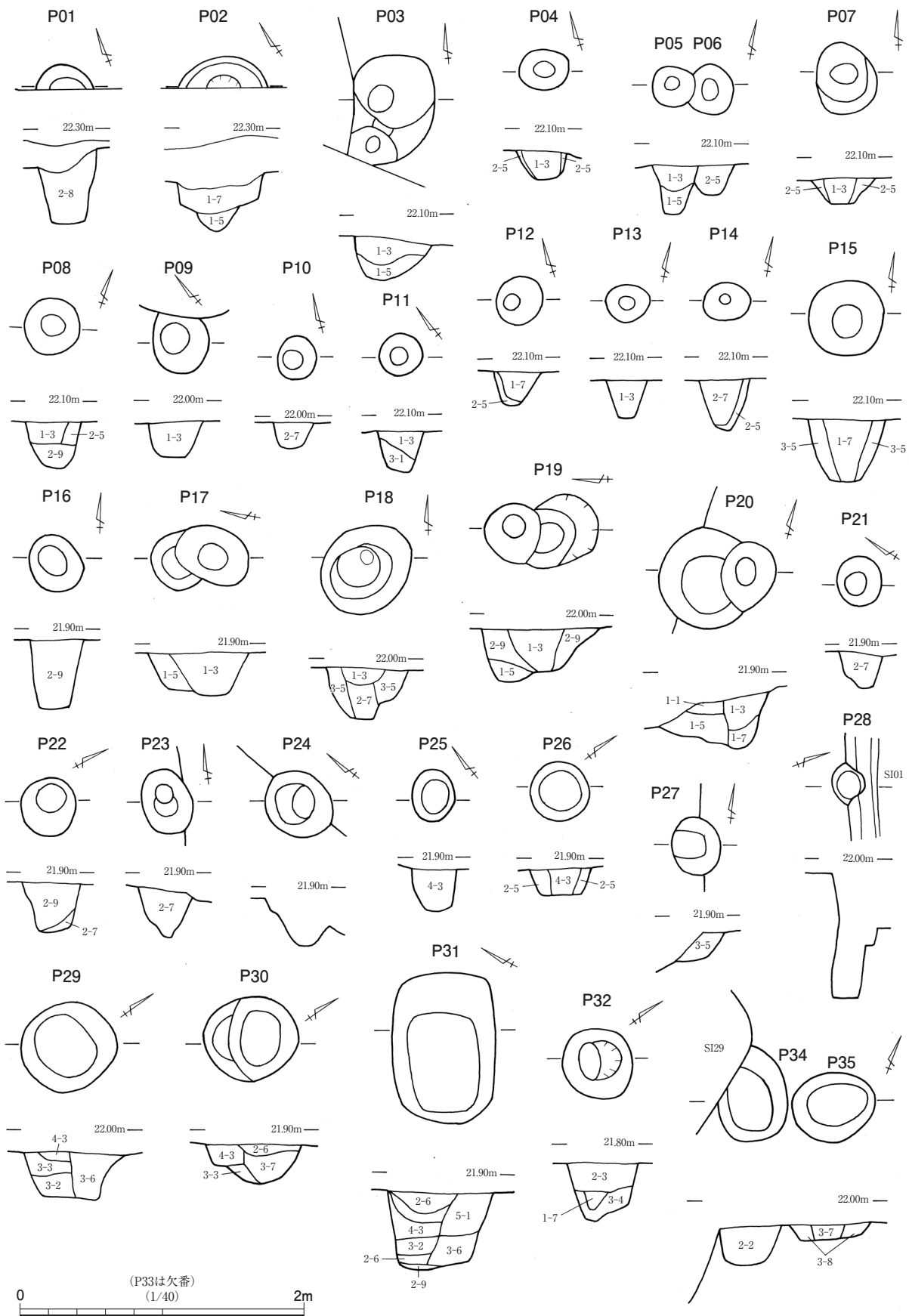
調査区の中央部に位置する。平面形は楕円形を呈し、丸底状の掘り込みは径80×67cm、深さ18cmの大きさを測る。覆土はロームブロックを主体とする1層と、ロームブロックと焼土粒を多く含む暗褐色土の2層に分かれ、2層上面から潰れた状態で貝殻条痕文土器が出土している。推定胴径は40cmほどであるが、細片化が著しく、全体像の把握は困難である。

### 8. 焼土跡（第117図 図版35）

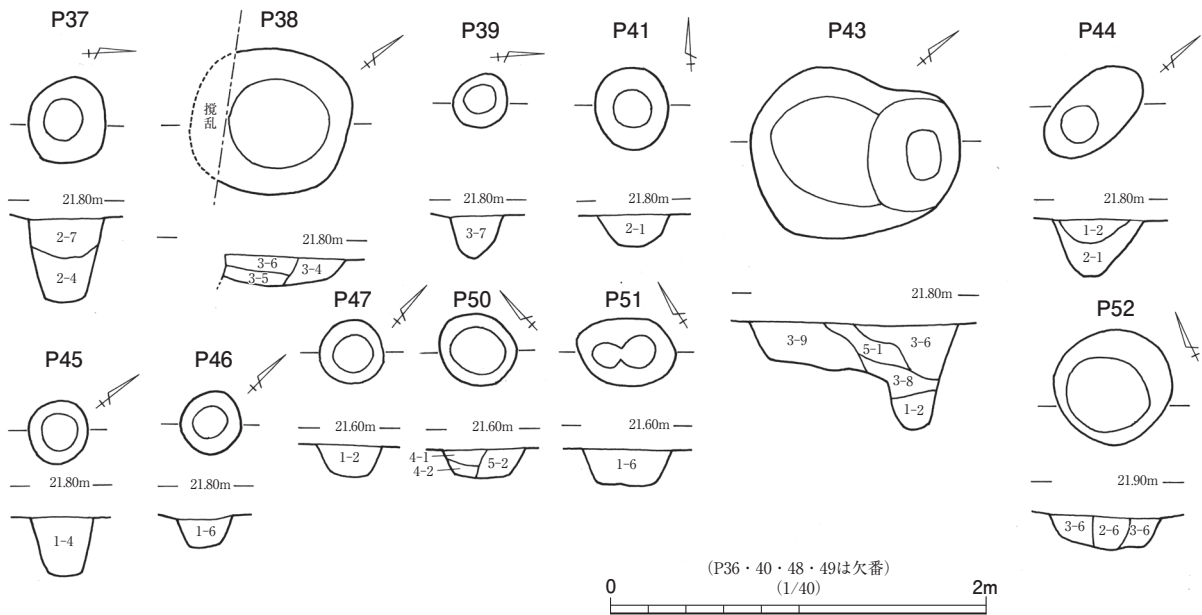
B区で焼土のみを認める遺構が2基検出されている。なお、2号は欠番とする。

#### 1号焼土跡

調査区の中央やや西側に位置する。平面形は径60cmほどの円形、ないしは楕円形を呈するかとみられるが、検出部の北西側は攪乱坑によって削平されている。6～7cmほどの浅い皿状の掘り込みとなり、覆土には多くの焼土粒を含んでいた。底面はよく焼けている。遺物は土師器の甕・坏の小片が検出されている。炉跡、またはカマドの火床かとみられるが、不詳である。



第110図 ピット実測図 (1)



ピット土層説明

1 黒褐色土 (10YR3/1 ~ 10YR2/3)

- 1-1 ローム粒を多く含む。
- 1-2 ローム粒を少量含む。
- 1-3 ロームブロック (1cm 以下) を多く含む。
- 1-4 ロームブロック (1cm 以下) を少量含む。
- 1-5 ロームブロック (1~2cm) を多く含む。
- 1-6 ロームブロック (1~2cm) を少量含む。
- 1-7 ロームブロック (2cm 以上) を多く含む。

2 暗褐色土 (10YR3/3 ~ 10YR3/4)

- 2-1 ローム粒を多く含む。
- 2-2 ローム粒を少量含む。
- 2-3 ローム粒・ロームブロックを多く含む。
- 2-4 ローム粒・ロームブロックを少量含む。
- 2-5 ロームブロック (1cm 以下) を多く含む。
- 2-6 ロームブロック (1cm 以下) を少量含む。
- 2-7 ロームブロック (1~2cm) を多く含む。
- 2-8 ロームブロック (1~2cm) を少量含む。
- 2-9 ロームブロック (2cm 以上) を多く含む。

3 褐色土 (10YR4/4 ~ 4/6)

- 3-1 ロームと黒褐色土がほぼ均等に混合。
- 3-2 ローム主体で暗褐色土を少量含む。
- 3-3 暗褐色土を多く含む。
- 3-4 ローム粒・ロームブロックを多く含む。
- 3-5 ロームブロックを多く含む。
- 3-6 ロームブロックを少量含む。
- 3-7 ローム粒を多く含む。
- 3-8 ローム粒・ロームブロックを少量含む。

4 にぶい黄褐色土 (10YR5/3 ~ 10YR4/3)

- 4-1 ローム粒・ロームブロック (1cm 以下) を多く含む。
- 4-2 ローム粒・ロームブロック (1cm 以上) を多く含む。
- 4-3 ローム粒・ロームブロック (1cm 以下) を少量含む。

5 黄褐色土 (10YR5/6 ~ 10YR5/8)

- 5-1 ローム主体。
- 5-2 ローム粒・ロームブロックを多く含む。

第111図 ピット実測図 (2)



第112図 P3出土遺物実測図

3号焼土跡 (第117図)

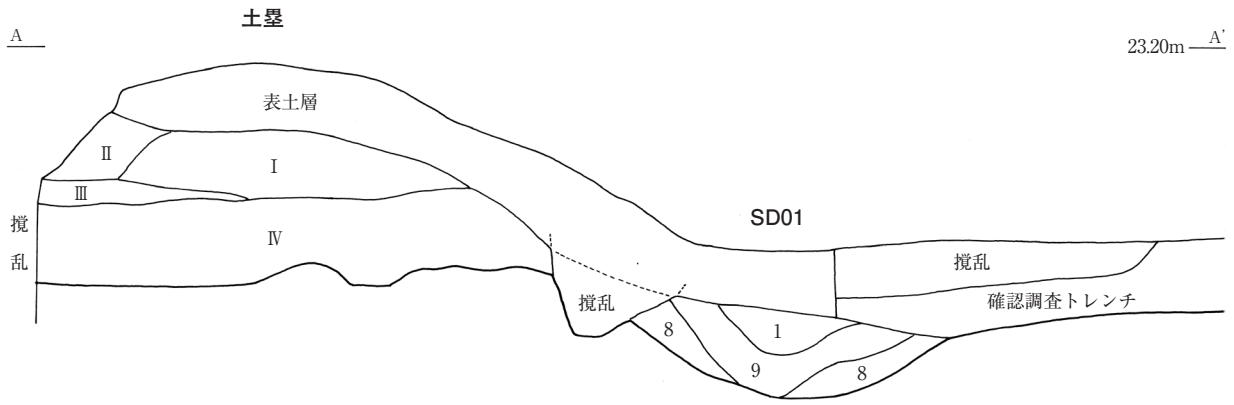
調査区の東側、SI30の南東辺脇に位置し、切られている。平面形は径57cmを測る円形、ないしは楕円形を呈し、掘り込みは逆台形状をなしている。深さは10cmほどで、覆土には多くの焼土を含み、底面はよく焼けている。炉穴とも考えられるが、遺物の出土は無い。

9. 調査区内出土の遺物 (第118図 図版36・37 第5表)

A、B区からは遺構精査の際、また、遺構覆土に混入した縄文土器、弥生土器が検出されている。これらを一括して本項で報告しておきたい。なお、縄文土器は早期から晩期までを第1群から第12群に分類し、それぞれ類別を加えた。

第1群 早期前半 撚糸文系土器

第2群 早期後半 貝殻条痕文系土器 胎土に繊維を含む

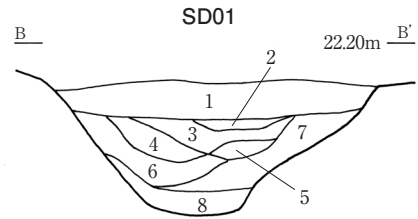


**土壘土層説明**

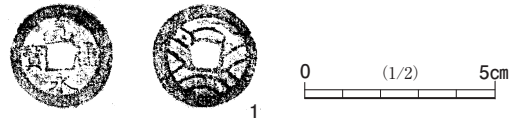
- I 暗褐色 10YR3/3 ローム粒を多く含む。
  - II 褐色 10YR4/6 ローム粒を多く含む。稀にロームブロック (～φ 3 cm) を含む。
  - III 黒褐色 10YR3/2 基本的にIVと同じ。ローム含有量が多い。
  - IV 黒褐色 10YR3/1 ローム粒僅かに含む。黒色味が強い。
- I～IIIは締まり粘性弱い。IVは締まり粘性やや強い。

**SD01土層説明**

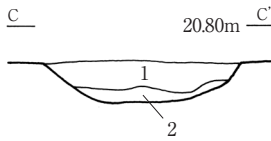
- 1 黒褐色 10YR3/2 ローム粒を少量含む。締まり粘性やや弱い。
- 2 褐色 10YR4/6 ローム主体。黒褐色土を少量含む。
- 3 黒褐色 10YR3/1 少量のローム粒と微量のロームブロック (～φ 2 cm) を含む。締まりやや強く粘性やや弱い。
- 4 暗褐色 10YR3/3 多量のローム粒と少量のロームブロック (～φ 1 cm) を含む。締まり粘性やや弱い。
- 5 暗褐色 10YR3/3 ローム粒・ロームブロック (φ 1～3 cm) を多く含む。締まり粘性やや弱い。
- 6 黒褐色 10YR3/2 ローム粒を僅かに含む。締まり強く粘性やや強い。黒色味が強い。
- 7 暗褐色 10YR3/3 ローム粒を多く含む。
- 8 暗褐色 10YR3/4 多量のローム粒と少量のロームブロックを含む。締まり粘性やや弱い。
- 9 暗褐色 10YR3/4 ローム粒を殆ど含まず。締まり粘性やや強い。



**SD01出土遺物**



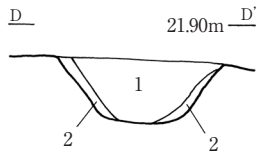
**SD02**



**SD02土層説明**

- 1 黒褐色 10YR3/2 ローム粒を少量含む。締まりややあり。
- 2 暗褐色 10YR3/3 ローム粒・ロームブロック (～φ 2 cm) をやや多く含む。締まりあり。

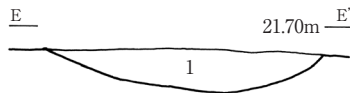
**SD03**



**SD03土層説明**

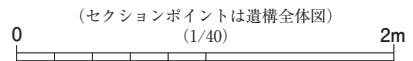
- 1 黒褐色 10YR2/3 ロームブロック・ローム粒を僅かに含む。締まりあり。
- 2 褐色 10YR4/6 ロームブロック・ローム粒を多く含む。締まりあり。

**SD04**



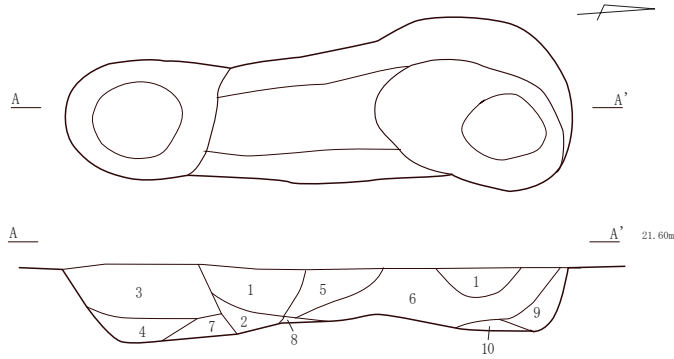
**SD04土層説明**

- 1 灰黄褐色 10YR4/2 ロームブロック主体。暗褐色土を僅かに含む。締まりあり。



第113図 土壘・溝セクション図及びSD01出土遺物

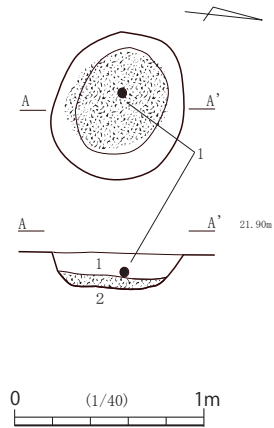
FP01



FP01土層説明

- 1 暗褐色 (10YR3/4) 多量のローム粒と、少量の焼土粒を含む。縮まりあり。
- 2 暗褐色 (10YR3/4) 多量のロームブロックと、極少量の焼土粒を含む。縮まりあり。
- 3 褐色 (10YR4/4) 多量のロームブロックと暗褐色土ブロックを含み、極少量の焼土粒を含む。縮まりあり。
- 4 褐色 (7.5YR4/6) 多量のローム粒と、中量の焼土粒を含む。縮まりあり。
- 5 暗褐色 (10YR3/4) 多量のロームブロックと暗褐色土を含み、中量の焼土粒を含む。縮まりあり。
- 6 暗褐色 (10YR3/4) 多量のロームブロックと、極少量の焼土ブロックを含む。縮まりあり。
- 7 褐色 (10YR4/6) 多量のロームブロックと、極少量の焼土粒を含む。縮まりあり。
- 8 褐色 (10YR4/6) ロームブロックを極めて多く含む。縮まりが強い。
- 9 暗褐色 (10YR3/4) ロームブロックを多く含む。縮まりあり。
- 10 褐色 (7.5YR4/6) 多量のロームブロックと、中量の焼土ブロックを含む。縮まりあり。

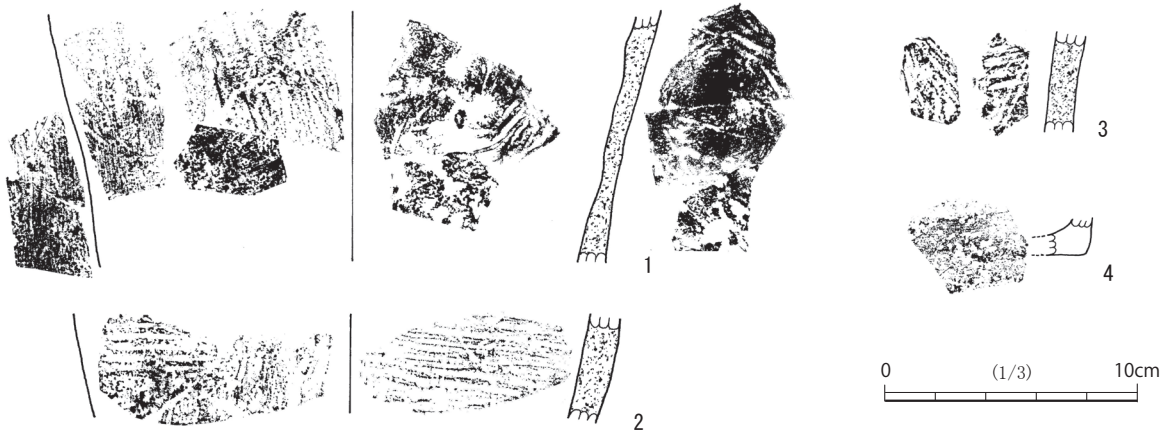
FP02



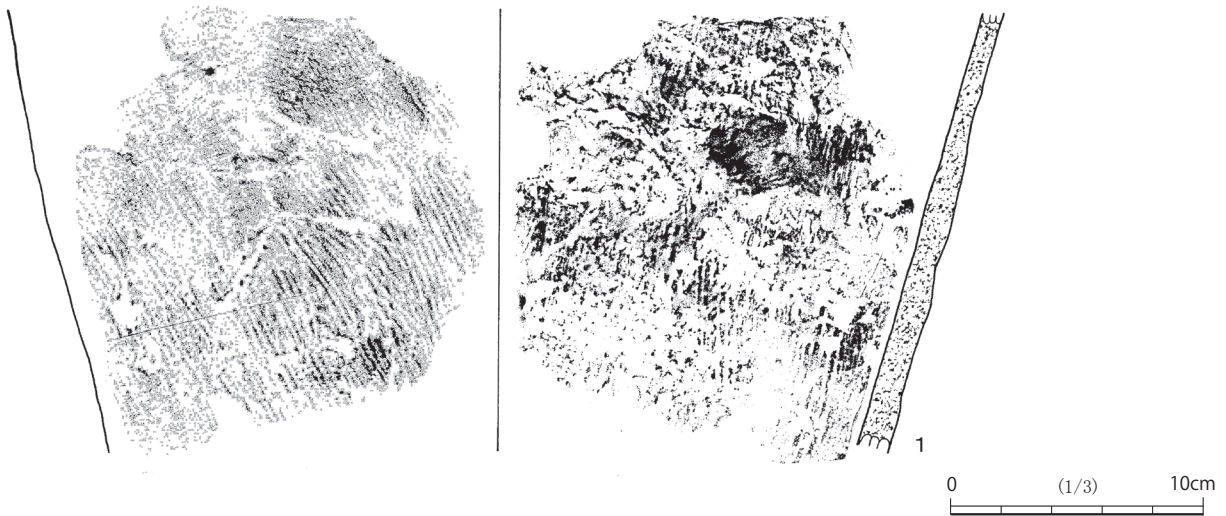
FP02土層説明

- 1 暗褐色 (10YR3/4) 多量のローム粒・暗褐色土ブロックと少量の焼土粒を含む。縮まりあり。
- 2 褐色 (7.5YR4/6) 極めて多くの焼土ブロック・焼土粒と多量の暗褐色土ブロックを含む。縮まりあり。

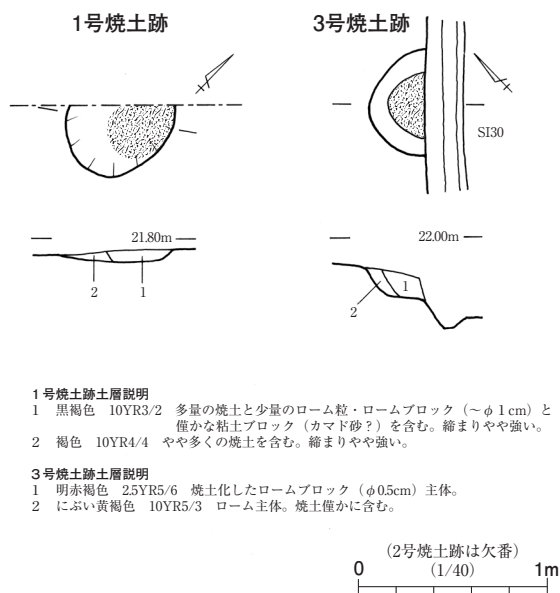
第114図 FP01・02実測図



第115図 FP01出土土器



第116図 FP02出土土器



第117図 焼土跡実測図

- 第3群 前期中葉 黒浜式土器
- 第4群 前期後半 浮島式土器
- 第5群 前期末～中期初頭の土器群
- 第6群 中期中葉 阿玉台式土器
- 第7群 中期後半 加曾利E式土器
- 第8群 後期初頭 称名寺式土器
- 第9群 後期前半 堀之内式土器
- 第10群 後期中葉 加曾利B式土器
- 第11群 晩期終末 千網式土器
- 第12群 晩期最終末 荒海式土器

以上である。

### A区出土の縄文土器

A区から出土している縄文土器は、早期前葉の撚糸文土器から晩期最終末の荒海式土器の92点で、この内、時期が判明した土器は73点である。このうちの27点を抽出した。最も多い土器は前期中葉の黒浜式土器が41点である。

第1群土器：早期前葉の撚糸文系土器群（第118図1・2）。

第1類：無節の撚糸文を施す土器（1・2）（5点出土）。他に第2類：単節の縄文を施す土器1点あり。

第2群土器：早期後半の貝殻条痕文系土器群（第118図3）。胎土に繊維含む。

第1類：内外面共に縦位の貝殻条痕文を施す土器（3）（3点出土）。

第3群土器：前期中葉の黒浜式土器（第118図4～11）。

第1類：縄文を施す土器（4～8）（31点出土）。無節（5・7・8）と単節（4・6）がある。

第2類：繊維束によるナデ施す土器（9）（4点出土）。

第3類：縄文の地文上に綾杉状の沈線を施す土器（10）（1点出土）。

第4類：重複した波状沈線文を施す土器（11）（1点出土）。

第5群土器：前期末葉から中期初頭の土器群（第118図12～16）。

第1類：無節縄文を施す土器（12・13）（2点出土）。12は無文帯の下部に無節縄文の末端部を回転している。

第2類：結節縄文を施す土器（14～16）。

A類：横位の結節縄文を施す土器（14・15）。

A-1：地文に縄文を伴う土器（14）（3点出土）。

A-2：地文に縄文を伴わない土器（15）（1点出土）。

B類：縦位の結節縄文を施す土器（16）。

B-1：地文に縄文を伴わない土器（16）（1点出土）。

第6群土器：中期中葉 阿玉台式土器 第1類：垂下する隆帯の両脇に角押文を施す土器1点あり。

第7群土器：後半の加曾利E式土器（第118図17～19）。

第1類：口縁部は隆帯による渦巻又は楕円状棒状文を形成し、胴部は縦位の磨消縄文を施す土器（17～19）（4点出土）。

第2類：第1類の口縁部文様帯が衰退し、微隆起線文による楕円状棒状文を形成する土器（20・21）（2点出土）。

第3類：口縁部文様帯が消滅し、微隆起線文により∩状の文様を構成する土器（22）（1点出土）。

第8群土器：後期初頭の称名寺式土器（第118図23）。

第1類：列点を施す称名寺Ⅱ式土器(23)。(1点出土)。

第2類：精製浅鉢形土器(24)(1点出土)。胴部に格子目文を形成する。

第3類：粗製深鉢形土器(25)(1点出土)。全面縄文を施文する。縦の沈線状のものは移植痕である。

第12群土器：晩期最終末の荒海式土器(第118図26・27)。

第1類：粗製深鉢形土器。条痕文土器(26・27)(2点出土)。

精製土器の出土はない。

#### A区出土の弥生土器

A区からは6点の弥生土器が出土しており、全てを図示した。

弥生後期の土器(第119図1～6)。

##### 第1群

第1類：口縁部破片で、連続刺突文を施す土器(1～3)。1は口唇部に縄文、口縁下に連続刺突文と縦5条の櫛目文を施す。2は口唇部と口縁下に交互刺突文を施す。3は口縁部に附加条1種(LR+R)を施した縄文帯を形成し、その下に連続刺突文を施す。

第2類：胴部破片(4・5)。いずれも捺糸文(R)を施文する。

第3類：底部破片(6)。附加条1種(LR+R)を施文する。

#### B区出土の縄文土器

B区から出土している縄文土器は、早期前葉の捺糸文土器から晩期終末の千網式土器の220点で、この内、時期が判明した土器は190点である。このうちの111点を抽出した。最も多い土器は、前期中葉の黒浜式土器の75点である。

第1群土器：早期前葉の捺糸文系土器群(第120図1～9)。

第1類：無節の捺糸文を施す土器(1～5)(12点出土)。

第2類：単節の縄文を施す土器(6)(2点出土)。

第3類：一度施文した捺糸文を磨きにより消して無文化した土器(7～9)(3点出土)。

第2群土器：早期後半の貝殻条痕文系土器群(第120図10～12)胎土に繊維含む。胴部のみの破片で型式分類が困難なものが多い。SK-28と焼土遺構2から同期の纏まった遺物が出土している(第115図1・2・第116図1)。

第1類：内外面共に貝殻条痕文を施す土器(10～12)(4点出土)。10～12は外面の色調や内面の器壁の状態から、SK-28出土の第12図の土器と同一個体の可能性がある。

第3群土器：前期中葉の黒浜式土器(第120図13～29)。

第1類：縄文を施す土器(13～24)(26点出土)。縄文は無節(21・22)と単節(13～20)がある。

第2類：横走の単節縄文に捺糸文を施す土器(25)(1点出土)。

第3類：縦走の無節縄文に繊維束圧痕を施す土器(26～28)(3点出土)。

第4類：繊維束によるナデ施す土器(29)(10点出土)。

第5類：波状沈線文を施す土器(30)(1点出土)。

第4群土器：前期後半の浮島式土器(第120図31～33)。

第1類：半截竹管による斜沈線と横位の平行沈線文の組み合わせる文様を有する土器(31～33)(4点出土)。33には地文に無節縄文が施される。

第5群土器：前期末葉から中期初頭の土器群(第120図34～第121図74)。

第1類：矢羽状沈線文を施す土器(34)(1点出土)。

第2類：短沈線を施す土器。口唇部に連続円形刺突文を施す(35)(2点出土)。

第3類：側面圧痕文を施す土器(36～38)(3点出土)。36・37は横位の側面圧痕文を施し、38は口唇部から



縦位の側面圧痕文を施し小波状口縁を呈する。

第4類：無節縄文を施す土器（39～44・46）（12点出土）。39は口唇部の表裏に連続円形刺突文を施し、外面は無節縄文を施文する。46は回転の方向を変え、羽状縄文を形成している。

第5類：折り返し口縁の土器（47）（1点出土）。全面に無節縄文を施し、口縁部末端にヘラ先状工具により連続刺突文を加える。

第6類：結節縄文を施す土器（48～66）。

A類：横位の結節縄文を施す土器（48～59）（15点出土）。

A-1：地文に縄文を施す土器（48～59）。地文は無節と単節があり、無節が多い。

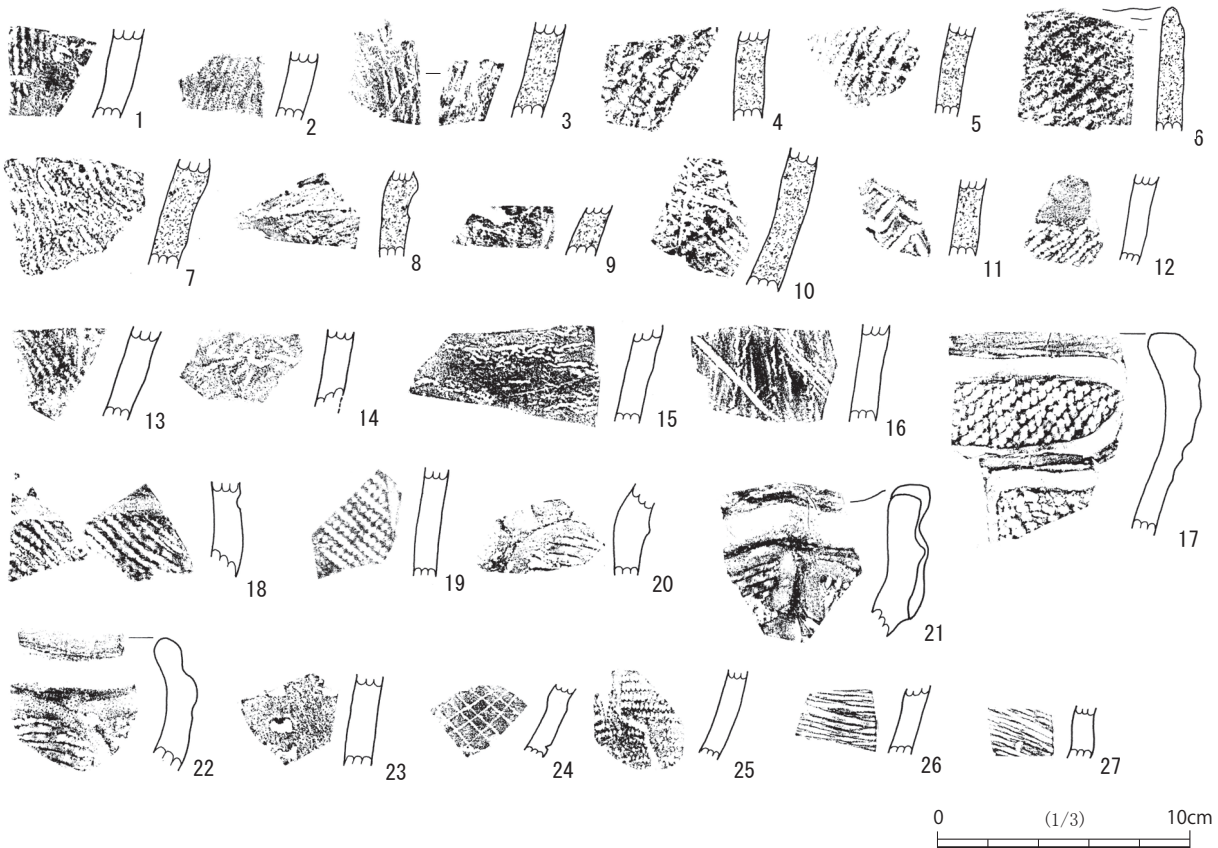
B類：縦位の結節縄文を施す土器（60～66）。

B-1：地文に縄文を施す土器（60～63）（3点出土）。

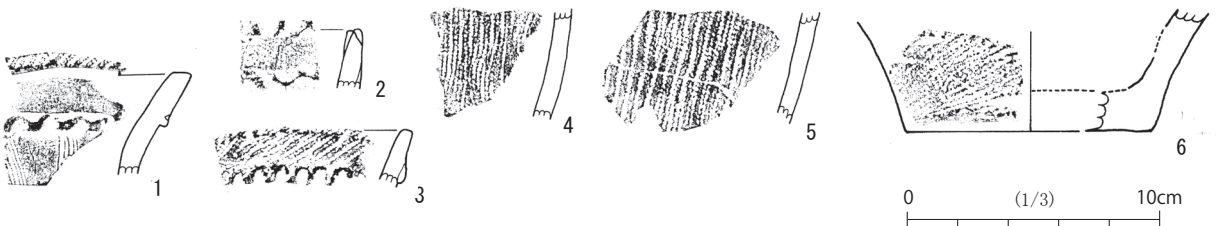
B-2：B-2のミニチュア土器（60）（1点出土）。推定直径約6cmの小型土器で、口唇部が約2cm肥厚する。

B-3：地文に縄文を施さない土器（64～66）（3点出土）。

第7類：口縁部が肥厚する土器（67～70）。



第118図 A区出土縄文時代土器



第119図 A区出土弥生時代土器

A類：口縁部の肥厚部分に縦の短沈線を施す土器（67・68）（2点出土）。67は口縁下に∩状沈線と3条の横位短沈線が施される。

B類：口縁部の肥厚部分下の三角文等が文様要素となる土器（69・70・74）（3点出土）。69・70は同一個体と思われる。

第8類：口縁部が外反し。口唇部に半截竹管による連続刺突文を施す土器（73）（1点出土）。内面は赤彩されている。

第9類：並列する三角文陰刻文を施す土器（72・73）（2点出土）。72にはヘラ先状工具により焼成前に刻線文が施されている。刻線文は土器片の端部で全体の構成は不明であるが、重圏文を構成する2重の円形文が認められる。

第1類は十三菩提式土器、第2類～第4類は粟島台式土器に該当すると思われる。第5類・第6類は、下小野貝塚（江守・岡田・篠遠 1950）・白井雷貝塚（西村 1984）・八辺貝塚（清水 1958・小林 1989）・粟島台遺跡（松田他 2000）等で主体を占める土器で、白井雷貝塚の報告では中期初頭の「下小野式土器」とされている。近年では下小野式の細分（小野他 1979）や八辺式の設定（小林 1988・1989）により、第6類A類が前期終末に組み込まれる可能性がでてきている。第7類・第8類は中期初頭の五領ヶ台式土器と思われる。第9類72は刻線文土器と思われる。

第6群土器：中期中葉の阿玉台式土器（第121図75～81）。

第1類：口縁部に杵状隆帯を形成する土器（75）（4点出土）。口唇部にヘラ先状工具による連続刺突文を施し、直下に押し引き文を施文する。

第2類：垂下する隆帯の両脇に沈線文又は角押文を施す土器（76・77）（4点出土）。

第3類：輪積痕に指頭圧痕を伴う土器（78～81）（6点出土）。

第7群土器：後半の加曾利E式土器（第121図82～85）。

第1類：口縁部は隆帯による渦巻又は楕円状杵状文を形成し、胴部は縦位の磨消縄文を土器（82～84）（3点出土）。82の口唇部に連続刺突文が施されている。

第2類：胴部破片で縄文のみの土器（84）（2点出土）。いずれも加曾利EⅢ式土器と思われる。

第8群土器：後期初頭の称名寺式土器（第121図86）。

第1類：口縁下に沈線のみ施す称名寺Ⅱ式土器（86）（1点出土）。

第9群土器：後期前半の堀之内式土器（第121図87～89）（2点出土）。

第1類：連続刺突文を施した隆線と磨消縄文で構成される土器（87・88）。88は11片の破片を接合し、文様を構成したものである。頸部無文帯に連続刺突文を施した隆線と8字状隆線を貼り付け、胴部は帯状の磨消縄文を三角状に配置する。87は88と同一個体と思われる。胴部中央部で垂下する2帯の磨消縄文に繋がると考えたが、断面からV字状の磨消縄文帯になるとと思われる。

第2類：粗製土器（89）（1点出土）。縄文のみの胴部破片。

A類、B類は共に堀之内Ⅱ式土器と思われる。

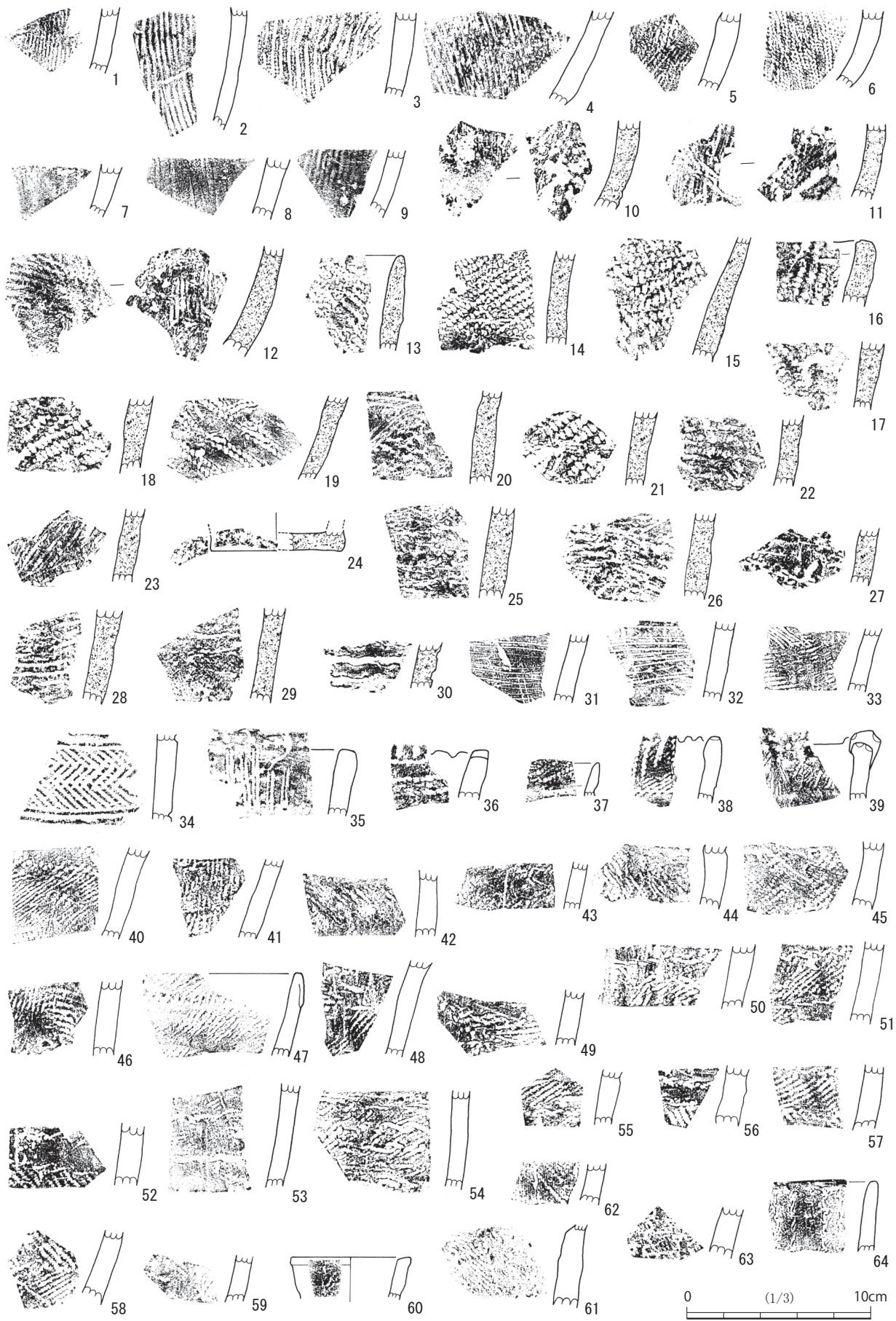
第10群土器：後期中葉の加曾利B式土器（第121図90～94）。

第1類：精製浅鉢形土器（90・91）（2点出土）。91は波状口縁を呈し、全面に縄文を施文後に沈線で横帯文を形成する。

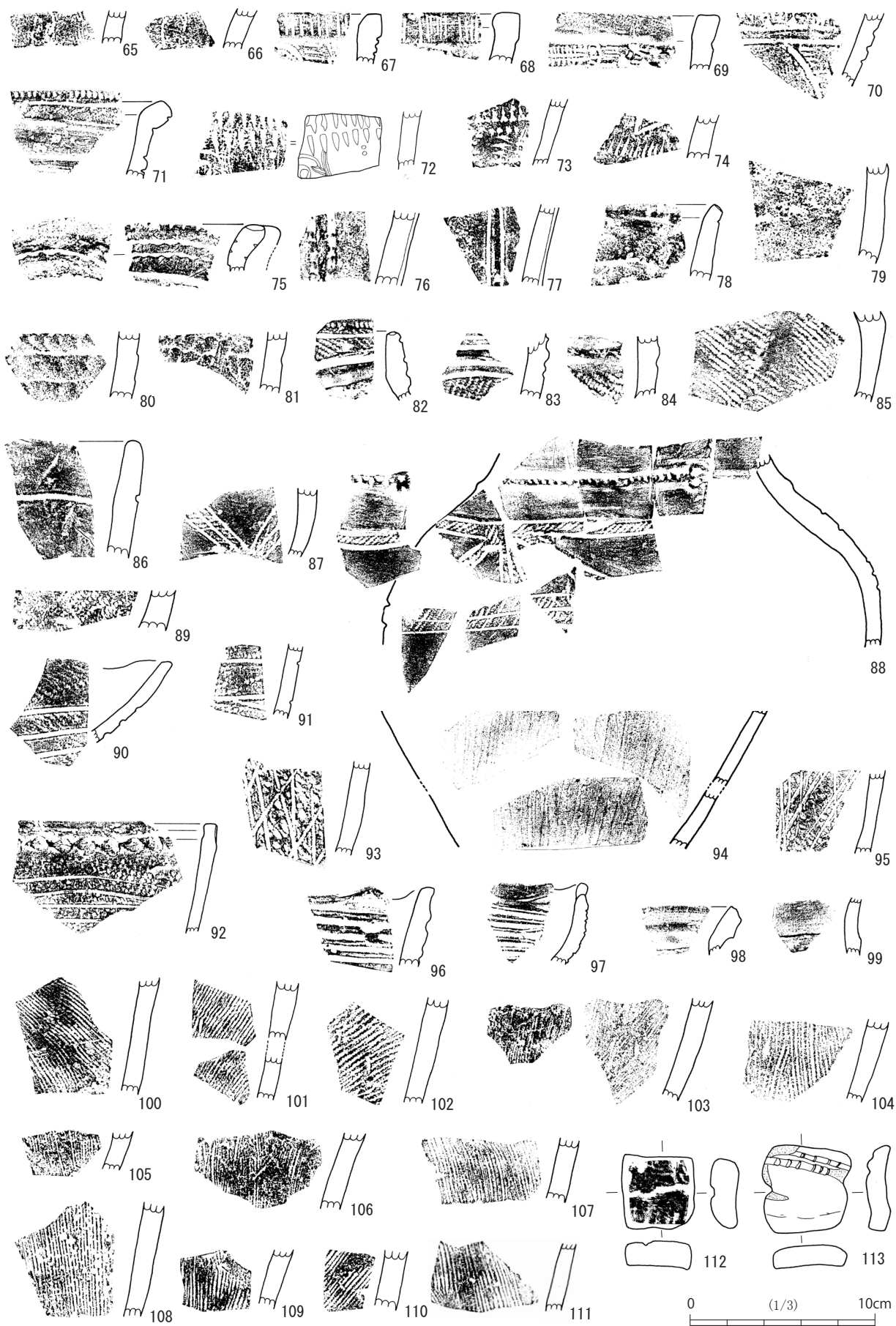
第2類：指頭圧痕を伴う粗製土器（92～95）（5点出土）。紐線文土器。93は単口縁部で、破片節縄文上に横位の斜条線を加え、内面にも沈線を施す。93・95は格子目状の条線を加え、94はその底部付近の破片でヘラ削りが行われている。

第11群土器：晩期終末の千網式土器（第121図96～111）。

第1類：精製浅鉢の浮線網状文の土器（96～99）。



第120图 B区出土繩文時代土器(1)



第121図 B区出土縄文時代土器(2)

第2類：粗製深鉢形土器（100～111）。

A類：捺糸文の土器（100～102）（4点出土）。

B類：櫛目文の土器（第121図103～111）（10点出土）。

本遺跡からは、A区・B区で約312点の縄文土器が出土している。時期同定可能な土器は263点である。このうち最も多いのが第3群の黒浜式土器で、全体で116点（約37.1%）を占めるが、細片が多い。特筆される点は、晩期最終末の千網式・荒海式（第10・11群）土器が検出されたことで、これはA・B区の境界付近に地点は限定されている。

#### 刻線文土器について

刻線文土器と思われる土器が1点出土している（第121図72）。SB07—P8から出土しており、ヘラ先状工具により焼成前に施されている。土器片の端部で全体の構成は不明であるが、重圏文を構成する2重の円形文が認められる。地文は並列する三角陰刻文を施す第5群土器第9類で、中期初頭の五領ヶ台式土器と思われるが、前期末葉の可能性もある。

県内での刻線文土器、西の台遺跡（蛇—前期末葉～中期初頭、新井・高野他1985）・粟島台遺跡（前期末葉、松田他2000）・権現貝原塚（イノシシー後期前半、領塚2011）・吉見台遺跡（水鳥—後期後半、近森・藤村1979、小田他1983）の例があるが、本例の重圏文の構図は西の台遺跡例に類似する。

報告者の高野博光は「真中の円は蛇のとぐろで上に巻いた頭、下は尾を描いているのではないかと推定した。」としている（高野1985）が、新井和之は同じ報告書の中で、福島県冨宮西遺跡、千葉県木の根No.4遺跡、日吉倉遺跡出土例を例にとり、「鋸歯状の沈線の中心に、文様の分岐点に円形や楕円形、蕨手状を呈するものが多い……一見抽象画の見える文様も、分類して見ると大木5b～大木6式の文様構成要素に近いものを組み合わせたものである」として刻線文土器を絵画文土器とする見解に否定的な立場をとっている。（注2、新井1985）

#### B区出土の土製品（第121図112・113）

B区から2個の土錘と思われる土製品が出土している。いずれも第6群の阿玉台式土器の破片を利用している。111は3.8×3.8—1.4cm、重さ13.9gで、縁辺部は擦られているが糸掛けの切り込みはなく、未成品の可能性はある。第3類の輪積痕を有する。112は4.4×5.0—1.3cm、重さ28.1gで、沈線と角押し文が施された第1類の口縁部破片である。

#### B区出土の弥生土器（第122図1～3）

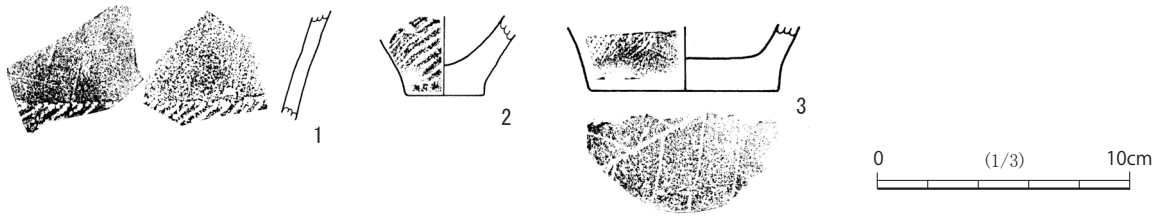
本遺跡からは4点の弥生土器が出土しており、うち、3点を図示した。

#### 弥生時代後期の土器

##### 第1群

第1種：胴部無文帯下にLRの縄文末端部を横位に施文した土器（1）。

第2種：底部（2・3）。附加条1種LR+Rを施し、3の底部には木葉痕を有する。



第122図 B区出土弥生時代土器

注

1. 小野真一は第3類A類の横位の結節縄文を施す土器が小波状の口縁を有する土器と結合するとして下小野Ⅰ式とし、前期末葉とし、第3類A類の一部と第3類B類の縦位の結節縄文を施す土器を下小野Ⅱ式として中期初頭に位置付けたが、これには小林謙一の批判がある（小林 1991）。
2. 設楽博巳は「縄文中期初頭の深鉢の口縁部に、焼成前に細い線でヘビとカエルのような生き物と思われる絵を描いたもの。ヘビ（ないしオオサンショウウオ）とカエルは、縄文中期の中部高地で広く用いられた絵画のモチーフであり、その原型とも言える。」（設楽 2006）としている。松田光太郎は粟島台遺跡例を「東北地方の大木Ⅴ式に類例がある（福島県冨宮西遺蹟、芳賀 1984）」としており（松田光太郎他）

#### 参考文献

- 新井和之 1985「C. 西の台遺跡の線刻画について」『西の台（第2次）』船橋市遺跡調査会
- 江守正義・岡田茂弘・篠遠喜彦 1950「千葉懸香取郡下小野貝塚発掘報告」『考古学雑誌』第36巻第3号 日本考古学会
- 小野真一他 1979『常陸伏見』同遺跡調査会
- 小田嶋永他 1983『佐倉市吉見台遺跡発掘調査概要Ⅱ』同教育委員会
- 小林謙一 1988「東関東地方縄文時代中期初頭段階の土器様相―「八辺式」土器群設定その編年的位置について―」『村上徹君追悼論文集』同編集委員会
- 1989「千葉県八日市場市八辺貝塚出土の土器について―東関東地方縄文時代中期初頭段階の土器様相―」『史学』58巻2 三田史学会
- 1991「東関東地方の縄文時代前期末葉段階の土器様相―側面圧痕土器及び全面縄文施文土器の編年的位置づけ」『東邦考古15』東邦考古学研究会
- 設楽博巳 2006「日本原始絵画研究の歴史」『原始絵画の研究論 考編』六一書房
- 清水潤三 1958『千葉県栗山川溪谷における貝塚の地域的研究（豫報）』『史学』31巻1―4 三田史学会
- 高野博光 1985「3. 線刻画をもつ土器」『西の台（第2次）』船橋市遺跡調査
- 近森正・藤村東男 1979「千葉県吉見台遺跡出土の線刻画のある土器」『考古学雑誌第65巻第3号』
- 松田光太郎他 2000『粟島台遺跡―銚子市粟島台遺跡 1973・75の発掘調査報告書―』銚子市教育委員会
- 米田耕之助 1996「縄文時代の絵画」『考古学の諸相―坂詰秀一先生還暦記念―』同記念会
- 領塚正浩 2011「イノシシの線刻画ある権現原貝塚の縄文土器について」『市史研究いちかわ第2号』
- 西村正衛 1984「千葉県香取郡小見川町白井雷貝塚」『石器時代における利根川下流域の研究―貝塚を中心として―』早稲田大学出版部

## 第5章 まとめ

島田込の内遺跡の調査は第2章に述べたように、1993（平成5）年、道路建設に伴い、千葉県文化財センターによってはじめて行われた。古墳時代から奈良・平安時代、そして、中世に至る遺構・遺物が検出された。本遺跡は新川（旧・平戸川）に面する標高22mの台地上に約2万㎡にも及ぶ範囲を有している。千葉県文化財センターによって行われた第1次、第2次調査は遺跡北側の菖蒲谷津側にあり、今次の調査対象区であるd・e地点は国道16号線を挟んだ菖蒲谷津側に位置している。唯一、本遺跡の中央部で行われたC地点の調査は面積的にも小さく、明確な遺構の確認には至っていない。こうした経緯からも島田込の内遺跡の内容把握は未だその一角を捉えているに過ぎない。今後、調査の進展、成果に期待したいところである。

ところで、本遺跡の所在する新川流域には多くの遺跡が所在するが、開発に伴う調査の増加により、次第にその内容が明らかにされつつある。とくに、奈良・平安時代における古代遺跡の調査成果は房総における律令社会の在り方に多くの問題点を投げかけている。なかでも、9世紀中頃とみられる萱田権現後遺跡D189号住居跡から出土した人面を描いた甕に「村神郷丈部国依甘魚」の墨書が記され、『倭名類聚抄』における「印旛郡村神郷」であることが指摘された<sup>(文1)</sup>。その後、新川東岸域にあたる上谷遺跡からも「下総国印旛郡村神郷」と記された墨書が出土している<sup>(文2)</sup>。8世紀後半から9世紀半ばに至る本地域における遺跡からは墨書土器に限らず、仏教、製鉄関連の遺物も数多く報告され、その重要性は調査の進展と共に高まっている。

こうした印旛沼西岸域・新川流域における古代遺跡研究の視点を踏まえつつ、今次d・e地点の調査成果を幾つか捉え、報告のまとめとしたい。

前述のごとく、d・e地点は今次の調査においておおむねA区がe地点にあたり、B区がd地点にあたる。A区、B区はあくまで調査の進行上の仮称であることをお断りしておく。A区では旧石器集中地点1ヶ所、竪穴建物跡10軒、掘立柱建物跡4棟、土坑4基、ピット28基、溝1条、そして、B区では竪穴建物跡27軒、掘立柱建物跡13棟、土坑26基、ピット18基、溝3条、炉穴2基、焼土跡2基が確認されている。これら遺構と共に旧石器、縄文土器、弥生土器、そして、多くの土師器、須恵器などの遺物が検出されている。

A区では旧石器時代の石器集中地点が1ヶ所確認され、B区でも散発的に旧石器が検出されている。旧石器は井戸向遺跡をはじめとする新川流域を廻る多くの遺跡で確認されている<sup>(文3)</sup>。本地点から総数279点の石器が出土し、大半の227点の石器がA区から検出されている。4.2×5.5mほどの大きな纏まりが認められるが、西側に偏りをみせる小ブロックが東西にみられた。ここでの石器の組成は搔器17点、ナイフ形石器3点、削器2点、石核5点、石錐3点、二次加工のある剥片8点、微細剥離痕のある剥片26点、他は剥片碎片、小礫類である。石材組成は黒曜石が大半で222点、98%を占めている。夾雑物として球果を多く含み、視覚的には栃木県高原山産の黒曜石である可能性が高い。

石器類の出土層位はⅣ～Ⅴ層にみられるが、南関東地方では搔器が多量に検出される段階でもあり、また、高原山産黒曜石が石器に占める割合の多さからも典型的な出土状況の一例とみられる。

縄文時代の遺構は早期後半の炉穴が2基、時期不詳の陥穴2基、そして、中期加曾利EⅡ期の竪穴建物跡が1軒検出されている。とくに大規模な集落を構成している痕跡は確認されていない。本遺跡周辺では早期後半の遺跡が多く、東側に位置する間見穴遺跡では炉穴内に廃棄された貝ブロック5ヶ所を含む貝ブロックが20ヶ所、竪穴住居跡4軒、炉穴27基、土坑7基が検出され、瓜ヶ作遺跡では93基の炉穴が検出されている。北側に位置する向山遺跡、子の神台遺跡でも炉穴が検出されている。新川を挟んだ東側域の役山遺跡、役山東遺跡、境堀遺跡、栗谷遺跡でも炉穴群が検出され、早期の遺跡が印旛沼周辺域に集中していることが注目される。また、縄文時代晩期末の千網式、荒海式土器が確認されていることにも注意を払いたい。

弥生土器については遺構の検出はなく、土器片のみの確認となっている。新川流域には多くの弥生時代遺跡が知られており、とくに後期弥生土器の在り方は複雑な様相を提起している<sup>(文4)</sup>。

次に触れておきたいのはB区で検出の5世紀後半の竪穴建物跡SI30である。主柱穴間に炉を設け、間仕切り溝を有する竪穴建物である。向境遺跡で指摘されているごとく、出土の土器からカマド導入直前1期の竪穴建物と考えられる<sup>(文5)</sup>。この5世紀後半の竪穴建物跡以後、本地区には古墳時代の遺構・遺物は検出されていない。

空白を挟んで8世紀後半に至る頃、新たに、集落の占拠が認められる。5,700㎡の調査対象面積から計35軒の竪穴建物跡が検出されている。概観すると竪穴建物跡はB区の西側とA区、B区東の2群にまとまりをみることが出来る。掘立柱建物跡はA区からB区に亘る一角に大半が占拠している。しかしながら、これら竪穴建物、掘立柱建物は報告にある様に、重複がみられ、必ずしも同時期に継起していた竪穴建物、掘立柱建物とは言い難い。

重複する竪穴建物は4例を挙げる事が出来、そして、掘立柱建物との重複は5例知ることが出来る。竪穴建物跡と掘立柱建物跡に重複関係は全て掘立柱建物が竪穴建物を切っていることが確認されている。また、掘立柱建物自体の重複は6例知ることが出来る。当然これらは時期差のあった結果であって、それぞれ遺構の継起の結果でもある。こうした遺構の重複の事実を踏まえつつ、さらに、廃棄された出土遺物から遺構の時期を求めてみたい。出土の遺物には廃棄の同時性のみでは咀嚼出来得ない廃棄過程の問題があるが、ここでは竪穴建物に対してそれぞれ廃棄されたことを前提に考えてみた。(ここでは竪穴建物1軒を1戸とは捉えず、数軒をもって1戸と捉えている。)土器の時期把握にあたっては、基本的に本地域の奈良・平安期にかけての編年観を参考として進めた。すなわち、1A期 体部にヘラ削り調整の坏が出土及び三河型甕が出土(8世紀中頃以降) 1B期 ロクロ成形の箱形坏が出土(8世紀後半～9世紀前葉) 2期 内黒、皿型土器が出土(9世紀前半) 3期 高台付の皿型土器が出現する(9世紀中頃～後半)の4期の区分である<sup>(文6)</sup>。1Aと1Bについては出土遺物のばらつきがあるため、分離が明瞭とは言い難い。概ね8世紀後半から9世紀前葉と捉えておきたい。この区分案、重複関係などを参考に竪穴建物の廃棄時期を検討すると以下の様に捉えられる。

#### 1A期

SI01 SI02 SI08 SI11 SI13B SI14 SI16 SI17 SI23 SI25 SI36

#### 1B期

SI03 SI04 SI06 SI10 SI12 SI13A SI15 SI18 SI19

SI21 SI27 SI28 SI32

#### 2期

SI05 SI09 SI20 SI22 SI24 SI26 SI29 SI31 SI34 SI35

#### 3期

SI33

以上の様な時期が求められた。1A期はA区の東側、B区の西側に集中する傾向にあり一期内の竪穴建物の重複はみられない。竪穴建物の主軸方位も北東方向にあるが、北西方向をとるSI23、西北西にとるSI36の様な竪穴建物もみられる。時間差の相違なのか検討を要する。平面形はSI01の様にやや縦長の形状をとる例や、カマドの位置が中央部から外れる例SI02、SI16などがある。土器としては総体的に長石粒を含んだ常陸型甕、坏、須恵器が多く出土する傾向にある。また、SI14、SI25からは三河型甕「第1段階第2小期」と考えられる甕の出土があり、8世紀後半にあってもさほど時期は下ることがないことが指摘される<sup>(文7)</sup>。1B期は8世紀後半から9世紀前葉にかけての段階である。やはり、土器は長石粒を含んだ常陸型甕、坏、須恵器がみられるが、数量としては減少傾向にある。B区北西側の一角、そして、60mほど離れた東側、A区内に引き続き分布が認められる。竪穴建物の主軸方位は北東側にとる例が大方であるが、北西側にとる一群もある。平面形は1A期に続きカマドの位置が中央から外れる例SI05などがみられる。また、主柱穴をもたず、壁柱穴を持つ例SI32がみられる。2期はB区東側に集中する傾向がみられ、SI20、SI22、SI24がやや距離を置いて西側に確認されている。竪穴建物の主軸方位はSI09、SI22、SI24、SI29、SI34が北西にとっており、SI35が北東側に主軸方位をとっている。ここでも壁柱穴を持つ例としてSI29、SI34で確認される。土器の胎土は次第に長石粒の混入が希薄となり、金雲母粒、ない



しは雲母粒の混入が顕著となっている。3期としてはSI33で1軒のみが確認されるのみである。高台付皿を伴う竪穴建物は少ない。また、向境遺跡で指摘される様な隅丸長方形の竪穴建物は検出されていない(文8)。

次に、A区からB区東側にかけて集中する掘立柱建物跡群の位置付けである。計17棟が捉えられているが、その他に、柱筋等が捉え切れない柱穴が幾つかあり、一部では推測で掘立柱建物の存在をせざるを得ない。これら掘立柱建物の柱穴(大半が掘方)からは土師器、須恵器の小片が出土するのみであり、構築時期の決定を知る手掛かりがない。時期を推測できる竪穴建物との重複、切り合いは全て掘立柱建物が竪穴建物を切っており、9世紀中頃以降とみるSI33を切るSB16からも看取されよう。掘立柱建物跡群においても5棟で重複、切り合いがみられるのは前述のとおりである。柱穴の切り合いとしてはSB08がSB06を、SB17がSB06、SB07の柱穴を切っている。

掘立柱建物はほぼ3間×2間、2間×2間規模に集約される。ただ、東柱を認めるSB01、掘り方をみせないSB04については構造の違い、時期差を認めるべきかもしれない(SB03は不詳)。この3棟以外の14棟について、建物入口を桁側に求めた場合、南西側とするのはSB05、SB06、SB08、SB10、SB14、SB15、SB16の7棟、そして、南東側とするのはSB01、SB02、SB07、SB09、SB11、SB12、SB13、SB17の8棟とみることが出来る。二つの群として捉えることが出来る。掘立柱建物の全てが居住する建物かは疑問であるが、大きさは30㎡を超すSB01、SB05の2棟を除いて、20㎡ほどの面積となっている。井戸向遺跡、上谷遺跡V区、向境遺跡などの掘立柱建物跡群と大差ないと言えよう。また、竪穴建物との関連で、同時に存在していたと仮定した場合、どのような構造的違いで把握するのか、与えられた課題は大きい。これら掘立柱建物がどのような集落構成のなかにあり、変遷過程をみせているのか、今後、掘立柱建物の検討をさらに深化すべきであろう(文9)。

この他に遺構として土坑が32基検出されている。うち、縄文時代の遺構として陥穴が2基、SK06、SK12が検出されている。緩やかな傾斜面側に位置するB区にあるが、陥穴の集中はみられない。同様に、掘り込みの状況から縄文時代遺構かと考えられるSK09、SK27の2基がみられるが、単独の掘り込みとして捉えられている。他に縄文土器を伴った土坑があるが、明瞭さに欠けている。いずれにしても、集中した土坑群の検出はみられなかった。また、土坑の中でもSK03の様に、土師器を伴った例もあり、集落に連動した遺構であることが推察される。さらに検討が求められる。

もう一つ本地域における奈良・平安期の集落を特徴付ける遺物の一つに墨書土器、刻書土器が挙げられよう(文10)。新川流域を巡る奈良・平安時代の諸遺跡からは多数の墨書、刻書土器が検出され、前述の様に上谷遺跡からは村神郷、紀年銘を表した土器が出土している。延暦十年(791)、弘仁十二年(821)、承和二年(835)などの墨書である。残念ながら本遺跡からはこうした長文墨書や、紀年銘墨書は出土していない。数量は土師器の墨書が14点、土師器の刻書が22点、そして、須恵器では刻書として1点みられるだけである。墨書、刻書はほぼ土師器の坏に限定されており、墨書で明瞭に確認される文字は「主」、「長」のみである。刻書では「山」、「田」、そして、SI10、SI29、SI35出土の「五」である。刻書の多さが目立つ。中でも「×」、「井」状の縦横、直交線は“九字切り”に関わる線刻ではとの指摘もあり(文11)、更なる考究が必要であろう。土器以外の生産用具類の出土遺物は少なく、僅かに鉄器類として刀子、鎌がみられる。その他に、釘、そして、SI08出土の鉸具が注目される。製鉄関連の遺物としては碗状鉄滓がSI12、SI25で出土しているが精錬に係る遺構は確認されていない。例えばSI25の床面中央に認める被熱痕が小鍛冶に係る痕跡なのか、憶測をまぬがれないところである。土製品としては、土玉がSI02、SI13A、SI13B、SI14などで散見されているが、かならずしも、直ちに漁撈の生産活動に結び付けられない。紡錘車はSI36で1点確認されているのみである。この様に、本集落の生産活動の特徴付ける遺物が出土しているとは言い難い。

以上、調査成果の羅列となってしまったが、本調査のまとめとし、今後の集落景観把握に向かったの礎としておきたい。

何より、注視したいのは本地域において8世紀後半から広範に亘って集落の出現がみられることである。確

かに、新川流域に限らずこの期に集落の急増は各地で指摘される事象である。養老7年(723)の「三世一身法」、天平15年(743)の「墾田永年私財法」が地方における開発の触発になったことはしばしば指摘されることである。7世紀代から引き続き中央集権化を目指す古代国家と伸張する地方豪族との軋轢の中で進められるこうした体制変革がどのような様相を形づくっていたのか考究すべき問題は山積している。天平年間に入ると、6年(734)の大地震、9年(737)の疫病流行、12年(740)の藤原広嗣の乱など、あわただしい世情の中、房総では安房国が上総国に併合される動きがあった。天野の「墨書人面土器」から始まる論攷は以上の様な奈良・平安時代の歴史的動向が東国の一角である本地域に如何なる動静を生み出したのかなど、考究へのアプローチは今も大きな指標を与えており<sup>(文12)</sup>、さらなる論攷が待たれる。そして、今次の調査により三河型甕の出土が確認され、改めて集落の継起、発展において、地域外から何らかの影響があったことが推測され、今後の課題の一つに加えられよう。

なお、末文ながら、本調査にあたり多くの方々にご協力を頂き、心より感謝の意を申し上げる次第であります。

#### 文献

- 文1 a. 阪田正一、加藤修司「八千代市権現後遺跡」千葉県文化財センター 1984
- 文1 b. 天野 努「下総国印旛郡村神郷とその故地」研究紀要10 千葉県文化財センター 1986
- 1 c. 天野 努「古代東国村落と集落遺跡—下総国印旛郡村神郷の様相—」研究紀要20 千葉県文化財センター 1995
- 文2. 朝比奈竹男、宮澤久史「千葉県八千代市上谷遺跡5」八千代市遺跡調査会 2005
- 文3. 田村 隆 藤岡孝司「八千代市井戸向遺跡」千葉県文化財センター 1987
- 文4. 宮澤久史、朝比奈竹男「千葉県八千代市 栗谷遺跡」八千代市遺跡調査会 2003
- 文5. 宮澤久史「千葉県八千代市向境遺跡」八千代市遺跡調査会 2004
- 文6. 文5に同じ。
- 文7. 北村和宏「古代「三河型甕」考」研究紀要第2号 愛知県埋蔵文化財センター 2001
- 文8. 文5に同じ。
- 文9. 糸川道行「四街道市小屋ノ内遺跡(3)」千葉県教育振興財団 2007
- 文10 a. 平川 南 天野 努「古代集落と墨書土器」研究報告第22集 国立歴史民俗博物館 1989
- 10 b. 友納千幡「墨書土器の難解文字に関する一考察」千葉大学大学院人文科学研究科研究プロジェクト報告書千葉大学 2015  
などの論攷がある。
- 文11. 文9に同じ。
- 文12. 文1 a、bに同じ。

第5表 出土遺物観察表

挿図番号	遺構番号	器種	法量(単位) cm ( ) 推定値			胎土・材質	色調	備考	
			口径・長さ	器高・幅	底径・厚さ				
第17図	1	SI01	土師器甕	(11.0)	—	—	細砂粒(少) 褐色粒(極稀)	淡褐色	
	2	〃	土師器坏	15.6	5.2	9.5	白色粒(少) 褐色粒(少)	薄褐色	
	3	〃	土師器坏	12.6	4.2	8.3	細砂粒(多) 金雲母粒(少) 褐色粒(少)	外・薄橙褐色 内・橙褐色	
	4	〃	土師器坏	(12.0)	4.2	(7.0)	細砂粒(少) 褐色粒(極稀)	淡橙褐色	
	5	〃	土師器坏	(13.2)	5.6	9.8	細砂粒(少) 褐色粒(極少)	淡褐色	
	6	〃	土師器坏	—	—	—	白色針(少)	外・薄褐色 内・内黒	線刻
	7	〃	須恵器坏	(11.8)	4.9	7.0	長石粒(多)	灰色	線刻
	8	〃	須恵器甕	—	—	—	細砂粒(少)	薄灰色	内・摩耗
	9	〃	須恵器甕	—	—	—	長石粒(中)	暗紫褐色	内・当具痕
	10	〃	刀子	15.2	0.9	0.3	鉄		重・14.9g
	11	〃	刀子茎	5.2	0.7	0.3	鉄		10と同一個体 重・2.3g
第19図	1	SI02	土師器甕	(21.0)	—	—	長石粒(中) 雲母粒(少)	褐色	
	2	〃	土師器坏	(12.0)	4.0	(7.4)	密 金雲母粒(極少)	薄橙褐色	
	3	〃	土製紡錘車	5.9	5.4	1.0	細砂粒(少) 雲母粒(中)	白灰色	須恵甕再利用 重・35.5g
第21図	1	SI03	土師器甕	20.4	—	—	細砂粒(少) 長石粒(中) 雲母粒(中) 褐色粒(稀)	暗褐色	
	2	〃	須恵器甕	—	—	—	細砂粒(少) 雲母粒(少)	外・灰色 内・薄灰白色	
	3	〃	土師器坏	12.8	4.2	6.5	密 褐色粒(極少)	薄暗褐色	
	4	〃	土師器蓋	(16.0)	3.5	6.6	密 金雲母粒・褐色粒(極少)	薄褐色	
	5	〃	須恵器坏	13.2	4.2	7.0	細砂粒(少) 長石粒(多)	薄青灰色	
	6	〃	須恵器甕	—	—	—	密 長石粒(中)	濃灰色	内・摩耗
第23図	1	SI04	土師器甕	(19.0)	—	—	細砂粒(少) 雲母粒(中) 長石粒(少)	薄褐色	
	2	〃	須恵器甕	(27.0)	—	—	細砂粒(少) 石英粒(少) 雲母粒(少)	灰色	
	3	〃	土師器坏	(12.2)	4.0	6.7	密 金雲母粒(少) 褐色粒(極少)	薄橙褐色	
	4	〃	土師器坏	12.0	4.3	6.0	細砂粒(少) 雲母粒(極少)	薄褐色	
	5	〃	土師器坏	12.2	3.9	6.5	細砂粒(少) 金雲母粒(少) 褐色粒(極少)	褐色	
	6	〃	土師器坏	11.5	3.6	6.0	密 金雲母粒(極少)	淡褐色	外・刻書
	7	〃	土師器坏	13.3	4.0	7.8	密 金雲母粒(極少) 褐色粒(極少)	淡橙褐色	内・刻書
	8	〃	土師器坏	(12・8)	4.1	7.0	細砂粒(中) 雲母粒(少) 褐色粒(極稀)	暗褐色	内・刻書
第25図	1	SI05	土師器甕	20.2	—	—	細砂粒(少) 雲母粒(少) 長石粒(少) 褐色粒(極少)	薄褐色	
	2	〃	土師器甕	20.6	—	—	細砂粒(中) 雲母粒(中) 石英粒(多)	暗褐色	
	3	〃	土師器小型甕	13.1	15.1	6.1	細砂粒(中)	暗褐色	
	4	〃	須恵器甕	(26.0)	—	—	細砂粒(中) 長石粒(中) 褐色粒(少)	灰色	
	5	〃	須恵器甕	—	—	16.0	細砂粒(少)	外・灰色 内・灰褐色	
	6	〃	須恵器甕	33.1	29.9	15.5	細砂粒(中) 雲母粒(中) 長石粒(中)	濃灰色	底・5孔
	7	〃	土師器鉢	20.5	10.3	9.7	細砂粒(少) 雲母粒(少) 褐色粒(極稀)	外・暗褐色 内・薄暗褐色	
	8	〃	土師器坏	12.4	4.0	6.9	細砂粒(少) 金雲母粒(少)	薄橙褐色	
	9	〃	土師器坏	12.7	3.9	6.2	細砂粒(少) 白色針(少)	薄灰色	
	10	〃	土師器坏	(15.2)	4.9	(7.2)	細砂粒(少) 金雲母粒(少)	薄暗褐色	内・ミガキ
	11	〃	土師器坏	(13.4)	4.7	7.4	細砂粒(少) 金雲母粒(少)	褐色	外・墨書
	12	〃	須恵器坏	—	—	6.6	細砂粒(少) 長石粒(中) 雲母粒(少) 黒色粒(少)	灰色	
第27図	1	SI06	土師器坏	(14.0)	3.4	(6.0)	細砂粒(中) 金雲母粒(少) 褐色粒(極少)	薄橙褐色	外・墨書
第30図	1	SI07	縄文土器	—	—	—	精選	褐色 薄黒褐色	RL 磨消し
	2	〃	縄文土器	—	—	—	精選	褐色 薄黒褐色	RL 磨消し
第28図	1	SI08	須恵器甕	—	—	—	細砂粒(少) 雲母粒(少)	外・灰色 内・薄灰白色	
	2	〃	須恵器甕	—	—	—	細砂粒(少) 長石粒(多)	薄青灰色	
	3	〃	鉸具	6.6	3.8	0.4	鉄		
第32図	1	SI09	土師器坏	13.8	3.2	6.9	密 金雲母粒(少)	薄橙褐色	外・墨書
	2	〃	土師器坏	13.5	3.9	7.1	細砂粒(中)	暗褐色	
	3	〃	土師器坏	(13.0)	3.8	(7.8)	細砂粒(中)	暗赤褐色	
	4	〃	土師器坏	(12.8)	3.4	7.2	細砂粒(少)	薄褐色	外・刻書
第34図	1	SI10	土師器甕	(20.0)	—	—	細砂粒(少) 長石粒(多) 金雲母粒(多)	暗褐色	
	2	〃	須恵器甕	(26.0)	—	—	精選 長石粒(少) 金雲母粒(少)	濃青灰色	
	3	〃	土師器坏	11.3	4.1	6.5	細砂粒(少) 金雲母粒(少) 褐色粒(稀)	薄橙褐色	外・墨書? 内・煤
	4	〃	土師器坏	12.9	3.6	7.1	細砂粒(少) 金雲母粒(少)	褐色	内外・煤 内・刻書
	5	〃	土師器坏	—	—	6.8	密	薄褐色	
	6	〃	土師器坏	11.4	4	6.5	細砂粒(少) 金雲母粒(少) 褐色粒(稀)	薄橙褐色	
	7	〃	土師器坏	(12.0)	3.9	7.4	細砂粒(少) 金雲母粒(極少)	褐色	
	8	〃	土師器坏	11.9	4.3	6.3	密 金雲母粒(極少)	薄褐色	
	9	〃	土師器坏	12.8	4.2	5.9	細砂粒(少) 金雲母粒(少) 褐色粒(稀)	淡橙褐色	内・刻書
第36図	1	SI11	土師器坏	13.0	4.3	(8.0)	細砂粒(少) 雲母粒・褐色粒(極少)	褐色	内・煤附着
	2	〃	須恵器甕	—	—	—	細砂粒(少) 雲母粒(少)	灰色	
	3	〃	須恵器甕	—	—	—	細砂粒(少) 雲母粒(少) 白色粒(少)	灰色	
第38図	1	SI12	土師器坏	11.4	3.6	7.1	細砂粒(少)	橙褐色	
	2	〃	土師器坏	(14.0)	3.6	7.2	細砂粒(極少)	薄褐色	
	3	〃	土師器坏	—	—	—	精選 金雲母粒(極少)	薄橙褐色 灰色	外・刻書 外・火樫
	4	〃	須恵器坏	(12.0)	3.7	(7.4)	細砂粒(中) 白色粒(中)		
	5	〃	土玉	2.15	2.1	0.5(孔)	精選	白灰色	重・8.54g
	6	〃	土玉	2.1	1.75	—	精選	薄褐色	無孔 5.14g
	7	〃	鎌	16.6	3.5	0.2	鉄		重・39.5g
	8	〃	鎌?	(5.5)	2.3	0.2	鉄		重・8.86g
	9	〃	碗状鉄滓	7.8	5.4	4.2	鉄		重・213.5g
	10	〃	砥石	11.8	9.3	2.9	雲母片岩		重・401g

挿図番号	遺構番号	器種	法量(単位)cm( )推定値			胎土・材質	色調	備考	
			口径・長さ	器高・幅	底径・厚さ				
第40図	1	SI13	土師器甕	20.9	—	—	細砂粒(多)褐色粒(少)	外・橙褐色 内・薄褐色	
	2	〃	須恵器甕	(34.0)	32	(16.5)	細砂粒(少)雲母粒(中)長石粒(極少)	薄褐色	
	3	〃	土師器坏	(12.2)	4.6	7.5	精選 金雲母粒(少)褐色粒(稀)	薄淡褐色	外・墨書 内・刻書
	4	〃	土師器坏	12.2	3.8	6.9	精選 金雲母粒(少)	薄褐色	内外・煤付着
	5	SI13A	須恵器坏	(13.0)	3.7	(7.6)	細砂粒(中)白色粒(多)	灰色	
	6	〃	須恵器坏	(13.0)	3.9	(7.4)	細砂粒(多)長石粒(多)	薄青灰色	
	7	〃	土師器坏	—	—	—	精選	薄褐色	外・墨書
	8	〃	須恵器坏	—	—	—	細砂粒(多)金雲母粒(中)	薄灰色	外・墨書
	9	〃	土玉	2.1	2.0	0.6~0.8(孔)	精選	薄褐色	重・5.01g
	10	〃	鉄製品	—	0.5	0.6	鉄	—	重・7.0g
第41図	1	SI13B	土師器甕	23.6	—	—	細砂粒(少)雲母粒・長石粒(中)	外・橙褐色 内・褐色	
	2	〃	須恵器甕	—	—	—	細砂粒(少)雲母粒・白色粒(少)	外・淡橙褐色 内・褐色	補修孔?
	3	〃	土玉	2.3	2.1	0.55(孔)	細砂粒(少)	薄赤褐色	重・7.83g
	4	〃	土玉	2.1	2.0	0.5(孔)	細砂粒(少)	褐色	重・9.2g
第43図	1	SI14	土師器甕	(25.0)	—	—	細砂粒(少)雲母粒(少)長石粒(多)	薄橙褐色	
	2	〃	土師器甕	(19.8)	—	—	精選	灰白色	三河型甕
	3	〃	須恵器坏	(13.2)	4.6	7.1	細砂粒(少)雲母粒(多)長石粒(多)	薄灰色	
	4	〃	土玉	2.0	2.3	0.6(孔)	細砂粒(少)	褐色	重・8.0g
	5	〃	土製支脚	8.3	12.4	8.4	細砂粒(少)	薄褐色	
第45図	1	SI15	土師器小型甕	11.3	—	—	細砂粒(少)	外・暗褐色 内・淡橙褐色	
	2	〃	須恵器坏	14.2	4.0	9.0	細砂粒(少)雲母粒(中)黒灰粒(極少)	薄灰色	外・刻書
	3	〃	須恵器坏	14.1	4.4	7.9	細砂粒(少)雲母粒(多)長石粒(少)	黒灰色	内外・刻書
	4	〃	須恵器高台付坏	—	—	(7.0)	細砂粒(少)長石粒(少) 雲母粒(少)褐色粒(稀)	灰色	
	5	〃	鎌	19.4	3.5	0.3	鉄	—	重・78.5g
第47図	1	SI16	土師器甕	13.1	—	—	細砂粒(中)褐色粒(少)	橙褐色	
	2	〃	土師器坏	12.4	3.8	8.2	細砂粒(中)雲母粒(中)	暗褐色	
第49図	1	SI17	土師器坏	11.3	4.1	8.3	細砂粒(極少)雲母粒(極少)	淡褐色	
	2	〃	土師器坏	12.4	4.9	7.5	細砂粒(少)雲母粒(少)	褐色	
	3	〃	鉄製品	8.6	0.6	0.6	鉄	—	重・12.1g
第51図	1	SI18	土師器甕	20.7	—	—	細砂粒(中)	薄暗褐色	
	2	〃	土製支脚	11.2	—	—	細砂粒(少)	薄褐色	
	3	〃	刀子	5.0	0.8	0.4	鉄	—	重・4.6g
第53図	1	SI19	須恵器甕	—	—	—	細砂粒(少)	薄灰色	
	1	SI20	土師器甕	(20.0)	—	—	細砂粒(中)	薄赤褐色	
第55図	2	〃	土師器小型甕	13.0	11.4	6.2	細砂粒(中)	外・暗赤褐色 内・薄赤褐色	
	3	〃	須恵器甕	—	—	—	雲母粒(少)長石粒(少)褐色粒(少)	薄灰褐色	
	4	〃	土師器坏	13.0	4.2	7.1	細砂粒(少)褐色粒(稀)	暗褐色	内・煤付着 内・刻書
	5	〃	土師器坏	(13.0)	4.0	7.8	細砂粒(少)褐色粒(稀)	薄褐色	
	6	〃	土師器坏	12.05	3.9	6.05	細砂粒(少)	薄褐色	
	7	〃	土師器坏	12.2	4.1	6.6	細砂粒(少)金雲母粒(極少)褐色粒(稀)	褐色	
	8	〃	土師器坏	12.1	4.6	6.2	細砂粒(極少)	薄褐色	
	9	〃	土師器高台付坏	(10.6)	5.6	7.2	精選 金雲母粒(稀)	褐色	
	10	〃	土師器坏	—	—	—	細砂粒(少)金雲母粒(少)	薄橙褐色	外・墨書
	11	〃	土師器坏	—	—	—	精選	薄褐色	内・黒色処理 刻書
	第57図	1	SI21	土師器甕	(21.5)	—	—	細砂粒(少)長石粒(少)雲母粒(少)	薄褐色
2		〃	土師器小型甕	12.9	—	—	細砂粒(少)金雲母粒(少)	淡橙褐色	
3		〃	須恵器甕	—	—	—	細砂粒(少)長石粒(中)雲母粒(中)	外・薄青灰色 内・灰色	
4		〃	須恵器甕	—	—	—	細砂粒(少)	濃青灰色	
5		〃	須恵器甕	—	—	—	細砂粒(少)	黒褐色	
6		〃	土師器坏	(13.0)	4.4	6.5	細砂粒(中)金雲母粒(中)褐色粒(極少)	薄橙褐色	
7		〃	土師器坏	(13.0)	3.8	8.4	細砂粒(少)金雲母粒(少)	薄褐色	
8		〃	土師器坏	(12.0)	3.4	8.2	精選 金雲母粒(少)	褐色	外・墨書
9		〃	須恵器坏	13.6	4.1	7.5	細砂粒(少)長石粒(中)雲母粒(中)	薄青灰色	
10		〃	須恵器坏	13.9	4.1	6.5	細砂粒(少)	灰色	
11		〃	土師器坏	—	—	—	精選 金雲母粒(少)	淡褐色	外・墨書
12		〃	土製支脚	—	—	—	精選 金雲母粒(少)	薄黒褐色	
第59図	1	SI22	土師器坏	(16.0)	—	—	精選 金雲母粒(少)	薄橙褐色	
	1	SI23	土師器甕	(26.0)	—	—	細砂粒(少)長石粒(少)金雲母粒(少)	褐色	
第61図	2	〃	土師器坏	14.1	5.0	—	細砂粒(中)	暗褐色	
	3	〃	須恵器横瓶	—	—	—	細砂粒(少)長石粒(少)	灰色	
	1	SI24	土師器皿	13.0	2.4	6.5	細砂粒(中)	褐色	外・墨書「主」
第63図	2	〃	土師器坏	12.8	4.0	6.4	細砂粒(少)金雲母粒(少)	淡橙褐色	外・墨書「主」
	1	SI25	土師器甕	21.1	—	—	細砂粒(中)雲母粒(少)	淡橙褐色	
第65図	2	〃	土師器小型甕	15.6	—	—	細砂粒(中)	暗褐色	
	3	〃	土師器坏	16.3	—	—	細砂粒(中)	—	内外・赤彩
	4	〃	須恵器坏	14.2	4.4	8.3	細砂粒(少)長石粒(少)雲母粒(少)	灰色	火樺あり
	5	〃	須恵器高台付坏	—	—	10.4	細砂粒(少)長石粒(中)雲母粒(中)	薄褐色	内面擦れている
	6	〃	須恵器甕	—	—	—	精選 雲母粒(少)	灰色	
	7	〃	碗状鉄滓	—	—	—	鉄	—	重・325g
	8	〃	土師器甕	—	—	—	精選	灰白色	三河型甕
	9	〃	土師器甕	—	—	—	精選	灰白色	三河型甕
	10	〃	土師器甕	—	—	—	精選	灰白色	三河型甕
	第67図	1	SI26	土師器坏	(13.0)	—	—	細砂粒(中)金雲母粒(少)	淡褐色
2		〃	須恵器甕	—	—	—	細砂粒(少)長石粒(少)	濃灰色	
3		〃	鍛冶滓	—	—	—	—	—	重・2.03g
第69図	1	SI27	土師器坏	—	—	6.1	細砂粒(少)金雲母粒(少)	薄褐色	
	2	〃	須恵器甕	—	—	—	細砂粒(極少)金雲母粒(極少) 褐色粒(稀)	薄褐色	

挿入番号	遺構番号	器種	法量(単位) cm ( ) 推定値			胎土・材質	色調	備考	
			口径・長さ	器高・幅	底径・厚さ				
第71図	1	SI28	土師器甕	—	—	—	細砂粒(中)	橙褐色	胴部最大径24cm
	2	〃	土師器鉢	14.2	8.5	6.9	金雲母粒(極少)褐色粒(稀)	薄淡褐色	底・木葉痕
	3	〃	須恵器坏	(13.6)	4.4	8.6	細砂粒(少)長石粒(少)雲母粒(少)	灰色	
	4	〃	手捏	—	—	6.3	細砂粒(少)	淡褐色	底・木葉痕
第73図	1	SI29	土師器小型甕	14.0	12.4	5.9	細砂粒(少)金雲母粒(少)褐色粒(極少)	淡橙褐色	口ク口成形
	2	〃	須恵器甕	—	—	15.2	細砂粒(少)雲母粒(少)	暗灰色	
	3	〃	須恵器甕	—	—	—	細砂粒(少)長石粒(少)	灰色	
	4	〃	土師器坏	15.2	4.4	8.5	細砂粒(少)金雲母粒(少)褐色粒(極稀)	褐色	
	5	〃	土師器坏	15.2	4.4	8.2	精選 金雲母粒(少)	薄褐色	
	6	〃	土師器坏	14.7	4.0	8.5	精選 金雲母粒(少)褐色粒(稀)	淡橙褐色	
	7	〃	土師器坏	12.7	3.7	6.2	細砂粒(少)金雲母粒(少)	薄褐色	
	8	〃	土師器坏	(12.3)	3.8	6.4	細砂粒(少)金雲母粒(極少)褐色粒(極少)	薄橙褐色	
	9	〃	土師器坏	(11.6)	3.6	5.8	細砂粒(少)金雲母粒(極少)褐色粒(極少)	外・淡橙褐色 内・薄橙褐色	
	10	〃	土師器坏	—	—	6.1	細砂粒(少)金雲母粒(極少)褐色粒(極少)	薄橙褐色	外・墨書
	11	〃	土師器坏	12.9	4.0	8.5	細砂粒(少)雲母粒(少)	薄褐色	
	12	〃	土師器坏	—	—	7.4	細砂粒(少)金雲母粒(少)	外・薄橙褐色 内・淡橙褐色	底・窯印「×」
	13	〃	土師器坏	—	—	5.3	細砂粒(少)金雲母粒(少)褐色粒(稀)	薄褐色	底・刻書「山」
	14	〃	土師器坏	—	—	(6.5)	細砂粒(少)金雲母粒(少)褐色粒(少)	淡橙褐色	底・線刻
	15	〃	土師器坏	—	—	—	細砂粒(少)金雲母粒(少)	薄褐色	外・墨書
	16	〃	土師器坏	—	—	—	細砂粒(少)金雲母粒(極少)褐色粒(稀)	褐色	内外・刻書「五」
	17	〃	土師器坏	—	—	—	細砂粒(少)金雲母粒(極少)	外・薄褐色 内・黒色処理	外・刻書「五」
	18	〃	土師器坏	—	—	—	細砂粒(少)金雲母粒(極少)	外・薄橙褐色 内・黒色処理	外・刻書「五」?
	19	〃	土師器坏	—	—	—	細砂粒(少)金雲母粒(少)	薄褐色	外・刻書「五」?
	20	〃	土製円盤	9.5	8.9	1.4	細砂粒(少)雲母粒(少)	外・褐色 内・黒色	周囲擦れる
	21	〃	土師器有脚台	—	—	—	細砂粒(中)長石粒(多)雲母粒(少)	褐色	
	22	〃	土師器皿	(14.6)	1.9	7.0	細砂粒(少)	褐色	
	23	〃	土師器皿	(15.0)	3.0	(5.8)	細砂粒(少)金雲母粒(中)	外・薄赤褐色 内・暗褐色	
	24	〃	土師器高台付皿	—	—	7.1	細砂粒(少)金雲母粒(少)	淡橙褐色	
	25	〃	磨り石	9.8	7.9	4.2	安山岩		上面擦れている 重・461.5g
	26	〃	磨り石	10.7	4.6	3.0	結晶片岩		よく擦れている
	27	SI29	砥石	—	2.8	2.3	凝灰岩		よく擦れている
第75図	1	SI30	土師器甕	(16.0)	29.4	6.0	細砂粒(中)長石粒(多)雲母粒(少)	外・黒褐色 内・薄黒褐色	
	2	〃	土師器坏	(13.2)	6.0	—	細砂粒(少)褐色粒(極少)	赤彩	
	3	〃	土師器坏	14.4	5.5	5.6	細砂粒(少)褐色粒(稀)	赤彩	
第77図	1	SI31	須恵器甕	31.5	18.8	15.0	細砂粒(極少)	薄橙褐色	5孔?
	2	〃	須恵器甕	—	—	—	精選	灰色	
	3	〃	土師器筒状鉢	(10.0)	—	—	細砂粒(中)雲母粒(少)	暗褐色	
	4	〃	土師器坏	13.2	3.8	7.0	細砂粒(少)金雲母粒(少)	橙褐色	
	5	〃	土師器坏	14.7	4.8	7.6	細砂粒(中)金雲母粒(中)	外・黒色処理 内・薄暗褐色	底面・黒色処理
	6	〃	土師器坏	12.8	3.5	7.8	細砂粒(極少)金雲母粒(少)	薄橙褐色	
	7	〃	土師器坏	—	—	7.7	細砂粒(少)褐色粒(稀)	外・薄褐色 内・黒色処理	内・刻書
	8	〃	土師器皿	13.6	2.8	(7.5)	細砂粒(少)金雲母粒(少)	薄淡褐色	
第79図	1	SI32	須恵器甕	—	—	—	細砂粒(極少)雲母粒(少)	灰白色	
	2	〃	土師器坏	(12.6)	3.9	6.6	細砂粒(極少)金雲母粒(少)褐色粒(稀)	薄褐色	内・刻書「井」?
	3	〃	土師器坏	11.4	3.8	6.2	細砂粒(少)金雲母粒(少)	薄橙褐色	内・刻書「田」
	4	〃	須恵器坏	(13.0)	4.5	(7.4)	細砂粒(少)長石粒(中)雲母粒(極少)	灰色	
	5	〃	土師器蓋	(14.0)	1.5	(8.8)	細砂粒(少)金雲母粒(少)	薄褐色	
	6	〃	土師器高坏	—	—	(12.0)	精選 金雲母粒(極少)	薄淡褐色	
	7	〃	土師器坏	—	—	—	細砂粒(極少)雲母粒(極少)	外・黒褐色 内・暗黒褐色	内・刻書「井」?
	8	〃	須恵器坏	—	—	—	細砂粒(少)長石粒(多)雲母粒(少)	灰色	外底・刻書「×」
	9	〃	鉄滓	—	—	—	鉄		重・61.5g
第81図	1	SI33	土師器坏	(14.0)	—	—	細砂粒(少)	褐色	
	2	〃	須恵器甕	—	—	—	細砂粒(少)	暗灰色	
	3	〃	砥石	—	2.8	2.5	凝灰岩		刃痕あり 重・27.5g
第83図	1	SI34	土師器甕	(29.4)	—	—	細砂粒(少)金雲母粒(少)	薄褐色	
	2	〃	土師器甕	(19.6)	—	—	細砂粒(少)褐色粒(稀)	灰褐色	
	3	〃	土師器小型甕	(12.0)	—	—	細砂粒(少)金雲母粒(少)	外・淡橙褐色 内・薄褐色	
	4	〃	須恵器甕	(22.0)	—	—	細砂粒(少)金雲母粒(少)	薄橙褐色	
	5	〃	土師器坏	16.1	5.8	8.5	細砂粒(少)褐色粒(極少)	淡橙褐色	
	6	〃	土師器坏	16.4	5.5	7.2	細砂粒(少)金雲母粒(極少)	薄黒褐色	
	7	〃	土師器坏	(15.4)	5.3	(7.4)	細砂粒(少)金雲母粒(少)褐色粒(稀)	薄赤褐色	
	8	〃	土師器坏	(14.0)	4.7	7.2	精選	淡褐色	P3内
	9	〃	土師器坏	14.6	4.3	7.2	細砂粒(極少)	薄褐色	
	10	〃	土師器坏	(13.4)	4.0	6.9	細砂粒(極少)金雲母粒(極少)	薄橙褐色	
	11	〃	土師器坏	14.0	3.9	6.4	細砂粒(少)金雲母粒(極少)	薄赤褐色	
	12	〃	土師器坏	13.4	3.6	7.2	細砂粒(少)金雲母粒(極少)	薄黒褐色	
	13	〃	土師器坏	13.4	4.2	6.1	細砂粒(少)金雲母粒(少)	薄橙褐色	
	14	〃	土師器坏	(12.6)	4.5	6.1	細砂粒(少)金雲母粒(少)褐色粒(稀)	淡褐色	P4内
	15	〃	土師器坏	12.9	4.0	6.3	細砂粒(少)金雲母粒(少)褐色粒(稀)	淡褐色	
	16	〃	土師器坏	—	—	6.7	細砂粒(少)	薄淡褐色	穿孔
	17	〃	土師器坏	(13.0)	4.2	(6.6)	細砂粒(少)雲母粒(少)	褐色	
	18	〃	土師器皿	14.8	2.4	6.9	細砂粒(少)	淡褐色	
	19	〃	土師器坏	—	—	—	細砂粒(極少)金雲母粒(少)	淡褐色	外・墨書
	20	〃	土師器坏	—	—	—	細砂粒(少)金雲母粒(少)	薄褐色	外・墨書
	21	〃	精錬鍛冶滓	4.1	3.9	1.7			熔解ガラス化 重・6.98g

挿図番号	遺構番号	器種	法量(単位)cm( )推定値			胎土・材質	色調	備考	
			口径・長さ	器高・幅	底径・厚さ				
第83図	22	SI34	精緻鍛冶滓	4.1	3.2	1.8		熔解ガラス化 重・6.8g	
	23	〃	磨石	10.0	7.4	4.7	結晶片岩	重・343g	
	24	〃	鉄製品	(7.0)	0.6	0.3	鉄	重・4.83g	
	25	〃	刀子	(4.6)	1.0	0.3	鉄	重・6.42g	
	26	〃	釘	—	0.6	0.4	鉄	平鋸頭 重・2.35g	
	27	〃	釘	(6.4)	0.6	0.4	鉄	重・9.0g	
	1	SI35	土師器小型甕	12.6	11.3	5.9	細砂粒(中)	淡橙褐色	
第85図	2	〃	須恵器甕	—	—	—	細砂粒(少)長石粒(少)	外・濃灰色 内・灰色	外・降灰 内・擦れる
	3	〃	土師器鉢	(24.0)	8.1	11.0	細砂粒(少)金雲母粒(少)褐色粒(稀)	外・薄橙褐色 内・黒色処理	
	4	〃	土師器坏	11.6	3.6	7.3	細砂粒(少)金雲母粒(少)褐色粒(稀)	淡褐色	
	5	〃	土師器坏	12.5	4.0	6.6	細砂粒(極少)金雲母粒(極少)	薄淡褐色	外・墨書「之」?
	6	〃	土師器坏	11.9	3.8	6.7	細砂粒(少)金雲母粒(少)褐色粒(稀)	薄淡褐色	
	7	〃	土師器坏	12.4	3.9	6.5	細砂粒(少)金雲母粒(少)褐色粒(稀)	薄褐色	
	8	〃	土師器高台付坏	12.3	4.5	8.1	細砂粒(少)雲母粒(極少)褐色粒(極少)	外・薄暗褐色 内・黒色処理	
	9	〃	土師器坏	—	—	—	細砂粒(少)金雲母粒(少)	暗褐色	
	10	〃	焼成粘土塊	3.3	2.5	1.1	精選 金雲母粒(極少)	薄褐色	重・5.5g
	11	〃	焼成粘土塊	2.0	2.5	1.5	精選 金雲母粒(少)	薄褐色	重・5.7g
	12	〃	砥石	12.2	6.9	6.5	砂岩		刃痕あり
	第87図	1	SI36	土師器甕	19.0	30.0	4.4	細砂粒(少)	外・褐色 内・淡橙褐色
2		〃	土師器坏	11.4	3.4	6.1	細砂粒(少)褐色粒(極少)	淡褐色	
3		〃	土師器皿	15.1	2.5	7.6	細砂粒(中)金雲母粒(少)	薄暗褐色	
4		〃	須恵器坏	(13.2)	3.7	8.4	細砂粒(中)長石粒(少)雲母粒(極少)	白灰色	
5		〃	石製紡錘車	(4.8)	—	—	泥岩		重・7.5g
6		〃	〃	(3.8)	—	—	泥岩		重・3.2g 5と同一個体
第109図	1	SK02	土師器坏	(19.0)	6.0	11.0	細砂粒(少)金雲母粒(少)褐色粒(稀)	褐色	内・墨痕
	2	〃	土師器坏	(15.0)	4.2	8.0	細砂粒(少)金雲母粒(少)褐色粒(稀)	薄褐色	
	3	SK03	土師器坏	13.1	4.1	7.0	細砂粒(少)金雲母粒(少)褐色粒(極少)	薄褐色	灯明
	4	〃	土師器坏	(14.0)	3.0	(7.2)	細砂粒(少)金雲母粒(少)褐色粒(極少)	薄褐色	
	5	〃	土師器皿	(13.0)	2.3	7.8	密 金雲母粒(少)	薄橙褐色	
	6	〃	焼成粘土塊	4.9	3.6	1.6	精選 ササ混じり	淡褐色	重・2065g
	7	〃	焼成粘土塊	4.4	4.5	1.7	精選 ササ混じり	淡褐色	重・1833g
	8	SK06	縄文土器	—	—	—	細砂粒(少)	淡褐色	内・刺突文
第112図	1	P 3	土師器坏	(12.0)	3.9	(8.0)	細砂粒(少)金雲母粒(少)褐色粒(極少)	淡橙褐色	
第113図	1	溝	古銭	2.747	2.749	1.11	銅		背波11 明和6年?
第115図	1	炉穴1	縄文土器	—	—	—	砂粒(中)繊維	外・橙褐色 内・暗褐色	条痕文
	2	〃	縄文土器	—	—	—	砂粒(中)繊維	外・黒褐色 内・橙褐色	条痕文
	3	〃	縄文土器	—	—	—	砂粒(中)繊維	橙褐色	条痕文
第116図	1	炉穴2	縄文土器	—	—	—	砂粒(中)繊維	暗褐色	条痕文

第6表 掘立柱建物跡一覧表

遺構番号	規模		桁行方位	面積(m <sup>2</sup> )	備考
	桁行×梁行(m)				
SB01	4間×3間		N - 34° E	37.9	東柱有り SI03を切る
	7.3×5.2				
SB02	3間×2間		N - 43° E	25.8	SI10を切り、SD01に切られる
	6.0×4.3				
SB03	—		—	—	北東側一部を検出
	柱間2.2×2.2				
SB04	2間×1間+庇		N - 34° E	9.0	
	3.0×3.0				
SB05	3間×2間		N - 30° E	32.6	SK12を切る
	6.8×4.8				
SB06	2間×2間		N - 88° E	21.6	SB08、SB17に切られる
	4.7×4.6				
SB07	2間×2間		N - 23° E	21.6	SB16に切られる
	4.8×4.5				
SB08	2間×2間		N - 76° W	21.0	SB06を切る SB10と重複
	4.9(4.4)×4.3(4.1)				
SB09	3間×2間		N - 42° E	22.8	SB10と重複
	6.7×3.4				
SB10	2間×2間		N - 69° W	21.6	SB07、SB08と重複 南東面中間柱無し
	4.8×4.5				
SB11	2間×2間		N - 30° E	15.2	南東面中間柱無し SB12と重複
	4.0×3.8				
SB12	3間×2間		N - 23° E	23.6	南西面中間柱無し SB11と重複
	6.2×3.8				
SB13	2間×2間		N - 34° E	12.1	南東面3間
	3.9×3.1				
SB14	3間×2間		N - 46° W	26.0	SI29を切る
	(6.5)×(4.0)				
SB15	3間×2間		N - 55° W	17.0	SI34を切り、SD03に切られる
	5.0×3.4				
SB16	—		—	—	SI32・33を切る? 攪乱多い
	—				
SB17	2間×2間		N - 39° E	17.5	SB06、SB07を切り、SD03に切られる

第7表 土坑一覧表

番号	平面形	大きさ (cm)	断面形	方位	出土遺物	備考
		長径×短径×深さ				
1	楕円形	116×92×34	鍋形	N-23°E	土師・須恵小片	
2	円形	87×83×20	鍋形	N-63°E	土師・須恵小片	
3	楕円形	127×104×36	鍋形	N-54°E	土師環、粘土塊	
4	不整楕円形	117×103×48	半円形	南 北	土師小片	
5	不整楕円形	148×118×46	鍋形	N-57°E	土師・須恵小片	SI13Bを切る
6	楕円形	152×104×128	箱形有段	N-35°E	加曾利B片	陥穴
7	不整方形	124×120×25	鍋形	N-40°W	土師小片	
8	不整楕円形	129×106×27	鍋形	東西	土師・須恵小片	
9	楕円形	(44)×94×43	鍋形	N-17°E	加曾利B片	一部調査区外
10	隅丸方形	154×135×52	鍋形	N-7°E	土師・須恵小片	覆土中に炭化材片あり
11	円形	106×97×46	鍋形	N-17°E	須恵小片	SK12を切る
12	楕円形	164×116×163	箱形	N-65°E	—	陥穴・SK11に切られる
13	楕円形	[90]×[70]×76	鍋形	N-37°W	土師小片	
14	円形	94×85×33	鍋形	N-6°E	黒浜片	
15	楕円形	88×72×16	鍋形	N-29°E	土師小片	SI30に切られる
16	不整楕円形	132×77×49	箱形	N-29°W	土師・須恵小片	SI29に切られる
17	楕円形	121×104×38	鍋形	N-14°E	粟島台片	
18	不整楕円形	127×120×52	鍋形	N-4°W	—	
19	楕円形	106×92×30	半円形	N-65°E	黒浜片	
20	楕円形	144×131×46	有段	N-54°E	土師小片	SI33、36を切る
21	不整楕円形	154×132×17	鍋形	N-64°E	—	SI12に切られる
22	楕円形	106×60×43	鍋形	N-59°E	土師小片	
23	隅丸長方形	134×86×94	U字形	N-28°W	土師・須恵小片	
24	楕円形	94×82×22	鍋形	N-55°E	—	
25	楕円形	(50)×64×25	台形	N-7°E	土師小片	SB12に切られる
26	欠番	—	—	—	—	
27	楕円形	(132)×153×48	鍋形	N-13°E	阿玉台	一部調査区外
28	欠番	—	—	—	—	
29	不整楕円形	117×112×76	箱形	N-13°E	土師・須恵小片	
30	楕円形	(50)×52×19	鍋形	N-64°W	土師・須恵小片	SB12に切られる
31	不整楕円形	112×84×53	鍋形	N-16°W	土師・須恵小片	
32	楕円形	75×64×22	鍋形	N-37°E	粟島台・阿玉台片	

第8表 ピット一覧表

番号	平面形	大きさ (長径×短径×深さ) cm ( ) 現存値	備考
1	円形	40×—×50	土師器甕・坏片
2	円形	62×—×40	土師器甕・坏片
3	円形	80×60×29	土師・須恵器甕・坏片
4	楕円形	35×28×18	柱痕あり
5	円形	29×27×33	P6を切る
6	円形	(27)×36×22	
7	楕円形	52×42×18	柱痕あり
8	円形	39×39×32	
9	楕円形	(40)×40×24	
10	円形	29×27×18	
11	楕円形	30×30×28	
12	楕円形	36×32×25	
13	円形	31×26×27	
14	楕円形	33×26×34	
15	円形	52×52×44	
16	円形	42×36×48	土師器甕片
17	楕円形	67×40×30	
18	楕円形	68×56×36	柱痕あり
19	楕円形	78×47×36	土師器甕・坏片、柱痕あり
20	不整楕円形	74×72×43	土師赤彩坏・須恵坏片、柱痕あり
21	円形	37×34×25	
22	楕円形	40×37×36	
23	楕円形	46×34×36	
24	楕円形	52×43×32	
25	楕円形	37×28×30	
26	円形	43×41×17	柱痕あり
27	楕円形	41×34×19	
28	楕円形	32×23×88	
29	楕円形	64×61×32	土師器甕片・須恵器甕・坏片
30	楕円形	67×59×28	土師器赤彩坏片
31	楕円形	106×72×57	土師甕坏高坏片・須恵器甕片
32	円形	48×48×41	
33	欠番		
34	楕円形	66×49×28	土師器甕片
35	楕円形	57×49×10	土師器甕片・須恵器甕片
36	欠番		
37	円形	44×41×43	土師器甕片
38	楕円形	64×77×17	土師器甕片
39	円形	29×27×22	
40	欠番		
41	楕円形	44×38×16	
42	欠番		
43	楕円形	109×92×54	土師器甕片
44	楕円形	62×34×30	
45	円形	34×31×32	土師器甕片
46	円形	32×32×16	
47	円形	34×33×17	

番号	平面形	大きさ(長径×短径×深さ) cm ( ) 現存値	備考
48	欠番		
49	欠番		
50	円形	42 × 37 × 15	
51	楕円形	52 × 35 × 19	
52	円形	59 × 60 × 17	

第9表 墨書・刻書一覧表

出土位置	器種	種別	釈文	部位	方向	備考
SI01-6	土師器坏	刻書	「y」?	内面底		
SI01-7	須恵器坏	刻書	「y」	外面底		
SI04-6	土師器坏	刻書	線刻	外面下半・内面底		
SI04-7	土師器坏	刻書	線刻	内面底		
SI04-8	土師器坏	刻書	線刻	内面底		
SI05-11	土師器坏	墨書	「□塩」?	外面	正位	
SI06-1	土師器坏	墨書	?	外面		
SI09-4	土師器坏	刻書	「#」	外面		
SI10-3	土師器坏	刻書	「k」	外面底		
SI10-4	土師器坏	刻書	線刻	内面底		燈明
SI10-5	土師器坏	刻書	線刻	内面底		
SI10-9	土師器坏	刻書	「五」	内面	逆位	
SI12-1	土師器坏	刻書	「Z」	外面		
SI13B-3	土師器坏	墨書・刻書	「?」・「本」	外面・内面底		
SI13B-7	土師器坏	墨書	「?」	外面底		
SI13B-8	土師器坏	墨書	「?」	外面底		
SI15-2	須恵器坏	刻書	「x」	外面底		
SI15-3	須恵器坏	刻書	「x」・線刻	内外面底		
SI20-10	土師器坏	墨書	「◎」	外面		上谷・D349、向境 A58 に近似
SI20-11	土師器坏	刻書	線刻	内面底		
SI21-8	土師器坏	墨書	?	外面		
SI21-11	土師器坏	墨書	「左」?	外面		
SI24-1	土師器皿	墨書	「主」	外面底		
SI24-2	土師器坏	墨書	「主」	外面		
SI26-1	土師器坏	墨書	?	外面		
SI29-10	土師器坏	墨書	?	外面		
SI29-12	土師器坏	刻書	「x」	外面底		
SI29-13	土師器坏	刻書	「山」	外面底		
SI29-14	土師器坏	刻書	線刻	外面底		
SI29-15	土師器坏	墨書	?	外面		
SI29-16	土師器坏	刻書	「五」「五」	内外面底	逆位	
SI29-17	土師器坏	刻書	「五」	外面	正位	
SI29-18	土師器坏	刻書	「五」?	外面	逆位	
SI29-19	土師器坏	刻書	「五」?	外面		
SI31-7	土師器坏	刻書	線刻	内面底		
SI31-8	土師器皿	墨書	「長」	外面	正位	
SI32-2	土師器坏	刻書	「井」?	内面底		
SI32-3	土師器坏	刻書	「田」	内面	逆位	
SI32-7	土師器坏	刻書	「井」?	内面底		
SI34-19	土師器坏	墨書	?	外面		
SI34-20	土師器坏	墨書	?	外面		
SI35-3	土師器鉢	刻書	線刻	内面底		
SI35-5	土師器坏	墨書	「之」?	外面	正位	
SI35-9	土師器坏	刻書	「五」「五」?	外面	横位	

第10表 調査区内出土の縄文土器・弥生土器観察表

A区出土縄文土器

図No.	出土地点	部位	施文	胎土	焼成	色調	備考
1	SI-1	胴部	捺糸文(L)	大粒の石英粒を含む	堅緻	内-灰褐	捺糸文系
2	SI-1	胴部	捺糸文◎	大粒の石英粒を多く含む、粗い	堅緻	外-橙・内-灰白	捺糸文系
3	SI-2	胴部	内外面・縦位の貝殻条痕文	繊維を多く含む	脆弱	内外-橙	茅山
4	P-36	胴部	横走の単節縄文(LR)	繊維を多く含む	脆弱	内外-橙	黒浜
5	SI-6	胴部	縦走の無節縄文(L)	繊維を多く含む	脆弱	内外-橙	黒浜
6	SI-3	口縁部	縦走の単節縄文(LR)	繊維を多く含む	脆弱	内外-褐	黒浜
7	SB-2	胴部	輪積痕+無節捺糸文(L)	繊維を多く含む	脆弱	外-橙・内-灰黄褐	黒浜
8	SI-9	胴部	縦走の無節縄文	繊維を多く含む	脆弱	内外-浅黄橙	黒浜
9	SI-3	胴部	繊維束による擦痕	繊維を多く含む	脆弱	外-暗褐・内-灰白	黒浜
10	SI-3	胴部	単節縄文(RL)+斜沈線	繊維を多く含む	脆弱	外-黒・内-灰褐	黒浜
11	SB	胴部	2組の波状沈線の組み合わせ	繊維を多く含む	脆弱	内外-黒褐	黒浜
12	SI-10	胴部	無文帯+縦走の単節縄文(RL)	微砂粒を多く含む、砂質	堅緻	外-暗褐・内-黄橙	粟島台
13	SI-1	胴部	縦走の無節縄文(R)(キズあり)	微砂粒を多く含む、砂質	堅緻	内外-灰白	粟島台
14	SI-1	底部	縦走の無節縄文(R)+横位の結節縄文	石英粒を多く含む、砂質	堅緻	外-橙・内-黒	下小野
15	SI-10	胴部	横位の結節縄文	微砂粒を多く含む、砂質	堅緻	内外-黄褐	下小野
16	SI-10	胴部	縦位の結節縄文+沈線	石英粒混入	堅緻	外-灰黄褐・内-黒褐	下小野
17	SI-1	胴部	杵状隆帯+単節縄文(LR)	微砂粒を含む	堅緻	内外-赤褐	加曾利EⅡ~Ⅲ
18	SI-1	胴部	杵状隆帯+単節縄文(RL)	微砂粒を多く含む	堅緻	内外-褐	加曾利EⅡ~Ⅲ
19	SI-10	胴部	単節縄文(RL)→磨消縄文	微砂粒を多く含む、砂質	堅緻	外-黄褐・内-灰褐	加曾利EⅡ~Ⅲ
20	SI-3	口縁部	波状口縁+微隆起杵状文+無節縄文(RL)	微砂粒を多く含む、砂質	堅緻	内外-褐	加曾利EⅢ
21	SB-1	胴部	微隆線文+無節縄文(L)	長石粒を多く含む、粗い	堅緻	外-黄褐・内-暗灰褐	加曾利EⅢ
22	SB-1	胴部	微隆線文+無節縄文(L)	長石粒を多く含む、粗い	堅緻	外-明褐・内-暗灰褐	加曾利EⅢ
23	SI-10	胴部	刺突文	石英粒を含む	堅緻	外-橙・内-灰褐	称名寺Ⅱ
24	SI-5	胴部	格子目文	微砂粒を多く含む、砂質	堅緻	外-明黄褐・内-灰褐	加曾利B
25	SI-10	胴部	単節縄文(LR)	石英粒を多く含む	堅緻	外-橙・内-黒褐	加曾利B
26	SD-1	胴部	条痕文	石英粒を若干含む、緻密	堅緻	外-黄褐・内-橙	荒海
27	SI-10	胴部	条痕文	石英粒を若干含む、緻密	堅緻	外-黄褐・内-橙	荒海



A区出土弥生土器

1	SI-4	口縁部	口唇-縄文、口縁-交互刺突+縦位の節目	長石粒を少量含む	堅緻	内外橙	弥生後期
2	SB-1	口縁部	口縁-2段の交互刺突、赤彩	長石粒を多く含む、粗い	堅緻	内-黄褐・外-橙	弥生後期
3	P-24	口縁部	附加縄文(LR+R)+連続三角刺突文 口唇部-単節縄文(LR)	微砂粒を含む、緻密	堅緻	内外-暗黄褐	弥生後期
4	SI-6	胴部	縦走の無節縄文(L)	微砂粒を多く含む、砂質	堅緻	内-暗灰褐・外-黄橙	弥生後期
5	P-6	胴部	縦走の無節縄文(L)。	長石粒を多含む、粗い	堅緻	外-黄橙・内-灰黄褐	弥生後期
6	SI-11	底部	附加条(LR+R)	石英粒を多く含む、粗い	堅緻	内外-赤褐	弥生後期

B区

SK-6 (陥穴)

図No	出土地点	部位	施文	胎土	焼成	色調	備考
1	SK-6	口縁部	外面-横位の沈線文 内面-2条の横位の円形連続刺突文+沈線文	微砂粒を多く含む、砂質	堅緻	内外-橙	加曾利B

SK-28 (炉穴)

図No	出土地点	部位	施文	胎土	焼成	色調	備考
1	SK-28	胴部	外面-横位の貝殻条痕文→縦のヘラ削り 内面-横位の貝殻条痕文	繊維を多く含む	脆弱	外-黒褐~暗褐・内-黒	茅山
2	SK-28	胴部	外面-横位の貝殻条痕文→縦のヘラ削り 内面-横位の貝殻条痕文→軽い指頭圧痕+繊維束によるナデ	繊維を多く含む	脆弱	内外-橙	茅山
3	SK-28	胴部	内外面-縦位の貝殻条痕文	繊維を多く含む	脆弱	外-橙・内-黒褐	茅山
4	SK-28	胴部	無文	大粒の石英粒・金雲母を含む	堅緻	外-赤橙・内-黄褐	阿玉台

焼土2 (炉穴)

図No	出土地点	部位	施文	胎土	焼成	色調	備考
1	焼土2	胴部	内外面-縦位の貝殻条痕文	繊維を多く含む	脆弱	外-褐~暗褐・内-褐	茅山

B区出土縄文土器

図No	出土地点	部位	施文	胎土	焼成	色調	備考
1	SI-35	胴部	縦走の無節捻糸文(L)	石英粒を多く含む、砂質	堅緻	内外-橙	捻糸文
2	SB-7	胴部	縦走の無節捻糸文(L)	大粒の長石粒を多く含む、粗い	堅緻	外-黄橙・内-褐灰	捻糸文
3	SI-32	胴部	縦走の無節捻糸文(L)	金雲母を多く含む、砂質	堅緻	内外-灰白	捻糸文
4	SI-32	胴部	縦走の無節捻糸文(L)	大粒の長石粒を多含む、粗い	堅緻	内外-黒褐	捻糸文
5	SI-29	胴部	横走の無節捻糸文(L)	石英粒を若干含む、緻密	堅緻	外-黄褐・内-橙	捻糸文
6	SI-26	胴部	縦走の単節縄文(RL)	微砂粒を含む、緻密	堅緻	外-赤褐・内-橙	捻糸文
7	SI-12	胴部	縦走の無節捻糸文(L)→磨き	微砂粒を多く含む、砂質	堅緻	外-橙・内-灰褐	捻糸文
8	SI-12	胴部	縦走の無節捻糸文(L)→磨き	金運を多く含む、砂質	堅緻	内外-褐	捻糸文
9	SI-12	胴部	縦走の無節捻糸文(L)→磨き	微砂粒を多く含む	堅緻	外-橙・内-灰白	捻糸文
10	SI-32	胴部	外面-横位の貝殻条痕文、内面-縦斜位の貝殻条痕文	繊維を多く含む	脆弱	外-明赤褐・内-淡黄	茅山
11	B区	胴部	内外面-縦位の貝殻条痕文	繊維を多く含む	脆弱	外-明赤褐・内-淡黄	茅山
12	B区	胴部	外面-斜位の貝殻条痕文、内面-縦位の貝殻条痕文	繊維を多く含む	脆弱	外-橙・内-黄褐	茅山
13	B区	口縁部	横走の単節縄文(RL)	繊維を多く含む	脆弱	外-明黄褐・内-灰黄褐	黒浜
14	表採	胴部	縦走の単節縄文(LR)	繊維を多く含む	脆弱	外-橙・内-褐	黒浜
15	SB-11	胴部	単節縄文(LR)	繊維を多く含む	脆弱	外-赤褐・内-明赤褐	黒浜
16	SI-36	口縁部	横走の単節縄文(LR)	繊維を多く含む	脆弱	外-橙・内-灰褐	黒浜
17	B区	胴部	縦走の単節縄文(LR)	繊維を多く含む	脆弱	内外-橙	黒浜
18	B区	胴部	横走の単節縄文(RL)	繊維を多く含む	脆弱	内外-にぶい赤褐	黒浜
19	B区	胴部	横走の単節縄文(RL)	繊維を多く含む	脆弱	外-赤褐・内-黒	黒浜
20	B区	胴部	縦走の単節縄文(LR)+波状並行沈線(半截竹管)	繊維を多く含む	脆弱	外-赤褐・内-黒	黒浜
21	SI-36	胴部	縦走の単節縄文(RL)	繊維を多く含む	脆弱	内外-暗褐	黒浜
22	SI-28	胴部	縦走の単節縄文(LR)	繊維を多く含む	脆弱	外-黒・内-灰褐	黒浜
23	SI-31	胴部	横走の単節縄文(RL)	繊維を多く含む	脆弱	内外-灰黄褐	黒浜
24	SI-29	底部	単節縄文(RL)	繊維を多く含む	脆弱	外-黒・内-灰褐	黒浜
25	SI-13	胴部	繊維束圧痕+縦走の無節縄文(L)	繊維を多く含む	脆弱	外-赤褐・内-黒	黒浜
26	SI-43	胴部	繊維束圧痕+縦走の無節縄文(L)	繊維を多く含む	脆弱	外-赤褐・内-黒	黒浜
27	SI-31	胴部	繊維束によるナデ	繊維を多く含む	脆弱	内外-赤褐	黒浜
28	SI-32	胴部	繊維束によるナデ→捻糸文(L)	繊維を多く含む	脆弱	外-褐・内-明灰黄褐	黒浜
29	SI-30	胴部	横走の単節縄文(LR)+横位の結節縄文	繊維を多く含む	脆弱	外-赤褐・内-灰褐	黒浜
30	SI-24	胴部	波状沈線文	繊維を多く含む	脆弱	内外-黄褐	黒浜
31	SD-4	胴部	斜沈線→横位沈線	微砂粒を多く含む、砂質	堅緻	内外-橙	浮島
32	SI-26	胴部	斜沈線+横位の並行沈線(半截竹管)	微砂粒を含む、砂質	堅緻	内外-明褐	浮島
33	P-33	胴部	縦走の無節縄文(L)+斜位の並行沈線(半截竹管)	微砂粒を含む、砂質	堅緻	外-灰オリーブ・内-橙	浮島
34	表採	胴部	矢羽根状沈線文	大粒の石英粒を多く含む	堅緻	内外-赤褐	十三菩提
35	SI-36	口縁部	口唇部-連続刺突文(半截竹管)、口縁部-輪積痕+短沈線	微砂粒を多く含む、砂質	脆弱	内外-赤褐	粟島台
36	P-48	口縁部	口唇部-連続刺突文、口縁部-側面圧痕文	微砂粒を多く含む、砂質	堅緻	内外-明赤褐	粟島台
37	表採	口縁部	口唇部-刺突文、口縁部-側面圧痕文	石英粒を若干含む、緻密	堅緻	内外-灰白	粟島台
38	SI-33	口縁部	口唇部-表裏連続円形刺突文、小波状口縁部-横走の無節縄文(L)+縦位の側面圧痕文	微砂粒を含む、砂質	堅緻	内外-黄褐	粟島台
39	SB-9	口縁部	口唇部-連続刺突文(棒状工具)、口縁部-横走の無節縄文(L)	長石粒を多く含む、砂質	堅緻	外-明褐・内-灰褐	粟島台
40	SB-11	胴部	横走の無節縄文(L)	微砂粒を若干含む	堅緻	内外-明赤褐	粟島台
41	SI-36	胴部	横走の無節縄文®	微砂粒を若干含む、砂質	堅緻	外-橙・内-黄褐	粟島台
42	P-36	胴部	横走の無節縄文(L)	微砂粒を含む、砂質	堅緻	内外-浅黄橙	粟島台
43	SI-33	胴部	横走の単節縄文(RL)、(縦方向にキズあり)	微砂粒を含む、砂質	堅緻	内外-橙	粟島台
44	表採	胴部	横走の無節縄文(L)	微砂粒を含む、砂質	堅緻	内外-黄橙	粟島台
45	表採	胴部	輪積痕+縦走の単節縄文(RL)	微砂粒を多く含む	堅緻	外-橙・内-黄褐	粟島台
46	SI-33	胴部	横走の無節縄文(L)+縦走の無節縄文(L)-羽状縄文	長石粒を多含む、砂質	堅緻	外-橙・内-黄橙	粟島台
47	SI-36	口縁部	折り返し口縁、横走の無節縄文(L)+連続刺突文(ヘラ先工具)	微砂粒を含む、砂質	脆弱	外-赤褐・内-にぶい褐	下小野 I
48	SI-36	胴部	横走の無節縄文(R)+横位の結節縄文	微砂粒を若干含む、砂質	堅緻	外-橙・内-黄褐	下小野
49	SI-36	胴部	横走の無節縄文(R)+横位の結節縄文	微砂粒を若干含む、砂質	堅緻	外-橙・内-黄褐	下小野
50	SI-	胴部	横走の無節縄文(L)+横位の結節縄文	長石粒を多含む、砂質	堅緻	外-黒褐・内-黄褐	下小野
51	SB-14	胴部	横走の単節縄文(RL)+横位の結節縄文	大粒の長石粒を多く含む、粗い	堅緻	外-橙・内-黒褐	下小野
52	SI-36	胴部	縦走の単節縄文(LR)+横位の結節縄文	微砂粒を多く含む、砂質	堅緻	内外-橙	下小野

図No	出土地点	部位	施文	胎土	焼成	色調	備考
53	SI-30	胴部	横走の無節縄文 (R) + 横位の結節縄文	微砂粒を若干含む、砂質	堅緻	外-橙・内-黄褐	下小野
54	表採	胴部	横走の無節縄文 (L) + 横位の結節縄文	微砂粒を含む、砂質	堅緻	内外-淡黄	下小野
55	SI-29	胴部	単節縄文 (RL) + 横位の結節縄文	微砂粒を含む、砂質	堅緻	内外-淡黄	下小野
56	SI-31	胴部	横走の単節縄文 (LR) + (RL) 羽状縄文 + 横位の結節縄文	微砂粒を多含む、砂質	堅緻	内外-橙	下小野
57	SI-33	胴部	横走の単節縄文 (LR) + (LR) 羽状縄文 + 横位の結節縄文	微砂粒を含む、砂質	堅緻	内外-橙	下小野
58	SI-32	胴部	縦走の単節縄文 (RL) + (LR) 羽状縄文 + 横位の結節縄文	微砂粒を含む、砂質	脆弱	外-橙・内-浅黄橙	下小野
59	SI-33	胴部	横走の無節縄文 (L) + 横位の結節縄文	微砂粒を含む、砂質	堅緻	内外-橙	下小野
60	SK-31	口縁部	無節縄文 (L) + 縦位の結節縄文、小形土器	微砂粒を含む	堅緻	外-灰褐・内-黄灰	下小野II
61	P-29	胴部	縦走の無節縄文 (L) + 縦位の結節縄文	大粒の長石粒を多含む、粗い	堅緻	外-明黄褐・内-橙	下小野
62	P-43	胴部	縦走の無節縄文 (L) + 縦位の結節縄文	微砂粒を若干含む	堅緻	外-明赤褐・内-灰褐	下小野
63	SI-30	胴部	横走の単節縄文 (RL) + 縦位の結節縄文	大粒の長石粒を多く含む、粗い	堅緻	内外-橙	下小野
64	P-32	口縁部	縦位の結節縄文	微砂粒を含む、緻密	堅緻	内外-暗黄褐	下小野
65	SI-26	胴部	縦位の結節縄文	大粒の長石粒を多く含む、粗い	堅緻	外-黒褐・内-暗赤褐	下小野
66	SI-26	胴部	縦位の結節縄文	大粒の長石粒を多く含む、粗い	堅緻	外-黒褐・内-暗赤褐	下小野
67	B区	口縁部	口縁部肥厚、縦の短沈線、胴部・口状沈線 + 3条の短沈線	金雲母を多く含む	堅緻	外-灰黄褐・内-黒褐	五領ヶ台
68	SI-26	口縁部	口縁部肥厚、縦の短沈線	金雲母を多く含む	堅緻	外-灰黄褐・内-黒褐	五領ヶ台
69	SI-27	口縁部	口縁部肥厚、キャタピラ文 + 三角文	長石粒を少量含む	堅緻	内外-灰黄	五領ヶ台
70	SI-16	胴部	口縁部肥厚、沈線 + 三角文	大粒の石英粒を含む、粗い	堅緻	内外-灰黄	五領ヶ台
71	表採	口縁部	口唇部 - 連続刺突文 (半截竹管)、口縁部 - 外反、内面 - 赤彩	金雲母を多く含む、粗い	堅緻	外-暗褐灰・内-黒褐	五領ヶ台
72	SB-7	胴部	三角刺突文、絵画文 (ヘラ先)	微砂粒を多く含む、砂質	堅緻	外-褐・内-明褐灰	五領ヶ台
73	SD-3	胴部	三角刺突文	微砂粒を多く含む、砂質	堅緻	内外-明褐	五領ヶ台
74	SI-26	胴部	V字状沈線 + 横位の連続刺突文	大粒の石英粒を含む、粗い	堅緻	内外-灰黄	五領ヶ台
75	SI-15	口縁部	口唇部 - 連続刺突文 (ヘラ先工具)、口縁部 - 押し引き文	金雲母を多く含む、砂質	堅緻	内外-赤褐	阿玉台
76	SD-4	胴部	縦位の隆線 + 両脇に角押文	金雲母を多く含む	堅緻	外-褐・内-黒	阿玉台
77	表採	胴部	縦位の隆線 + 両脇に沈線	大粒の石英粒・金雲母を含む	堅緻	内外-橙	阿玉台
78	表採	口縁部	口唇部 - 絡状体圧痕、口縁部 - 輪積痕 + 指頭圧痕	長石粒を多含む、粗い	堅緻	外-黄褐・内-暗褐灰	阿玉台
79	表採	胴部	器面の荒れが激しい	大粒の長石粒を多く含む、粗い	堅緻	外-灰褐・内-赤褐	阿玉台
80	SK-32	胴部	輪積痕 + 指頭圧痕	石英粒を多く含む、粗い	堅緻	外-暗褐灰・内-黄褐	阿玉台
81	SD-3	胴部	輪積痕 + 指頭圧痕	石英粒を多く含む、粗い	堅緻	内外-橙	阿玉台
82	SI-12	口縁部	口唇部 - 連続刺突、沈線 + 横走の単節縄文 (RL)	微砂粒を多く含む、砂質	堅緻	外-黒褐・内-赤褐	加曾利E III
83	SI-12	口縁部	隆帯 + 縦走の単節縄文 (RL)	石英・長石粒を多く含む、粗い	堅緻	外-暗褐・内-黒褐	加曾利E I
84	B区	口縁部	隆帯 + 横走の単節縄文 (RL)	金雲母を多く含む、緻密	堅緻	外-赤褐・内-黒	加曾利E
85	SI-12	胴部	横走の単節縄文 (RL)	石英粒を少量含む	堅緻	外-浅黄橙・内-灰黄褐	加曾利E
86	SI-14	口縁部	横位の沈線文	微砂粒を若干含む、砂質	堅緻	内外-橙	称名寺II
87	SI-12	胴部	V字状の2列の捺消縄文 (RL)	微砂粒を多く含む、緻密	堅緻	外-朝黄橙・内-黒	堀之内2
88	SI-12	胴部	頸部 - 隆線 + 刺突 + 8字状貼付、胴部 - 带状磨消縄文 (単節RL)	微砂粒を少量含む、緻密	堅緻	外-浅黄橙・内-黒	堀之内2
89	SI-22	胴部	横走の単節縄文 (LR)	微砂粒を若干含む、砂質	堅緻	外-赤褐・内-黄褐	堀之内
90	SK-9	胴部	波状口縁、縦走の単節縄文 (LR) + 横位の沈線文	微砂粒を多く含む	堅緻	外-黒褐・内-暗褐	加曾利B
91	SI-30	胴部	単節縄文 (LR) → 横位沈線	微砂粒を多く含む	堅緻	外-暗赤褐・内-橙	加曾利B
92	SK-30	口縁部	指頭圧痕を伴う紐線文 + 単節縄文 (RL) + 斜条線	微砂粒を若干含む	堅緻	外-橙・内-黄橙	加曾利B
93	SI-30	胴部	単節縄文 (LR) + 格子状条線	微砂粒を含む、砂質	堅緻	内外-浅黄橙	加曾利B
94	SI-32	胴部	縦位の条線 (ヘラ削り)	金運を多く含む。砂質	脆弱	外-明赤褐・内-灰黄	加曾利B
95	SI-30	胴部	縦走の単節縄文 (RL) → 斜条線文、紐線文土器	微砂粒を多く含む、砂質	堅緻	外-黒・内-黄褐	加曾利B
96	SB-9	口縁部	浮線網状文	微砂粒を多く含む、砂質	堅緻	外-明褐・内-黒	千網
97	表採	口縁部	浮線網状文	微砂粒を含む、緻密	堅緻	外-黄褐・内-褐灰	千網
98	表採	口縁部	浮線網状文	微砂粒を含む、緻密	堅緻	内外-灰白	千網
99	表採	口縁部	浮線網状文	石英粒を多く含む、粗い	堅緻	外-黒褐・内-灰黄褐	千網
100	表採	胴部	横走の捺糸文 (R)	微砂粒を多く含む	堅緻	外-暗赤褐・内-黒褐	千網
101	表採	胴部	横走の捺糸文 (L)	微砂粒を多く含む	堅緻	外-黒褐・内-灰褐	千網
102	SI-36	胴部	横走縦走の捺糸文 (L)	微砂粒を若干含む、砂質	堅緻	外-橙・内-黒	千網
103	SI-25	胴部	縦位の櫛目文	微砂粒を含む、砂質	堅緻	内外-明褐	千網
104	SK-31	胴部	縦位の櫛目文	微砂粒を多く含む	堅緻	内外-暗赤褐	千網
105	SB-15	胴部	縦位の櫛目文	微砂粒を多く含む、砂質	堅緻	外-赤褐・内-黒褐	千網
106	SB-13	胴部	縦位の櫛目文	微砂粒を多く含む、砂質	堅緻	外-暗褐・内-褐	千網
107	P-48	胴部	縦位の櫛目文	微砂粒を多く含む、砂質	堅緻	外-褐・内-黒褐	千網
108	P-43	胴部	縦位の櫛目文	微砂粒を多く含む、砂質	堅緻	内外-褐	千網
109	SI-25	胴部	縦位の櫛目文	微砂粒を含む、砂質	堅緻	外-明褐・内-灰黄褐	千網
110	表採	胴部	縦位の櫛目文	微砂粒を含む、砂質	堅緻	外-黒褐・内-橙	千網
111	SD-4	土錘?	輪積痕 + 指頭圧痕	石英粒を多く含む、粗い	堅緻	外-灰褐・内-褐	阿玉台
112	SB-9	土錘	角押沈線文	微砂粒を多く含む、砂質	堅緻	内外-灰黄褐	阿玉台

B区出土弥生土器

1	SI-30	胴部	無節縄文 (L) の末端。	微砂粒を多含む、砂質	堅緻	内外-灰褐	弥生後期
2	SI-16	底部	無節縄文 (L)。	石英粒を多く含む、砂質	堅緻	外-赤褐・内-灰褐	弥生後期
3	SI-36	底部	横走の附加条縄文 (LR + R)、木葉痕径 7.6cm・残存高 2.5cm	微砂粒を含む、砂質	脆弱	外-黒褐・内-浅黄橙	弥生後期

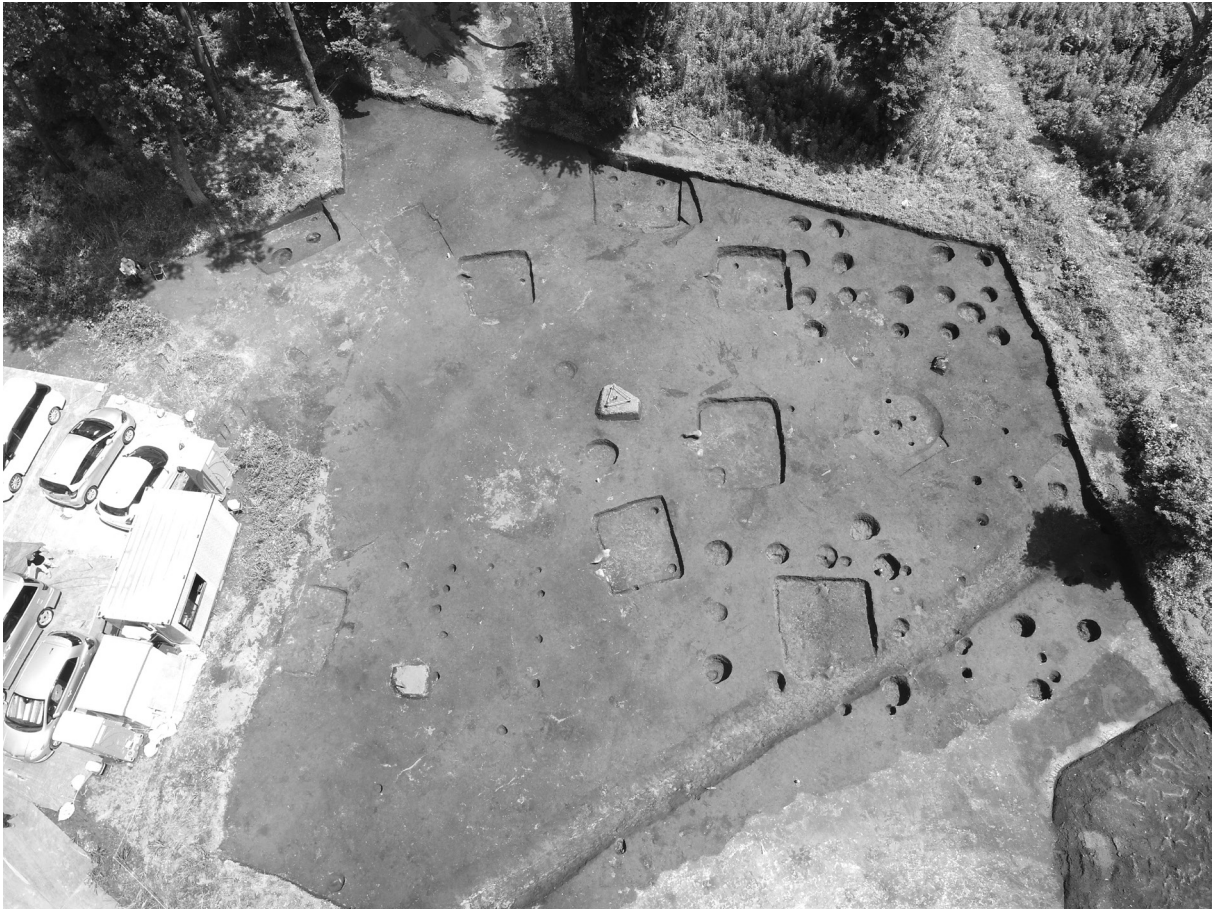
# 写真図版



1. 遺構全景（北東から）



2. 調査区全景



1. A区遺構全景



2. B区遺構全景



1. A区旧石器時代遺物出土状況（南から）



2. B区旧石器時代遺物  
出土状況  
B3ブロック（南から）



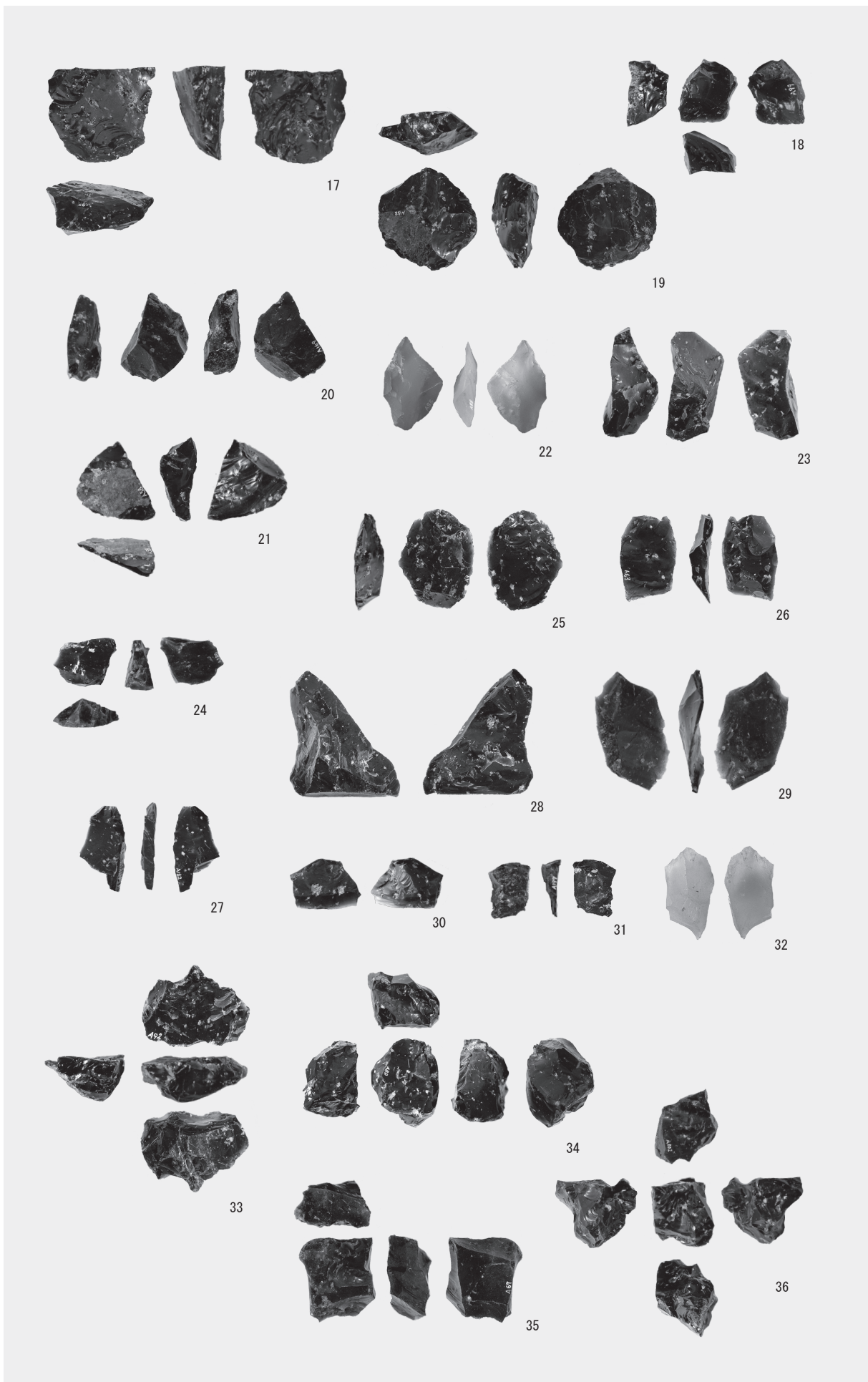
3. A区ローム層堆積状況



4. B区ローム層堆積状況（7Hグリット）

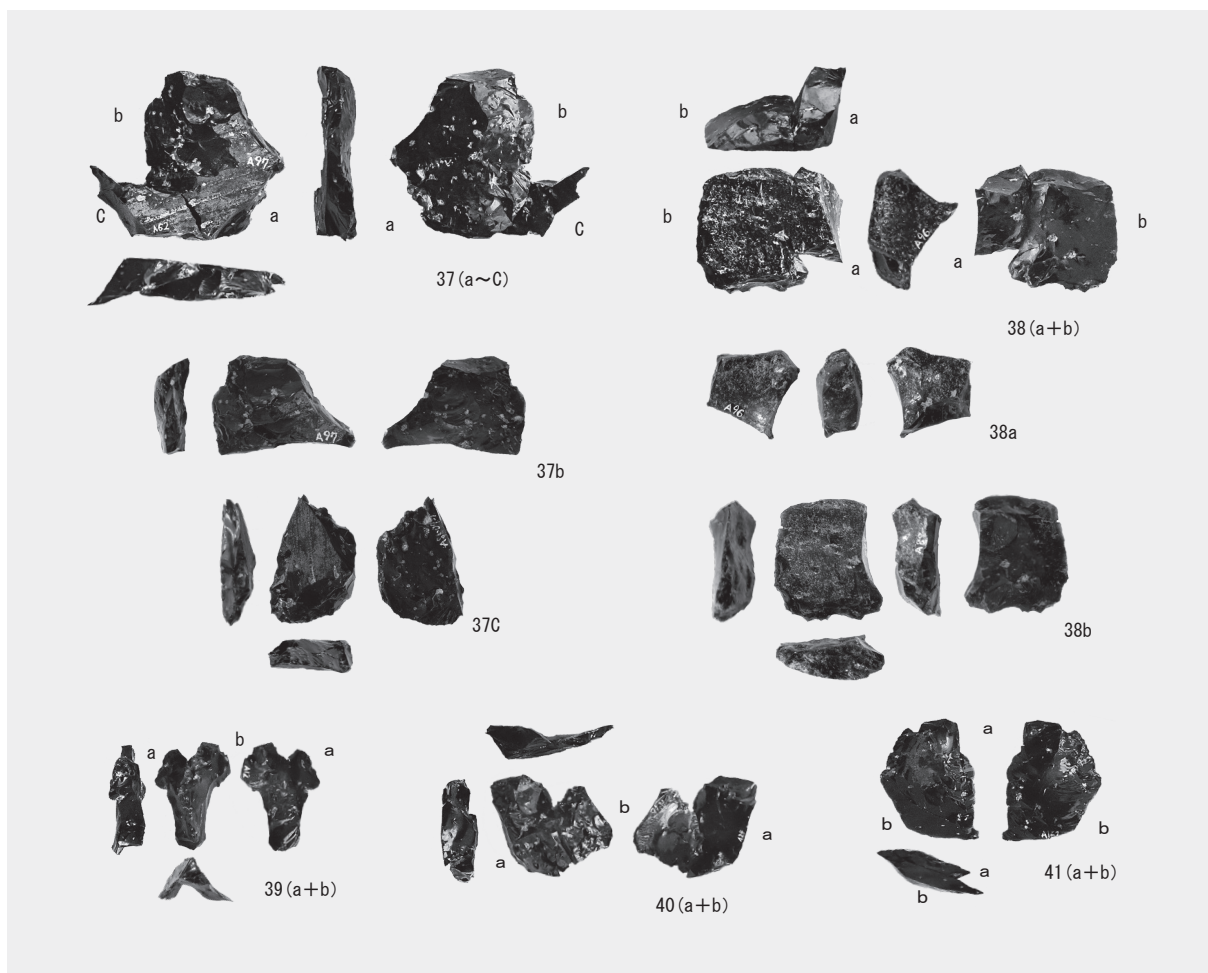


1. A区旧石器时代遺物 (1~16) s=1/2

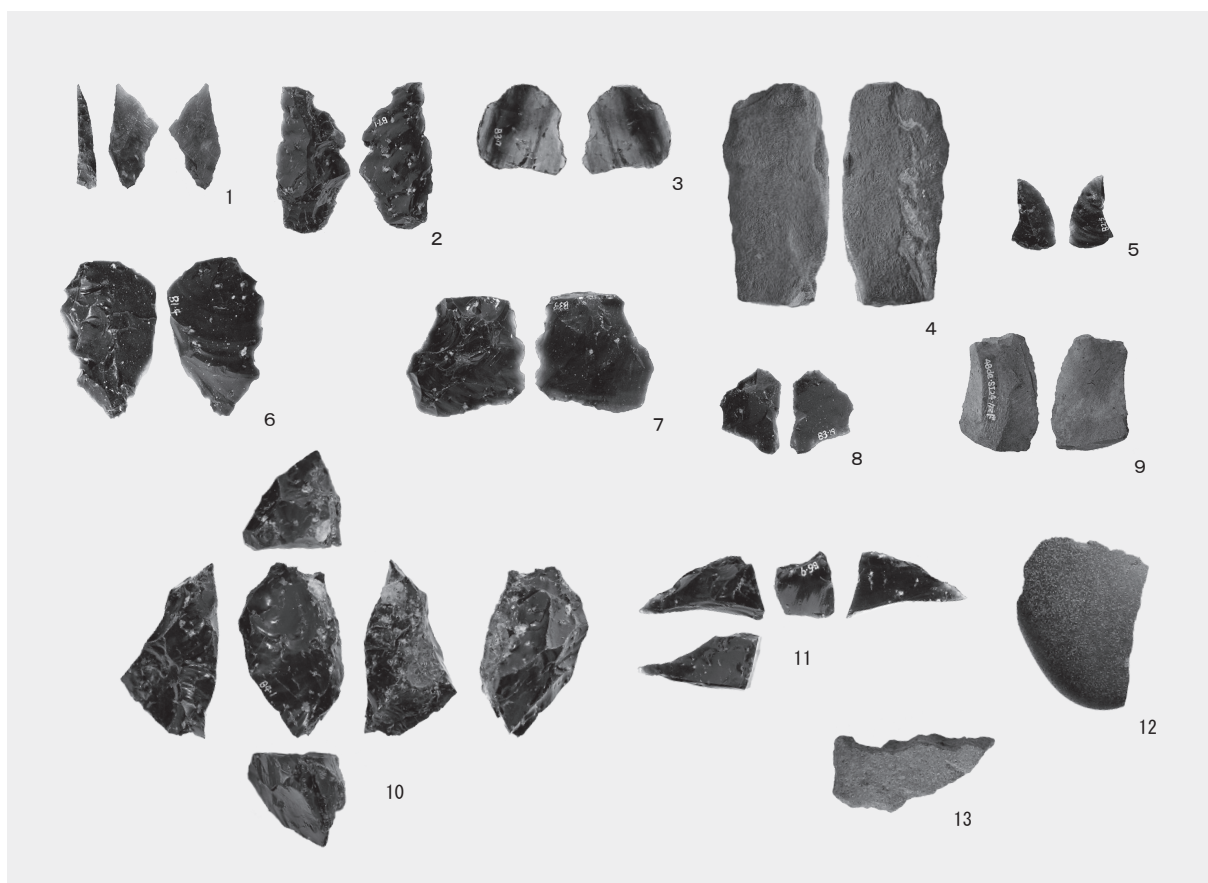


1. A区旧石器时代遺物 (17~36) s=1/2

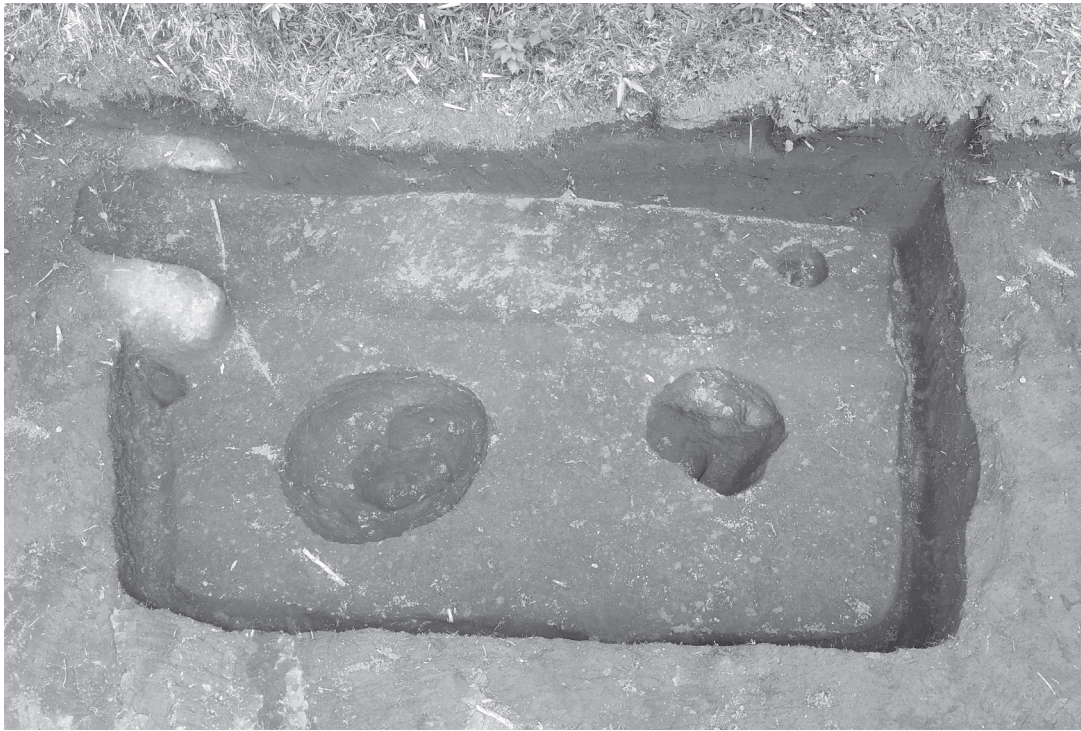




1. A区旧石器時代遺物 (37~41) s=1/2



2. B区旧石器時代遺物 (1~13) s=1/2



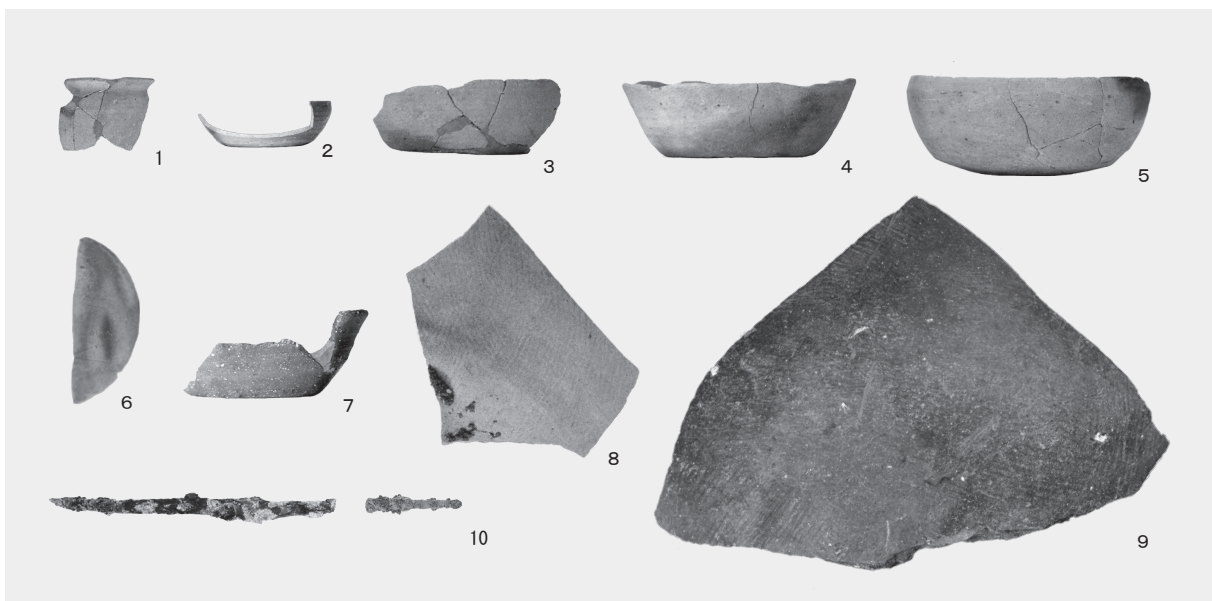
1. SI01 (西から)



2. SI01遺物出土状況 (西から)



3. SI01カマド (南から)



4. SI01出土遺物 S=1/4

図版 8

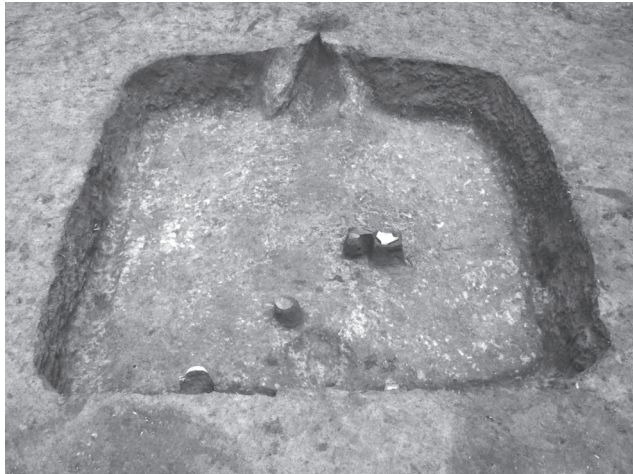


1. SI02 (南西から)



2. SI02カマド

3. SI02出土遺物  
S=1/4



4. SI03 (南西から)



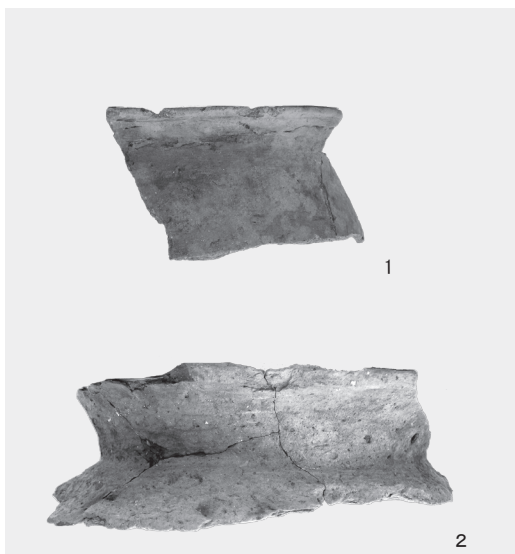
5. SI03遺物出土状況 (西から)



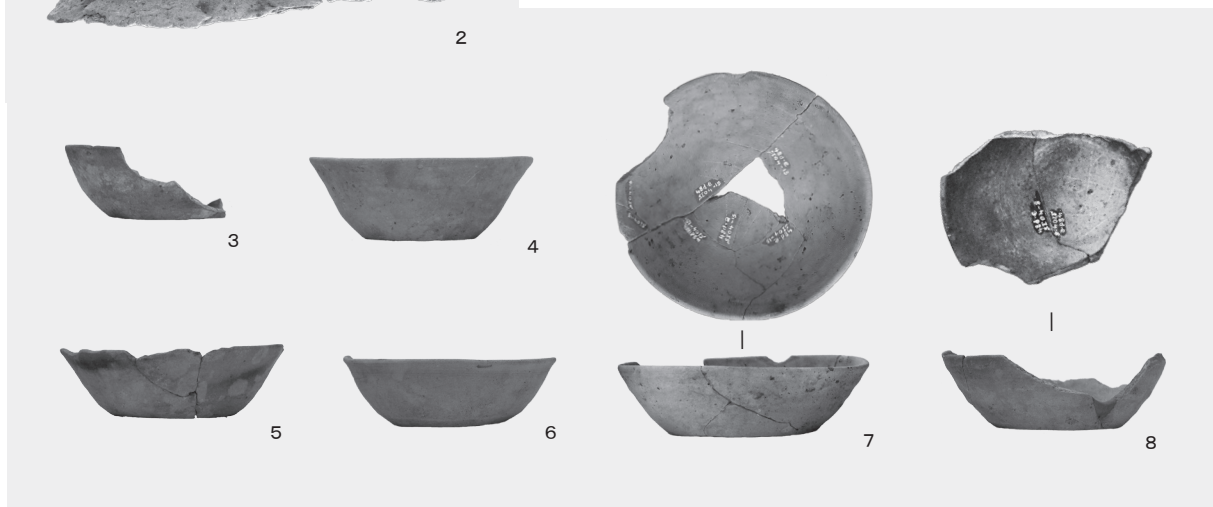
6. SI03出土遺物 S=1/4



1. SI04完掘 (南西から)



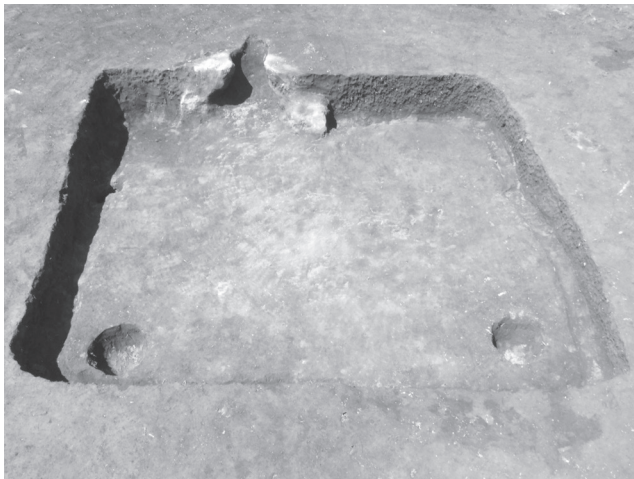
2. SI04カマド



3. SI04出土遺物 s=1/4



1. SI05 遺物出土状況（南西から）



2. SI05（南西から）



3. SI05カマド 遺物出土状況



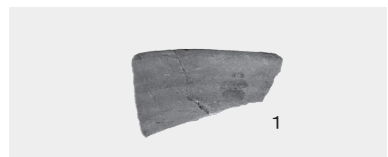
4. SI05出土遺物（1） S=1/4



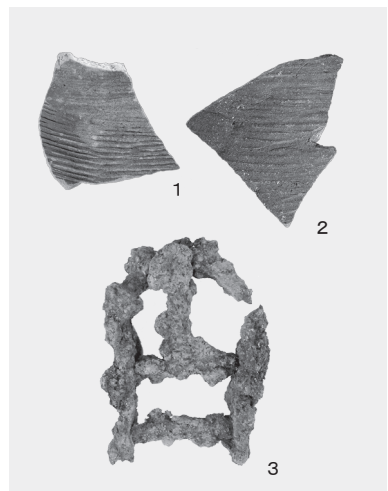
1. SI05出土遺物 (2) s=1/4



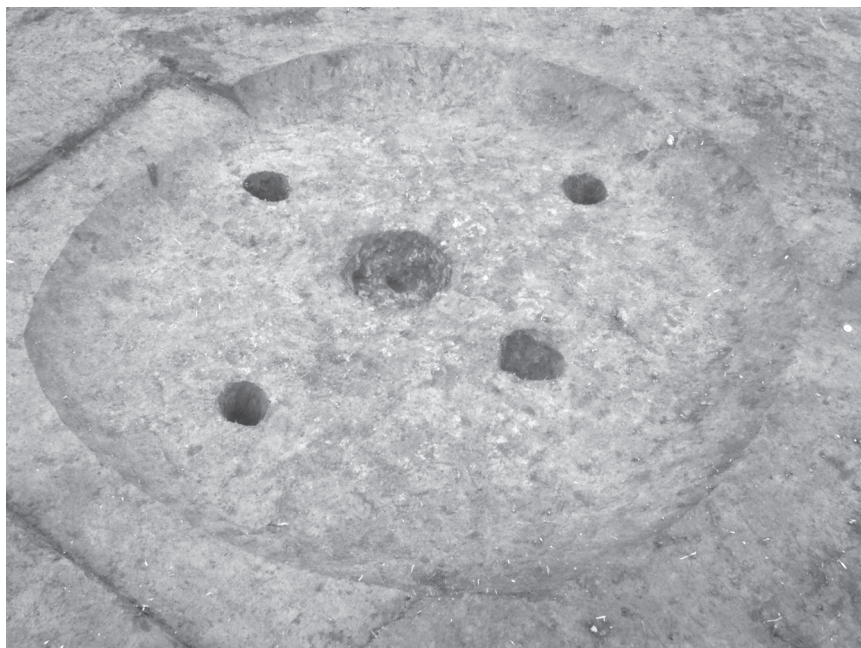
2. SI06・08 (南から)



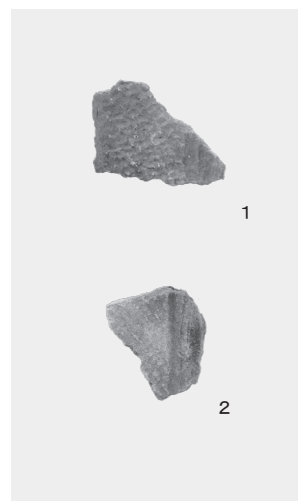
3. SI06出土遺物 s=1/4



4. SI08出土遺物 s=1/4 (1・2) 1/2(3)



1. SI07 (西から)



2. SI07出土遺物  
S=1/4



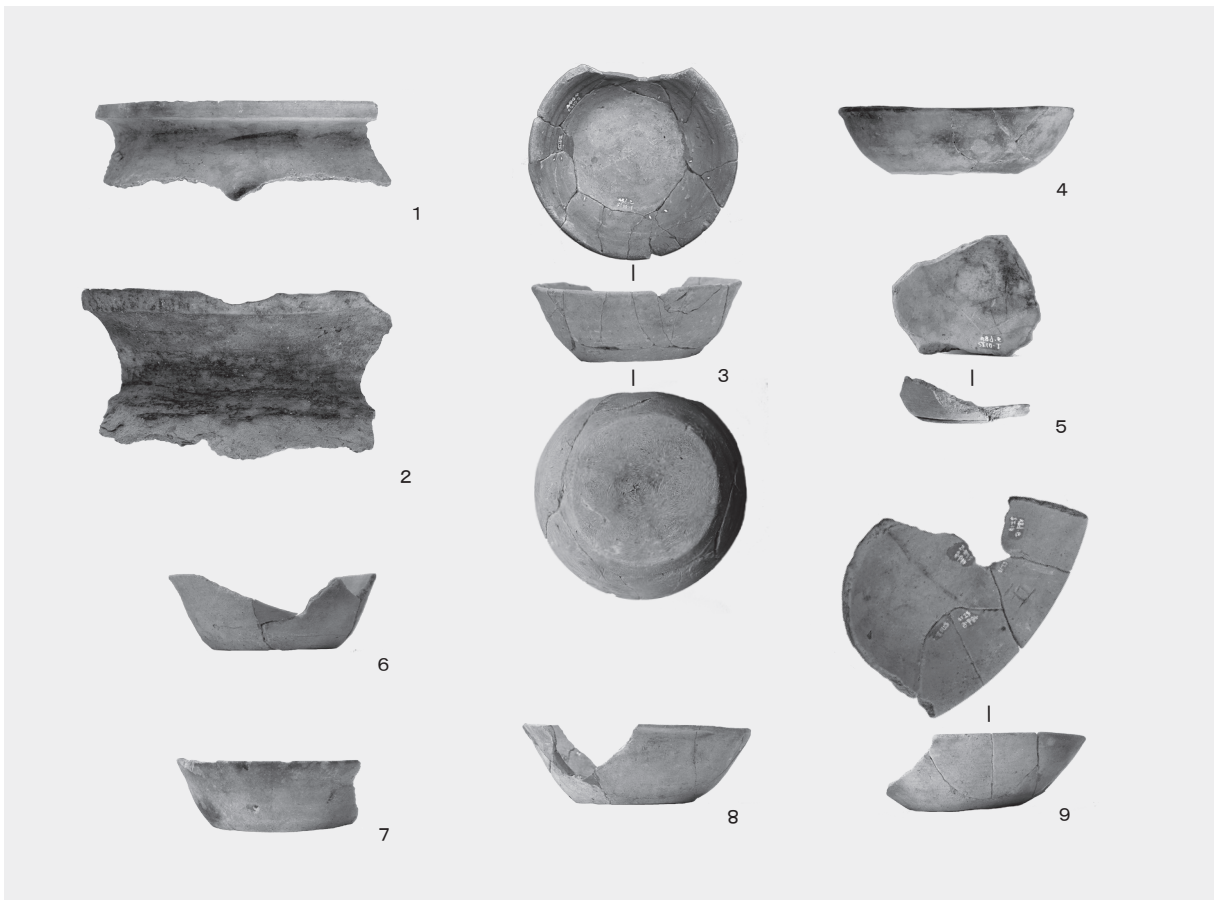
3. SI09 (南西から)



4. SI09出土遺物 S=1/4



1. SI10 遺物出土状況（東から）

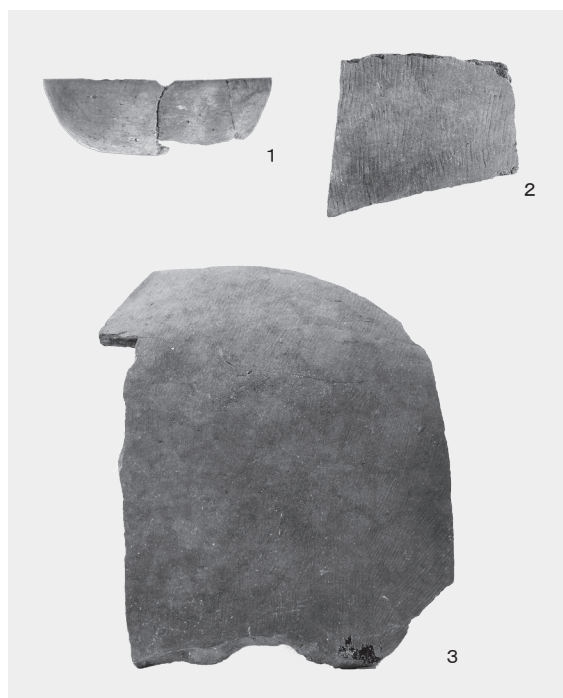


2. SI10出土遺物 S=1/4





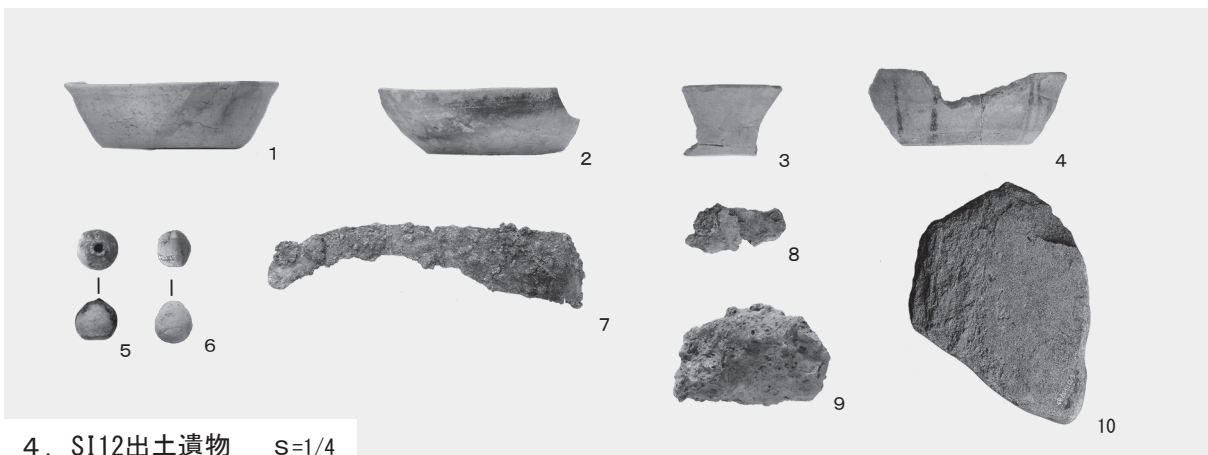
1. SI11 (南から)



2. SI11出土遺物  
S=1/4



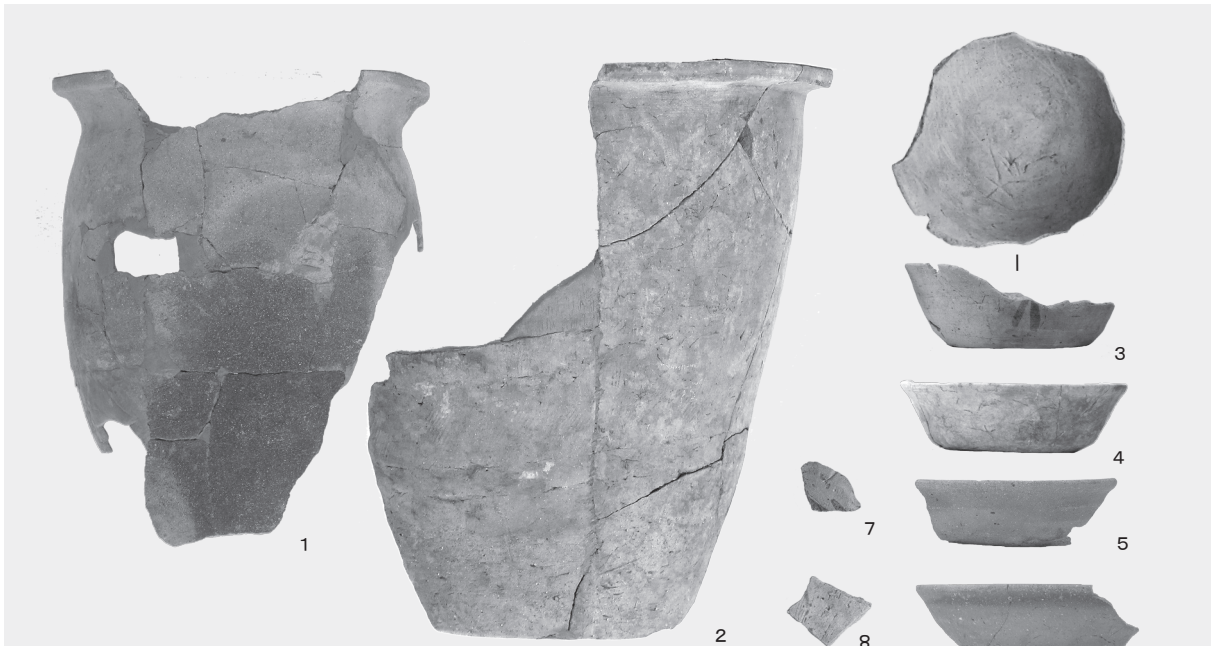
3. SI12 (南から)



4. SI12出土遺物 S=1/4



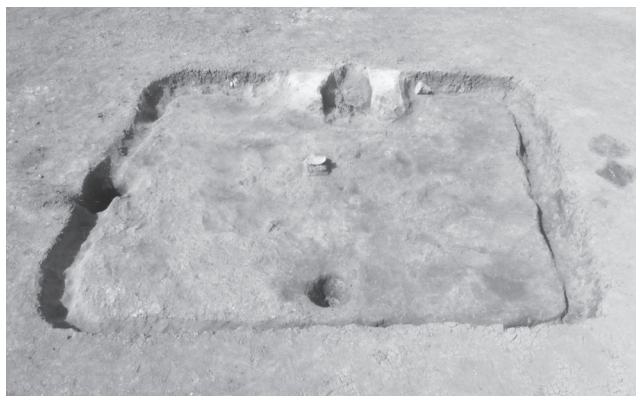
1. SI13A・13B 遺物出土状況（東から）



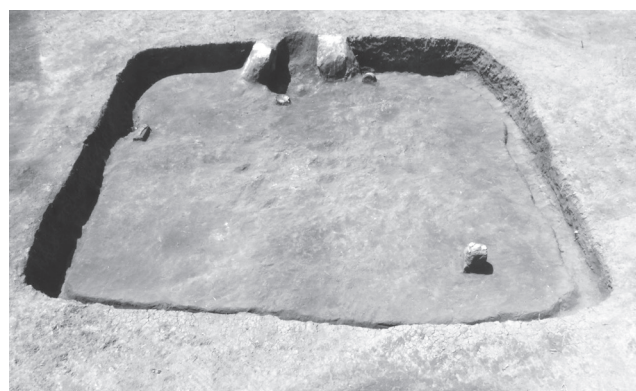
2. SI13A出土遺物 S=1/4



3. SI13B出土遺物 S=1/4



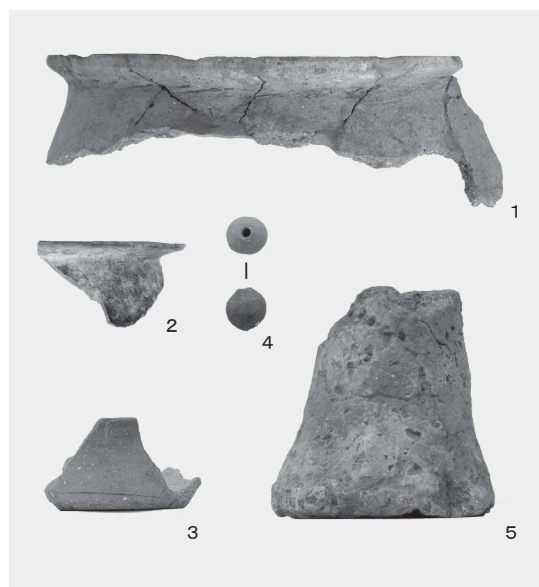
1. SI14 (南西から)



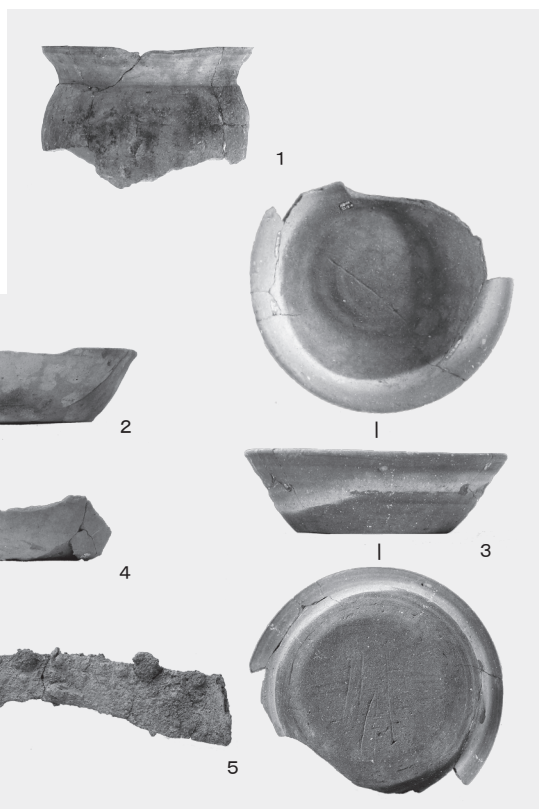
3. SI15 (南東から)



4. SI15カマド



2. SI14出土遺物 S=1/4



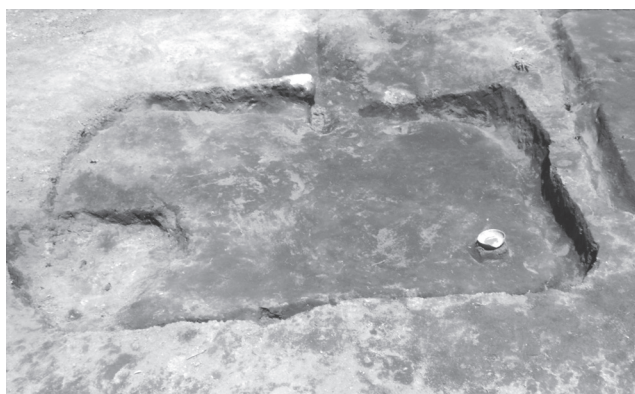
5. SI15出土遺物 S=1/4



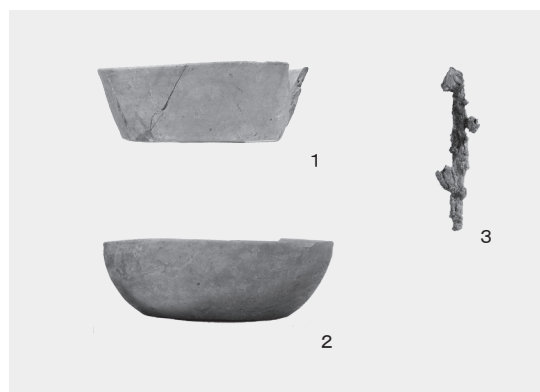
6. SI16 (南西から)



7. SI16出土遺物 S=1/4



1. SI17 (南から)



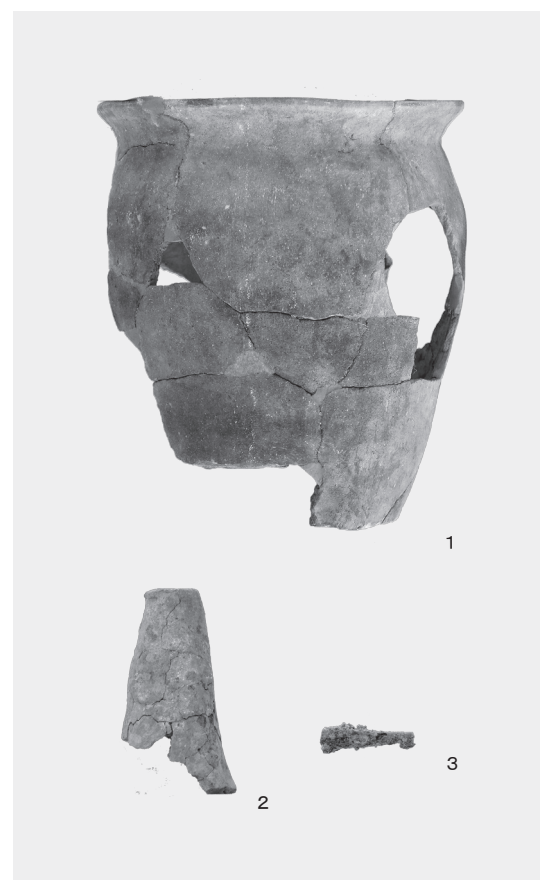
2. SI17出土遺物 s=1/4



3. SI18 (南東から)



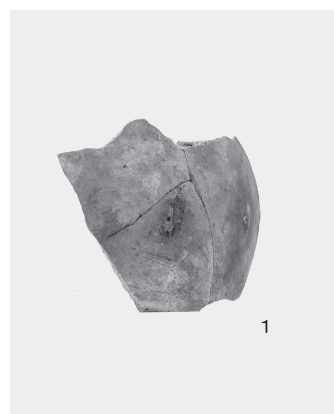
4. SI18貯蔵穴セクション



5. SI18出土遺物 s=1/4



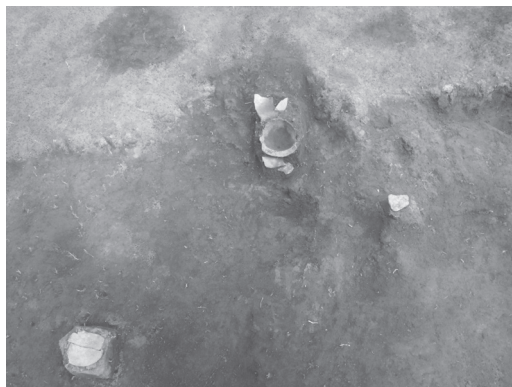
6. SI19 (南東から)



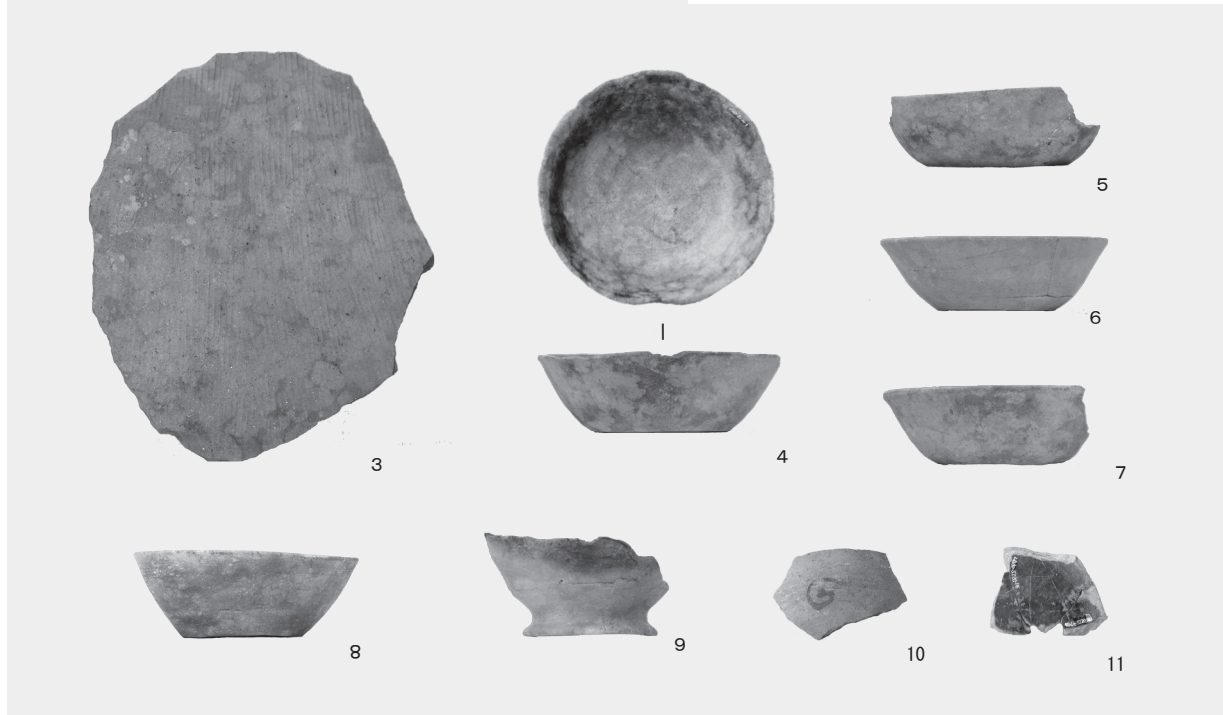
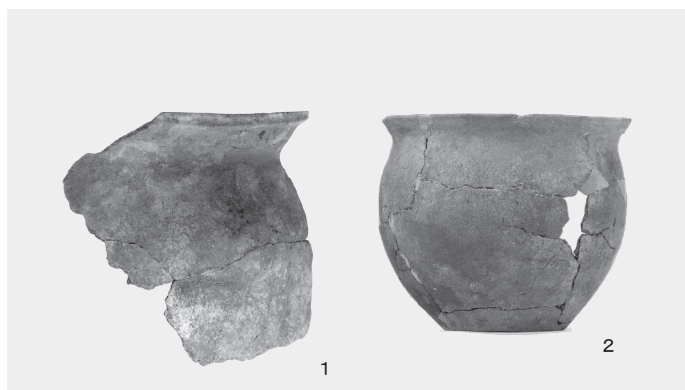
7. SI19出土遺物 s=1/4



1. SI20 (南から)



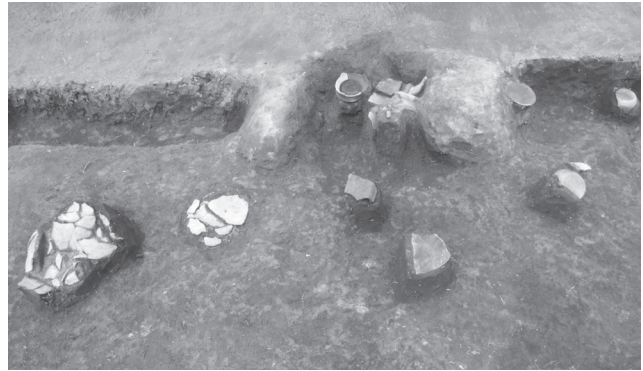
2. SI20カマド



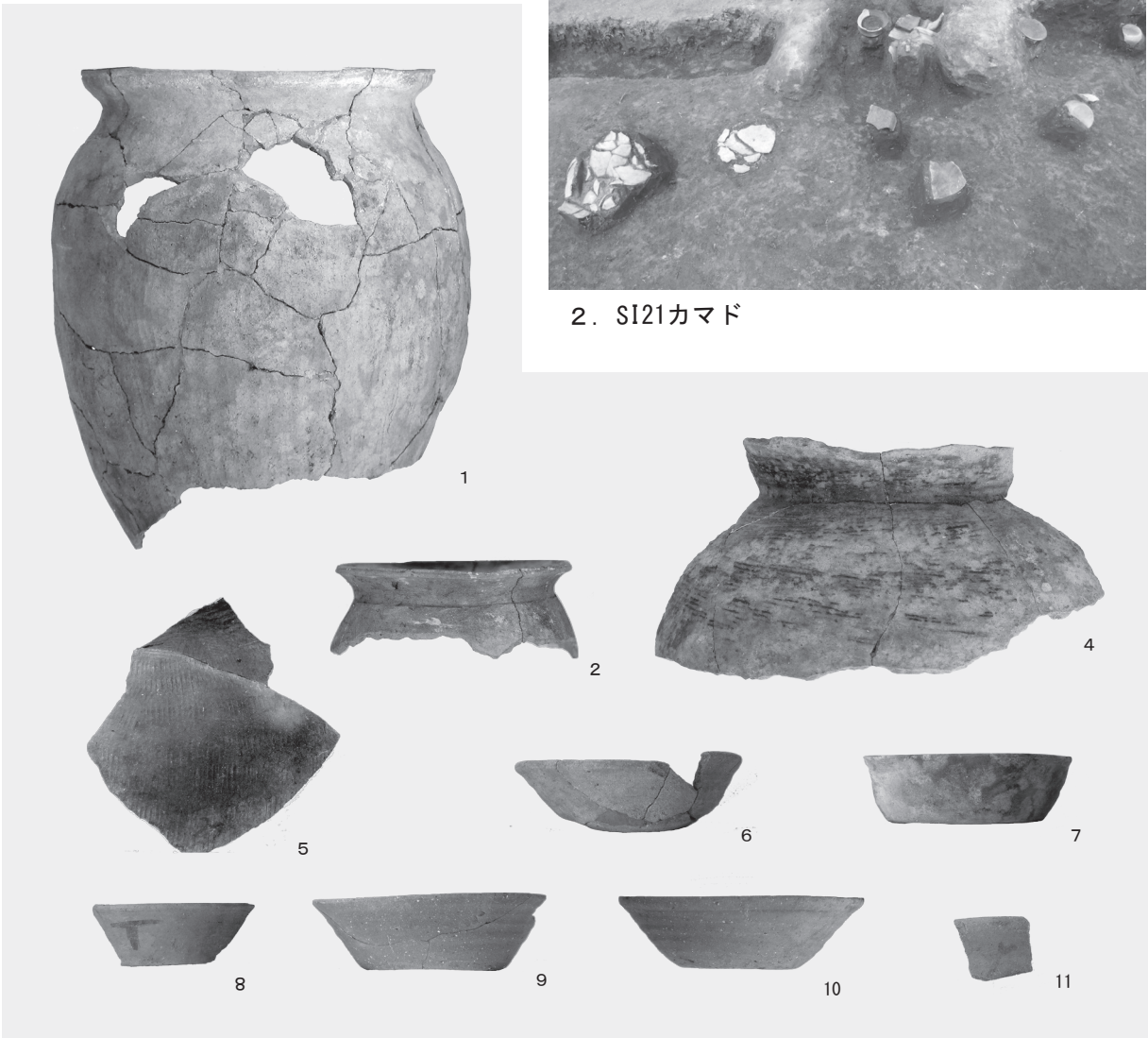
3. SI20出土遺物 s=1/4



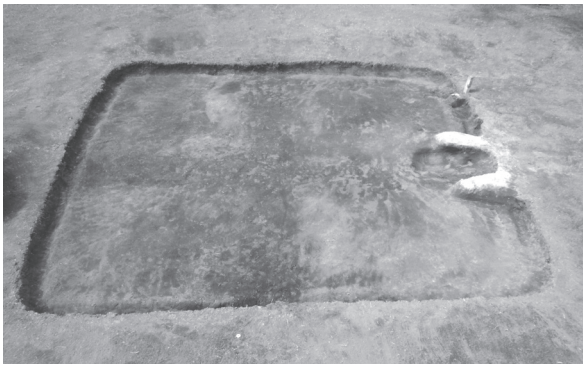
1. SI21 遺物出土状況（南西から）



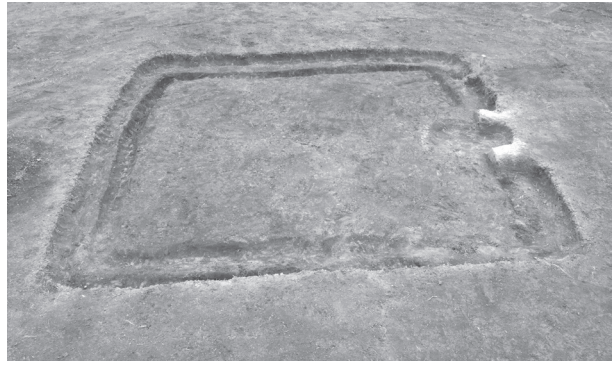
2. SI21カマド



3. SI21出土遺物 s=1/4 (1・2・4~10) ・1/2 (11)



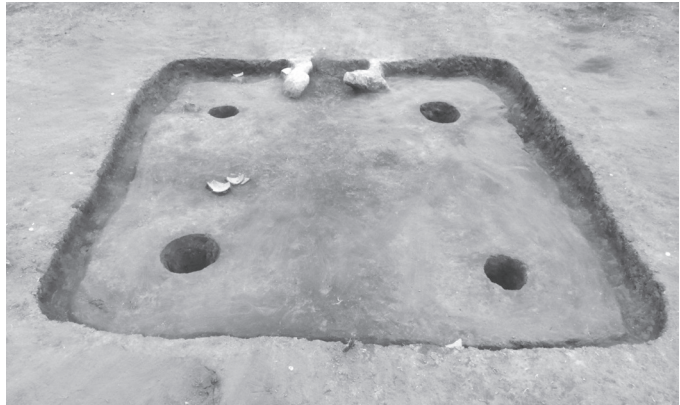
1. SI22 (北東から)



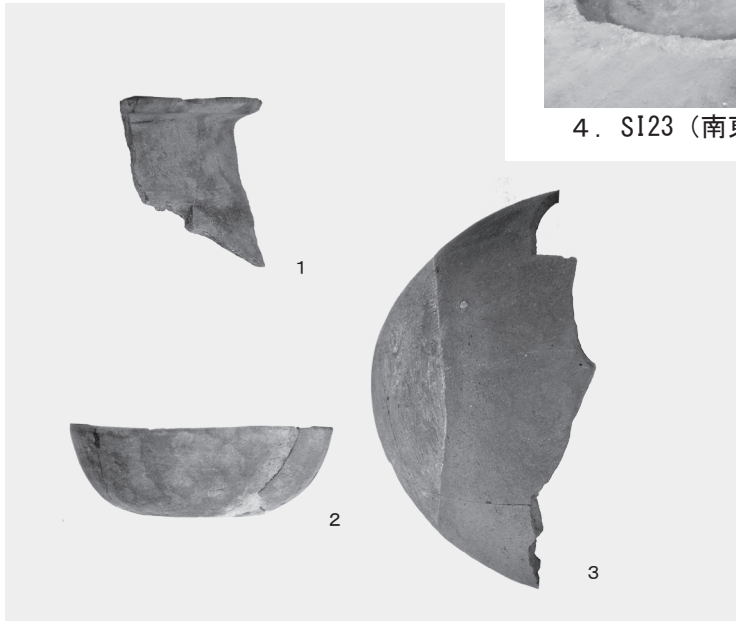
2. SI22旧周溝



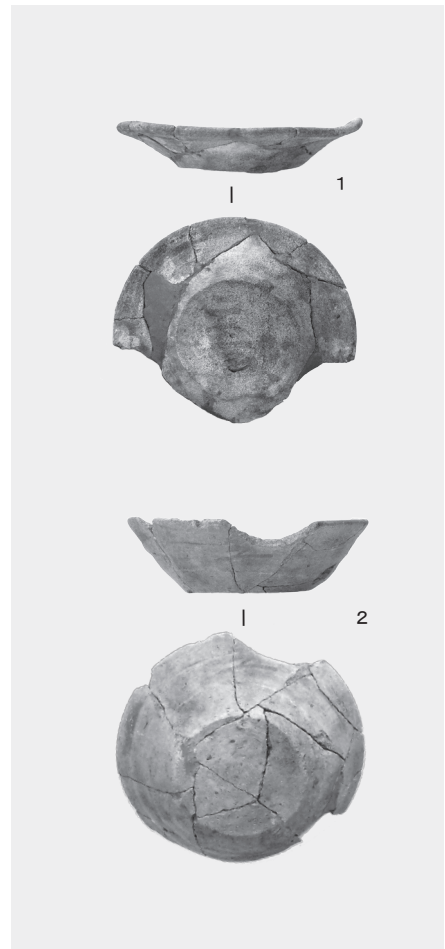
3. SI22出土遺物 s=1/4



4. SI23 (南東から)



5. SI23出土遺物 s=1/4



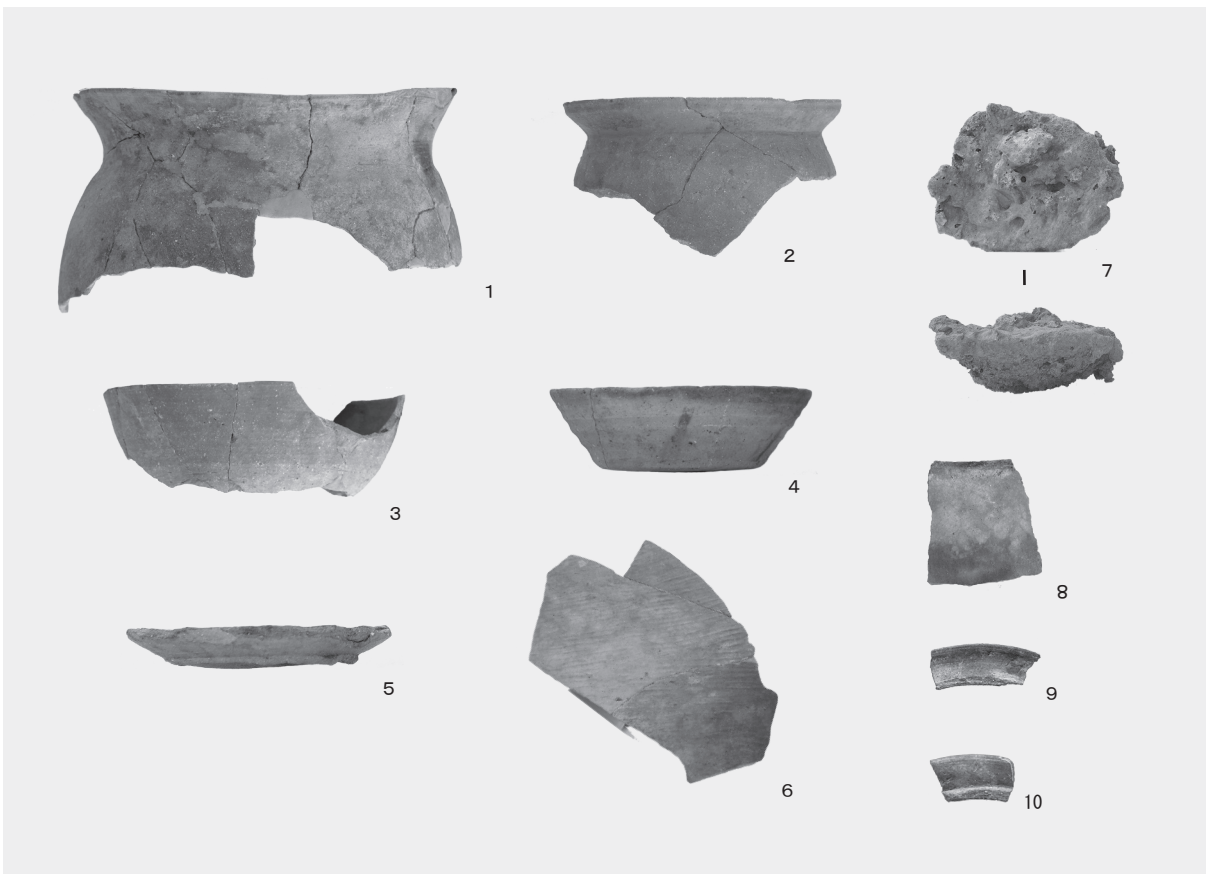
7. SI24出土遺物 s=1/4



6. SI24 (南東から)



1. S125 (南東から)

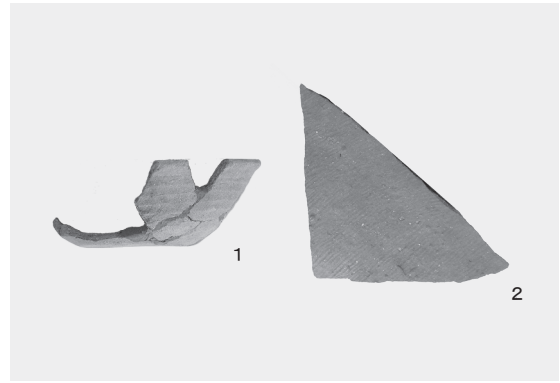


2. S125出土遺物 S=1/4





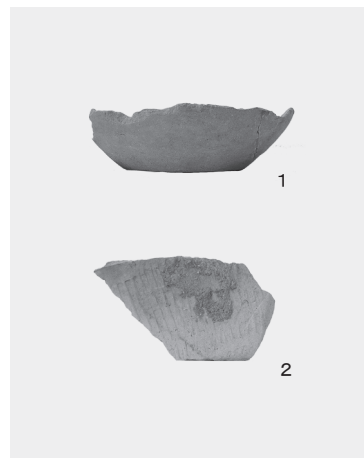
1. SI26 (南西から)



2. SI26出土遺物 S=1/4



3. SI27 (西から)



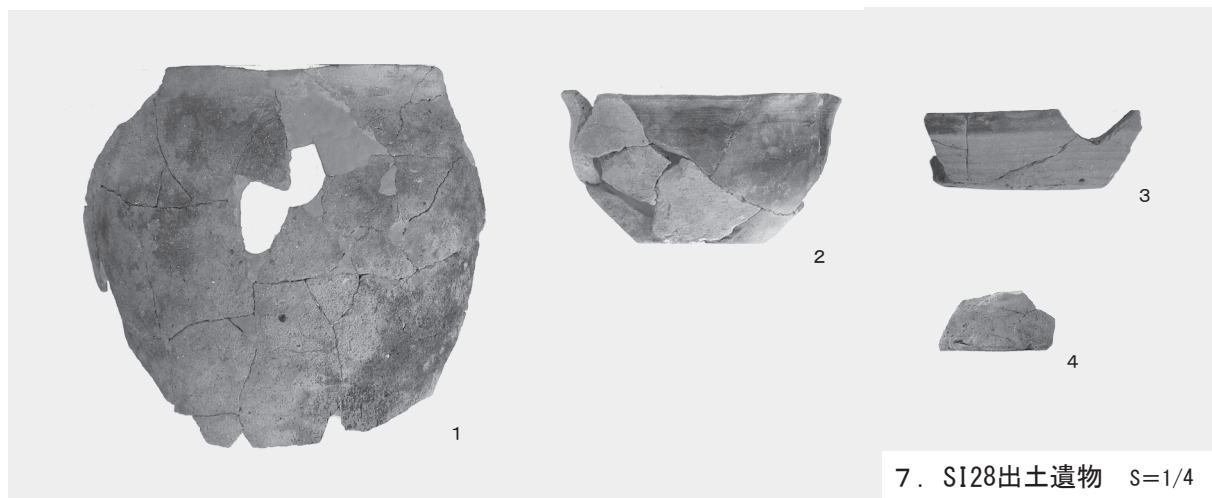
4. SI27出土遺物 S=1/4



5. SI28 (北東から)



6. SI28カマド



7. SI28出土遺物 S=1/4



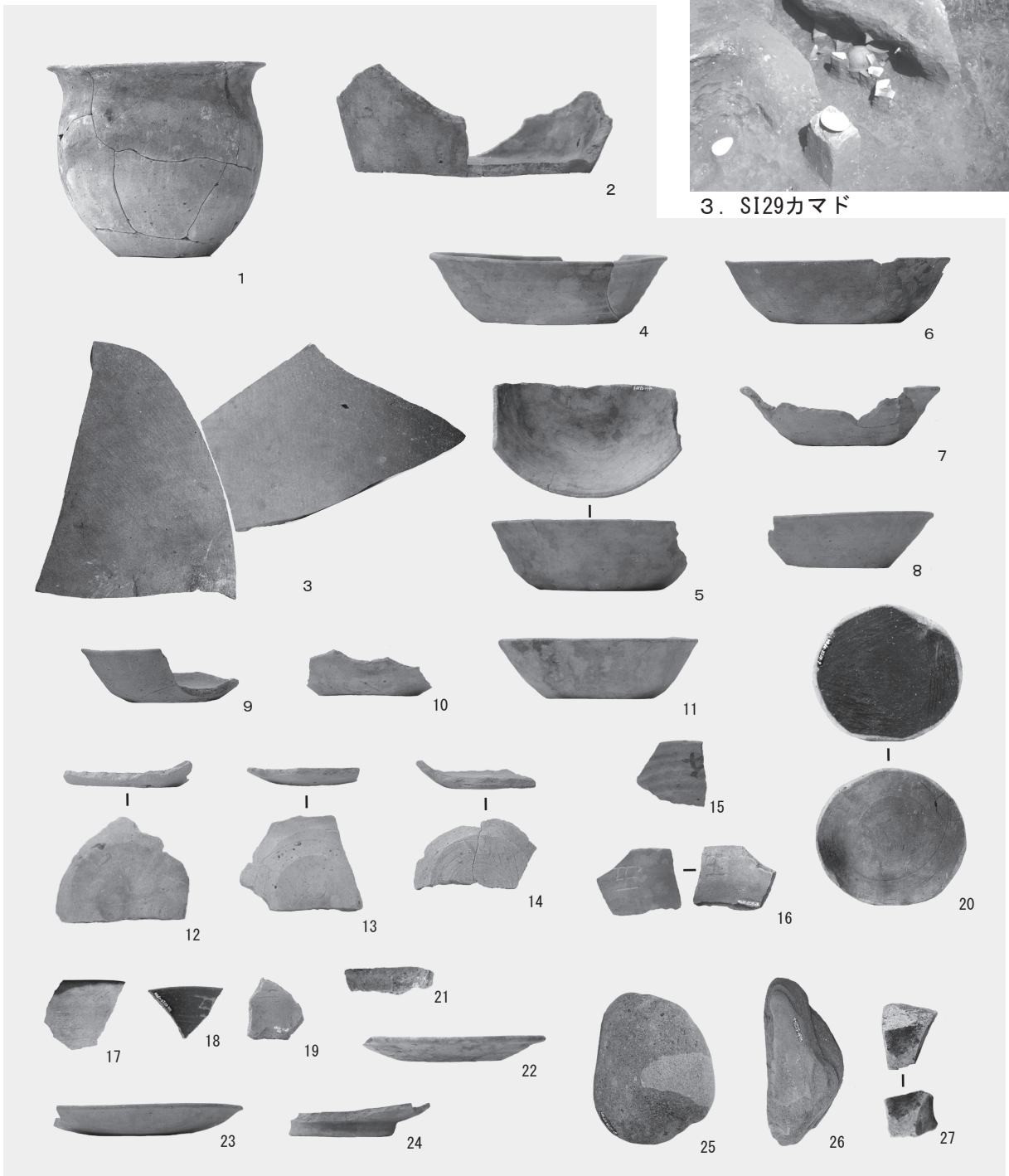
1. SI29 (南東から)



2. SI29遺物出土状況



3. SI29カマド



4. SI29出土遺物 s=1/4 (1・2・4~27) 1/5(3)

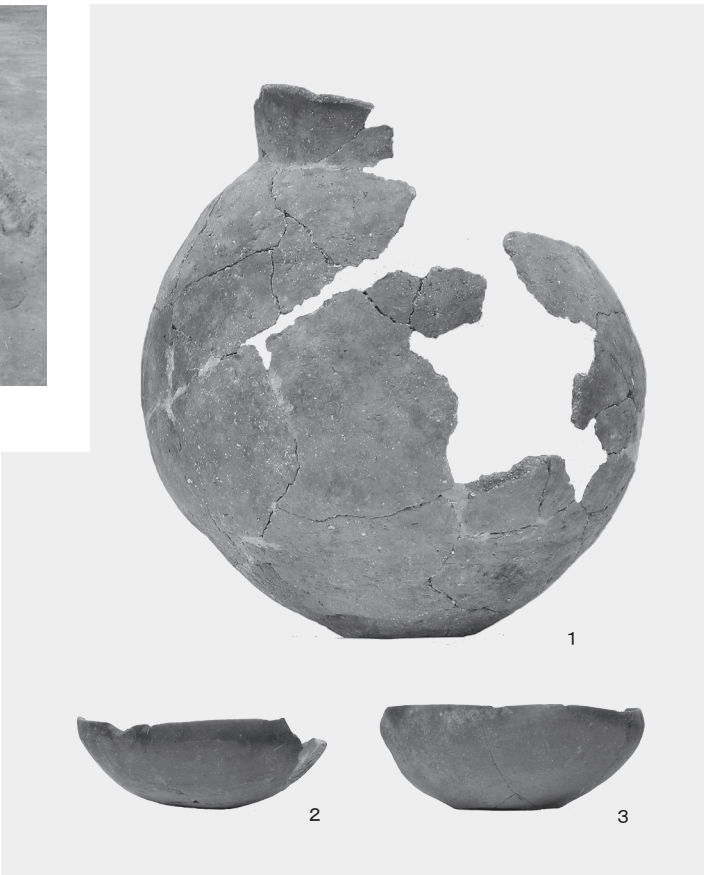


1. SI30 (南東から)

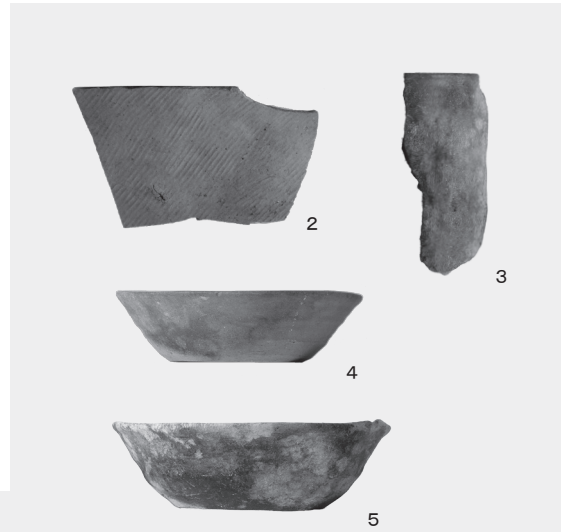


2. SI30貯蔵穴 (北東から)

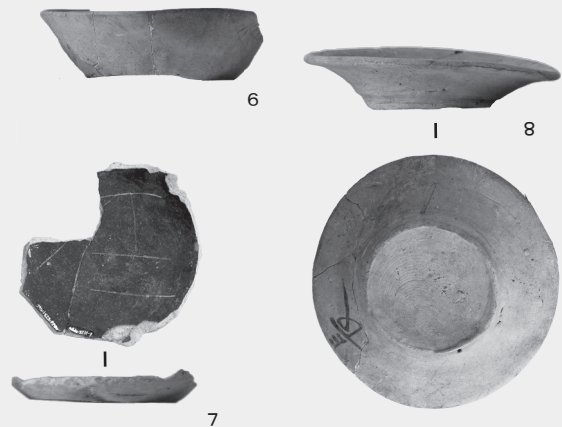
3. SI30出土遺物 s=1/4

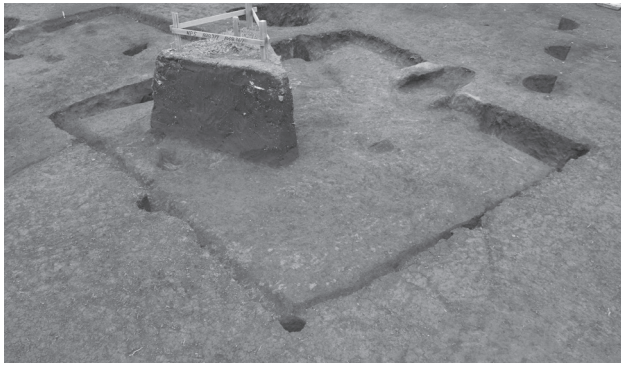


4. SI31 遺物出土状況 (南東から)

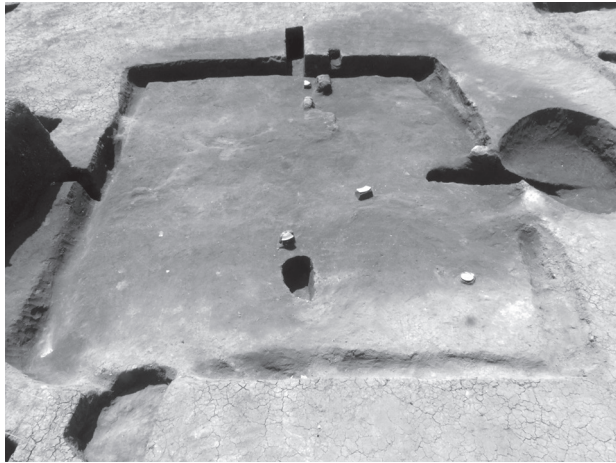


5. SI31出土遺物 s=1/4

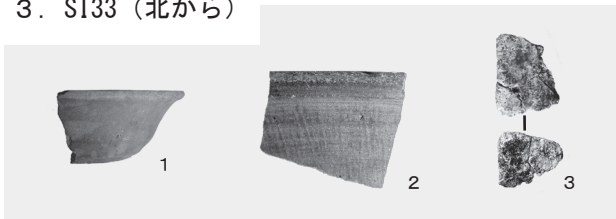




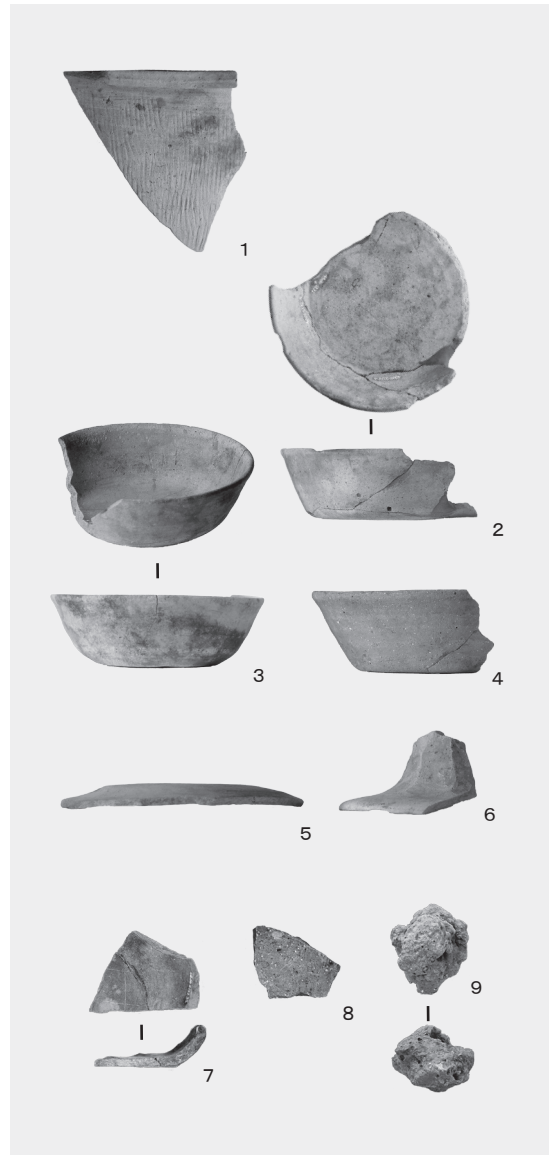
1. SI32 (北から)



3. SI33 (北から)



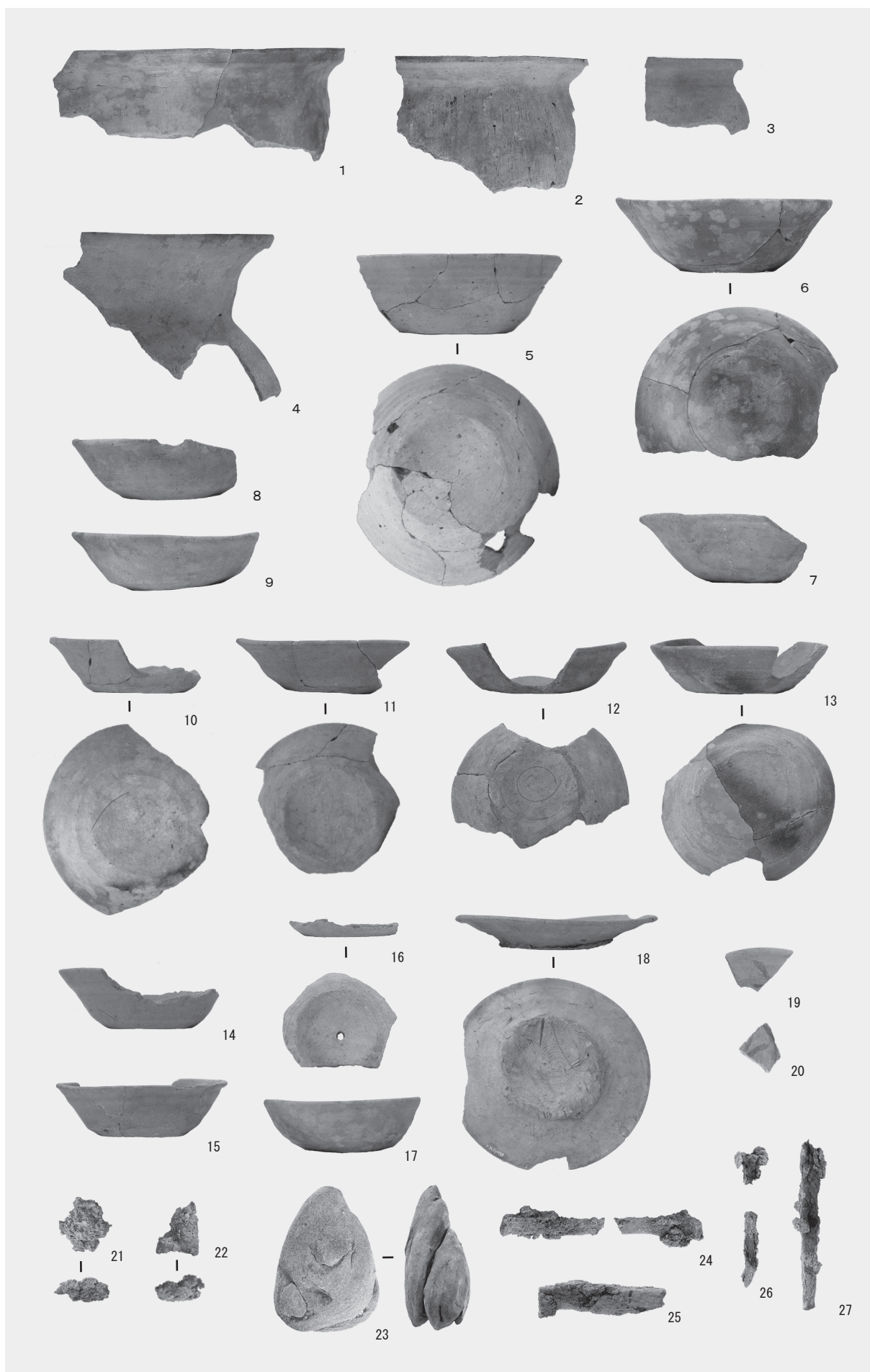
4. SI33出土遺物 S=1/4



2. SI32出土遺物 S=1/4



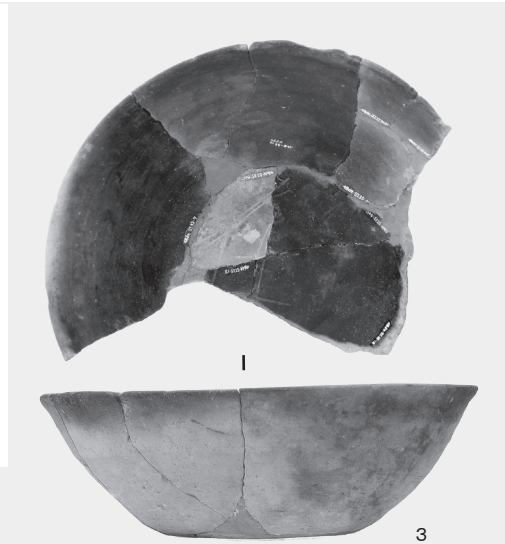
5. SI34 (南東から)



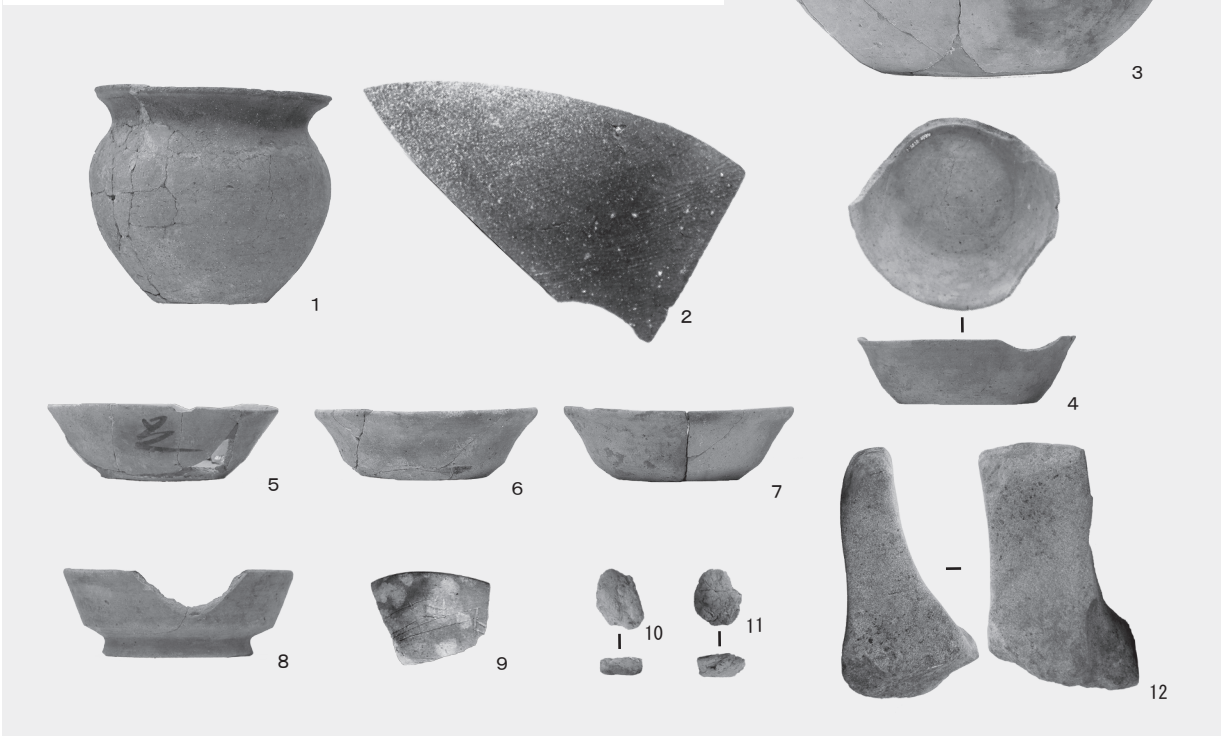
1. SI34出土遺物 S=1/4(1~23)・1/2(24~27)



1. SI35 遺物出土状況 (南西から)



3



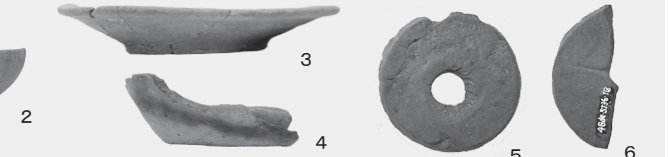
2. SI35出土遺物 S=1/4



3. SI36 遺物出土状況 (東から)



1



4. SI36出土遺物 S=1/4(1~4) 1/2(5・6)



1. SB01 (東から)



2. SB02 (南東から)



3. SB03 (東から)



4. SB04 (南西から)



5. SB05 (北東から)



6. SB06・17 (南西から)



7. SB07 (西から)



8. SB08 (東から)



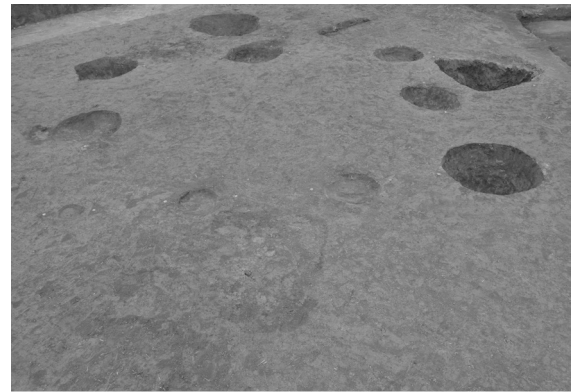
1. SB09 (南から)



2. SB10 (南西から)



3. SB11・12 (北西から)



4. SB13 (北から)



5. SB14 (北から)



6. SB15 (北から)



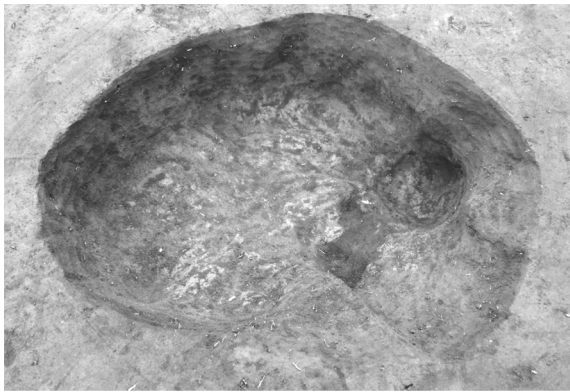
7. SB16 (北東から)



8. B区掘立柱建物跡群



図版 30



1. SK01 (北西から)



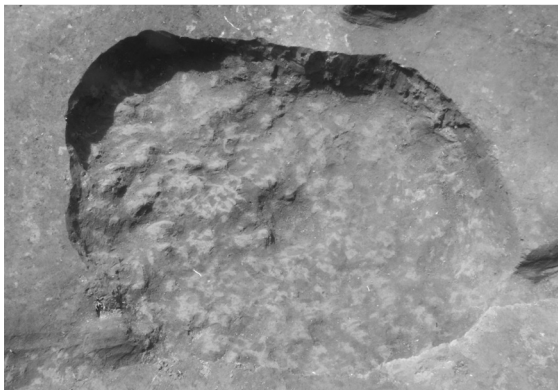
2. SK02 (南西から)



3. SK03 (北から)



4. SK04 (東から)



5. SK05 (南東から)



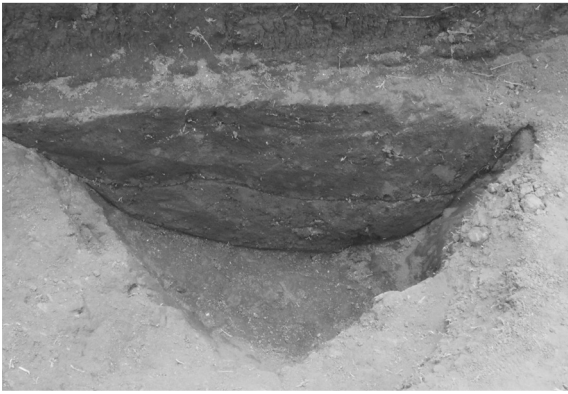
6. SK06 (北西から)



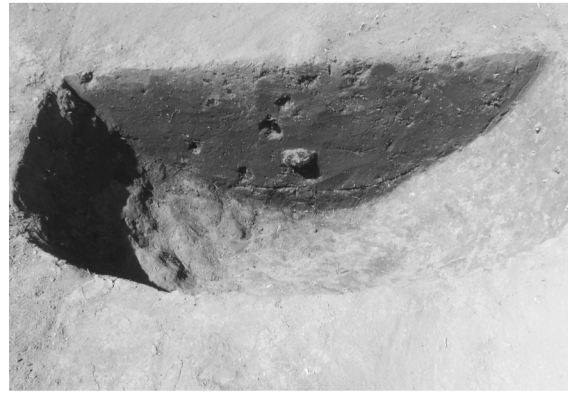
7. SK07 (南西から)



8. SK08 (西から)



1. SK09 (北から)



2. SK10セクション (南から)



3. SK11 (北西から)



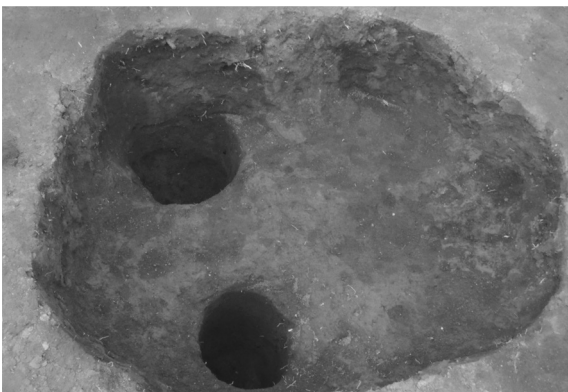
4. SK12 (南東から)



5. SK13 (北東から)



6. SK14 (北東から)



7. SK15 (南東から)

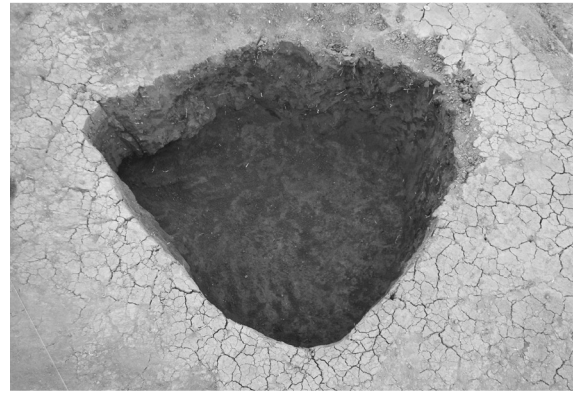


8. SK16 (北東から)

図版 32



1. SK17 (北東から)



2. SK18 (南から)



3. SK19 (南から)



4. SK20 (北東から)



5. SK21 (北から)



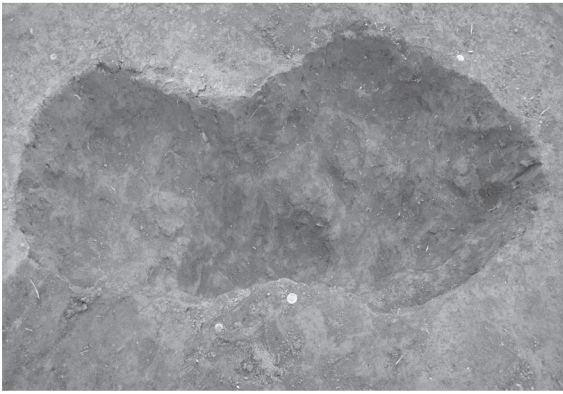
6. SK22 (北西から)



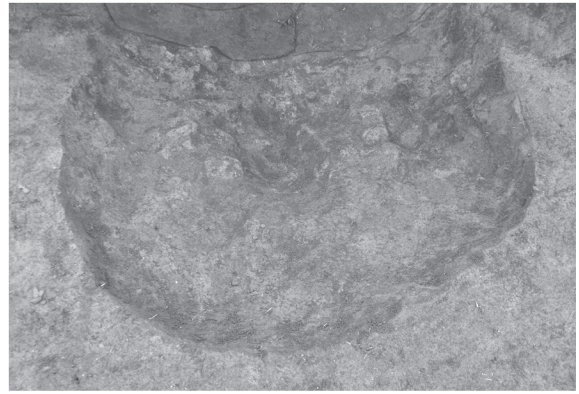
7. SK23 (南から)



8. SK24 (南東から)



1. SK25 (東から)



2. SK27 (北から)



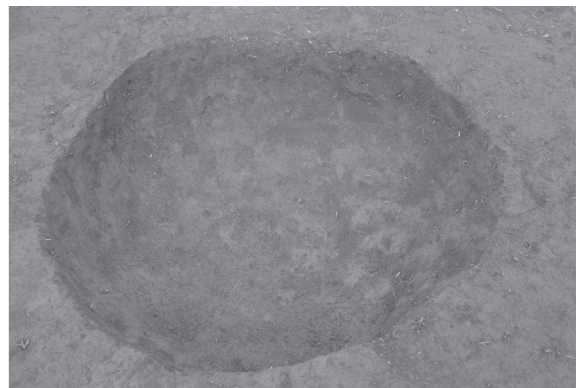
3. SK29 (東から)



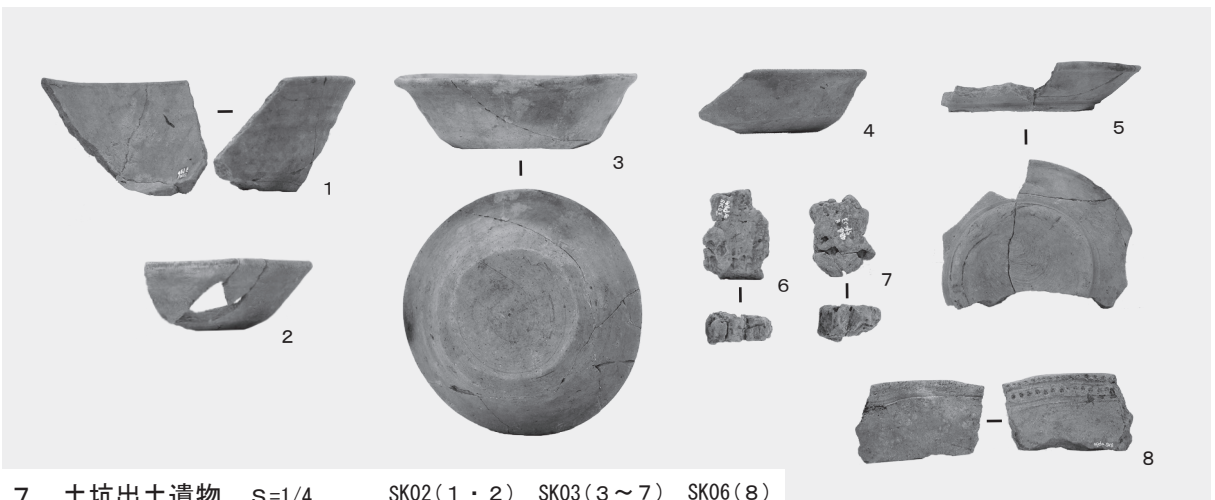
4. SK30セクション (北東から)



5. SK31 (南東から)



6. SK32 (南東から)



7. 土坑出土遺物 S=1/4 SK02(1・2) SK03(3~7) SK06(8)



1. SD01 (北から)



4. SD01出土遺物 s=1/2



2. 土塁 (北東から)



3. SD01・土塁セクション



5. SD02 (西から)



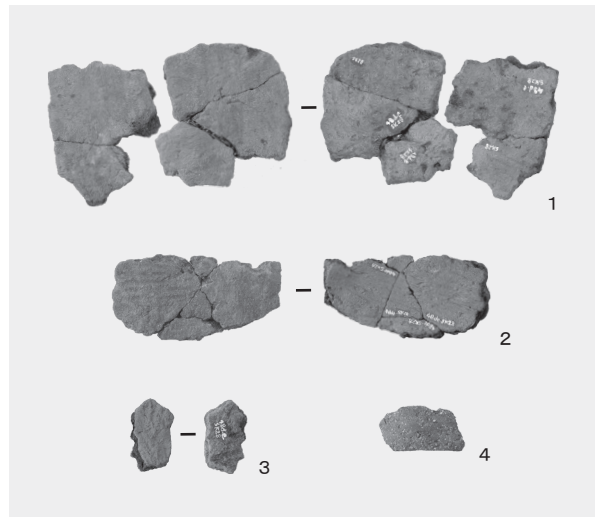
6. SD03 (部分・北東から)



7. SD04 (南から)



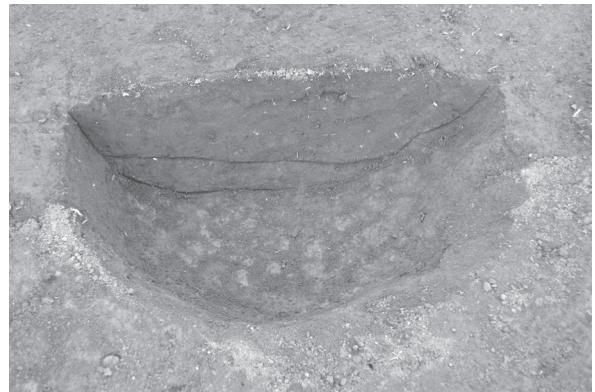
1. FP01 (東から)



2. FP01出土遺物 S=1/4



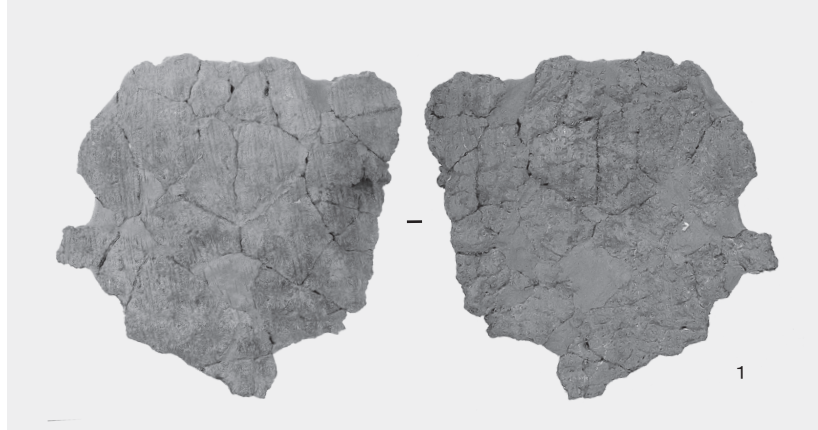
3. FP02 (東から)



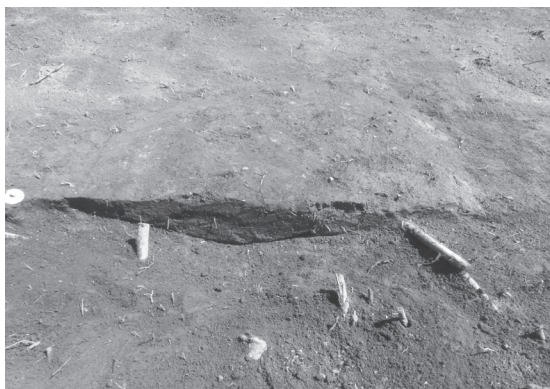
4. FP02セクション



5. FP02遺物出土状況



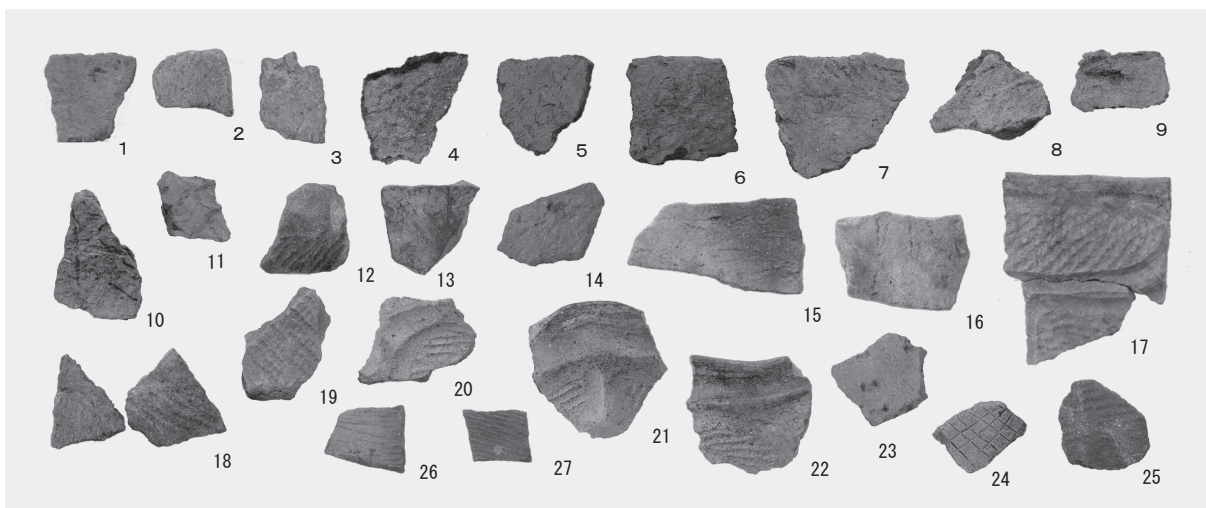
6. FP02出土遺物 S=1/4



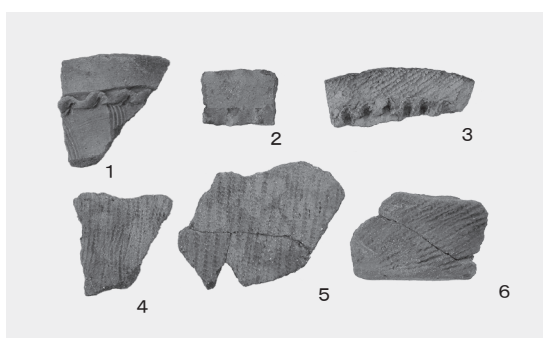
7. 1号焼土跡



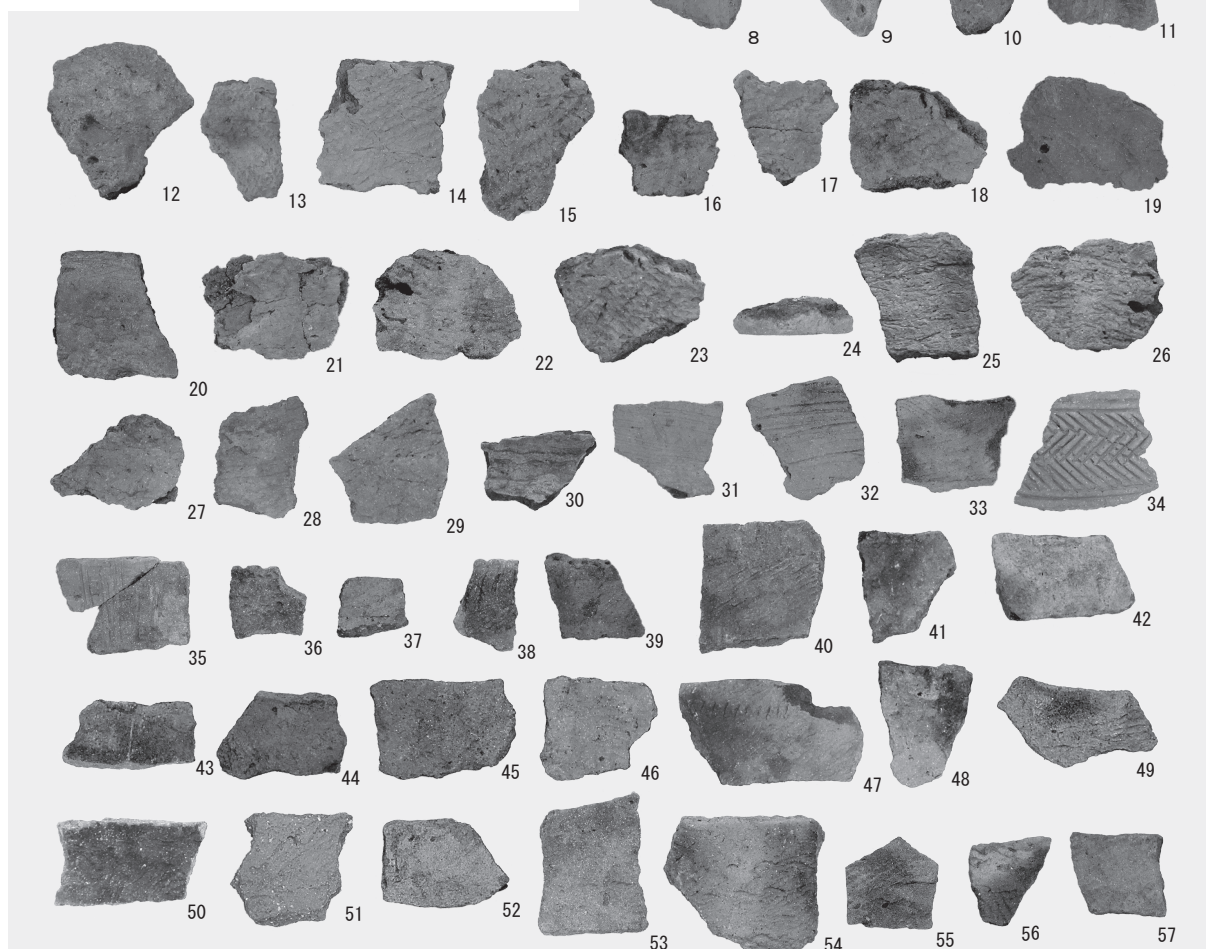
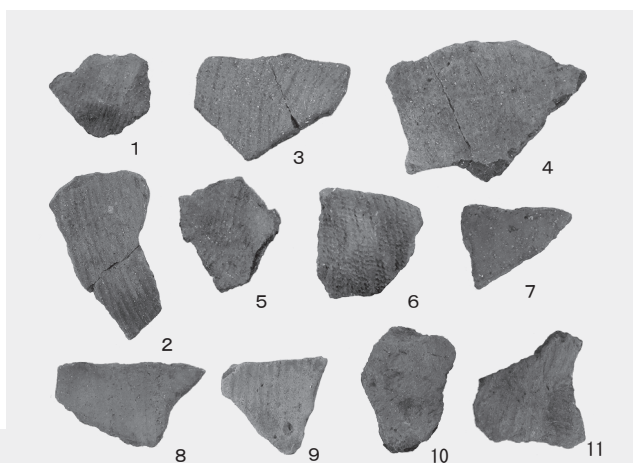
8. 3号焼土跡



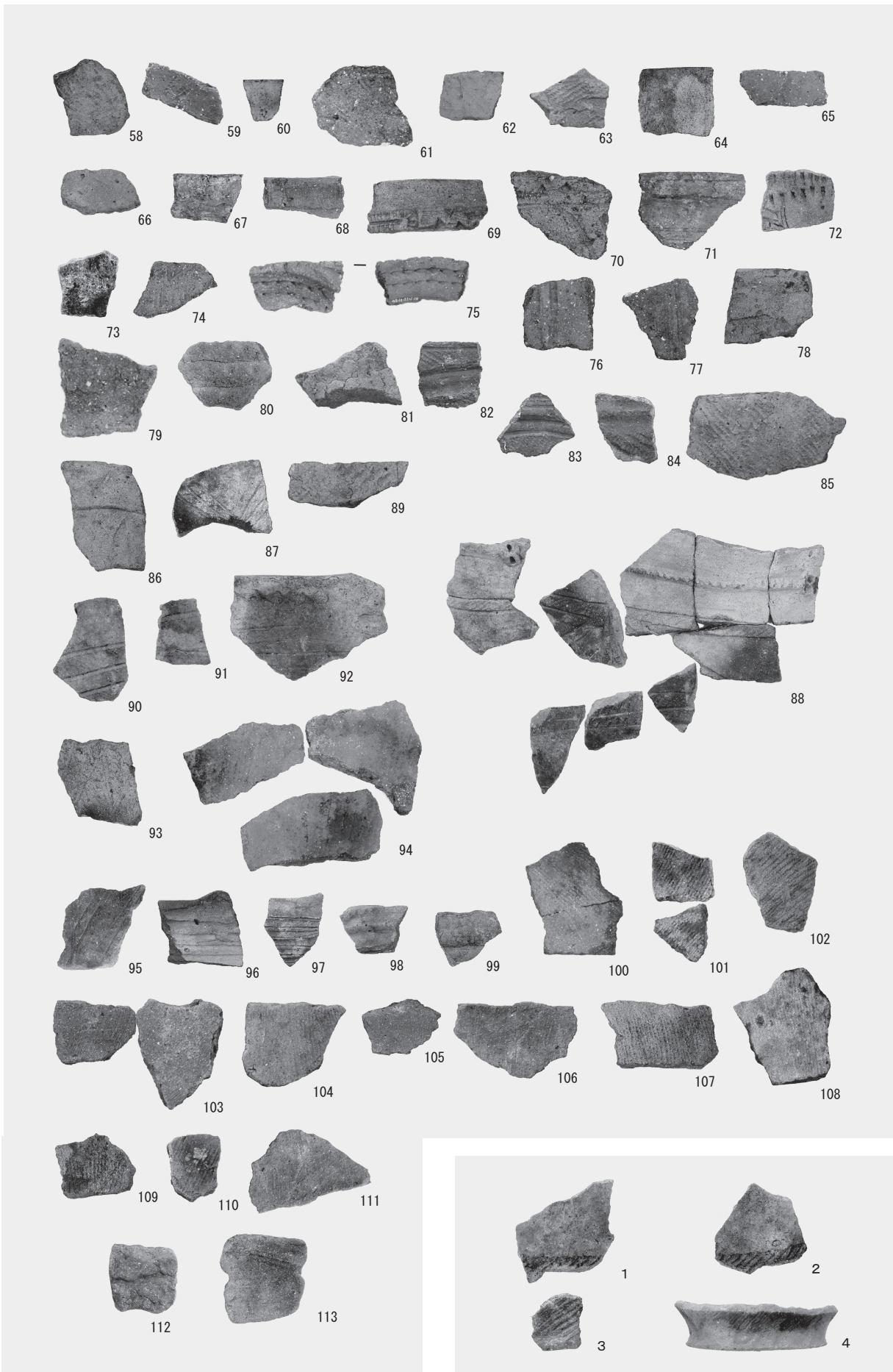
1. A区出土縄文時代土器 S=1/3



2. A区出土弥生時代土器 S=1/3



3. B区出土縄文時代土器 (1~57) S=1/3



1. B区出土縄文時代土器 (58~113) s=1/3

2. B区出土弥生時代土器 s=1/3



## 報告書抄録

ふりがな	ちばけんやちよし しまだこめのうちいせき d・e ちてんはつくつちようさほうこくしょ								
書名	千葉県八千代市 島田込の内遺跡 d・e 地点発掘調査報告書								
副書名									
編著者名	西野和廣・柿沼修平・川端弘土・川端結花・田中英世								
編集機関	有限会社 原史文化研究所								
所在地	〒285-0835 千葉県佐倉市畔田177 TEL043-462-3084								
発行機関	合資会社 SHT 八千代・有限会社 原史文化研究所								
所在地	〒285-0835 千葉県佐倉市畔田177 TEL043-462-3084								
発行年月日	2022（令和4年）年12月12日								
所収遺跡名	所在地	コード		北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積(m <sup>2</sup> )	調査原因	
		市町村	遺跡番号						
島田込の内遺跡 しまだこめのうち	千葉県八千代市 しまだだいあぎこめのうち 島田台字込の内 ばん 1000番3ほか	12221	48	35° 45′ 57.72″	140° 5′ 58.52″	20210622～ 20210921	5,700m <sup>2</sup>	物流センター 建設	
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項			
島田込の内遺跡 d・e 地点	集落跡	旧石器時代	石器集中地点	1ヶ所	石器		本調査地点は島田込の内遺跡の北側に位置し、旧石器集中地点、奈良・平安時代集落の広がりを知る上に貴重な資料を提供した。また、三河型甕の出土に注目したい。		
		縄文時代	竪穴建物跡	1軒	縄文土器				
			炉穴	2基					
			陥穴・土坑	4基					
		奈良・平安時代	竪穴建物跡	36軒	土師器、須恵器、鉄器、砥石				
			掘立柱建物跡	17棟					
			土坑	26基					
ピット	46基								
中・近世	溝	4条	古銭						
要約	島田込の内遺跡は印旛沼西域、新川谷東岸に位置する。既調査により旧石器時代から各時代に亘る遺構・遺物が検出されている。とくに、奈良・平安時代の集落景観が注目される。旧石器時代Ⅳ～Ⅴ層を主とした石器集中地点が1ヶ所確認されている。縄文時代の遺構は竪穴建物跡1軒、炉穴2基、陥穴2基、土坑3基が検出されている。奈良・平安時代の遺構は竪穴建物跡36軒、掘立柱建物跡17棟などが検出され、出土の土器から8世紀後半から9世紀前半を主とした集落と考えられる。中・近世の溝の検出も本台地の土地利用の変遷を考える上に重要な資料である。								

千葉県八千代市

### 島田込の内遺跡 d・e地点発掘調査報告書

発行日 2022（令和4年）年12月12日

編集 有限会社 原史文化研究所  
千葉県 佐倉市 畔田177

発行 合資会社 SHT八千代  
有限会社 原史文化研究所

印刷 株式会社 ライフ  
千葉県成田市不動ヶ岡1128-15